

# 市民意識調査報告書

平成18年1月



## 目 次

|       |                 |       |
|-------|-----------------|-------|
| 第 1 章 | 市民意識調査の概要       | 1     |
| 第 2 章 | 調査結果のまとめ        | 2     |
| 第 3 章 | 単純集計結果          | 6     |
| 第 4 章 | 男女別クロス集計結果      | 2 4   |
| 第 5 章 | 年齢別クロス集計結果      | 5 3   |
| 第 6 章 | 地域別クロス集計結果      | 1 1 7 |
| 第 7 章 | 自由回答結果          | 1 5 1 |
| 第 8 章 | 満足度と重要度の点数化の考え方 | 1 5 6 |

# 第1章 市民意識調査の概要

## 1. 調査目的

幅広い市民からまちづくりに対する満足度や期待度を把握し、生活者の視点に基づいた総合計画を策定するため、市民意識調査を実施しました。

## 2. 調査対象

調査対象・対象者数

20歳以上の市民2,500人（男性1,250人 女性1,250人）を調査対象とし、さらに、20代、30代、40代、50代、60代、70代以上の年齢階層が均等になるよう調整しました。

抽出方法

住民基本台帳から無作為抽出

## 3. 調査期間と調査方法

調査期間

平成17年11月7日～平成17年11月25日

調査方法

郵送配布、郵送回収

## 4. 回収状況

1,104票回収（回収率44.2%）

## 第2章 調査結果のまとめ

### 1. 「住みやすさ」

「とても住みやすい」と「どちらかと言えば住みやすい」を合わせた肯定的回答は、「旧掛川市」約7割、「旧大東町」約6割、「旧大須賀町」約5割と地域差が見られます。住みにくいと感じる点は、「旧大東町」「旧大須賀町」両者とも、「公共交通機関が利用しにくい」「道路整備が悪く不便である」の割合が高く、道路・交通面での不便さが住みやすさの地域差になっていることがうかがえます。道路・交通面の改善など、市内各地域の課題に応じた対策を行う必要性がうかがえます。

### 2. 「住みやすいと感じる点」

住みやすいと感じている点は、性別、年齢、地域に関わらず「豊かな自然環境に恵まれている」が他の選択を大きく上回り最も高い回答でした。市民は、豊かな自然環境が掛川の良い点であると捉えていることがうかがえ、自然環境の保全や自然環境との共生を大切にしたいまちづくりを進める必要があります。

### 3. 「住みにくいと感じる点」

住みにくいと感じる点は、20歳代から50歳代までは、医療機関と公共交通機関の割合が高く、60歳以上は道路整備、公共交通機関の割合が高くなっています。また、「旧大東町」「旧大須賀町」でも、公共交通機関と道路整備の割合が高く、市内の移動をより円滑化していくことが必要になっています。

### 4. 「これからのまちづくりで重視すべき視点」

これからのまちづくりで重視すべき視点は、性別、年齢、地域に関わらず「福祉や医療を充実させ、誰もが健康で安らかに暮らせるまち」が最も高い回答でした。市民は「健やかさ」や「安らかさ」を重視したまちづくりを期待していることがうかがえました。ただし、「旧大東町」「旧大須賀町」では、「利便性の向上と均衡ある発展が期待できるまち」の割合が「旧掛川市」に比べて高く、「便利さ」も重視していることがうかがえました。

### 5. 「現在のまちづくりの満足度」

現在のまちづくりについて満足度の低い施策は、回答者全体では「中心市街地活性化によるまちの顔づくり」「商業の活性化による地域の魅力づくり」などでした。ただし、「旧大東町」「旧大須賀町」では、「通勤・通学・通院のための交通機関の確保」と「道路整備による利便性の向上と地域の発展」の満足度が低く、「旧掛川市」が「中心市街地活性化によるまちの顔づくり」や「商業の活性化による地域の魅力づくり」の満足度が低かったことと差異が見られました。

## 6. 「施策の重要度」

重要度の高い施策は、回答者全体では「安心して医療が受けられる体制の充実」「高齢者や障害者など誰もが困らず安心して暮らせる福祉の充実」「健康に暮らすための保健予防や健診の充実」などでした。市民は医療、福祉、保健の施策を最も重視しており、これらの施策をさらに充実していく必要がうかがえました。ただし、「旧大須賀町」では、「通勤・通学・通院のための交通機関の確保」を最も重視しており、地域公共交通の改善にも力を入れることが必要になっています。

## 7. 「満足度と重要度の関係」

36 施策の満足度と重要度を点数化し、縦軸に満足度（グラフ上側がより満足度が高く、下側がより満足度が低い）を、横軸に重要度（グラフの右側がより重要度が高く、右側がより重要度が低い）をとってグラフ化しました。座標の原点は、満足度と重要度の両者とも 36 施策の平均値としています。（点数化については第 8 章参照） 各象限に位置付けられた施策は、36 施策の比較の中では概ね次のように評価されたと考えることができます。

### （1）満足度も重要度も高い施策 - 第 1 象限（グラフ右上側）

36 施策の比較では、満足度も重要度も高い施策になります。相対的に重要度が高いことから、さらなる充実を図るべき施策になります。

#### 【満足度も重要度も高い施策】

- ・「1 健康に暮らすための保健予防や健診の充実」
- ・「6 安全で安定した上水道の提供」
- ・「7 生活排水対策による衛生的生活環境の創出」
- ・「8 ごみ処理対策などの廃棄物処理体制の充実」
- ・「10 子供の健全育成を図る教育環境の充実」
- ・「15 地域農業の活性化により安全で安定した食の提供」
- ・「27 地域連携の強化など身近な防災体制の充実」
- ・「28 安心して暮らせる消防救急体制の充実」

### （2）満足度が高く重要度は低い施策 - 第 2 象限（グラフ左上側）

36 施策の比較では満足度が高く、重要度が低い施策であり、今後も市民の満足度の維持に努めるべき施策になります。

#### 【満足度が高く重要度は低い施策】

- ・「5 貴重で美しい自然環境・景観の保全」
- ・「11 生涯学習による心豊かで生きがいのある人生の創出や人材育成の充実」
- ・「12 手軽にスポーツが楽しめ、心身の健全と健康維持が図られる環境の充実」
- ・「13 文化芸術に触れ、教養を高める機会の充実」
- ・「14 歴史的資源の保全、活用、伝承」
- ・「23 良好な住宅や宅地の提供」

- ・「24 快適で良好な居住環境を担う基盤の整備」
- ・「31 地域住民が連携できるコミュニティ社会の推進」
- ・「34 地域間交流、国際交流の充実」

### (3) 満足度も重要度も低い施策 - 第3象限(グラフ左下側)

36 施策の比較では、満足度も重要度も低い施策になります。市民の不満の要因を把握し、満足度向上に向けて計画的に改善を図るべき施策になります。

#### 【満足度も重要度も低い施策】

- ・「9 自然エネルギーの活用や資源循環型社会の構築」
- ・「16 農地の持つ多面的機能の保全・活用」
- ・「17 商業の活性化による地域の魅力づくり」
- ・「19 観光振興による地域の賑わいの創出と地域活性化への波及効果」
- ・「22 中心市街地活性化によるまちの顔づくり」
- ・「32 行政と住民の協働による社会づくり」
- ・「33 男女共同参画が理解・実践される社会構築」

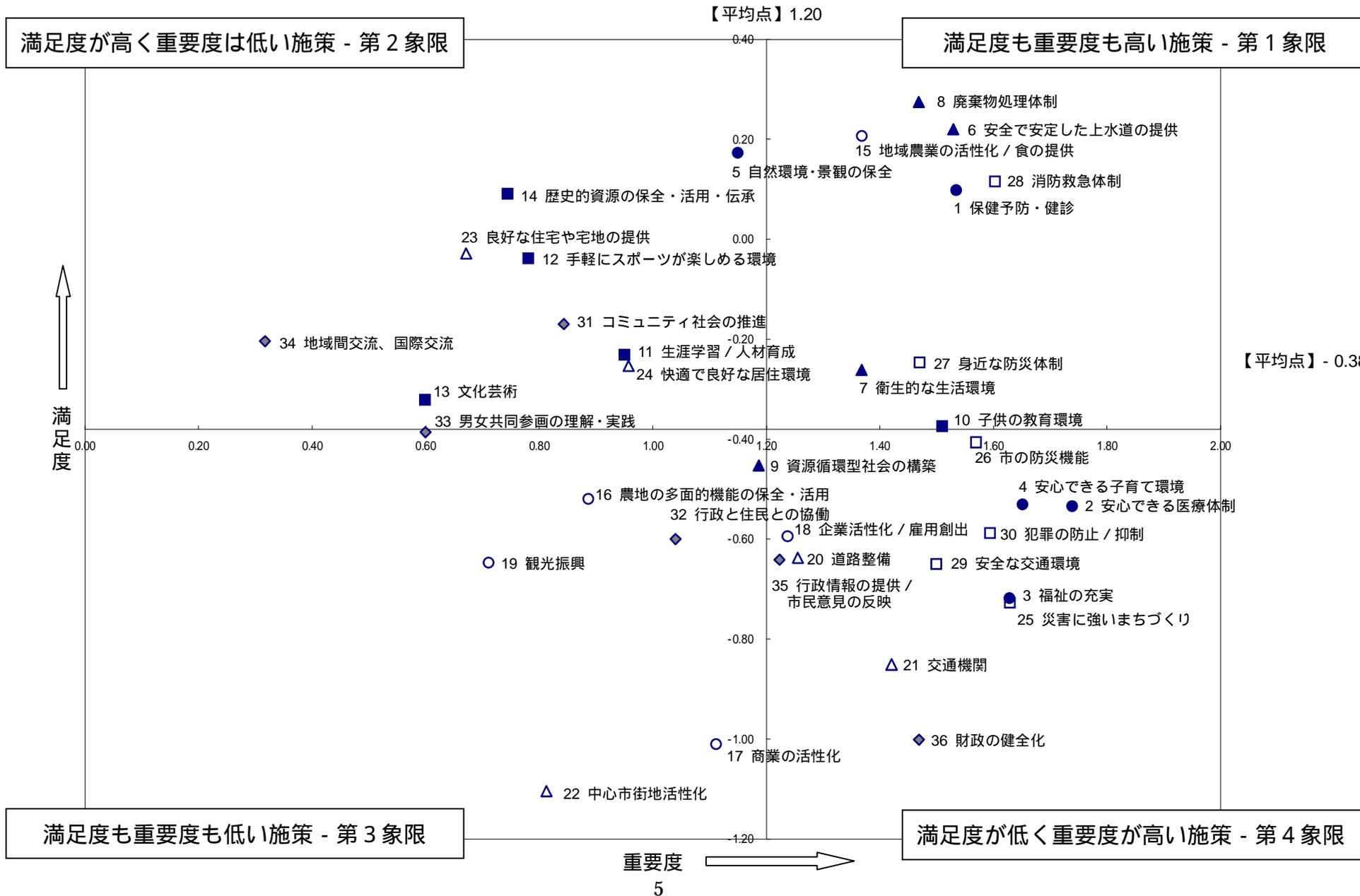
### (4) 満足度が低く重要度が高い施策 - 第4象限(グラフ右下側)

36 施策の比較では、満足度が低く、重要度が高い施策になります。不満度合いと重要性が高いことから、不満の解消に向けて早急に対応するべき施策になります。

#### 【満足度が低く重要度が高い施策】

- ・「2 安心して医療が受けられる体制の充実」
- ・「3 高齢者や障害者など誰もが困らず安心して暮らせる福祉の充実」
- ・「4 安心して子供を生み、育てることができる環境の充実」
- ・「18 企業誘致や地場企業の活性化による地域の発展と雇用の創出」
- ・「20 道路整備による利便性の向上と地域の発展」
- ・「21 通勤・通学・通院のための交通機関の確保」
- ・「25 治水、治山や耐震など災害に強いまちづくり」
- ・「26 防災拠点整備や備蓄など市の防災機能充実」
- ・「29 交通事故に遭わない安全な交通環境の充実」
- ・「30 犯罪の抑制や巻き込まれない社会の推進」
- ・「35 行政情報の提供の充実と市民意見の反映」
- ・「36 効率的行政経営の推進による財政の健全化」

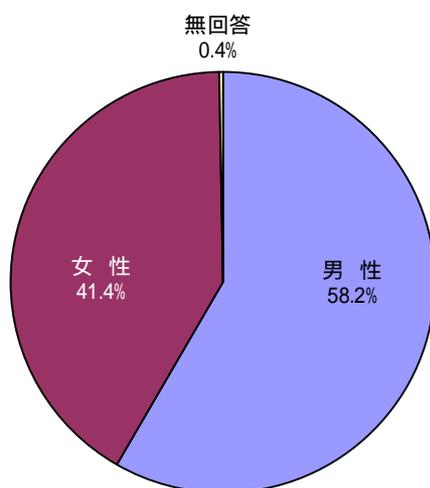
上記施策の中でも満足度の低さと重要度の高さが目立つ施策は、医療、福祉、子育て、交通機関、防災、交通安全、防犯、財政に関する施策であり、これらの分野に関して特に力を入れていくことが必要になっています。さらに集約すれば、医療、福祉、子育て分野を充実させて、安心して暮らせる体制を整えるとともに、防災、防犯、交通安全分野を強化して、安全なまちを築いていくことを、市民は期待していると思われます。



## 第3章 単純集計結果

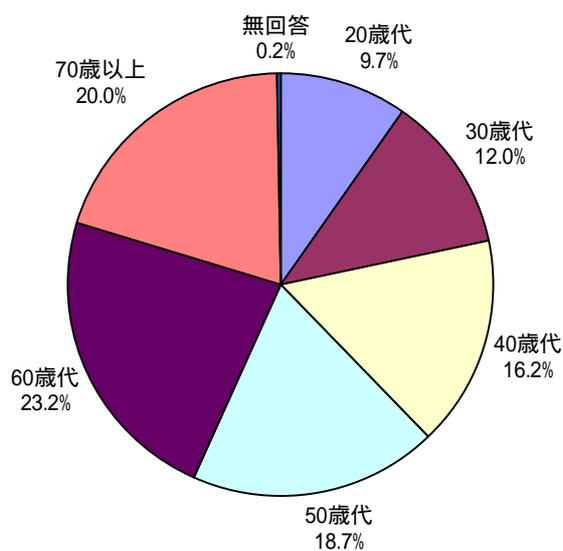
### 1. 性別（問1）

回答者の性別は、「男性」58.2%、「女性」41.4%と「男性」の割合が「女性」を上回りました。アンケート調査票は男女それぞれ1,250票を配布しており、掛川市総合計画に対して「男性」の関心が高いことがうかがえました。



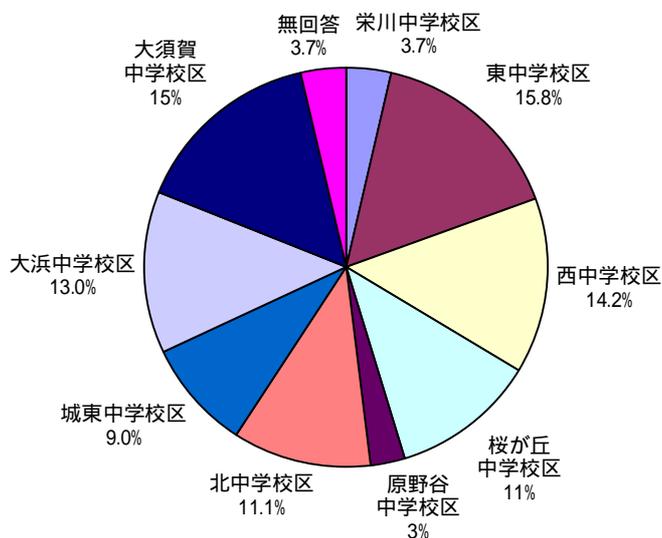
### 2. 年齢（問2）

回答者の年齢は、「60歳代」23.2%、「70歳以上」20.0%、「50歳代」18.7%と、高齢者層の回答割合が高く、一方、「20歳代」9.7%、「30歳代」12.0%と若い世代は2割であり、回答全体では高齢者の意向が多少強く反映されていることがうかがえました。



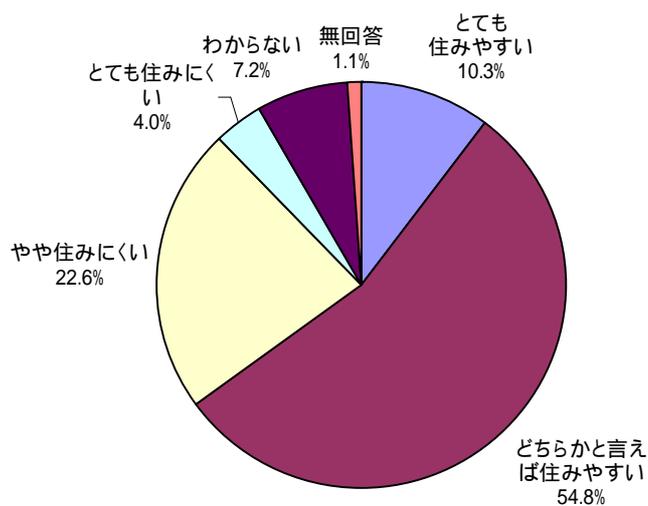
### 3. 住まい（中学校区、問3）

回答者の住まい（中学校区）は、「東中学校区」15.8%、「大須賀中学校区」15.0%、「西中学校区」14.2%、「大浜中学校区」13.0%などが上位を占めました。一方、下位は「原野谷中学校区」3.0%、「栄川中学校区」3.7%であり、中学校区の人口規模の違いが回答にも反映される結果となりました。



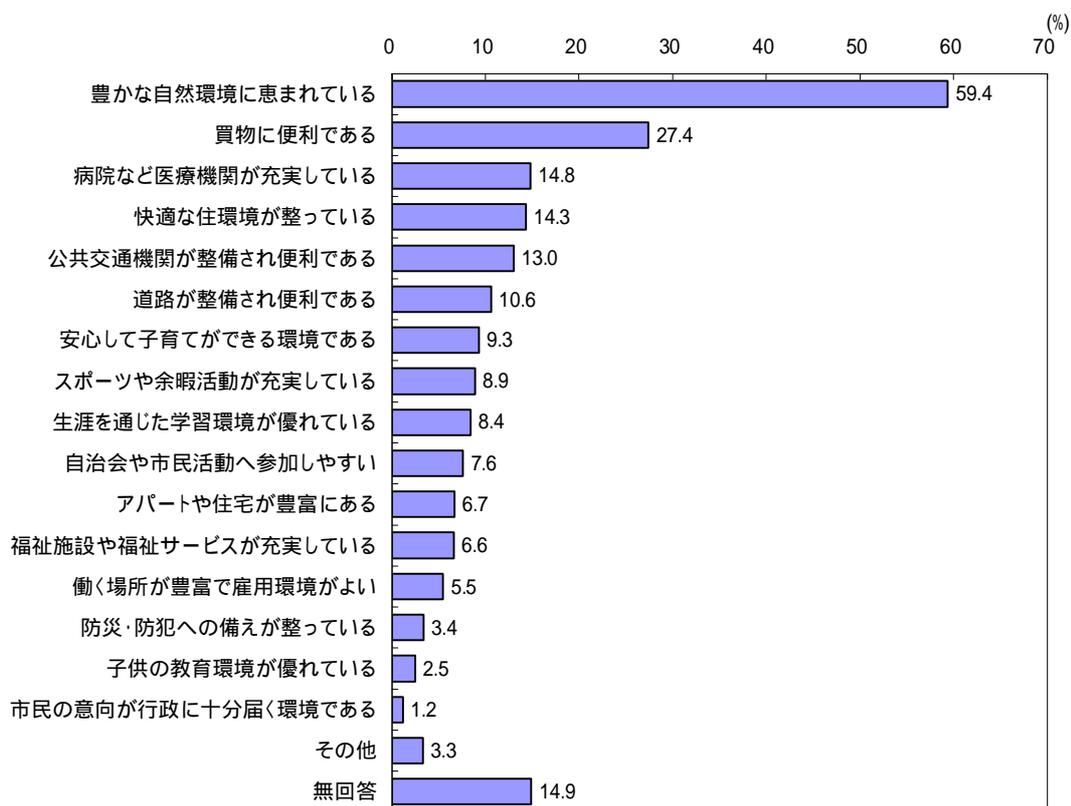
### 4. 住みやすさ（問4）

掛川市の住みやすさを尋ねたところ、「どちらかと言えば住みやすい」54.8%、「とても住みやすい」10.3%と、肯定的回答が6割以上を占めました。一方、「やや住みにくい」22.6%、「とても住みにくい」4.0%と、否定的回答は3割弱であり、市民は概ね住みやすいと捉えていることがうかがえました。



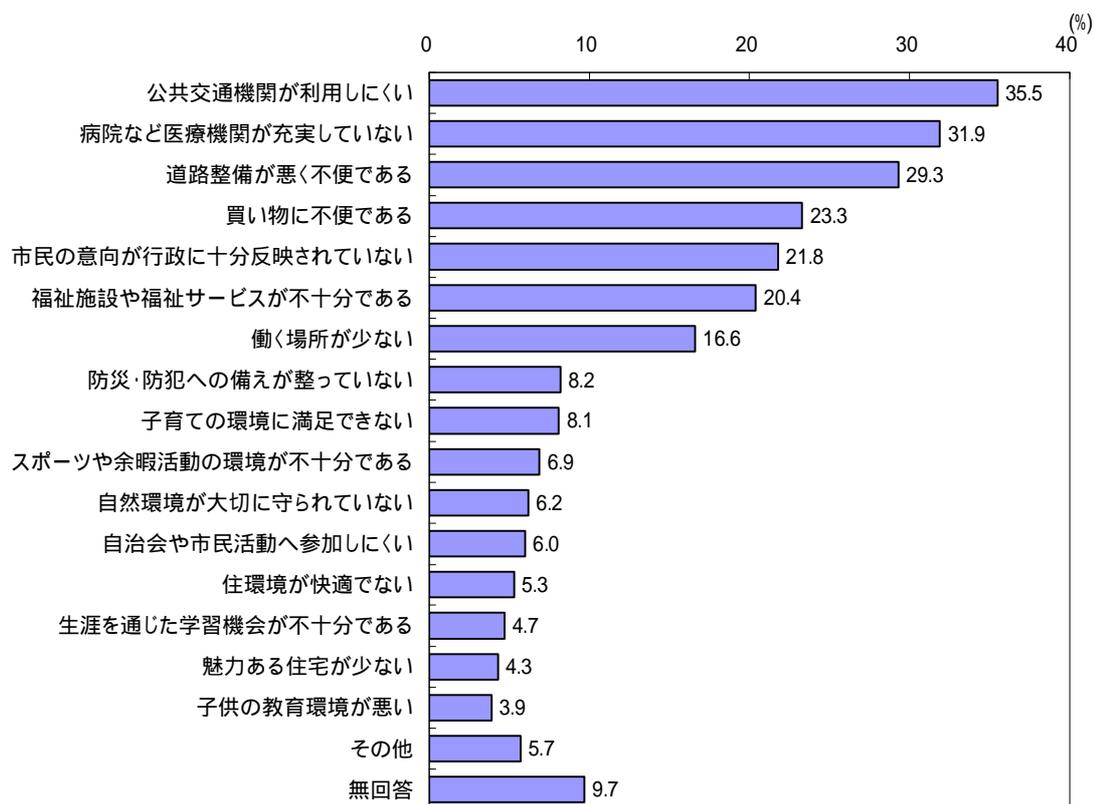
### 5. 住みやすいと感じる点（問5）

掛川市が住みやすいと感じる点を尋ねたところ、「豊かな自然環境に恵まれている」59.4%と他の選択肢を大きく引き離し、市民から支持されていることがうかがえました。次いで、「買物に便利である」27.4%、「病院など医療機関が充実している」14.8%、「快適な住環境が整っている」14.3%などが上位を占めましたが、「豊かな自然環境に恵まれている」に比較すると割合が低い結果となりました。



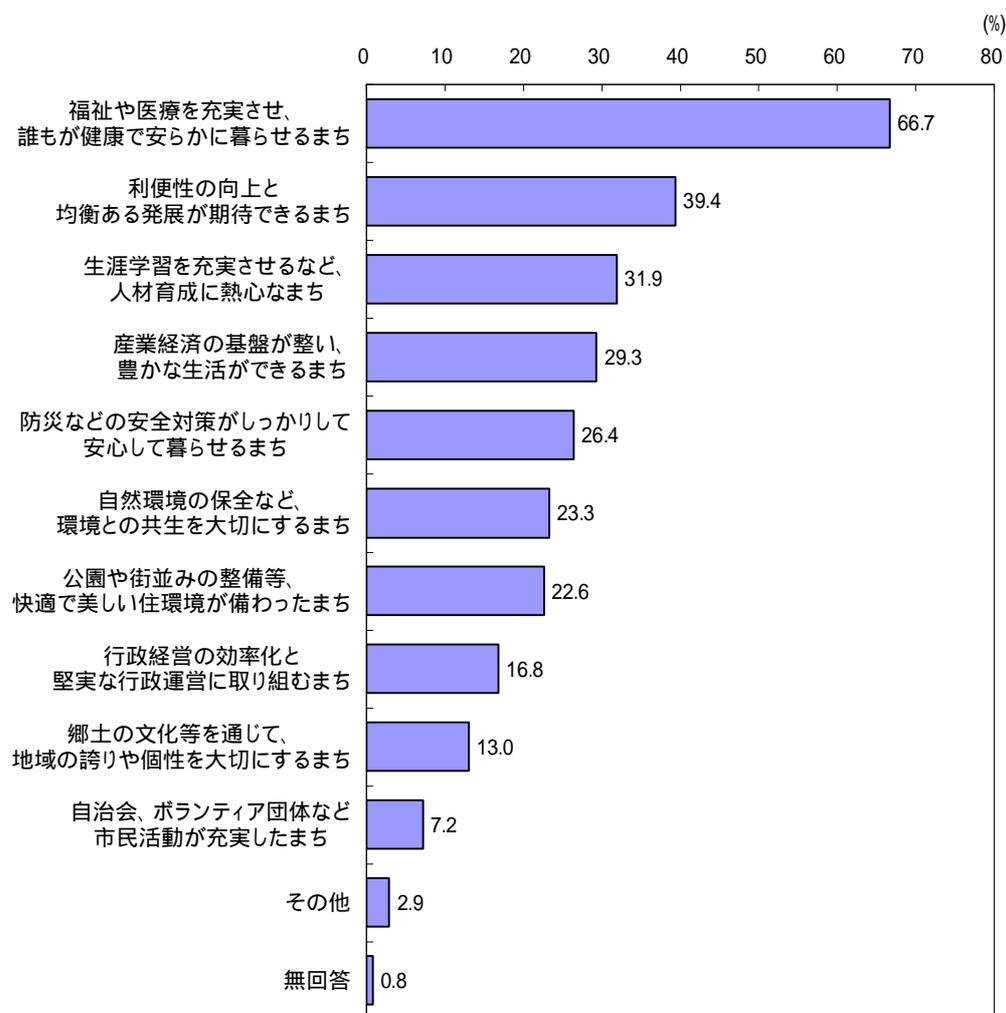
## 6. 住みにくいと感じる点（問6）

掛川市が住みにくいとを感じる点を尋ねたところ、「公共交通機関が利用しにくい」35.5%、「病院など医療機関が充実していない」31.9%、「道路整備が悪く不便である」29.3%、「買い物に不便である」23.3%、「市民の意向が行政に十分に反映されていない」21.8%、「福祉施設や福祉サービスが不十分である」20.4%などが上位でした。市民は、都市基盤や医療福祉の面で住みにくさを感じていることがうかがえました。



### 7. これからのまちづくりで重視すべき視点（問7）

これからの掛川市のまちづくりは、どのような視点を重視すべきか尋ねたところ、「福祉や医療を充実させ、誰もが健康で安らかに暮らせるまち」66.7%と他の選択肢を大きく引き離し、市民から支持されていることがうかがえました。次いで、「道路や交通機関を充実させ、利便性の向上と均衡ある発展が期待できるまち」39.4%、「子供の健全な成長や生涯学習を充実させるなど、人材育成に熱心なまち」31.9%などが上位でした。



## 8 . 現在のまちづくりの満足度・施策の重要度（問8）

### （1）満足度

「満足している」「多少満足している」を合計した「満足割合」から、「多少不満である」「不満である」を合計した「不満割合」を差し引いて満足度を把握しました。「満足度の高い施策」と「満足度の低い施策」は、次の通りでした。

#### 【満足度の高い施策（ベスト5位）】

- 「ごみ処理対策などの廃棄物処理体制の充実」(17.8%)
- 「貴重で美しい自然環境・景観の保全」(16.0%)
- 「安全で安定した上水道の提供」(14.8%)
- 「地域農業の活性化により安全で安定した食の提供」(14.5%)
- 「健康に暮らすための保健予防や健診の充実」(9.6%)

#### 【満足度の低い施策（ワースト5位）】

- 「中心市街地活性化によるまちの顔づくり」(マイナス48.8%)
- 「商業の活性化による地域の魅力づくり」(マイナス46.1%)
- 「通勤・通学・通院のための交通機関の確保」(マイナス41.6%)
- 「効率的行政経営の推進による財政の健全化」(マイナス37.3%)
- 「交通事故に遭わない安全な交通環境の充実」(マイナス35.8%)

### （2）重要度

「非常に重要である」「多少重要である」を合計した「重要性肯定割合」から、「あまり重要ではない」「重要ではない」を合計した「重要性否定割合」を差し引いて重要度を把握しました。「重要性の高い施策」と「重要性の低い施策」は、次の通りでした。

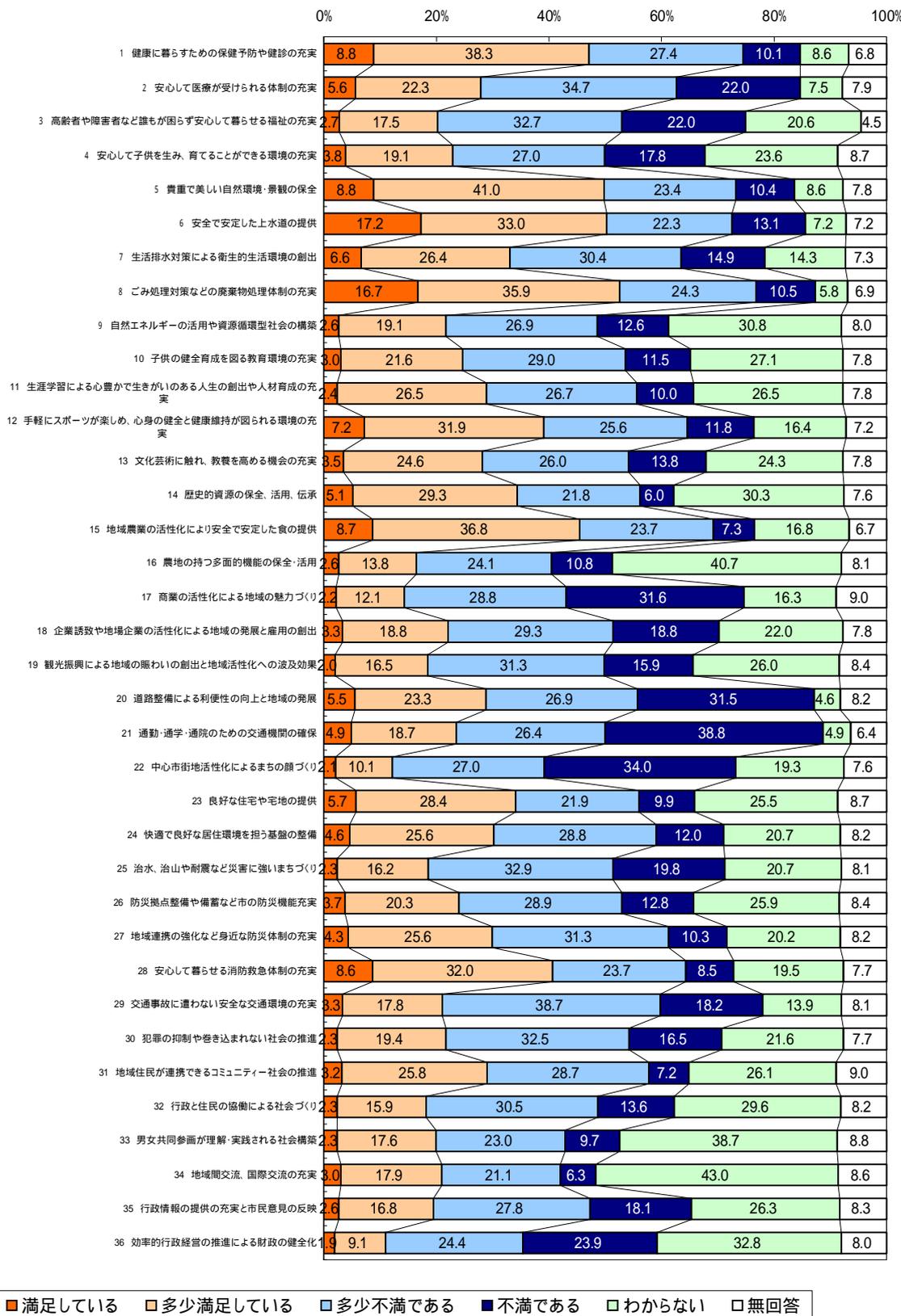
#### 【重要性の高い施策（ベスト5位）】

- 「安心して医療が受けられる体制の充実」(83.9%)
- 「高齢者や障害者など誰もが困らず安心して暮らせる福祉の充実」(83.1%)
- 「健康に暮らすための保健予防や健診の充実」(81.4%)
- 「安心して暮らせる消防救急体制の充実」(79.2%)
- 「ごみ処理対策などの廃棄物処理体制の充実」(79.1%)

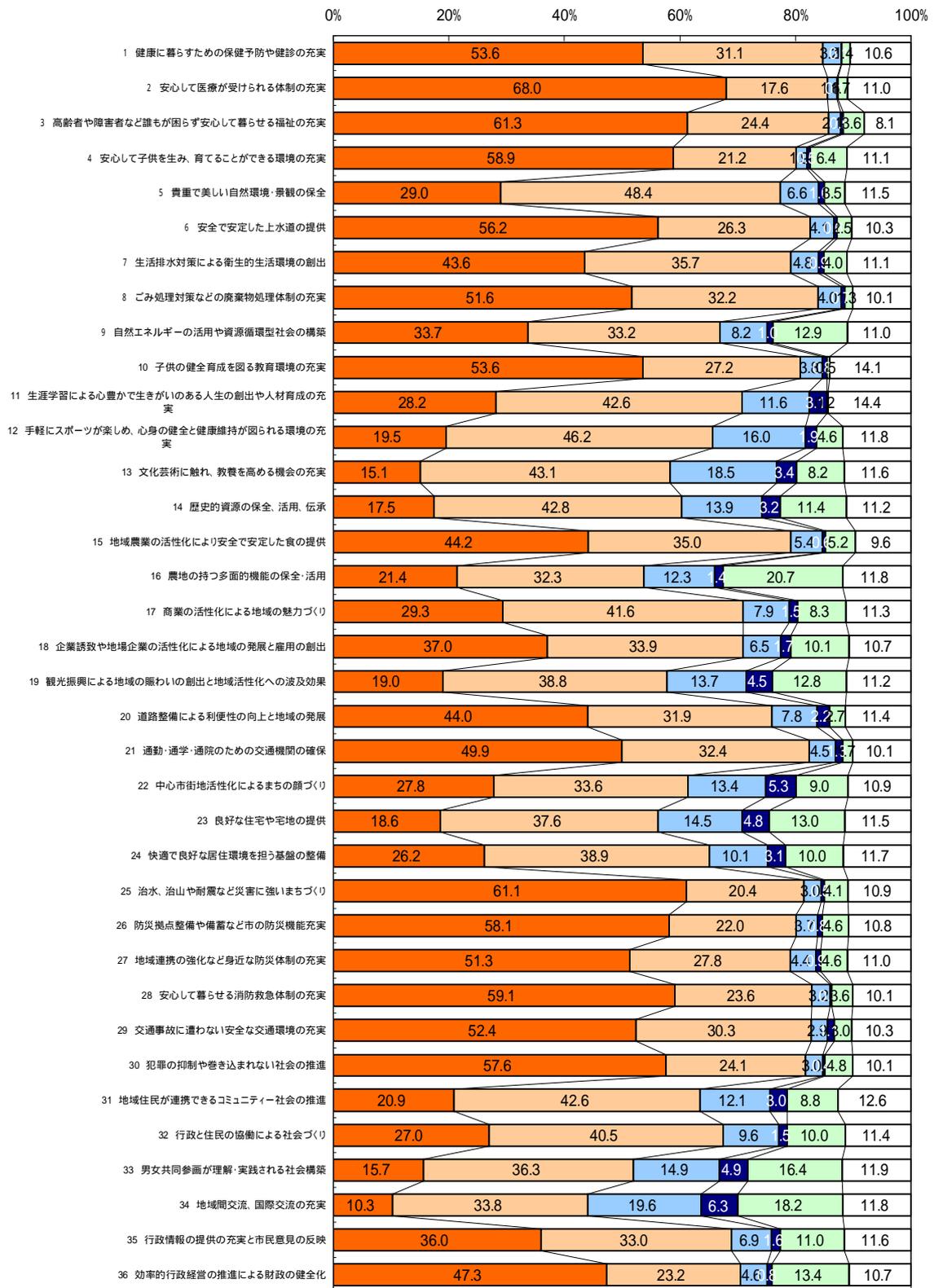
#### 【重要性の低い施策（ワースト5位）】

- 「地域間交流、国際交流の充実」(18.2%)
- 「男女共同参画が理解・実践される社会構築」(32.2%)
- 「文化芸術に触れ、教養を高める機会の充実」(36.3%)
- 「良好な住宅や宅地の提供」(36.9%)
- 「観光振興による地域の賑わいの創出と地域活性化への波及効果」(39.6%)

満足度



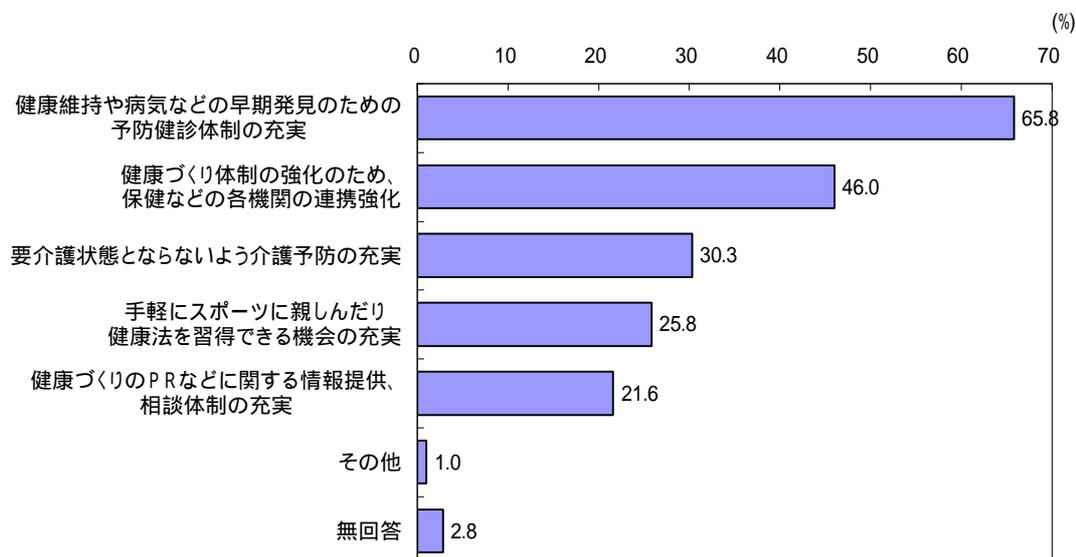
重要度



■ 非常に重要である
 ■ 多少重要である
 ■ あまり重要ではない
 ■ 重要ではない
 ■ わからない
 ■ 無回答

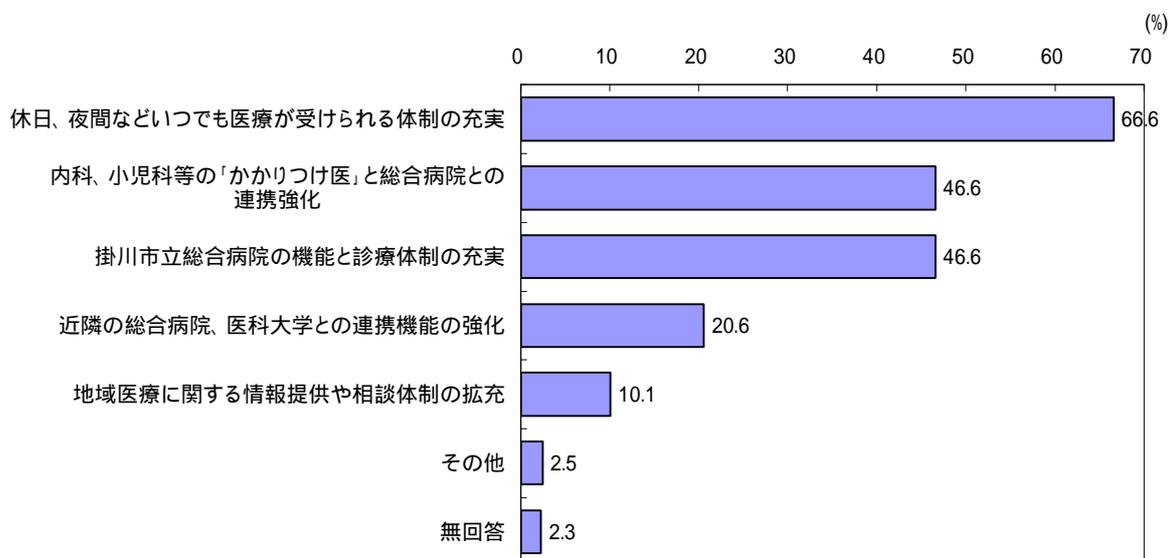
### 9. 健康づくりに関して力を入れるべき点（問9）

健康づくりに関して、どのような点に力を入れるべきか尋ねたところ、「健康維持や病気などの早期発見のための予防健診体制の充実」が 65.8%と他の選択肢を大きく上回り、市民は健診体制の充実を最も期待していることがうかがえました。



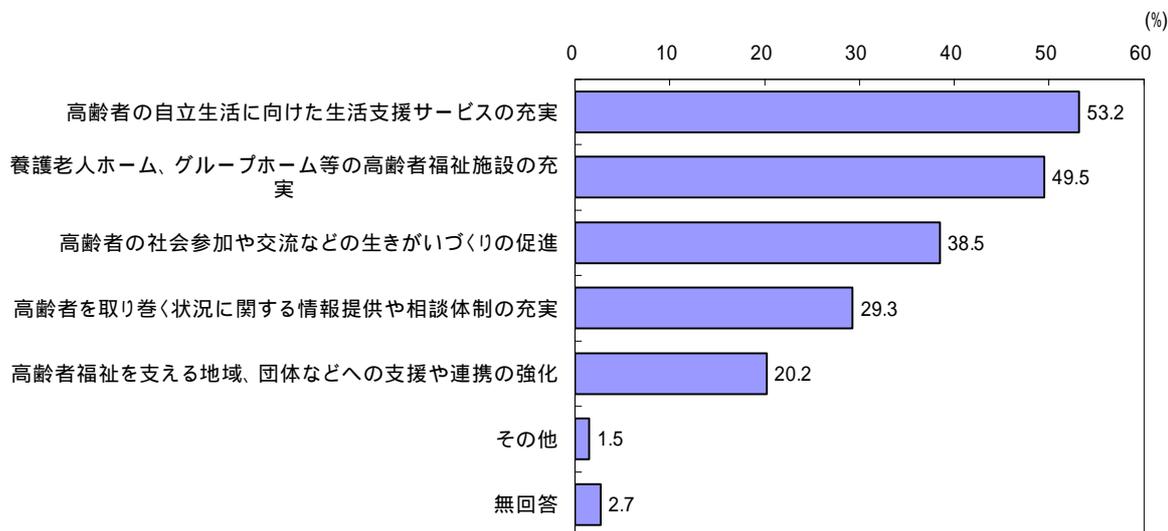
### 10. 地域医療に関して力を入れるべき点（問10）

地域医療に関して、どのような点に力を入れるべきか尋ねたところ、「休日、夜間などいつでも医療が受けられる体制の充実」が 66.6%と他の選択肢を大きく上回り、市民は急患への対応を最も期待していることがうかがえました。



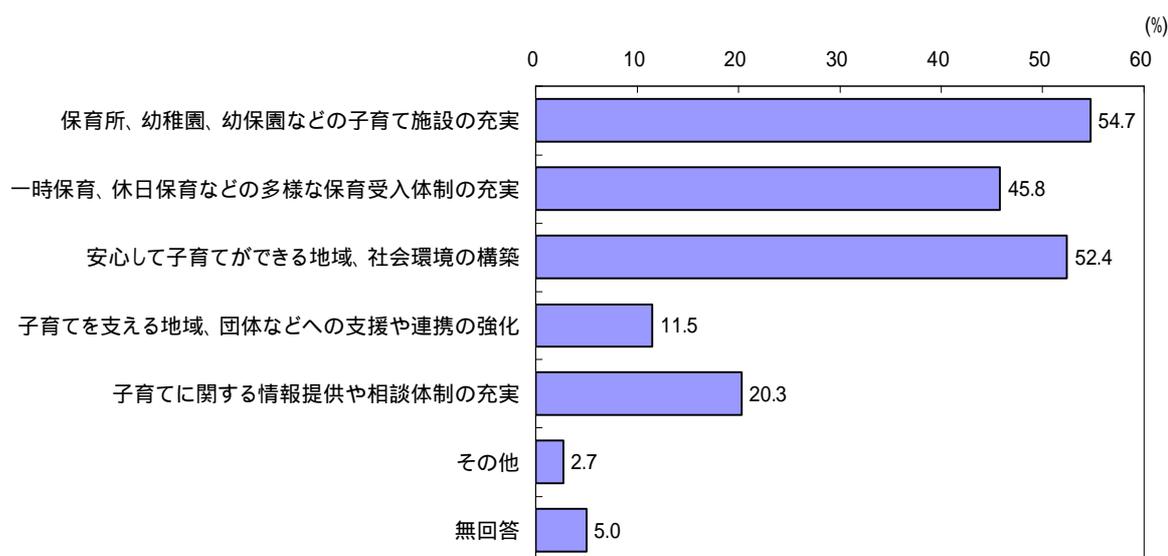
### 1 1 . 高齢者福祉に関して力を入れるべき点（問 1 1）

高齢者福祉に関して、どのような点に力を入れるべきか尋ねたところ、「高齢者の自立生活に向けた生活支援サービスの充実」53.2%、「養護老人ホーム、グループホームなど的高齢者福祉施設の充実」49.5%と回答割合が高く、市民は高齢者の生活支援と介護の充実を期待していることがうかがえました。



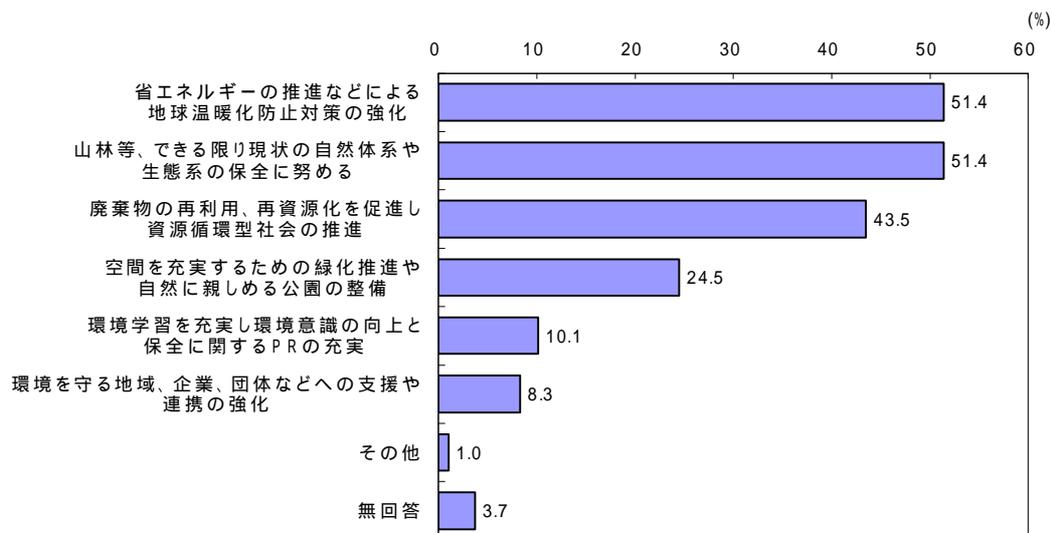
### 1 2 . 子育て支援に関して力を入れるべき点（問 1 2）

子育て支援に関して、どのような点に力を入れるべきか尋ねたところ、「保育所、幼稚園、幼保園などの子育て施設の充実」54.7%、「安心して子育てができる地域、社会環境の構築」52.4%、「一時保育、休日保育などの多様な保育受入体制の充実」45.8%と回答割合が高く、市民は子育てに関する施設、社会環境、サービスと全ての面での充実を期待していることがうかがえました。



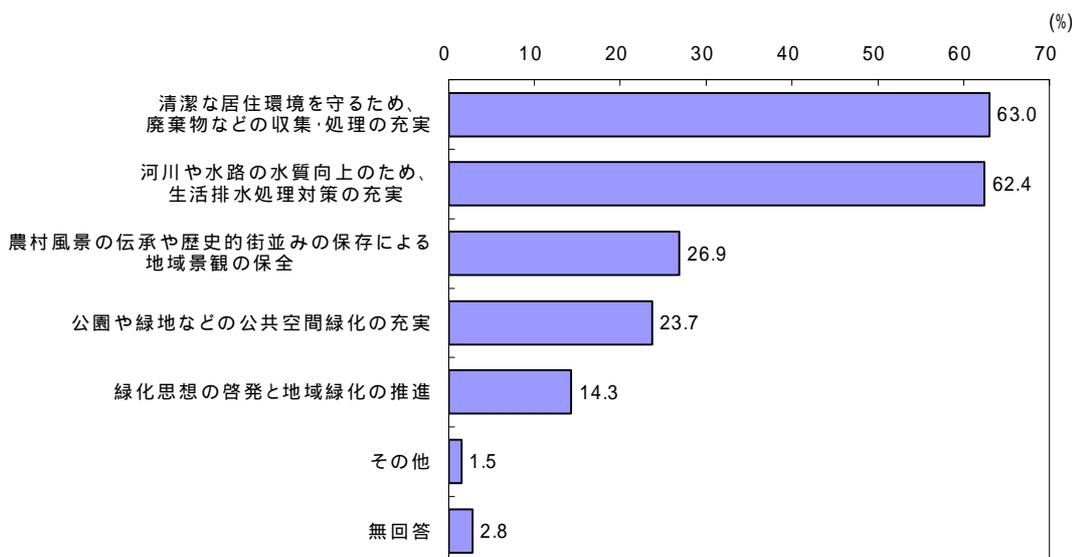
### 1 3 . 地球・自然環境の保全に関して力を入れるべき点（問 1 3 ）

地球・自然環境の保全に関して、どのような点に力を入れるべきか尋ねたところ、「省エネルギーの推進や新エネルギー利用の促進などによる地球温暖化防止対策の強化」51.4%、「山林、河川、海岸など、できる限り現状の自然体系や生態系の保全に努める」51.4%、「廃棄物の再利用、再資源化を促進し資源循環型社会の促進」43.5%と回答割合が高く、市民は、自然と親しめる公園整備などよりも地球環境問題への対応、自然環境の保全を期待していることがうかがえました。



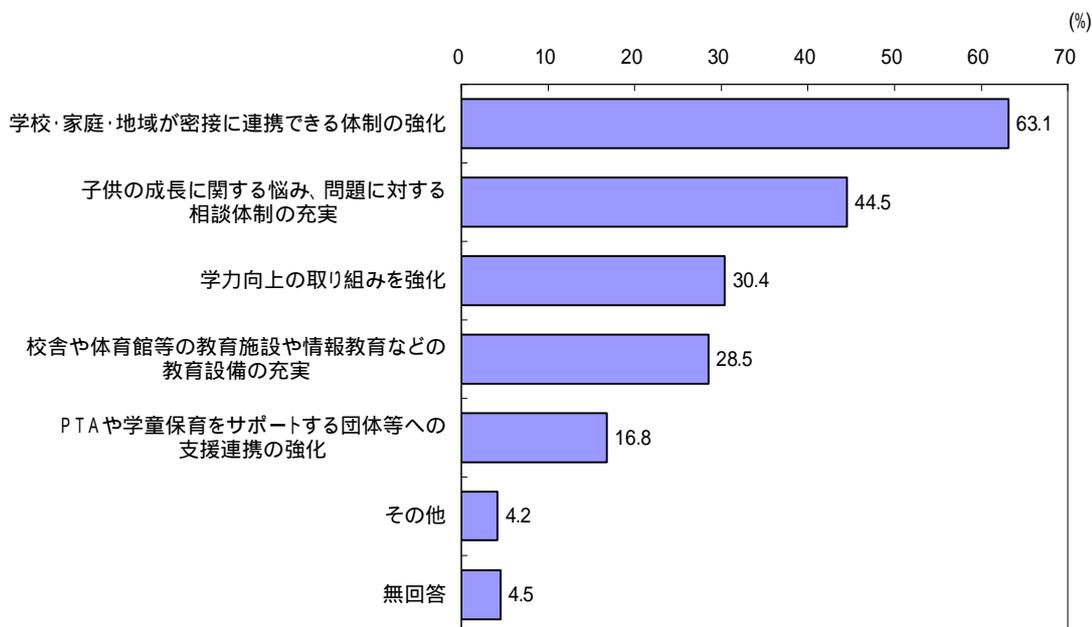
### 1 4 . 快適な居住環境に関して力を入れるべき点（問 1 4 ）

快適な居住環境に関して、どのような点に力を入れるべきか尋ねたところ、「清潔な居住環境を守るため、ごみ、廃棄物の収集・処理の充実」63.0%、「河川や水路の水質向上のため、生活排水処理対策の充実」62.4%と回答割合が高く、市民は緑化や景観保全よりも、生活排水や廃棄物対策を期待していることがうかがえました。



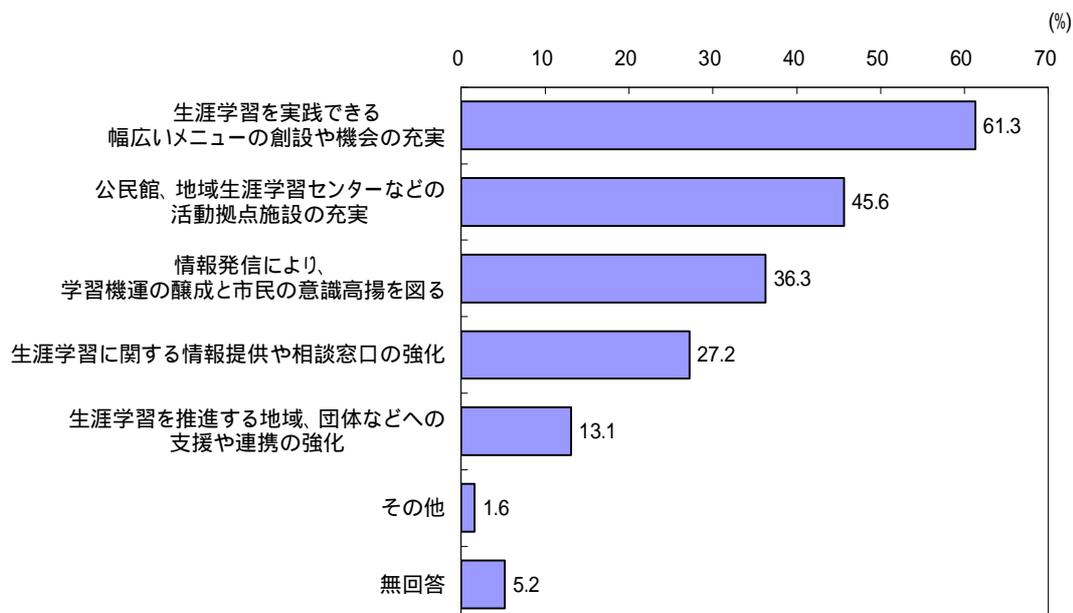
### 15. 子供の健全な成長に関して力を入れるべき点（問15）

子供の健全な成長に関して、どのような点に力を入れるべきか尋ねたところ、「学校・家庭・地域が密接に連携できる体制の強化」が63.1%と他の選択肢を大きく上回り、市民は、子供の成長を地域全体でサポートしていくことを最も期待していることがうかがえました。



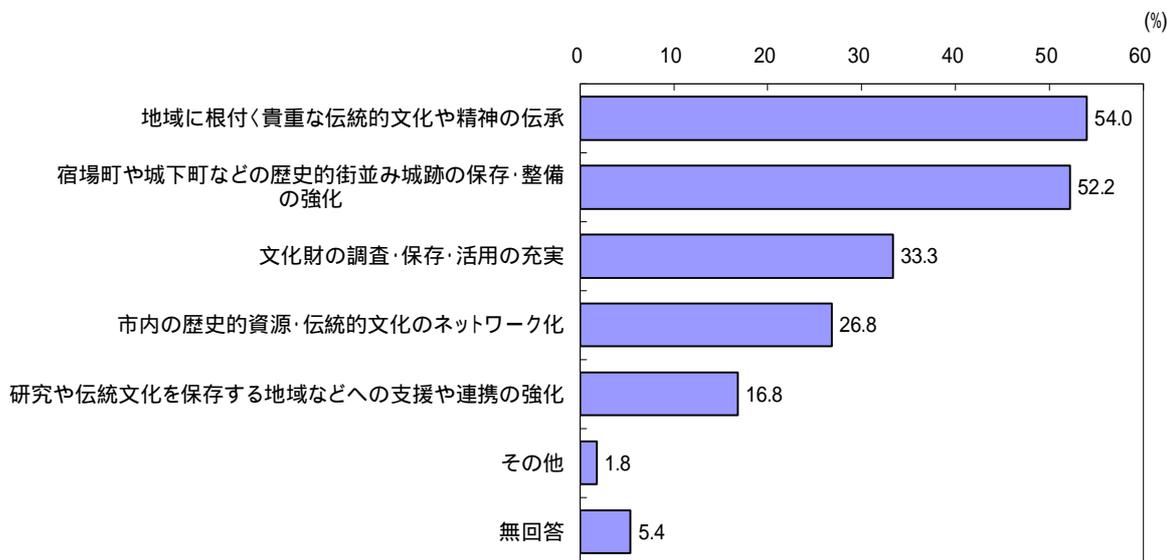
### 16. 生涯学習の推進に関して力を入れるべき点（問16）

生涯学習の推進に関して、どのような点に力を入れるべきか尋ねたところ、「いつでも生涯学習を実践できるよう幅広いメニューの創設や学習機会の充実」が61.3%と他の選択肢を上回り、市民は、生涯学習の内容の充実を最も期待していることがうかがえました。



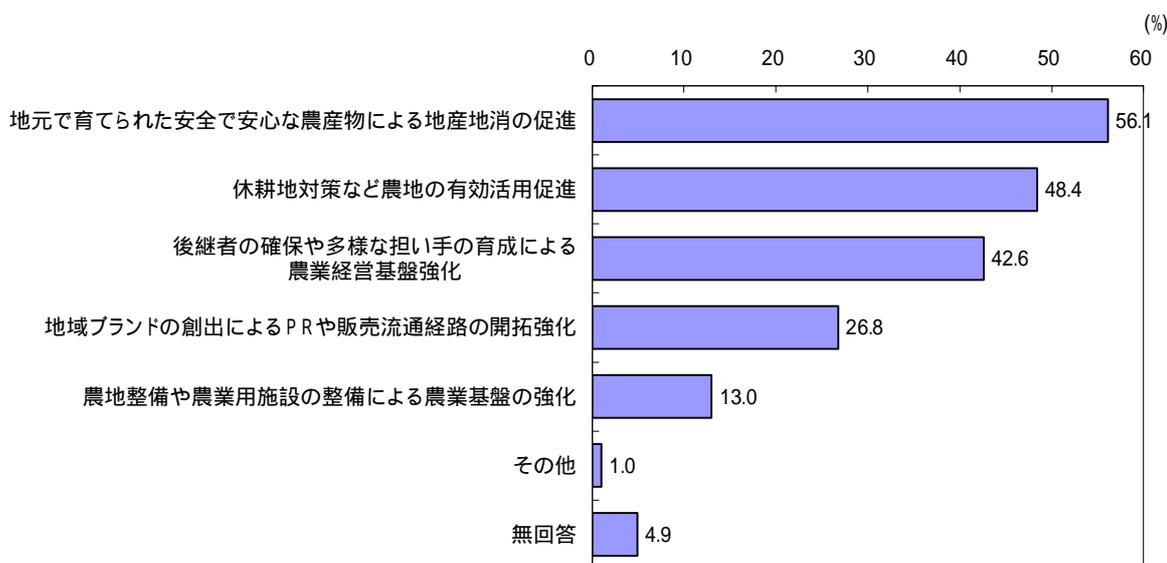
### 17 歴史的資源や伝統的文化の保全再生活用に関して力を入れるべき点(問17)

歴史的資源や伝統的文化の保全、再生、活用に関して、どのような点に力を入れるべきか尋ねたところ、「地域に根付く貴重な伝統的文化や精神の伝承」54.0%、「宿場町や城下町などの歴史的街並み城跡の保存・整備の強化」52.2%と回答割合が高く、市民は、地域独自の精神性と街並みの保全・整備を期待していることがうかがえました。



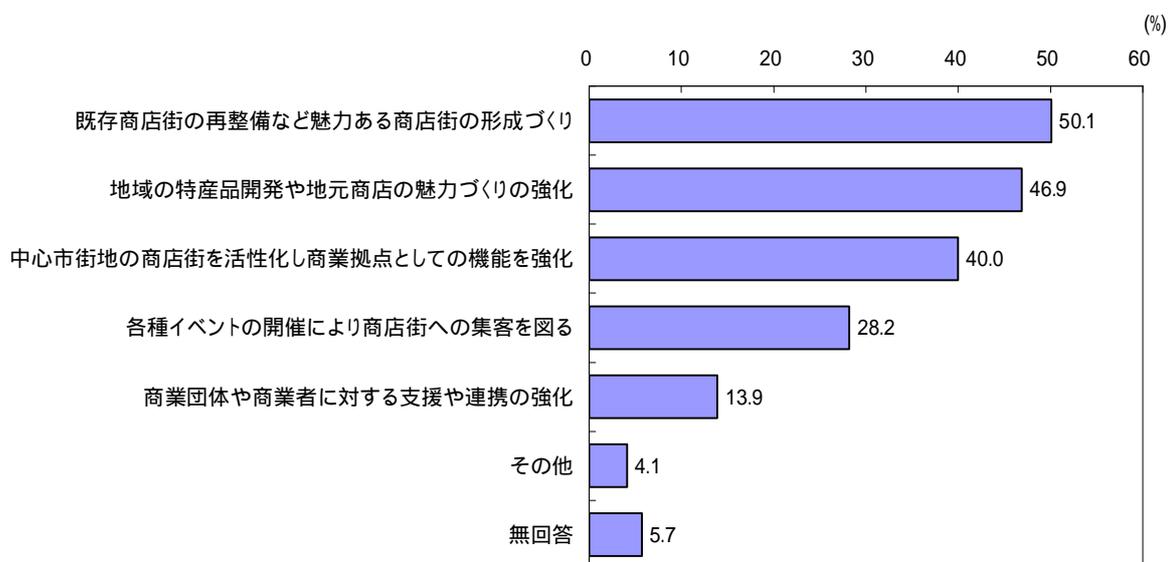
### 18 農業に関して力を入れるべき点(問18)

農業に関して、どのような点に力を入れるべきか尋ねたところ、「地元農家で育てられた安全で安心な農産物による地産地消の促進」56.1%、「休耕地対策など農地の有効活用促進」48.4%、「農業後継者の確保や多様な担い手の育成による農業経営基盤の強化」42.6%と回答割合が高く、市民は、地産地消や農地活用とともに、農業経営の安定化を期待していることがうかがえました。



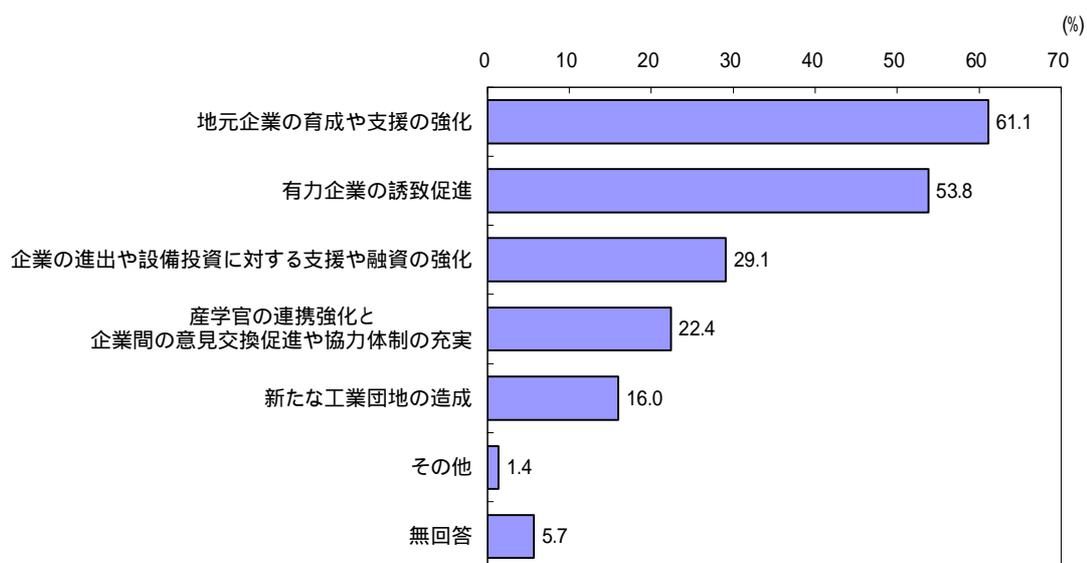
### 19. 商業に関して力を入れるべき点（問19）

商業に関して、どのような点に力を入れるべきか尋ねたところ、「既存商店街の再整備など魅力ある商店街の形成づくり」50.1%、「地域の特産品開発や地元商店の魅力づくりの強化」46.9%、「中心市街地の商店街を活性化し商業拠点としての機能を強化」40.0%と回答割合が高く、市民は、商業地域、店舗、商品の魅力アップを期待していることがうかがえました。



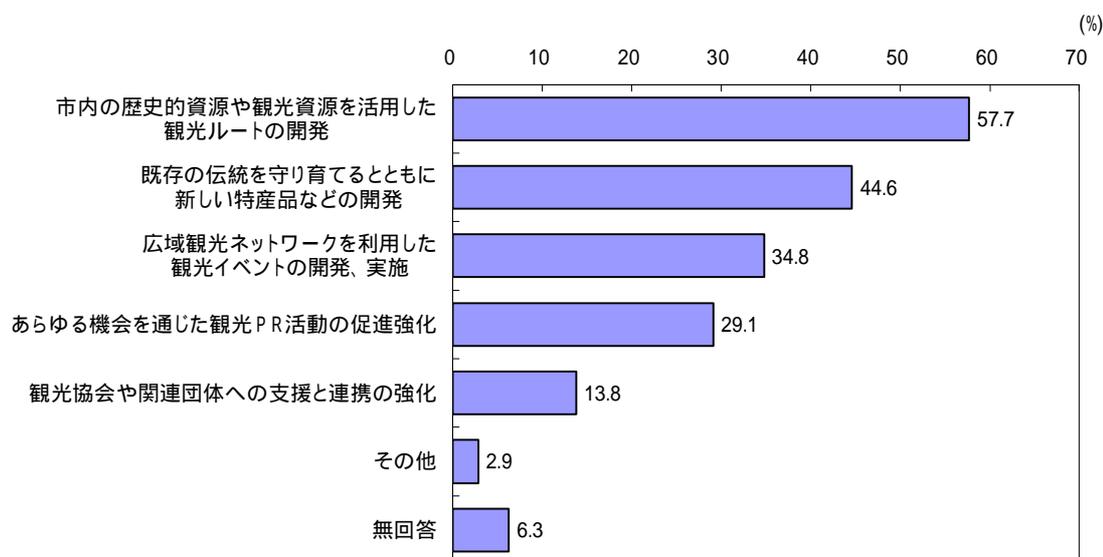
### 20. 工業に関して力を入れるべき点（問20）

工業に関して、どのような点に力を入れるべきか尋ねたところ、「地元企業の育成や支援の強化」61.1%、「有力企業の誘致促進」53.8%と回答割合が高く、市民は、地元企業の発展と有力企業の立地といった目に見える効果を期待していることがうかがえました。



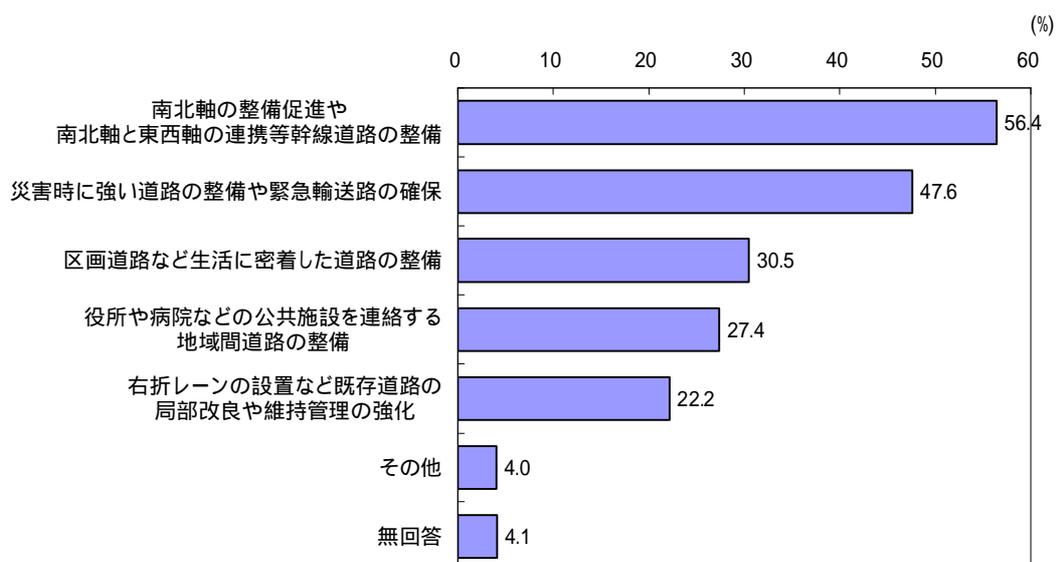
## 2 1 . 観光に関して力を入れるべき点 (問 2 1 )

観光に関して、どのような点に力を入れるべきか尋ねたところ、「市内の歴史的資源や観光資源を活用した観光ルートの開発」57.7%、「既存の伝統工芸品を守り育てるとともに新しい特産品などの開発とPRの強化」44.6%と回答割合が高く、市民は、歴史的資源の活用と特産品開発を通じて、交流によるビジネスチャンス拡大を期待していることがうかがえました。



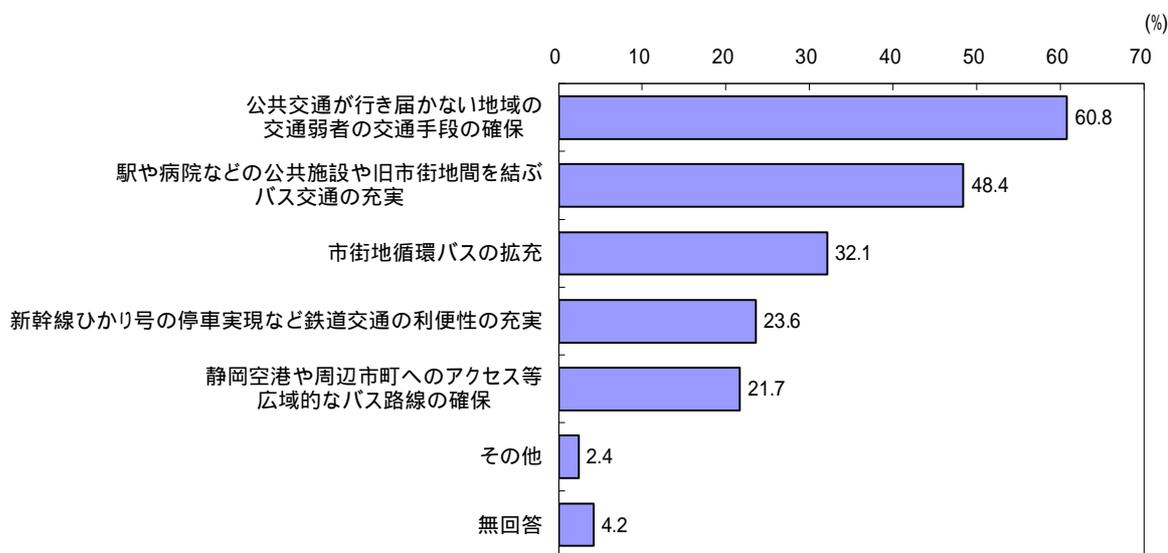
## 2 2 . 道路に関して力を入れるべき点 (問 2 2 )

道路に関して、どのような点に力を入れるべきか尋ねたところ、「南北軸の整備促進や南北軸と東西軸の連携など幹線道路の整備」56.4%、「災害時に強い道路の整備や緊急輸送路の確保」47.6%と回答割合が高く、市民は、幹線道路と災害対応を期待していることがうかがえました。



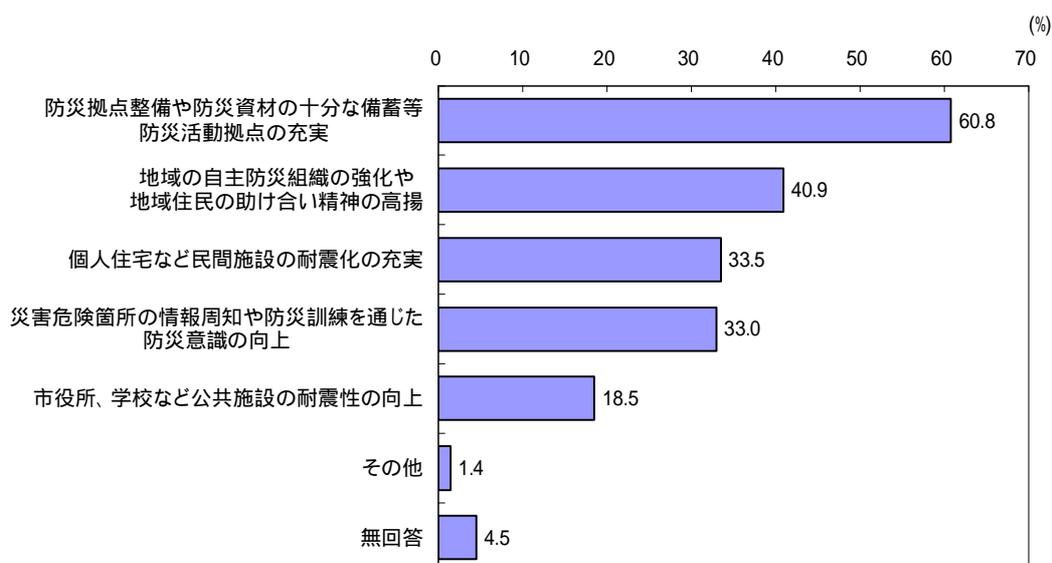
### 2 3 . 地域公共交通に関して力を入れるべき点（問 2 3）

地域公共交通に関して、どのような点に力を入れるべきか尋ねたところ、「公共交通が行き届かない地域の高齢者や児童など交通弱者の交通手段の確保」60.8%、「駅や病院などの公共施設や旧市街地間を結ぶバス交通の充実」48.4%と回答割合が高く、市民は交通弱者を念頭に置いて、通学や通院などの日常的な交通手段の提供を期待していることがうかがえました。



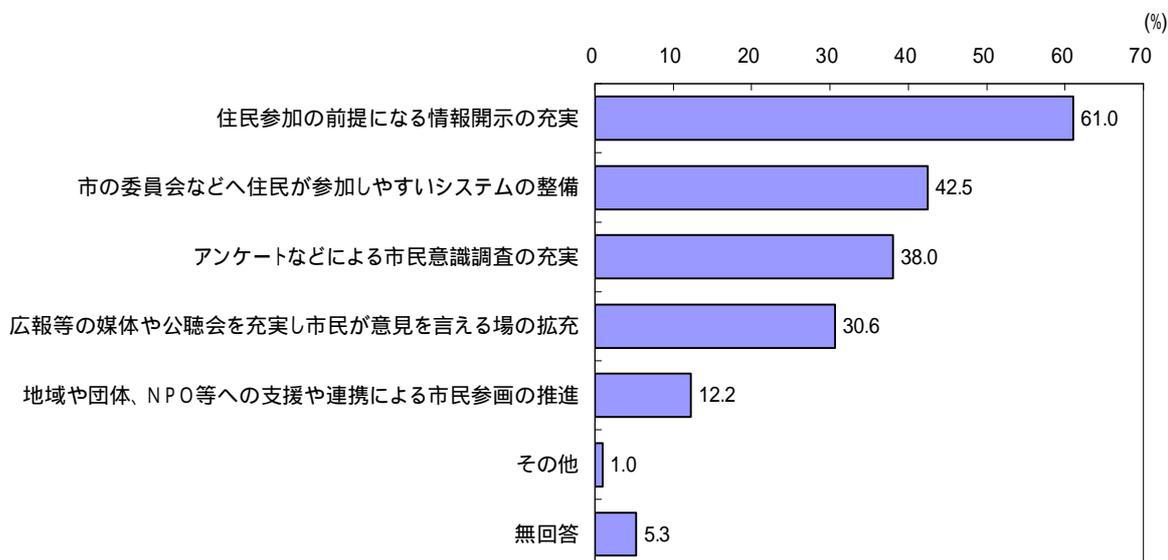
### 2 4 . 防災体制に関して力を入れるべき点（問 2 4）

防災体制に関して、どのような点に力を入れるべきか尋ねたところ、「防災拠点整備や防災資材の十分な備蓄など防災活動拠点の充実」が 60.8%と他の選択肢を大きく上回り、市民は万が一の場合に備えて、拠りどころとなる防災拠点を最も期待していることがうかがえました。



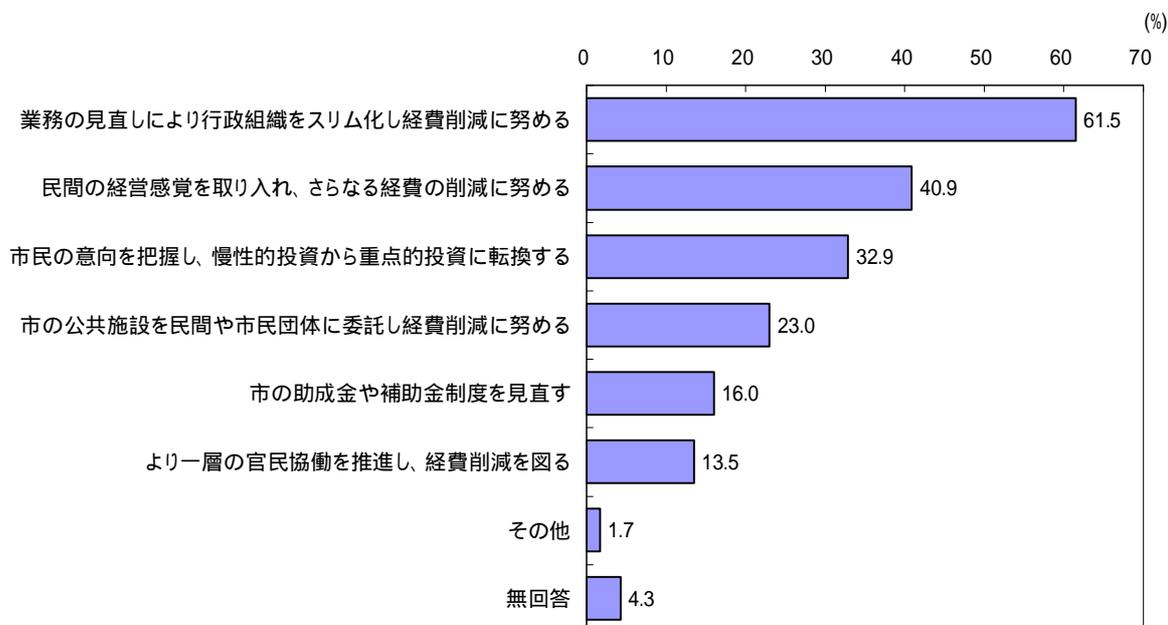
### 25. 住民参画に関して力を入れるべき点（問25）

住民参画に関して、どのような点に力を入れるべきか尋ねたところ、「住民参加の前提となる情報開示の充実」が61.0%と他の選択肢を大きく上回り、市民は、様々な行政情報の提供を最も期待していることがうかがえました。



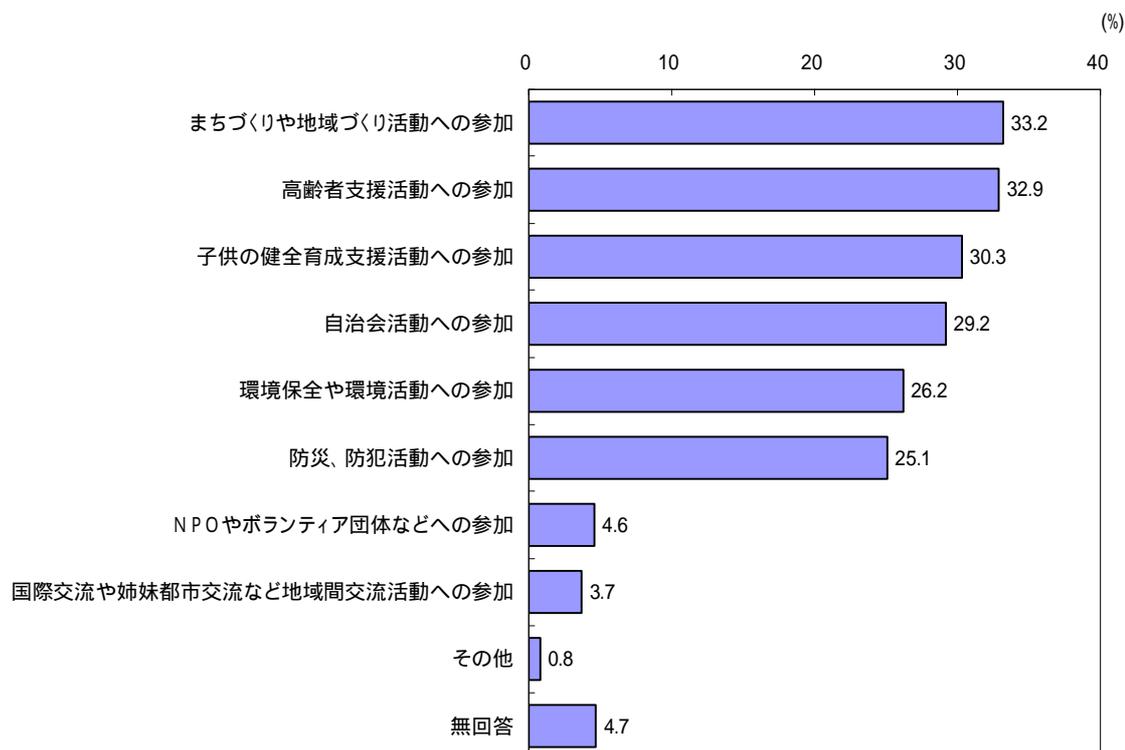
### 26. 行財政改革に関して力を入れるべき点（問26）

行財政改革に関して、どのような点に力を入れるべきか尋ねたところ、「業務の見直しにより行政組織をスリム化し、経費削減に努める」が61.5%と他の選択肢を大きく上回り、市民は、行政組織のスリム化を最も期待していることがうかがえました。



## 27. 地域の自治・自立に必要な官民協働に関する活動（問27）

地域の自治・自立に必要な官民協働に関して、どのような活動への参加が重要であるか尋ねたところ、「まちづくりや地域づくり活動への参加」33.2%、「高齢者支援活動への参加」32.9%、「子供の健全育成支援活動への参加」30.3%、「自治会活動への参加」29.2%、「環境保全や環境活動への参加」26.2%、「防災、防犯活動への参加」25.1%と回答割合が高い結果となりました。地域の自治・自立に向けて、市民は幅広い活動に参加することが重要であると捉えていることがうかがえました。

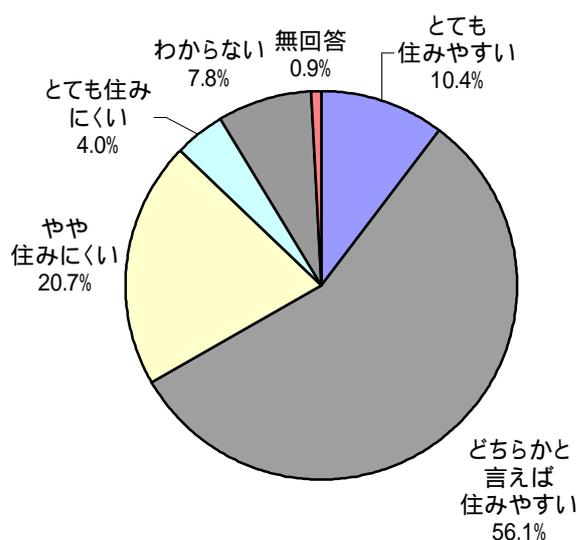


## 第4章 男女別クロス集計結果

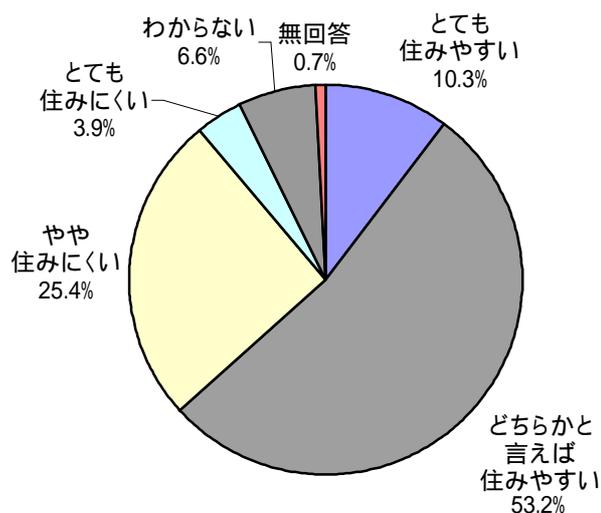
### 1. 住みやすさ(問4)

掛川市の住みやすさを尋ねたところ、男女とも「どちらかと言えば住みやすい」(男性 56.1%、女性 53.2%)が最も高くなりました。一方、「やや住みにくい」は女性が25.4%と、男性の20.7%を上回りました。

男性 (N=643)

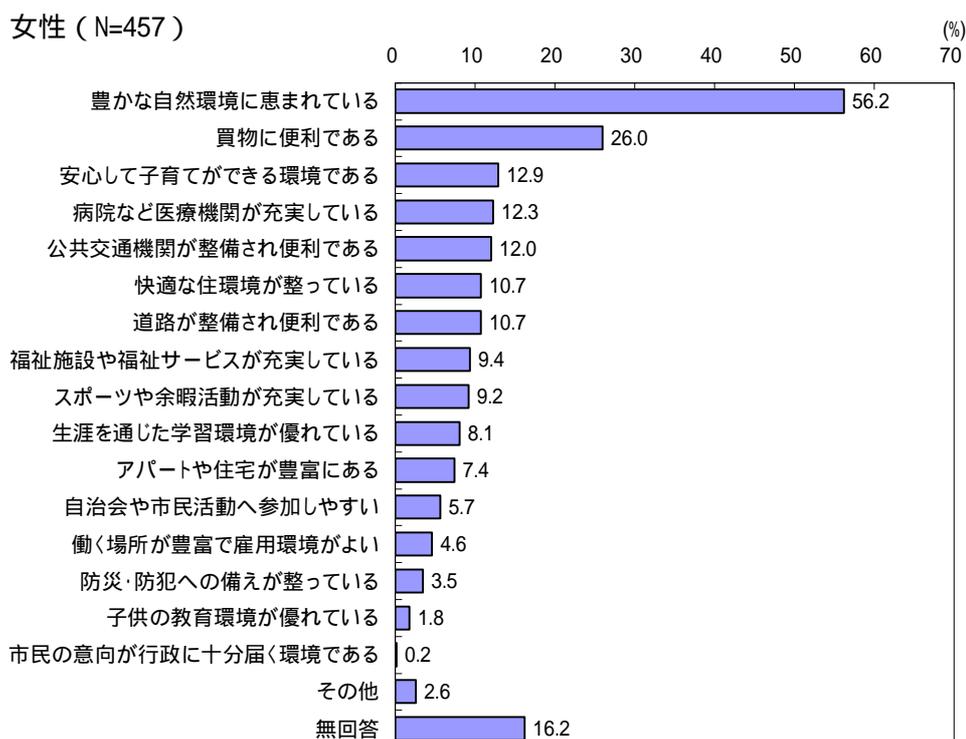
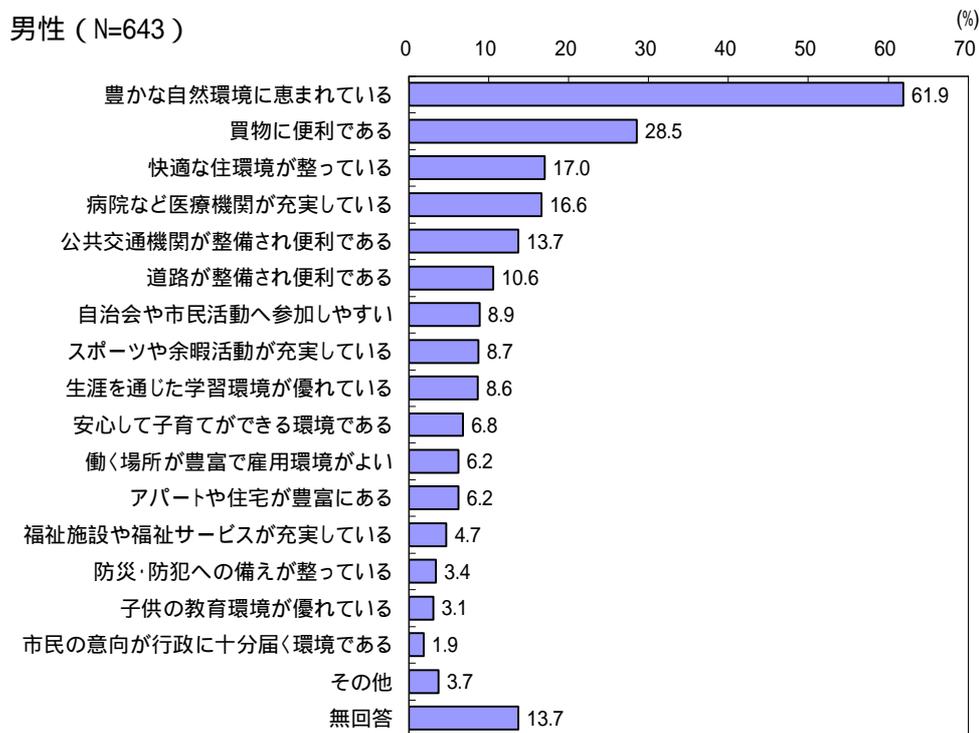


女性 (N=457)



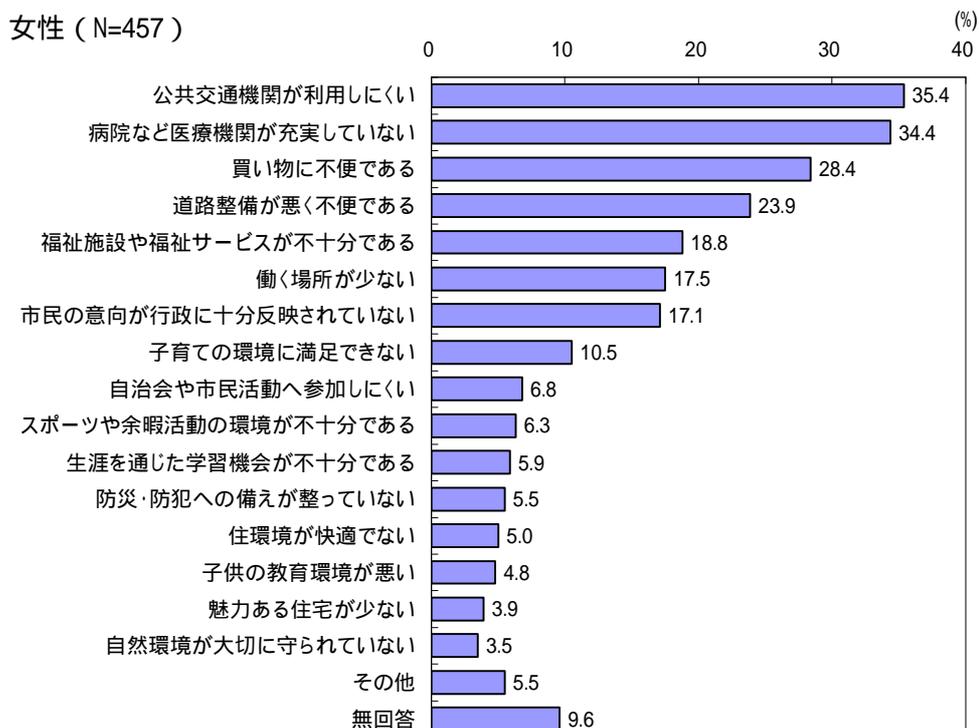
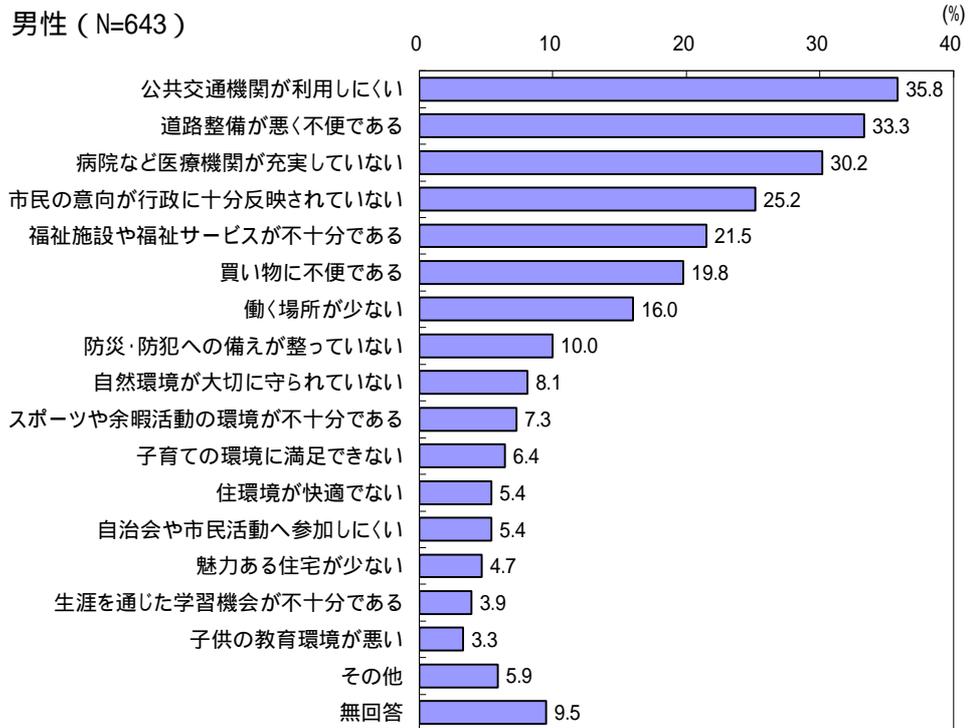
## 2. 住みやすいと感じる点（問5）

掛川市が住みやすいと感じる点を尋ねたところ、男女とも「豊かな自然環境に恵まれている」（男性 61.9%、女性 56.2%）が最も高くなりました。このほか、男性の3番目に「快適な住環境が整っている」17.0%、女性の3番目に「安心して子育てができる環境である」12.9%となりました。



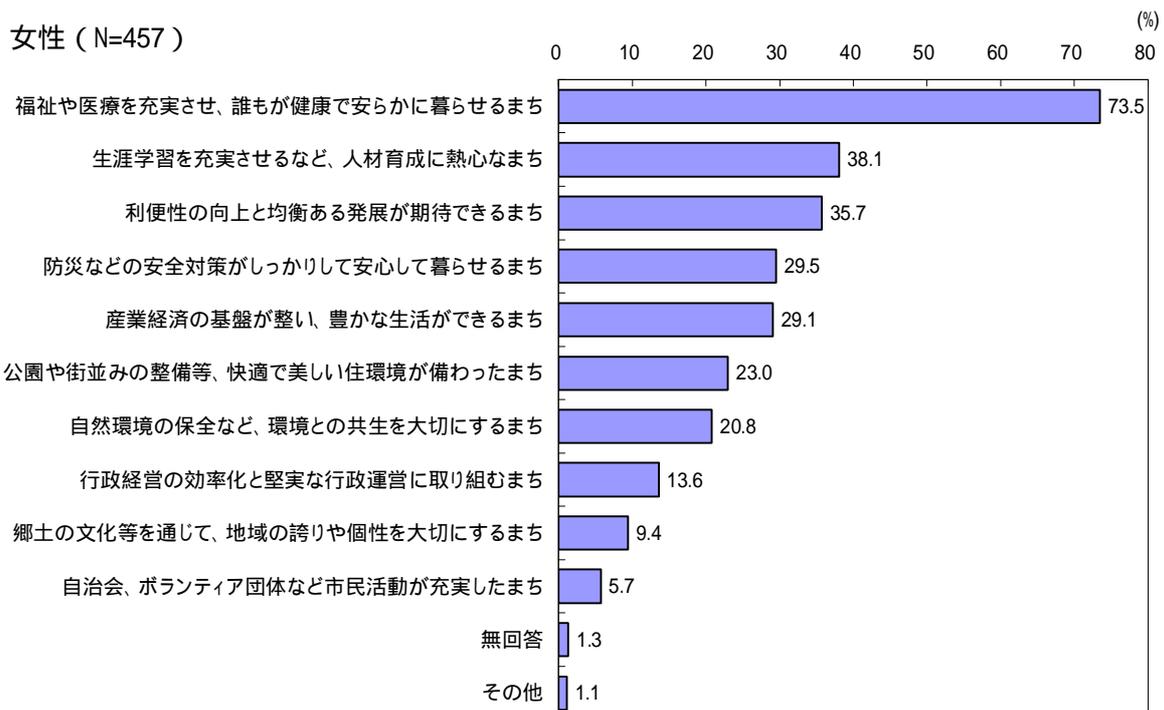
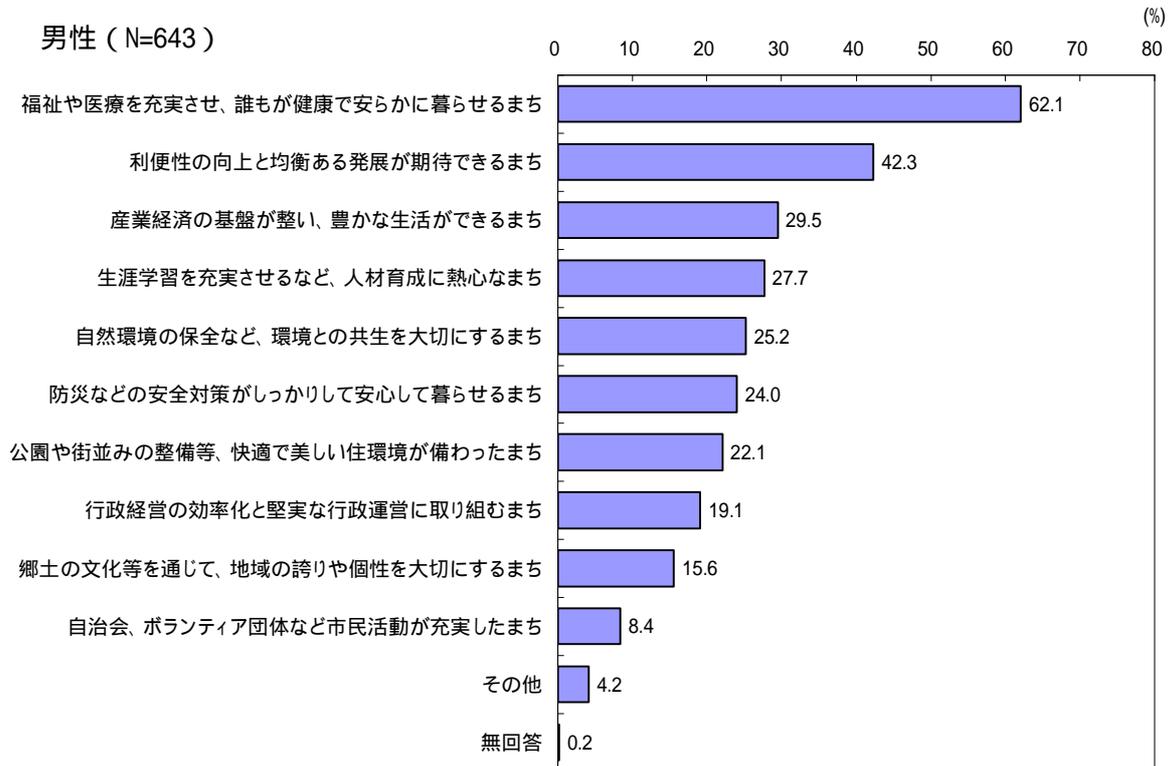
## 3. 住みにくいと感ずる点（問6）

掛川市が住みにくいと感ずる点を尋ねたところ、男女とも「公共交通機関が利用しにくい」（男性 35.8%、女性 35.4%）と最も高くなりました。続いて、男性では「道路が悪くて不便である」33.3%、女性では「病院や医療機関が充実していない」34.4%が住みにくい要因として割合が高くなりました。



## 4. これからのまちづくりで重視すべき点（問7）

これからの掛川市のまちづくりは、どのような視点を重視すべきかを尋ねたところ、男女とも「福祉や医療を充実させ、誰もが健康で安らかに暮らせるまち」が最も高く、特に女性が73.5%で男性の62.1%を大きく上回りました。また、2番目には、男性では「利便性の向上と均衡ある発展が期待できるまち」42.3%であったのに対し、女性では「生涯学習を充実させるなど、人材育成に熱心なまち」38.1%となりました。



## 5. 現在のまちづくりの満足度・施策の優先度（問8）

### （1）満足度

「満足している」「多少満足している」を合計した「満足割合」から、「多少不満である」「不満である」を合計した「不満割合」を差し引いて満足度を把握しました。「満足度の高い施策」と「満足度の低い施策」は、次の通りになりました。

#### 【満足度の高い施策（ベスト3位）】

##### 男性

- 「安全で安定した上水道の提供」(20.7%)
- 「貴重で美しい自然環境・景観の保全」(13.5%)
- 「安心して暮らせる消防救急体制の充実」(11.5%)

##### 女性

- 「ごみ処理対策などの廃棄物処理体制の充実」(27.1%)
- 「地域農業の活性化により安全で安定した食の提供」(22.2%)
- 「貴重で美しい自然環境・景観の保全」(19.5%)

#### 【満足度の低い施策（ワースト3位）】

##### 男性

- 「商業の活性化による地域の魅力づくり」(マイナス48.4%)
- 「中心市街地活性化によるまちの顔づくり」(マイナス47.5%)
- 「効率的行政経営の推進による財政の健全化」(マイナス43.7%)

##### 女性

- 「中心市街地活性化によるまちの顔づくり」(マイナス50.5%)
- 「通勤・通学・通院のための交通機関の確保」(マイナス46.3%)
- 「商業の活性化による地域の魅力づくり」(マイナス42.7%)

## (2) 重要度

「非常に重要である」「多少重要である」を合計した「重要性肯定割合」から、「あまり重要ではない」「重要ではない」を合計した「重要性否定割合」を差し引いて重要度を把握しました。「重要性の高い施策」と「重要性の低い施策」は、次の通りになりました。

### 【重要性の高い施策（ベスト3位）】

男性

- 「安心して医療が受けられる体制の充実」(81.9%)
- 「高齢者や障害者など誰もが困らず安心して暮らせる福祉の充実」(80.8%)
- 「健康に暮らすための保健予防や健診の充実」(79.9%)

女性

- 「安心して医療が受けられる体制の充実」(86.6%)
- 「高齢者や障害者など誰もが困らず安心して暮らせる福祉の充実」(86.3%)
- 「健康に暮らすための保健予防や健診の充実」(83.6%)

### 【重要性の低い施策（ワースト3位）】

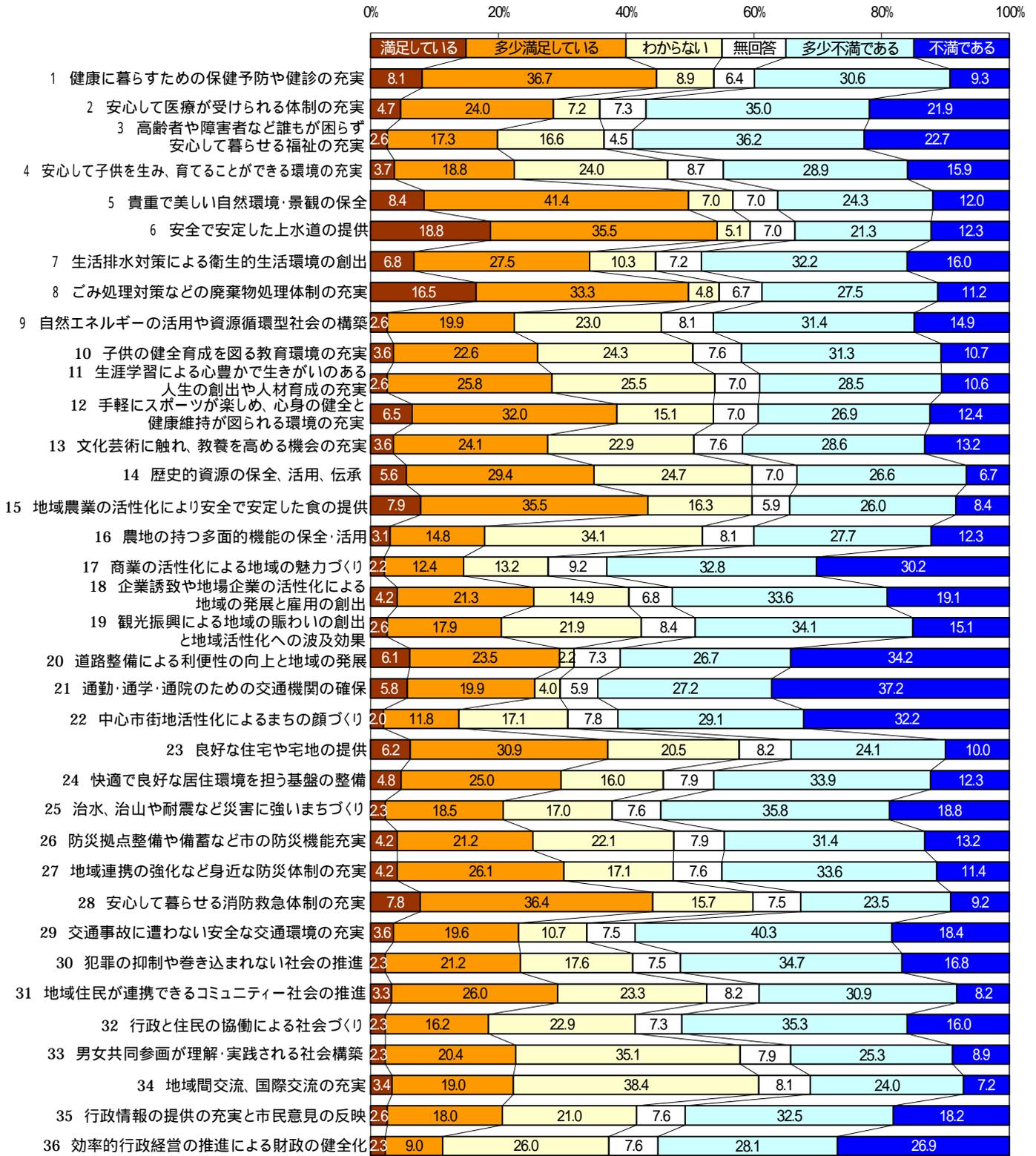
男性

- 「地域間交流、国際交流の充実」(15.6%)
- 「男女共同参画が理解・実践される社会構築」(27.4%)
- 「文化芸術に触れ、教養を高める機会の充実」(30.1%)

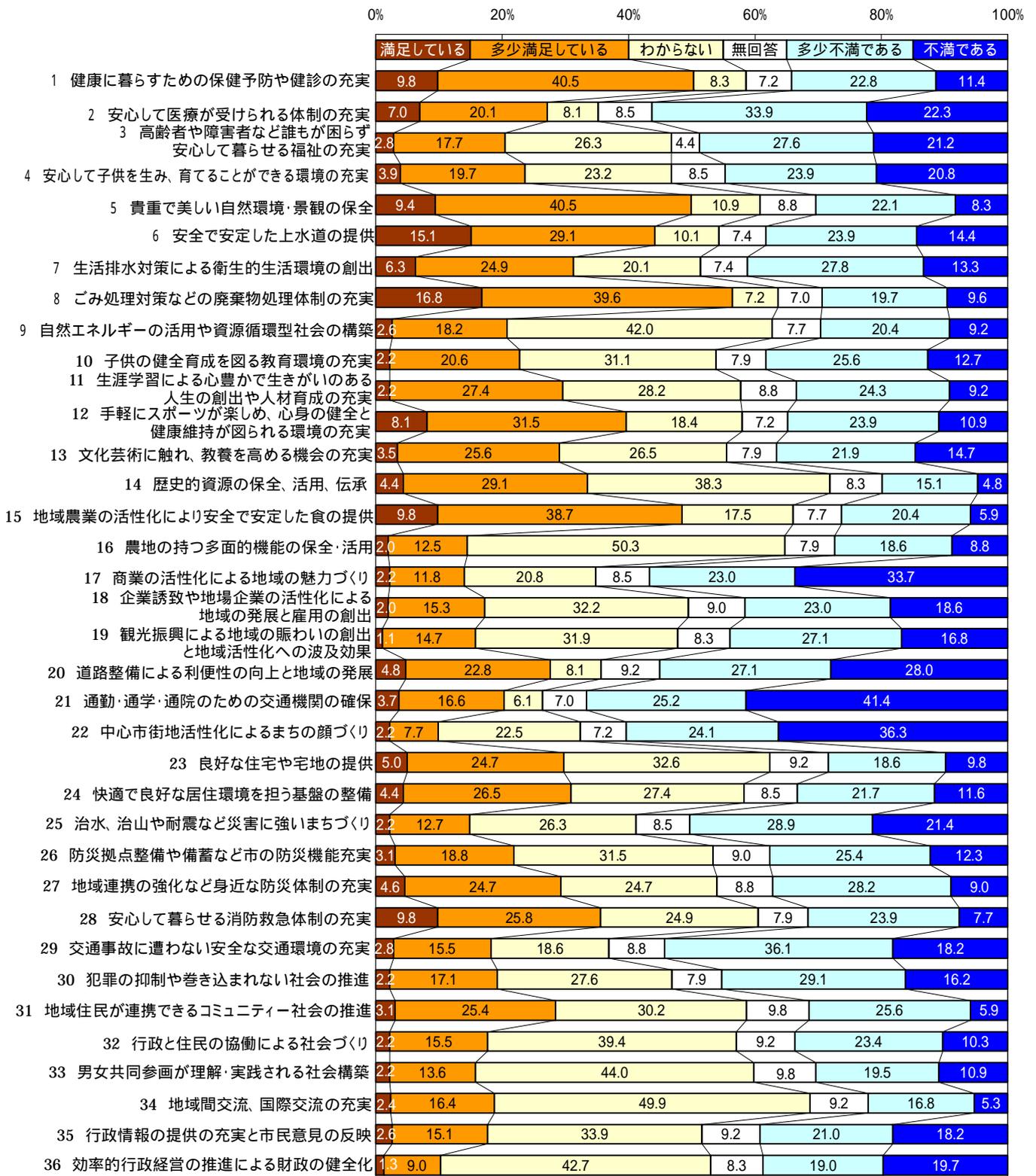
女性

- 「地域間交流、国際交流の充実」(21.8%)
- 「男女共同参画が理解・実践される社会構築」(39.1%)
- 「文化芸術に触れ、教養を高める機会の充実」(45.1%)

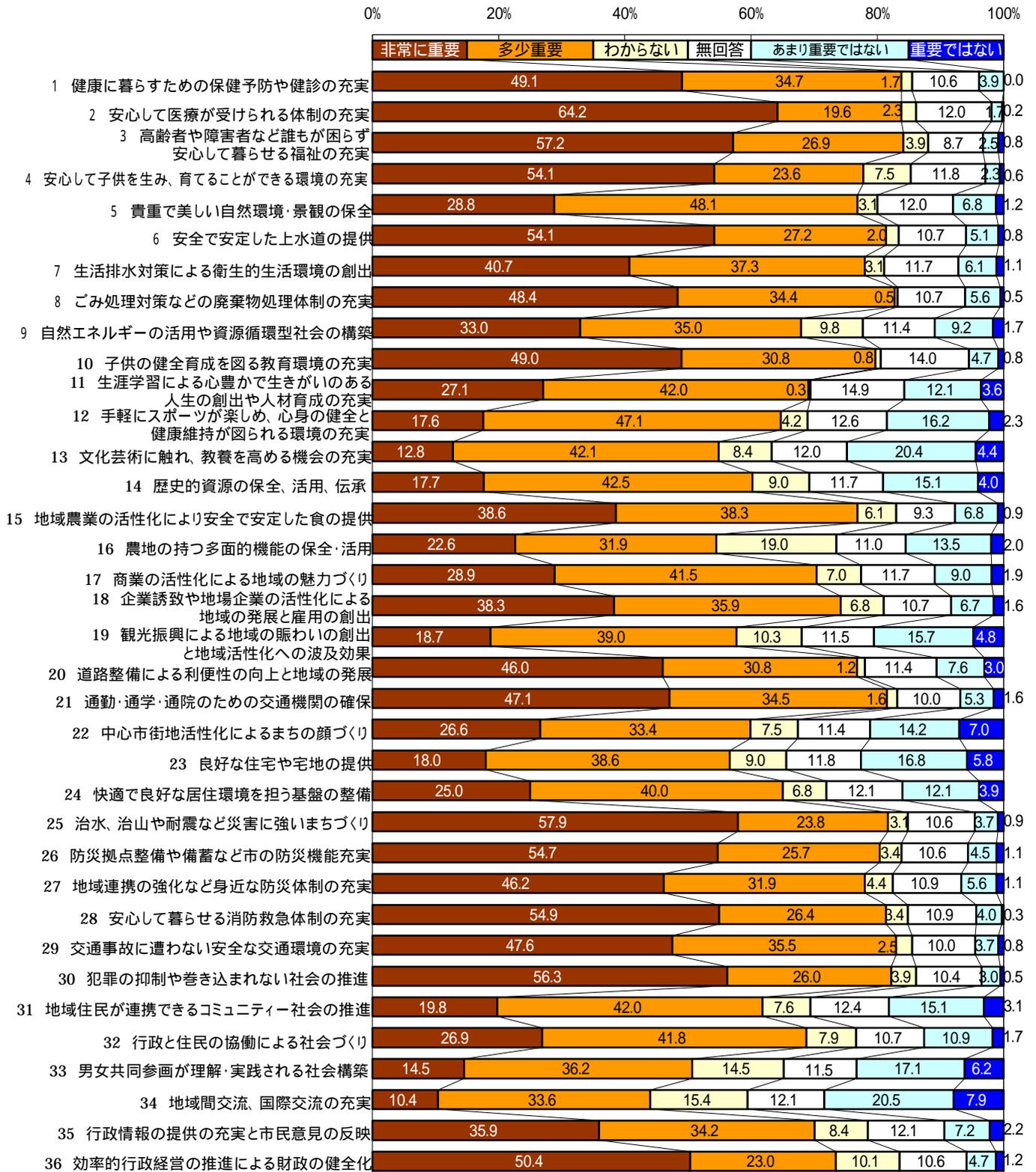
満足度：男性（N=643）



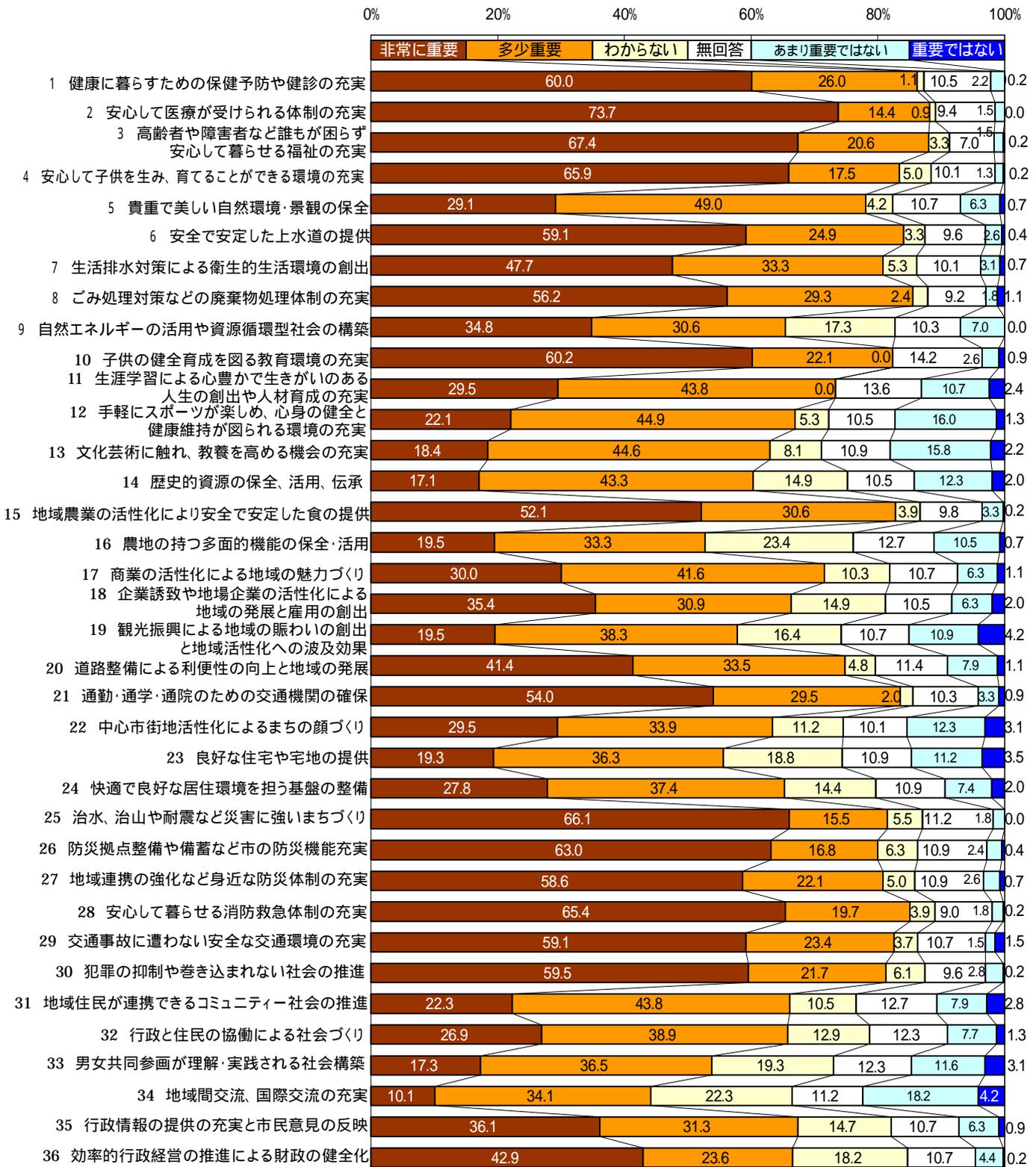
満足度：女性（N=457）



重要度：男性（N=643）



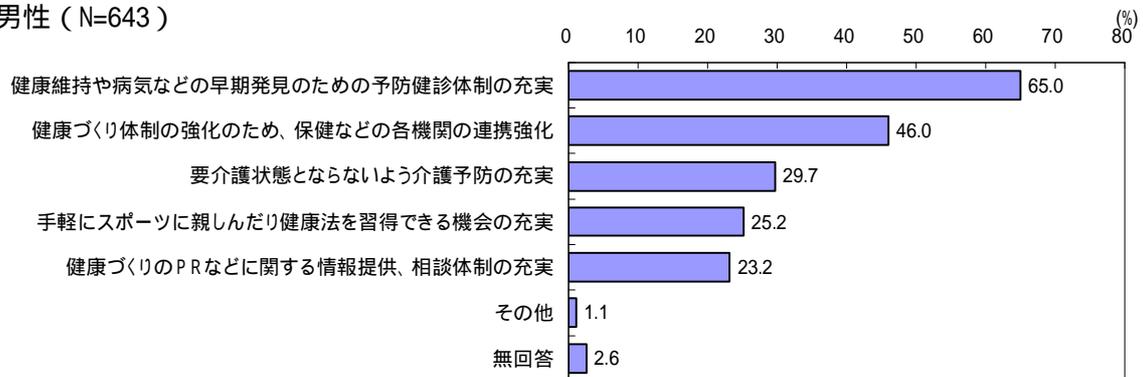
重要度：女性（N=457）



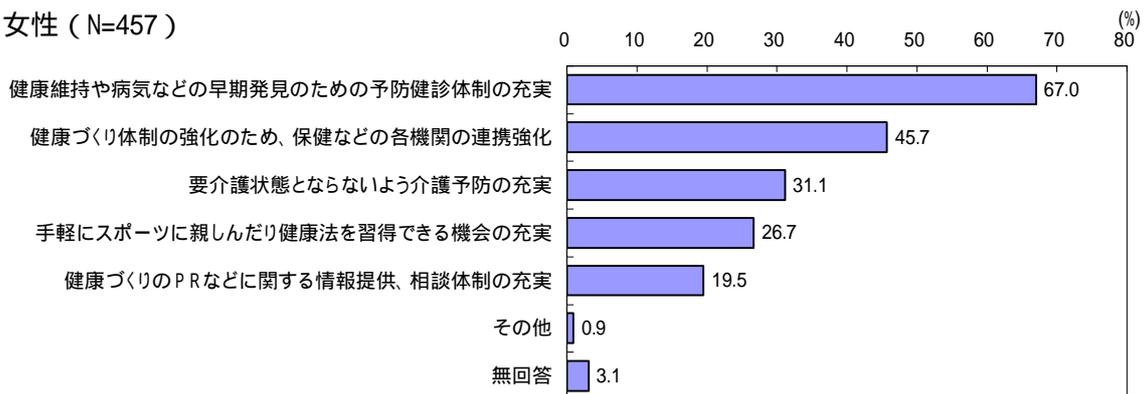
### 6. 健康づくりに関して力を入れるべき点（問9）

健康づくりに関して、どのような点に力を入れるべきか尋ねたところ、男女とも「健康維持や病気などの早期発見のための予防健診体制の充実」(男性 65.0%、女性 67.0%) が最も多く、全回答者の約 3 分の 2 を占めました。

男性（N=643）



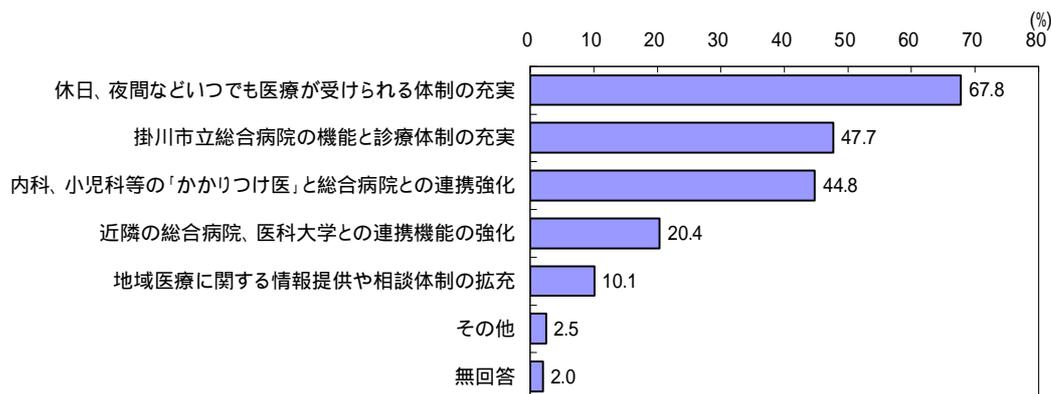
女性（N=457）



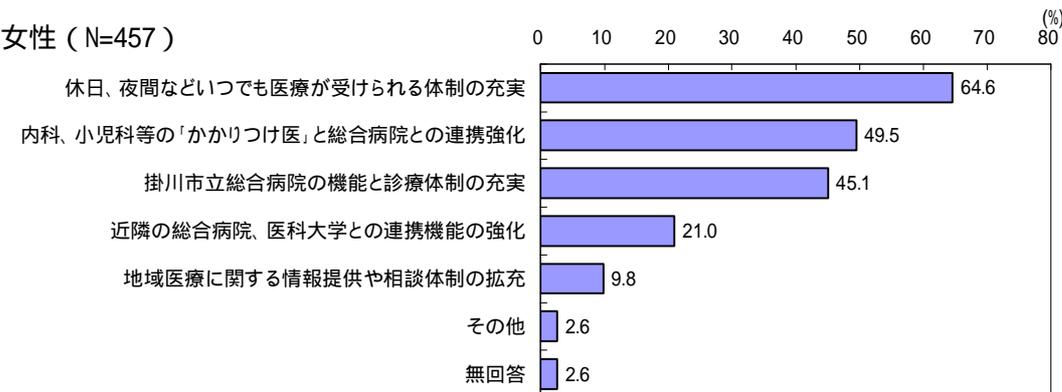
## 7. 地域医療に関して力を入れるべき点（問10）

地域医療に関して、どのような点に力を入れるべきかを尋ねたところ、男女とも「休日、夜間などいつでも医療が受けられる体制の充実」(男性 67.8%、女性 64.6%) がもっとも高く、ついで、男性では「掛川市立総合病院の機能と診療体制の充実」47.7%、女性では「内科、小児科等の『かかりつけ医』と総合病院との連携強化」49.5%となりました。

## 男性（N=643）



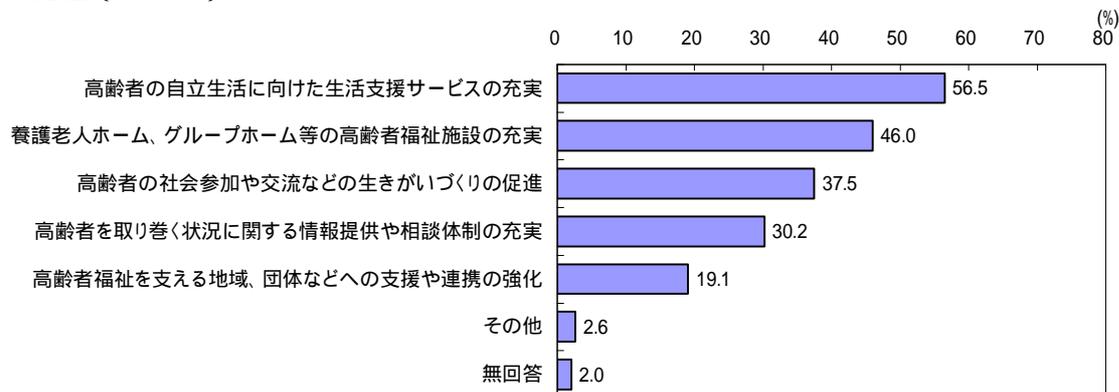
## 女性（N=457）



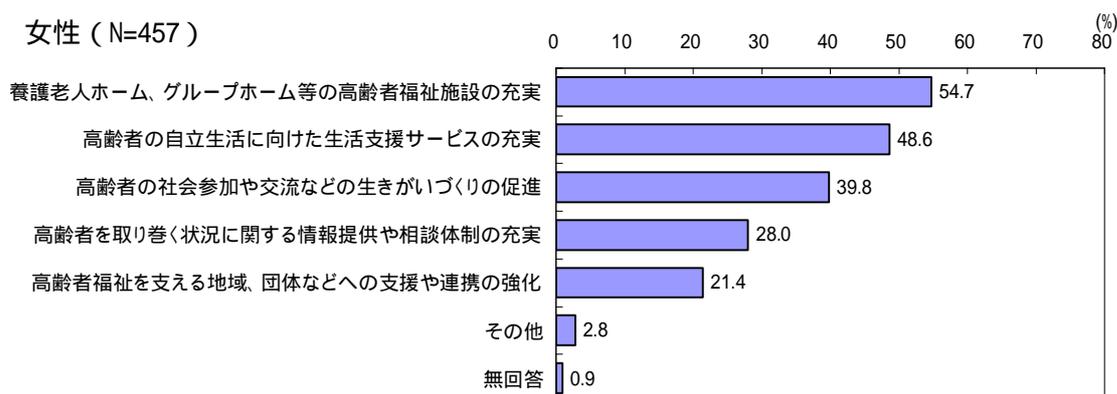
### 8. 高齢者福祉に関して力を入れるべき点（問11）

高齢者福祉に関してどのような点に力を入れるべきかを尋ねたところ、男性では「高齢者の自立生活に向けた生活支援サービスの充実」56.5%、女性では「養護老人ホーム、グループホーム等高齢者福祉施設の充実」54.7%が最も回答割合が高くなりました。

男性（N= 643）

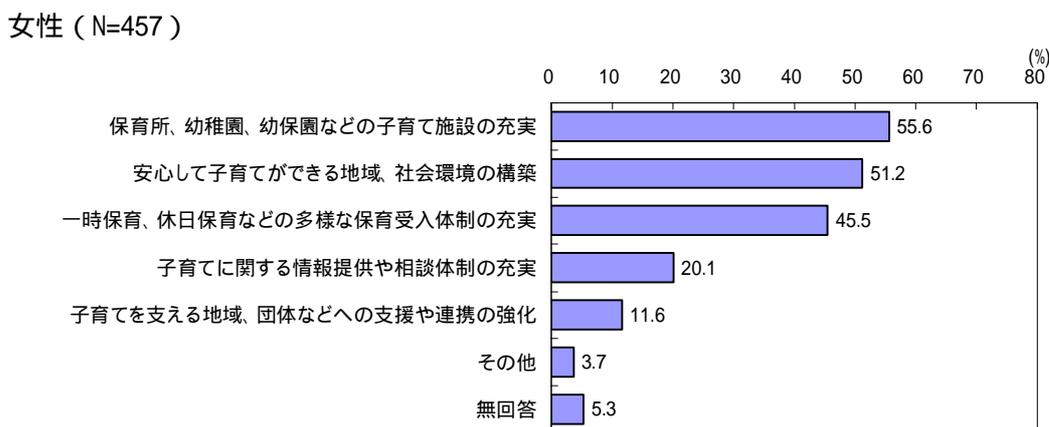
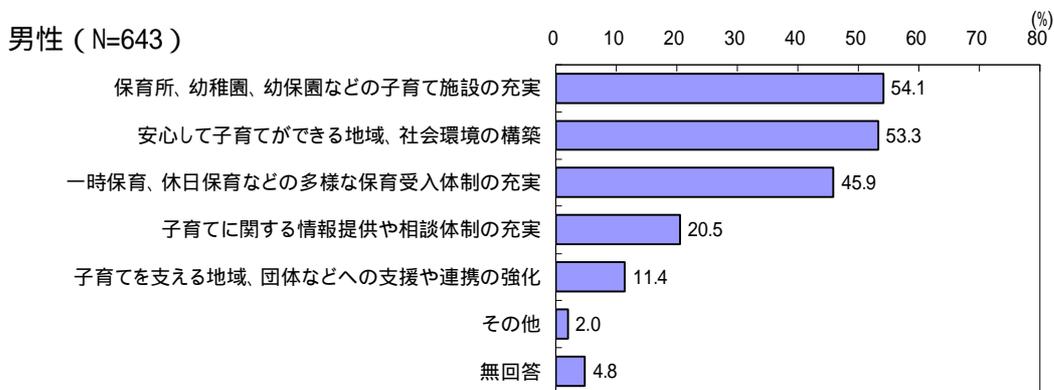


女性（N=457）



## 9. 子育て支援に関して力を入れるべき点（問12）

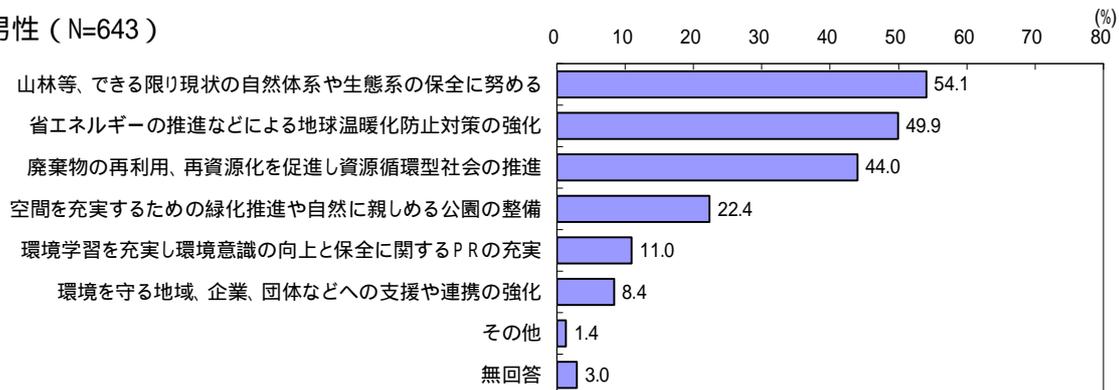
子育て支援に関して、どのような点に力を入れるべきかを尋ねたところ、男女とも「保育所、幼稚園、幼保園などの子育て施設の充実」（男性 54.1%、女性 55.6%）が最も回答割合が高いなど、性別間の回答傾向に大きな差は見られませんでした。



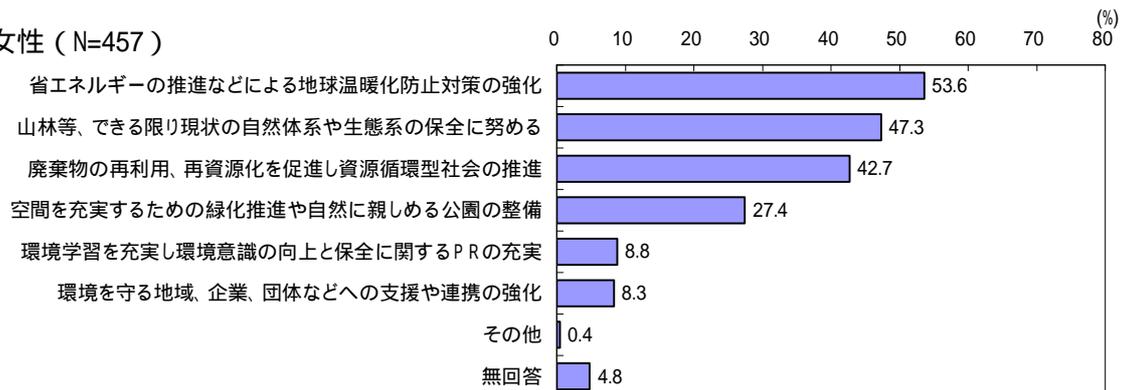
## 10. 地球・自然環境の保全に関して力を入れるべき点（問13）

地球・自然環境の保全に関して、どのような点に力を入れるべきかを尋ねたところ、男性では「山林等、できる限り現状の自然体系や生態系の保全に努める」54.1%、女性では「省エネルギーの推進などによる地球温暖化防止対策の強化」53.6%の回答割合が最も高くなりました。

男性（N=643）



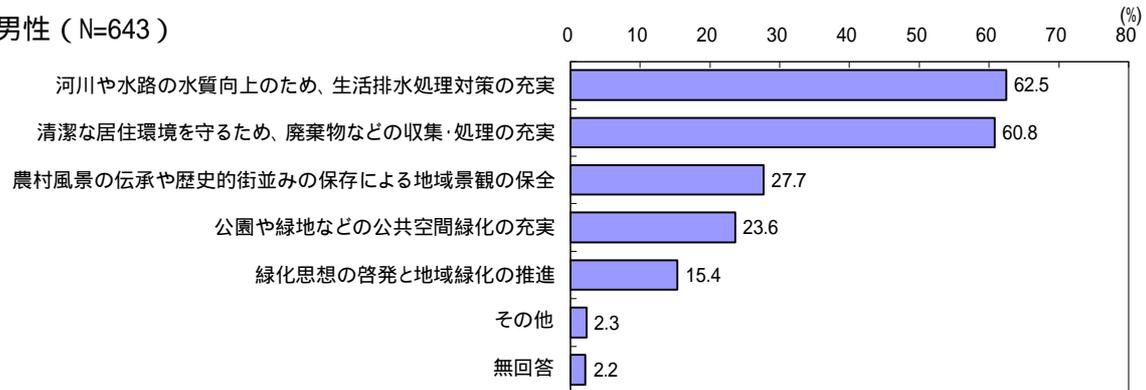
女性（N=457）



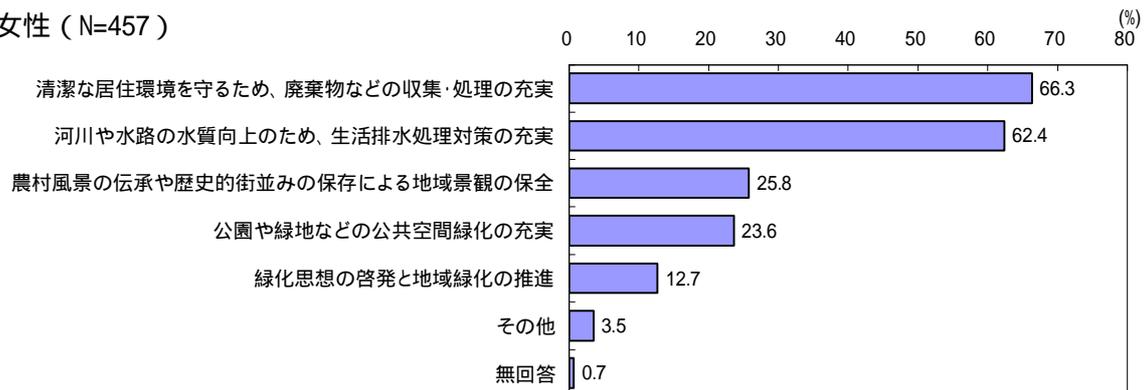
1.1. 快適な居住環境に関して力を入れるべき点（問14）

快適な居住環境に関して、どのような点に力を入れるべきかを尋ねたところ、男女とも「清潔な居住環境を守るため、廃棄物などの収集・処理の充実」（男性60.8%、女性66.3%）、「河川や水路の水質向上のため、生活排水処理対策の充実」（男性62.5%、女性62.4%）が、他の項目を大きく上回る高い回答割合を示しました。

男性（N=643）

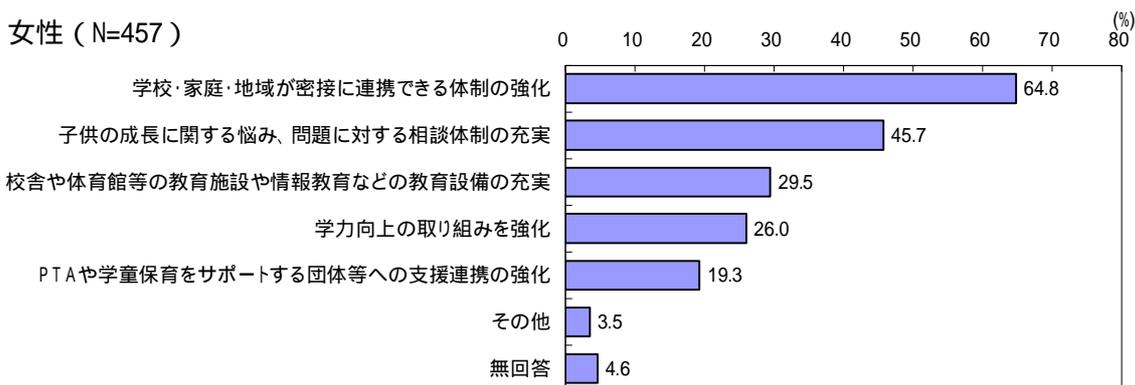
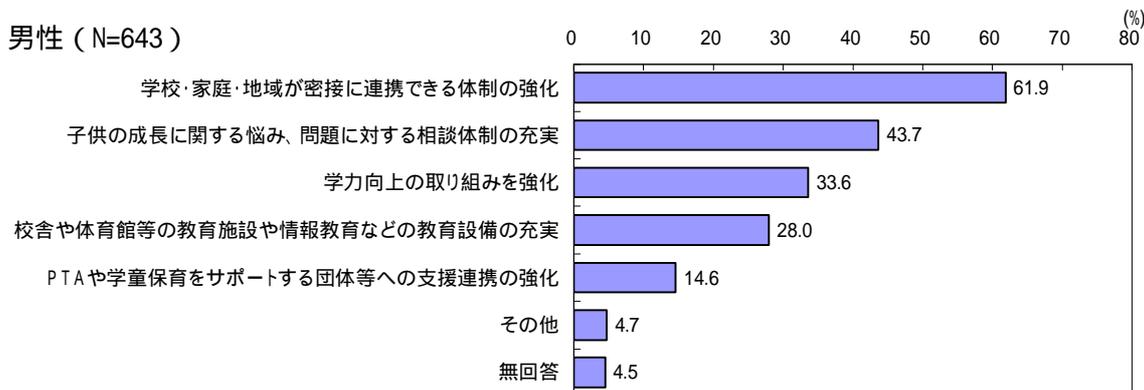


女性（N=457）



## 12. 子供の健全な成長に関して力を入れるべき点（問15）

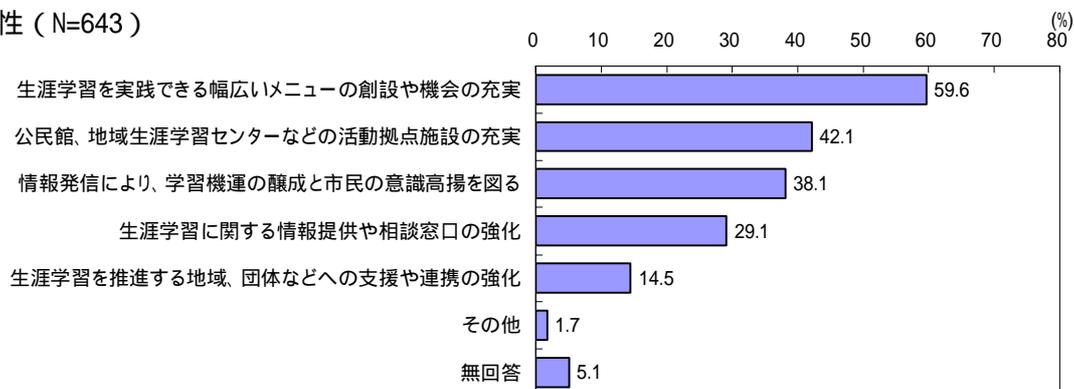
子供の健全な成長に関して、どのような点に力を入れるべきかを尋ねたところ、男女とも「学校・家庭・地域が密接に連携できる体制の強化」（男性61.9%、女性64.8%）が最も回答割合が高くなりました。また、男性は女性と比較して「学力向上の取り組みを強化」（男性33.6%、女性26.0%）への期待が高いことがうかがえました。



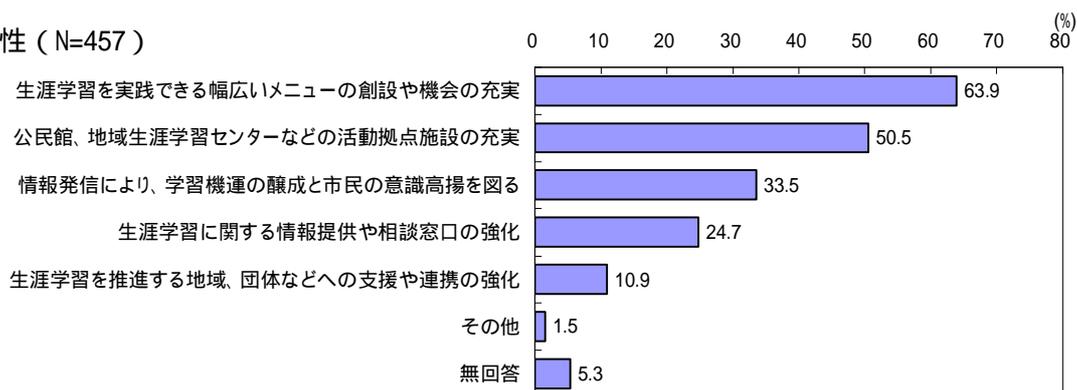
## 1.3. 生涯学習の推進に関して力を入れるべき点（問16）

生涯学習の推進に関して、どのような点に力を入れるべきか尋ねたところ、男女とも「生涯学習を實踐できる幅広いメニューの創設や機会の充実」（男性 59.6%、女性 63.9%）が6割前後の高い回答割合を示すなど、性別間の回答傾向に大きな差は見られませんでした。

## 男性（N=643）



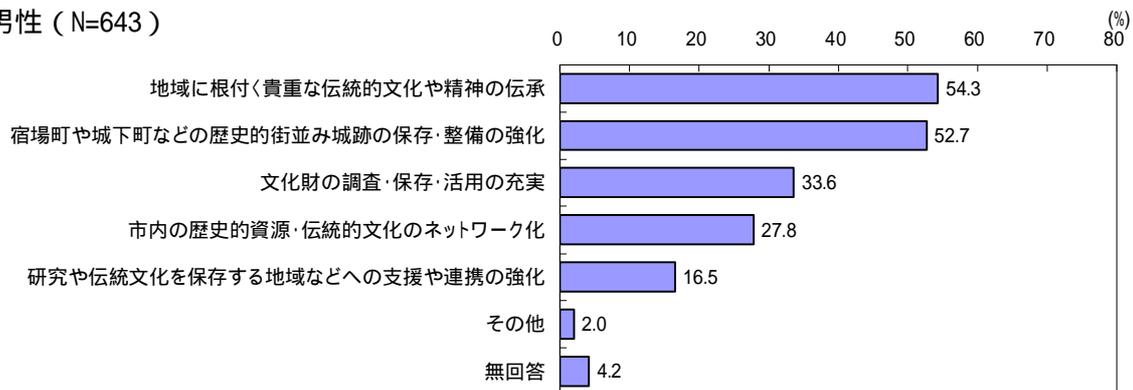
## 女性（N=457）



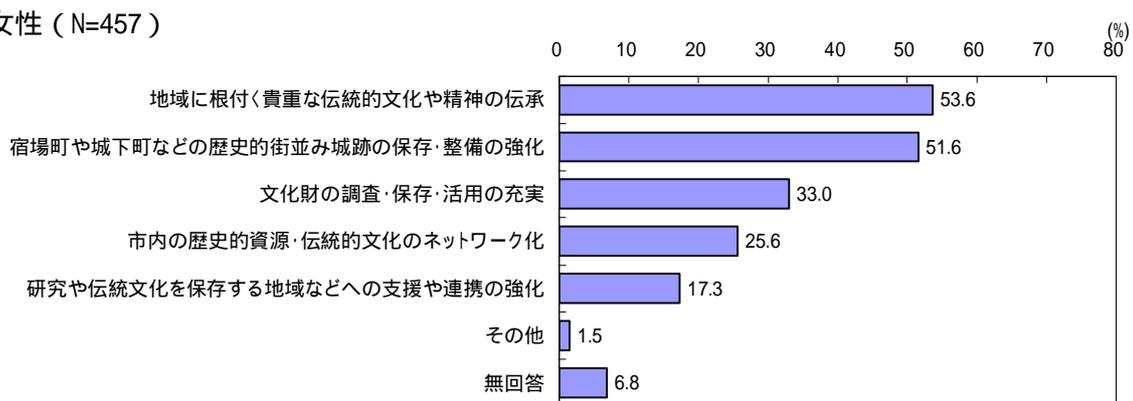
## 1 4 歴史的資源や伝統文化の保全再生活用に関して力を入れるべき点(問17)

歴史的資源や伝統文化の保全、再生、活用に関して、どのような点に力を入れるべきか尋ねたところ、男女とも「地域に根づく貴重な伝統的文化や精神の伝承」(男性 54.3%、女性 53.6%)と「宿場町や城下町などの歴史的街並み城跡の保存・整備の強化」(男性 52.7%、女性 51.6%)が、他の項目を大きく上回る高い回答割合となりました。

男性 (N=643)



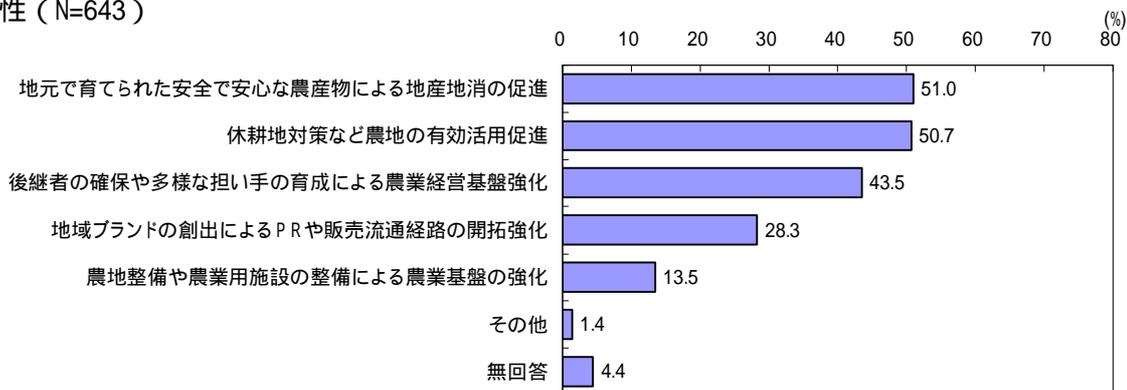
女性 (N=457)



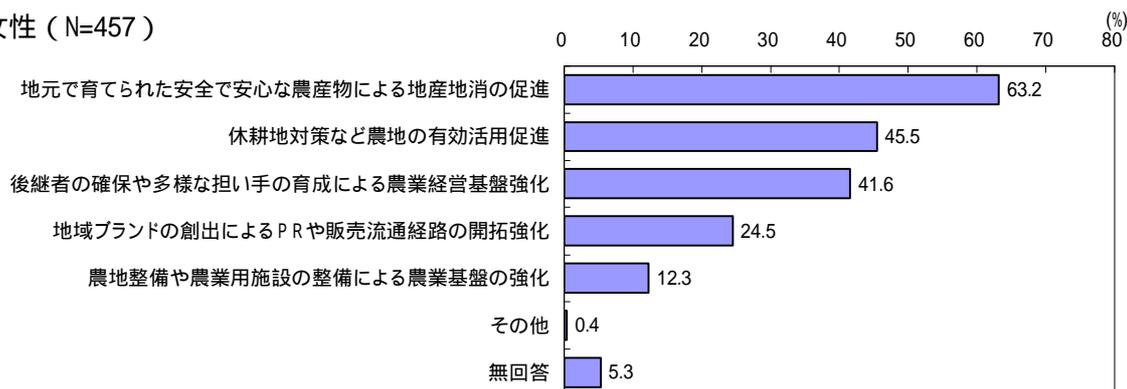
## 15. 農業に関して力を入れるべき点（問18）

農業に関して、どのような点に力を入れるべきか尋ねたところ、男女とも「地元で育てられた安全で安心な農産物による地産地消の促進」（男性 51.0%、女性 63.2%）が最も回答割合が高くなりましたが、特に女性の関心が高いことがうかがえました。

## 男性（N=643）



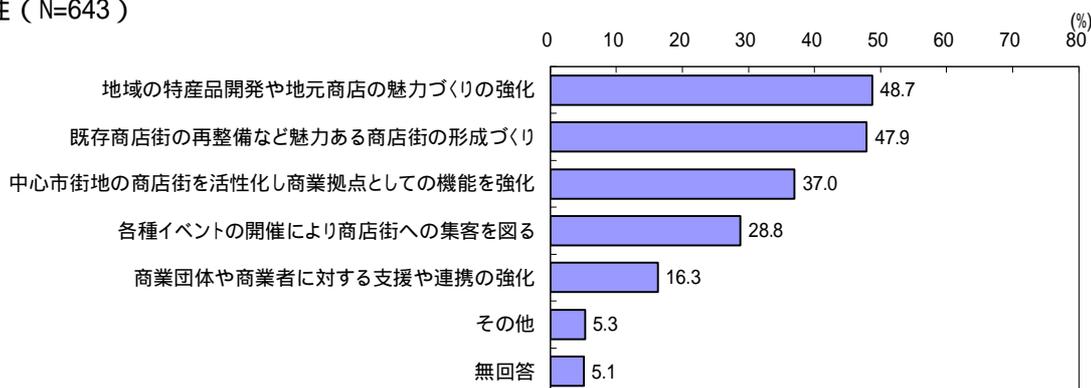
## 女性（N=457）



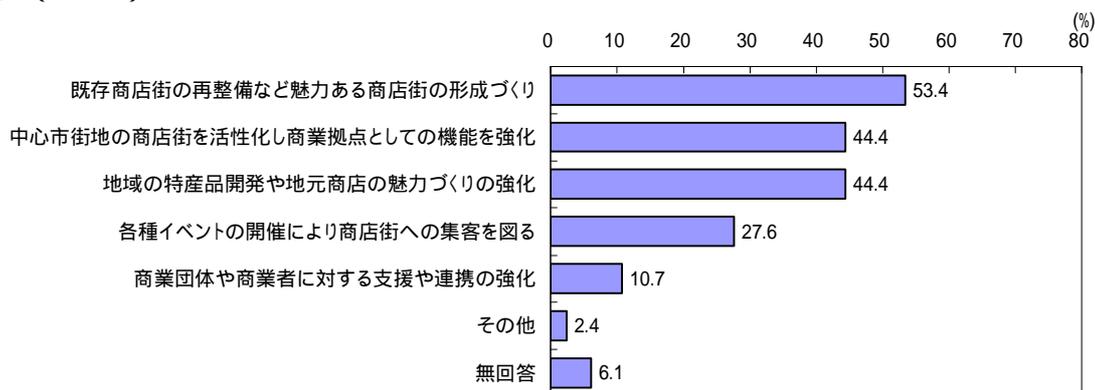
## 16. 商業に関して力を入れるべき点（問19）

商業に関して、どのような点に力を入れるべきかを尋ねたところ、女性の方が「既存商店街の再整備など魅力ある商店街の形成づくり」（男性 47.9%、女性 53.4%）や「中心市街地の商店街を活性化し商業拠点としての機能を強化」（男性 37.0%、女性 44.4%）の回答割合が高く、買い物環境への関心の高さがうかがえました。

## 男性（N=643）



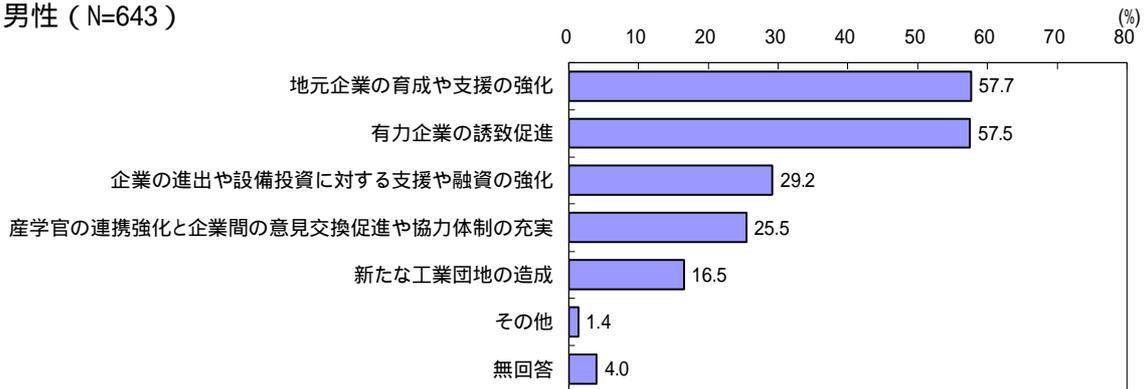
## 女性（N=457）



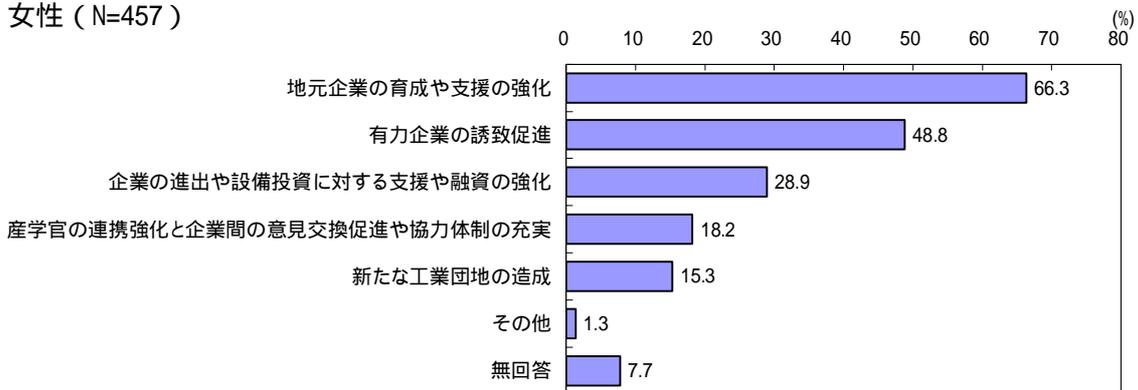
## 17. 工業に関して力を入れるべき点（問20）

工業に関して、どのような点に力を入れるべきか尋ねたところ、男女とも「地元企業の育成や支援の強化」（男性 57.7%、女性 66.3%）と「有力企業の誘致促進」（男性 57.5%、女性 48.8%）が、他の項目を大きく上回る高い回答割合となりましたが、男性では「有力企業の誘致促進」、女性では「地元企業の育成や支援の強化」への期待が高いことがうかがえました。

## 男性（N=643）



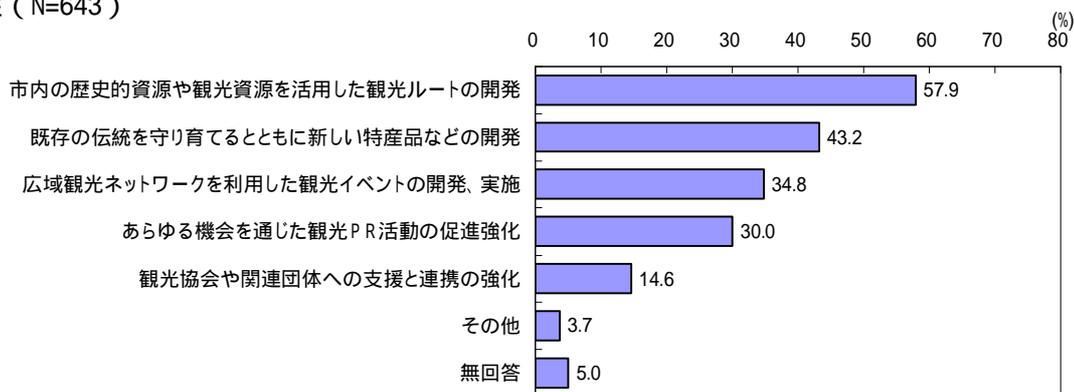
## 女性（N=457）



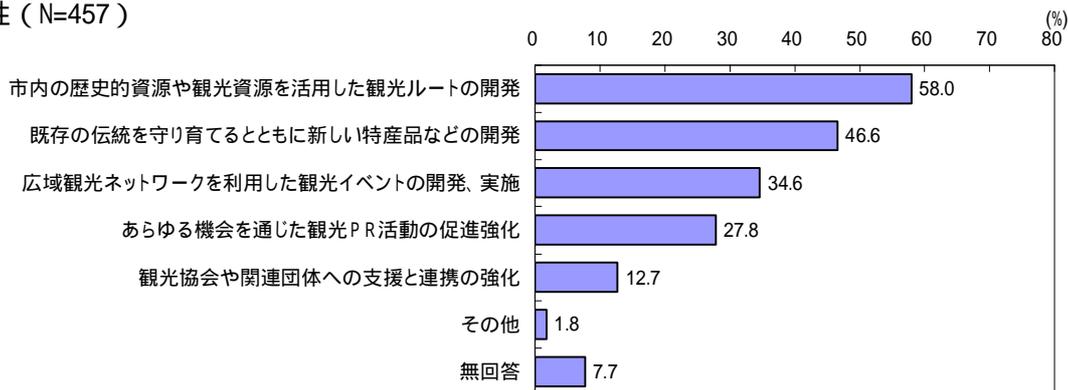
## 18. 観光に関して力を入れるべき点（問21）

観光に関して、どのような点に力を入れるべきか尋ねたところ、男女とも「市内の歴史的資源や観光資源を活用した観光ルートの開発」（男性 57.9%、女性 58.0%）の回答割合が最も高くなるなど、性別間の回答傾向に大きな差は見られませんでした。

## 男性（N=643）



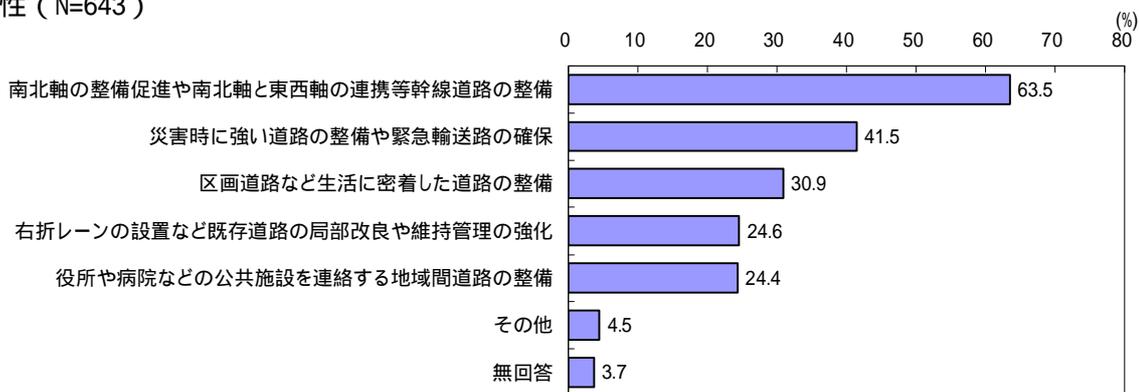
## 女性（N=457）



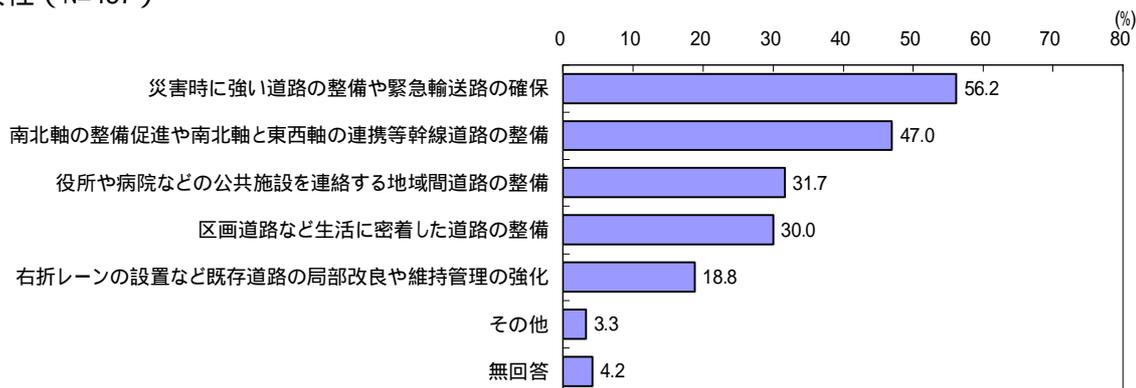
## 19. 道路に関して力を入れるべき点（問22）

道路に関して、どのような点に力を入れるべきか尋ねたところ、男性では「南北軸の整備促進や南北軸と東西軸の連携等幹線道路の整備」63.5%、女性では「災害時に強い道路の整備や緊急輸送路の確保」56.2%が最も高い回答割合となりました。

## 男性（N=643）



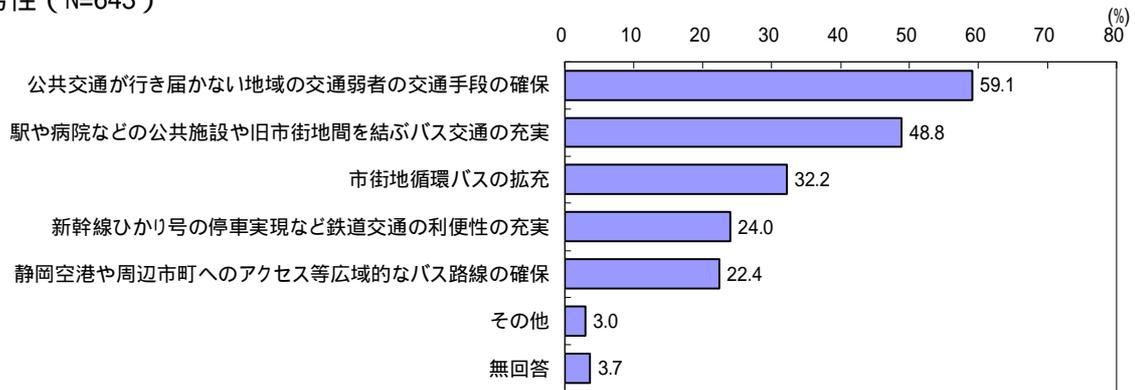
## 女性（N=457）



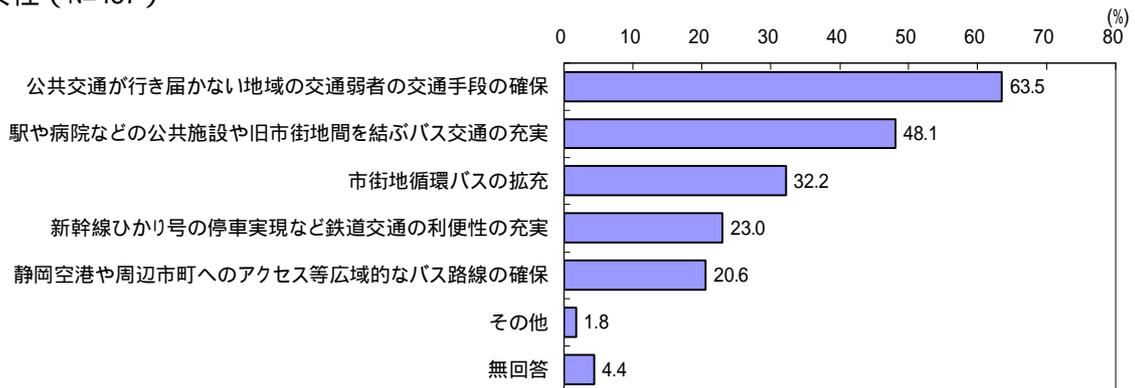
## 20. 地域公共交通に関して力を入れるべき点（問23）

地域公共交通に関して、どのような点に力を入れるべきか尋ねたところ、男女とも「公共交通が行き届かない地域の交通弱者の交通手段の確保」(男性 59.1%、女性 63.5%)が高い回答割合を示すなど、市内の公共交通網整備への期待が高いことがうかがえました。

### 男性（N=643）



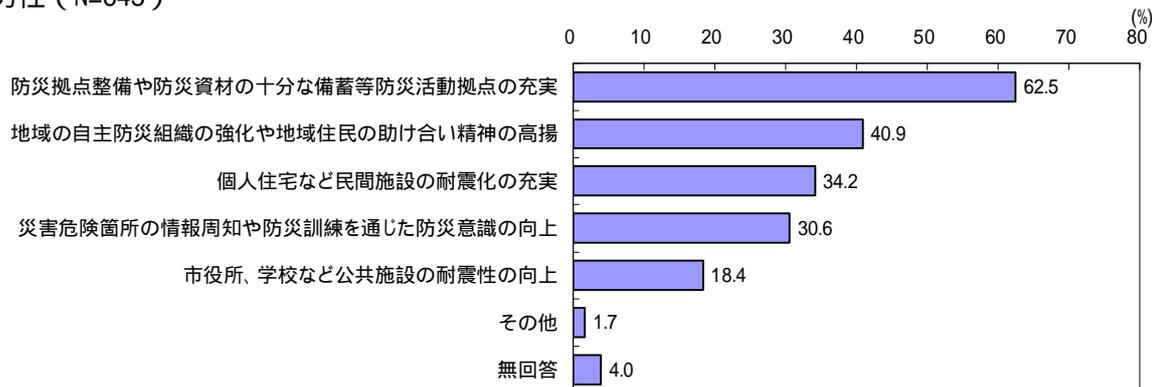
### 女性（N=457）



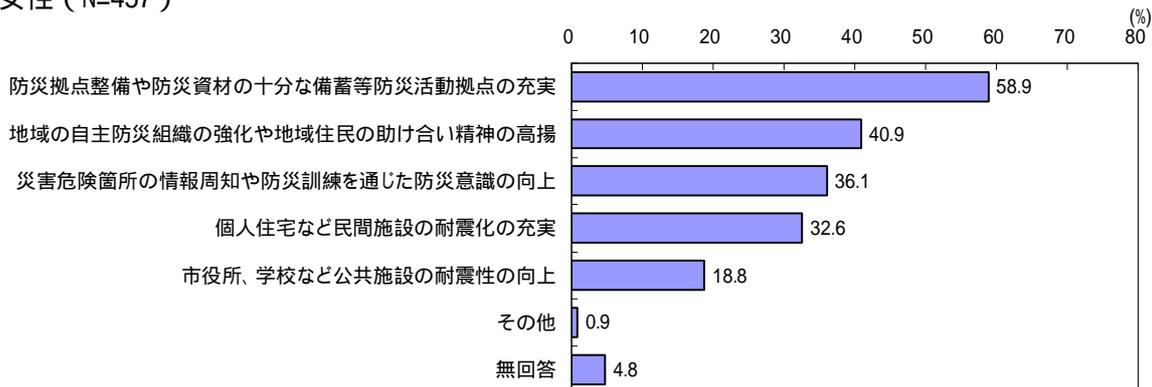
## 2.1. 防災体制に関して力を入れるべき点（問2.4）

防災体制に関して、どのような点に力を入れるべきか尋ねたところ、男女とも「防災拠点整備や防災資材の十分な備蓄等防災活動拠点の充実」(男性62.5%、女性58.9%)が、他の項目を大きく上回る高い回答割合となりました。

## 男性（N=643）



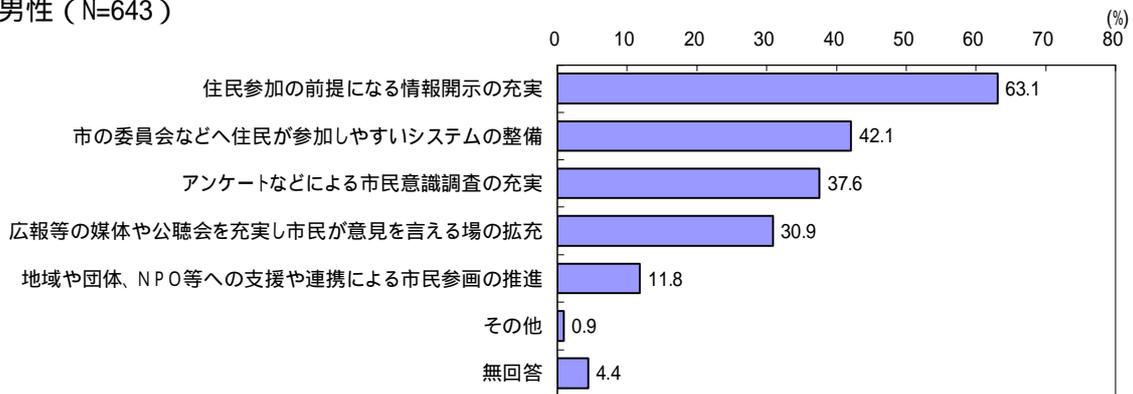
## 女性（N=457）



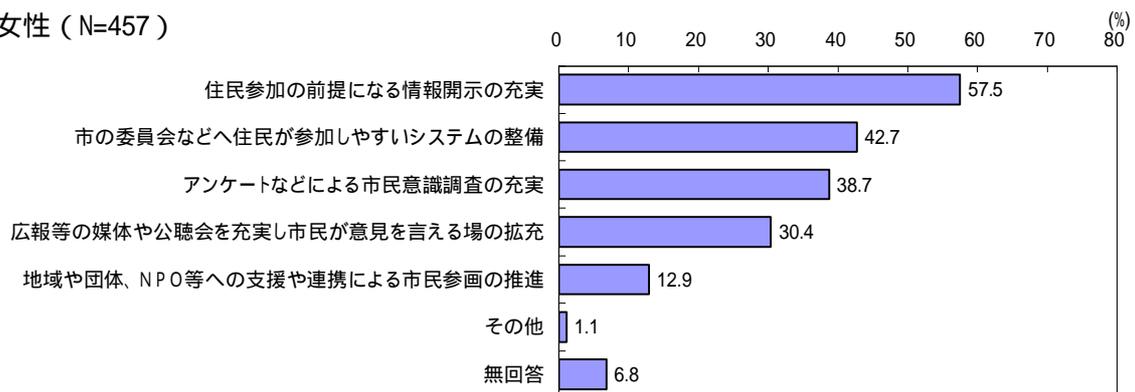
## 2.2. 住民参画に関して力を入れるべき点（問25）

住民参画に関して、どのような点に力を入れるべきか尋ねたところ、男女とも「住民参加の前提となる情報開示の充実（男性 63.1%、女性 57.5%）が最も高い回答割合を示すなど、性別間の回答傾向に大きな差は見られませんでした。

## 男性（N=643）



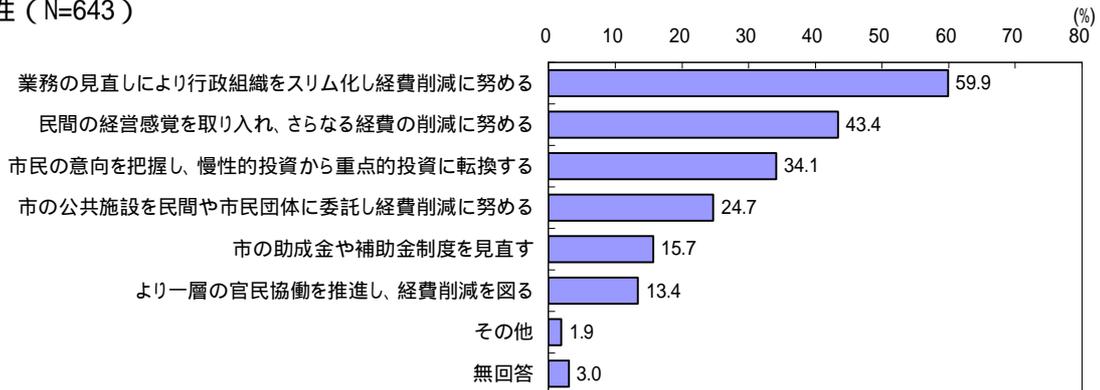
## 女性（N=457）



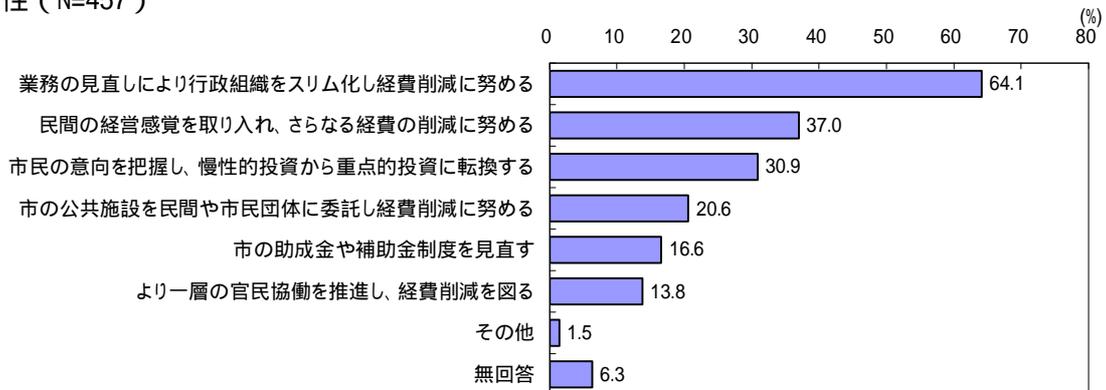
## 2.3. 行財政改革に関して力を入れるべき点（問26）

行財政に改革に関して、どのような点に力を入れるべきか尋ねたところ、男女とも「業務の見直しにより行政組織をスリム化し経費削減に努める」（男性 59.9%、女性 64.1%）と「民間の経営感覚を取り入れ、さらなる経費の削減に努める」（男性 43.4%、女性 37.0%）が上位を占めましたが、性別間の比較では、女性では組織のスリム化、男性では民間の経営感覚の導入への期待が比較的高いことがうかがえました。

## 男性（N=643）



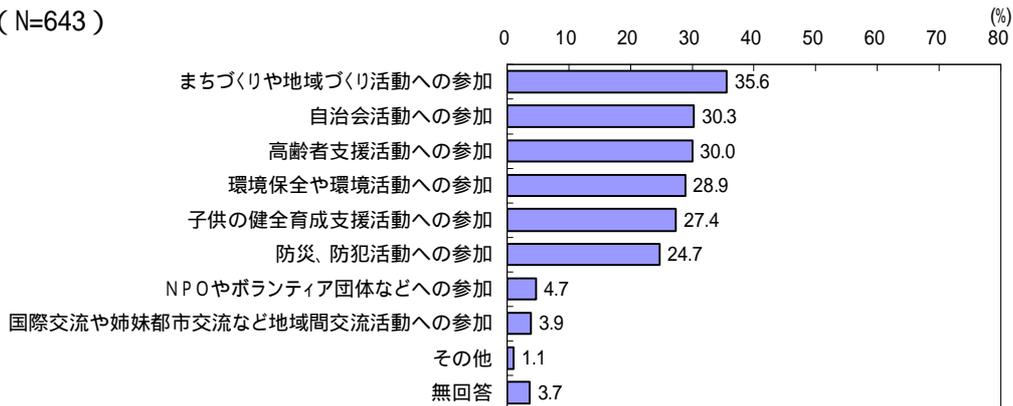
## 女性（N=457）



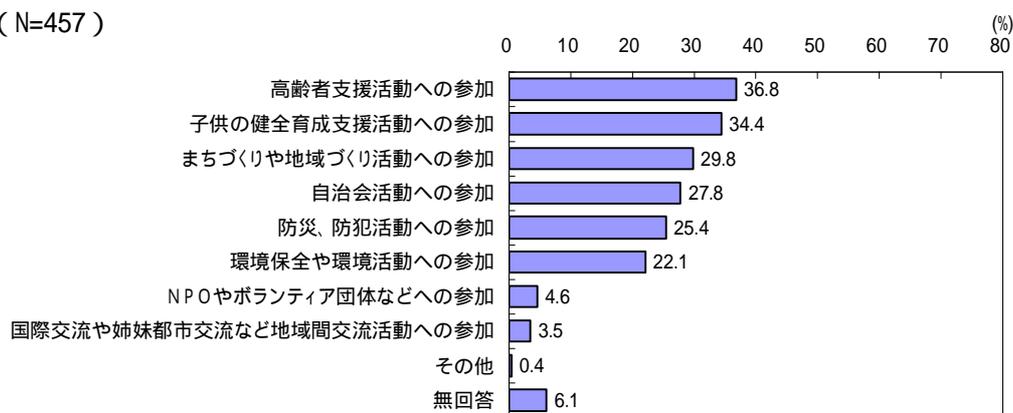
## 2.4. 地域の自治・自立に必要な官民協働に関する活動（問27）

地域の自治・自立に必要な官民協働に関して、どのような活動への参加が重要であるか尋ねたところ、男性では、「まちづくりや地域づくり活動への参加」35.6%、「自治会活動への参加」30.3%といった総合的活動に対する回答割合が高かったのに対し、女性では、「高齢者支援活動への参加」36.8%、「子供の健全育成支援活動への参加」34.4%など、テーマを絞った活動を重要視する傾向がうかがえました。

男性（N=643）



女性（N=457）

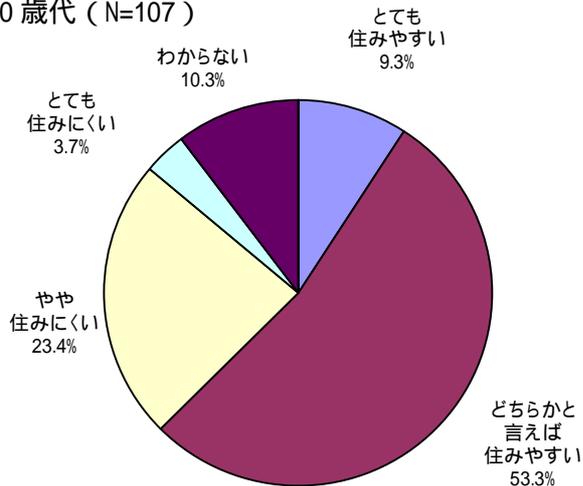


## 第5章 年齢別クロス集計結果

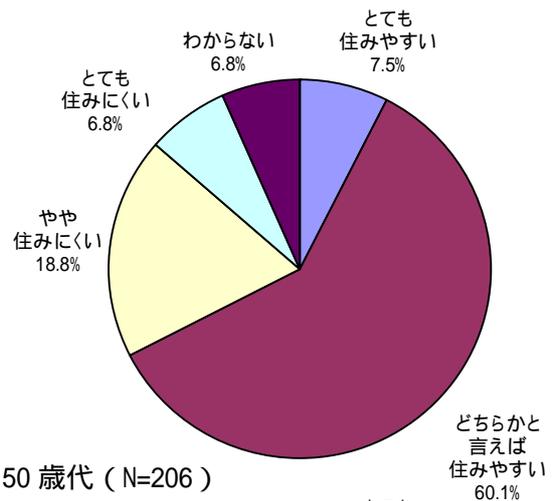
### 1. 住みやすさ（問4）

掛川市の住みやすさを尋ねたところ、「とても住みやすい」と「どちらかと言えば住みやすい」を合わせた回答割合は、各年齢層で約3分の2に達しました。

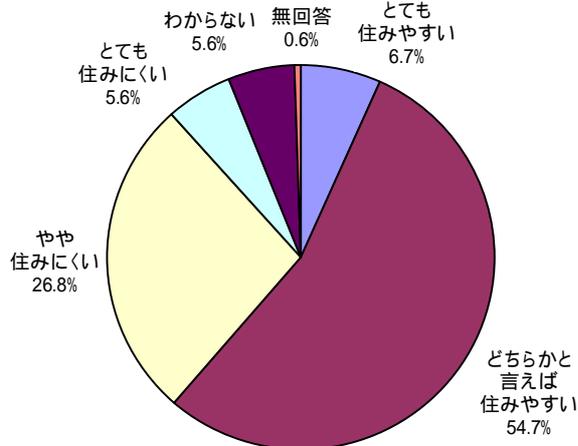
20 歳代 (N=107)



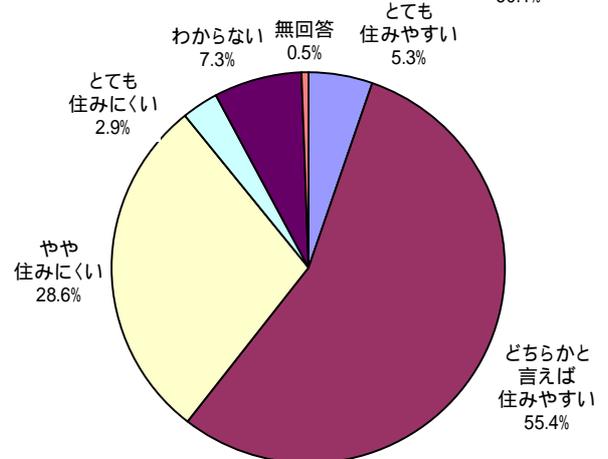
30 歳代 (N=133)



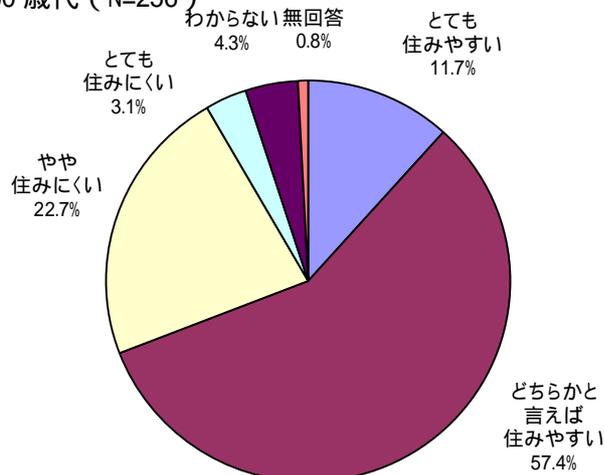
40 歳代 (N=179)



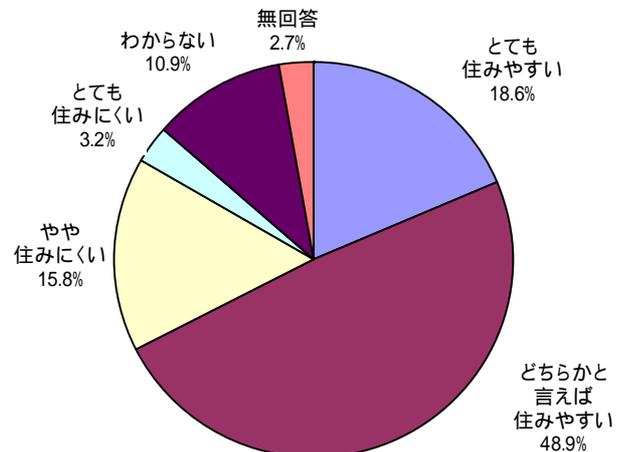
50 歳代 (N=206)



60 歳代 (N=256)

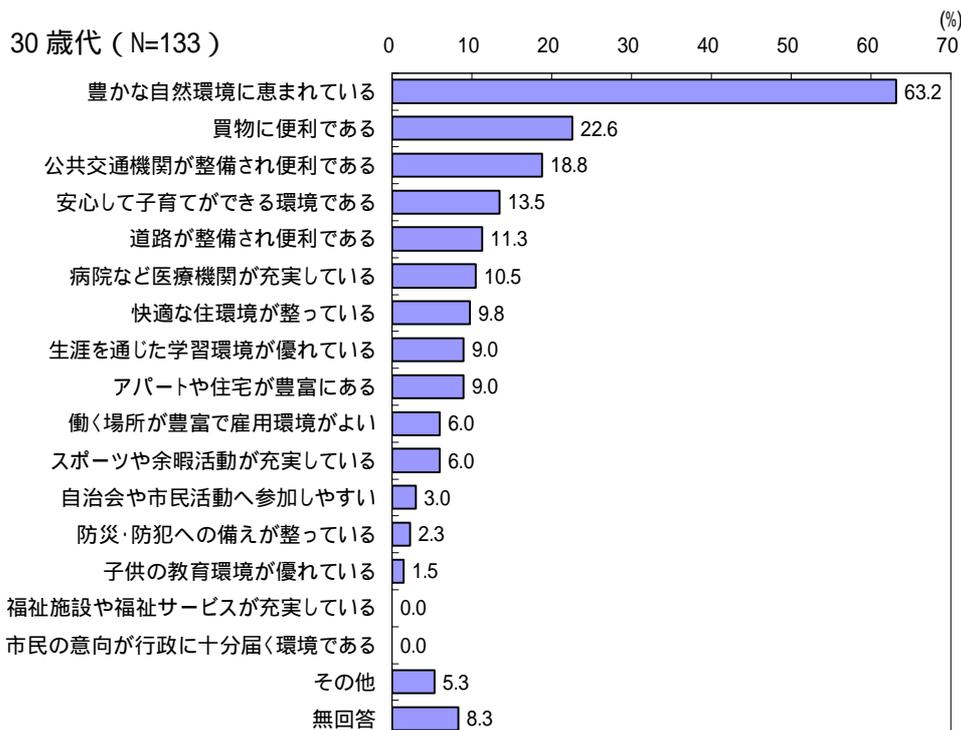
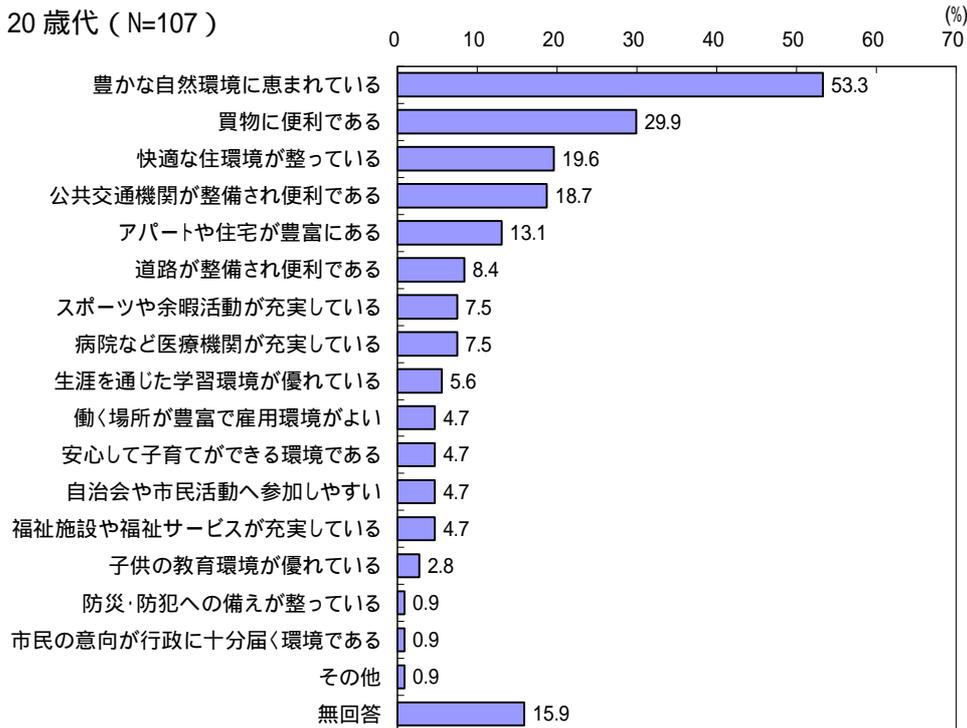


70 歳以上 (N=221)

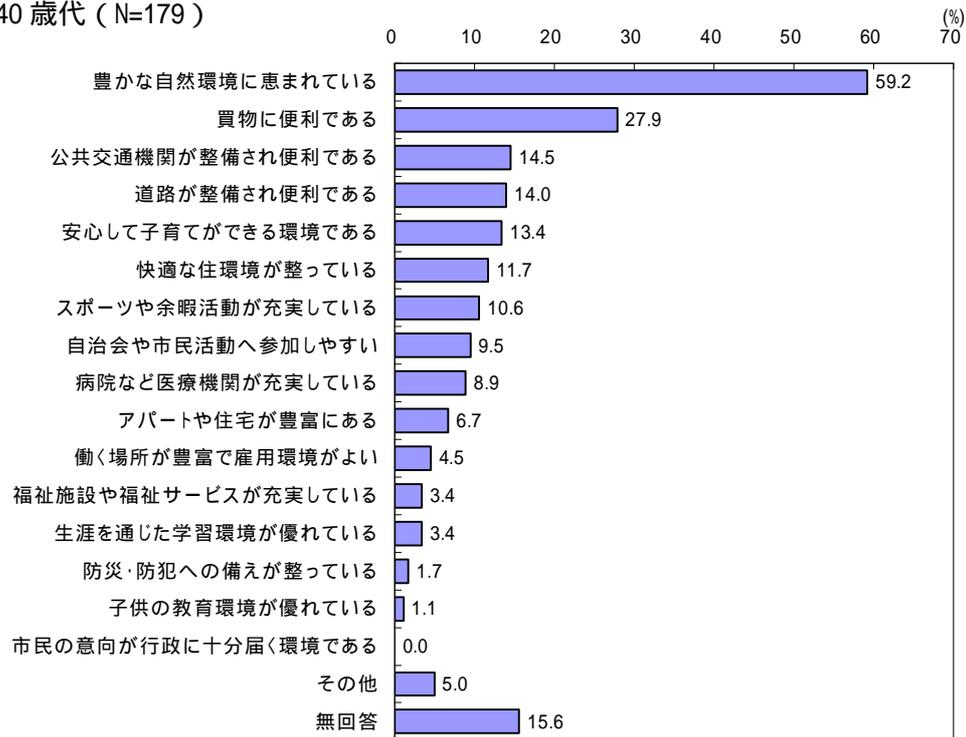


## 2. 住みやすいと感じる点（問5）

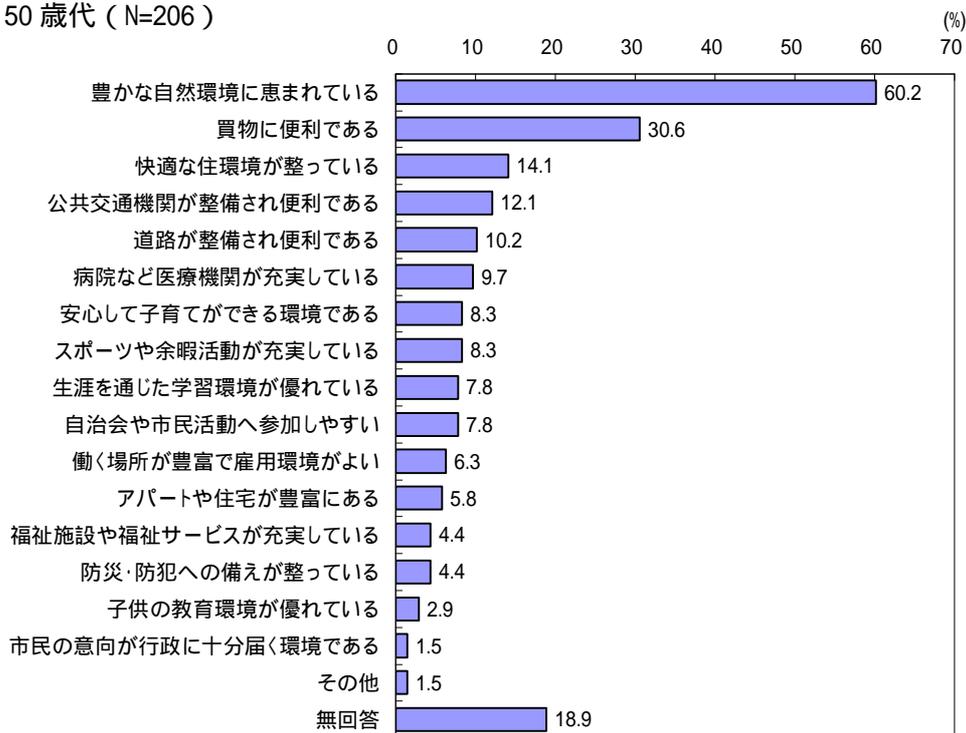
掛川市が住みやすいと感じる点を尋ねたところ、全ての年齢層で「豊かな自然環境に恵まれている」が、他の項目を大きく上回る割合になり、自然環境が大きな利点であることがうかがえました。続いて、「買い物に便利である」が「20歳代」から「60歳代」の各年齢層で高い割合になりましたが、「70歳以上」では、「病院など医療機関が充実している」の割合が高くなりました。



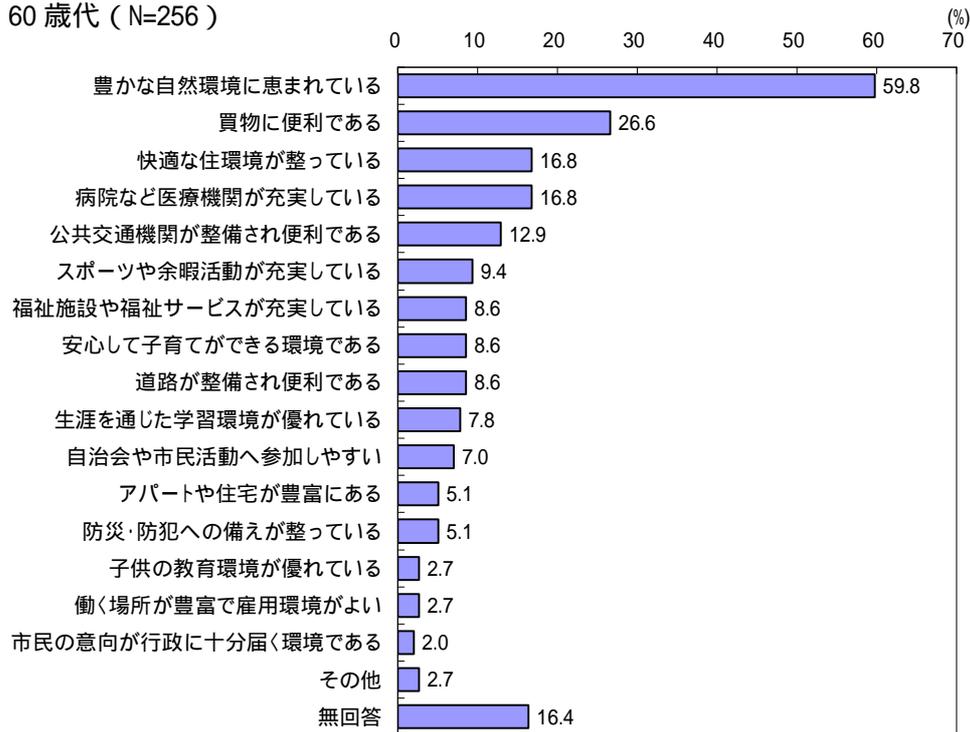
40 歳代 (N=179)



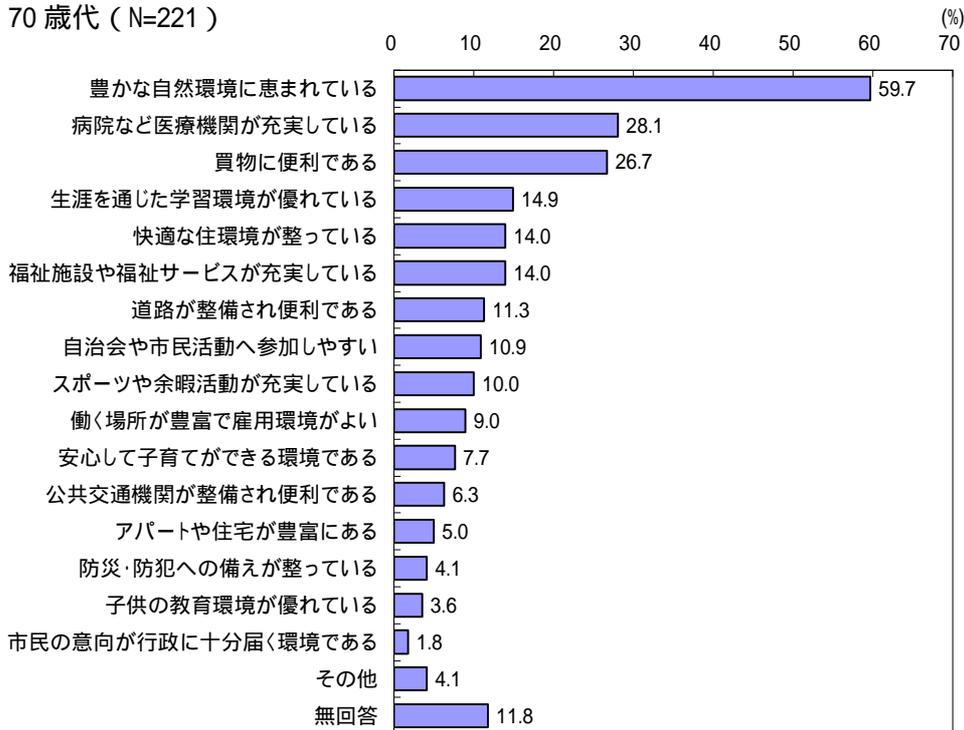
50 歳代 (N=206)



60 歳代 (N=256)

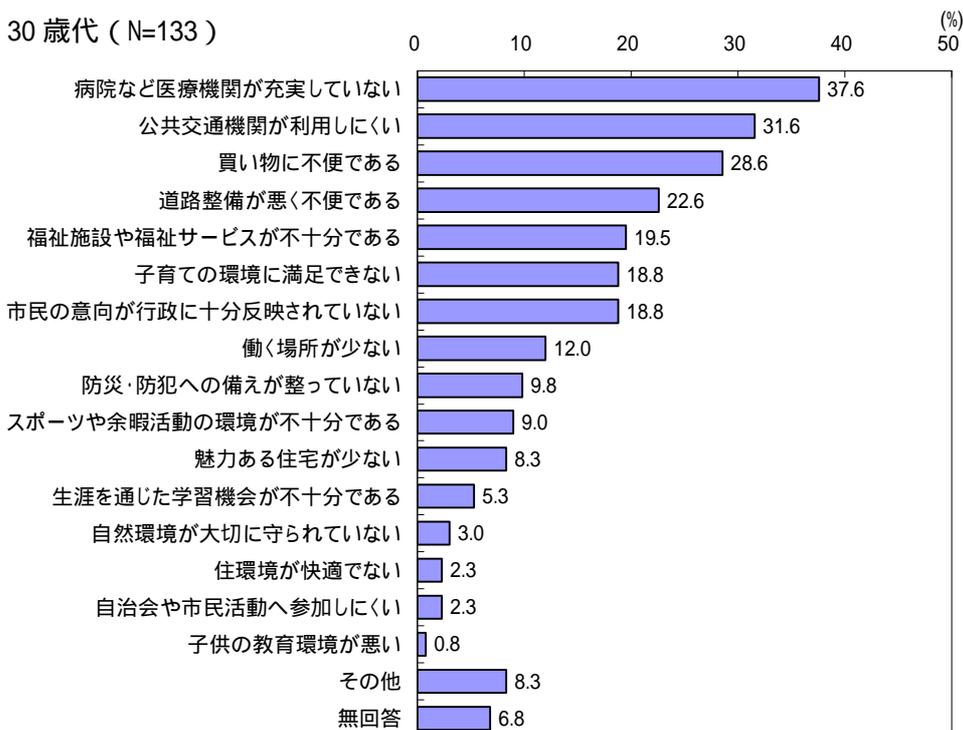
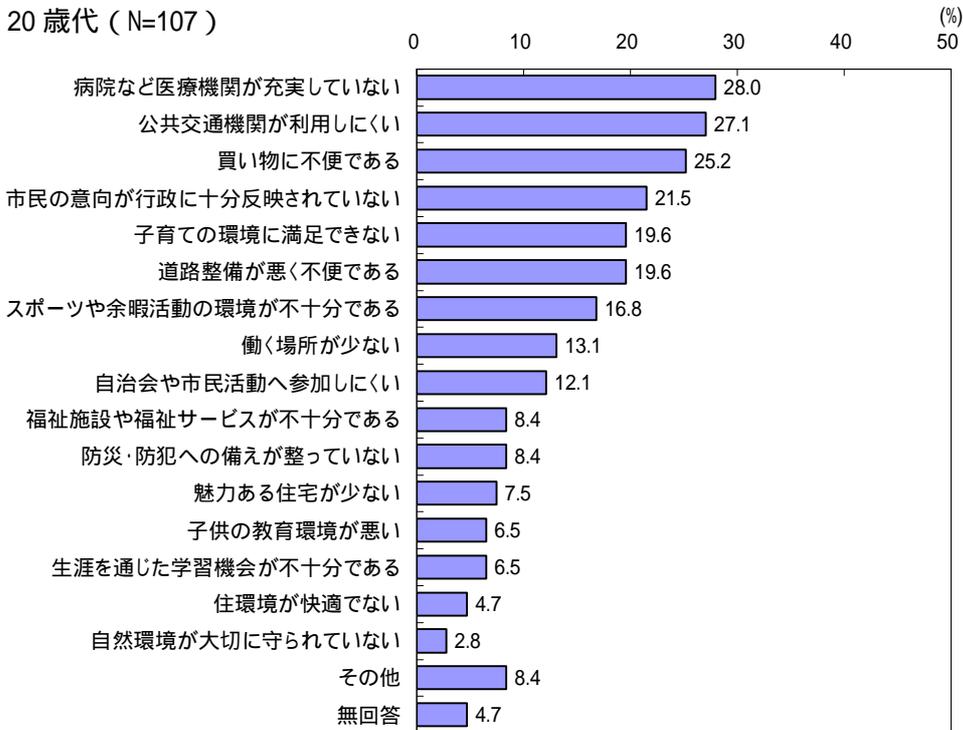


70 歳代 (N=221)

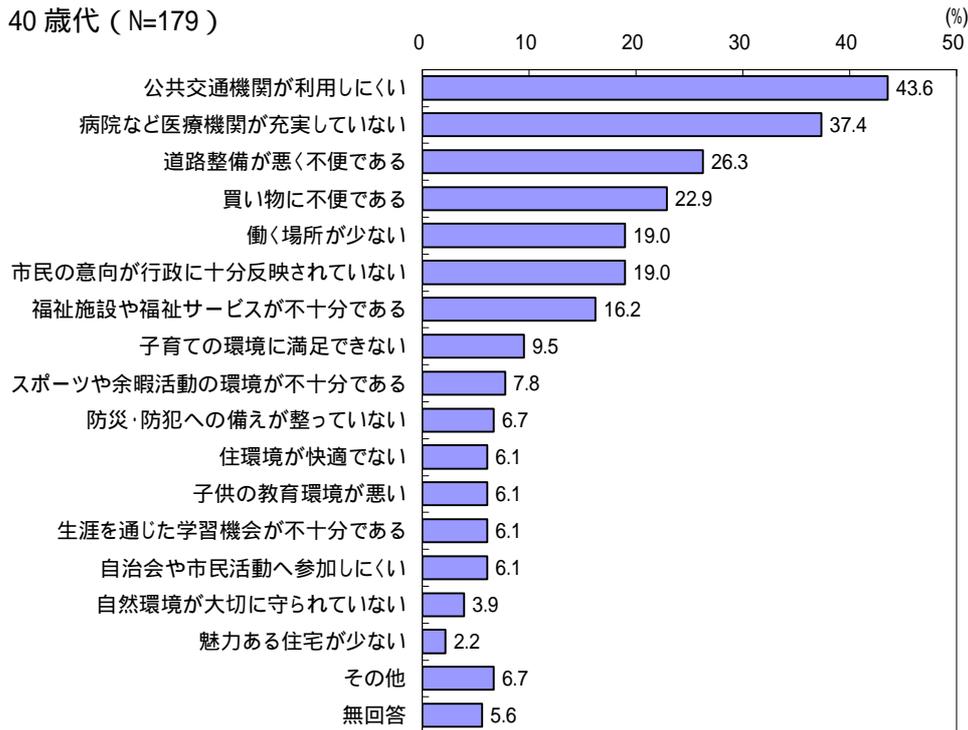


### 3. 住みにくいと感ずる点（問6）

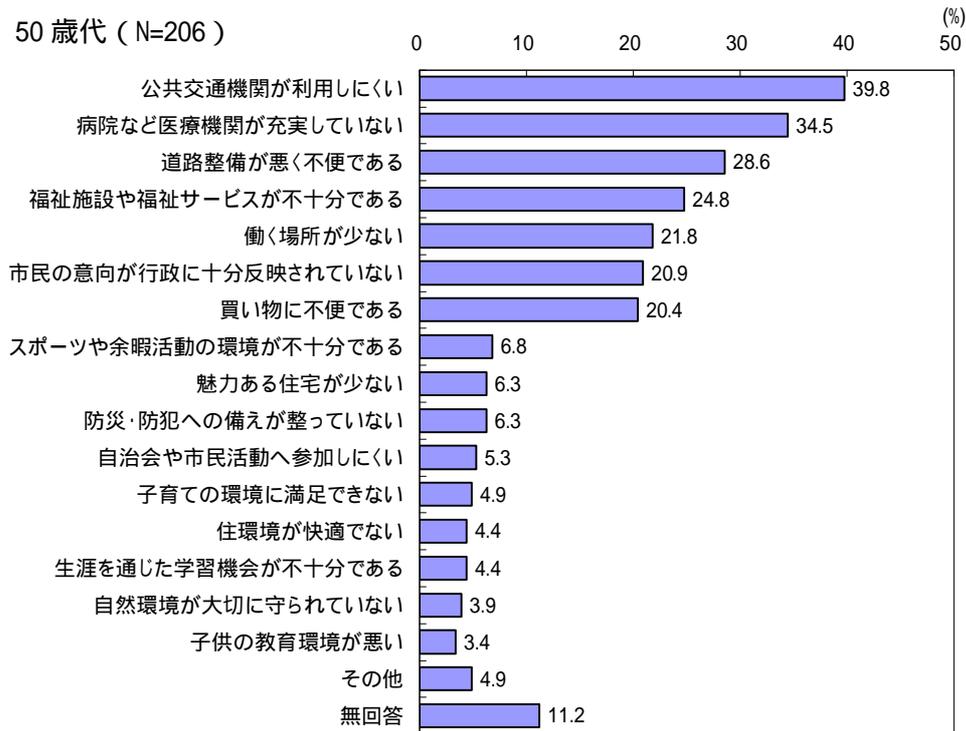
掛川市が住みにくいと感ずる点を尋ねたところ、「20歳代」「30歳代」では「病院など医療機関が充実していない」、「40歳代」「50歳代」では「公共交通機関が利用しにくい」、「60歳代」「70歳以上」では「道路整備が悪く不便である」が最も高い割合となりました。



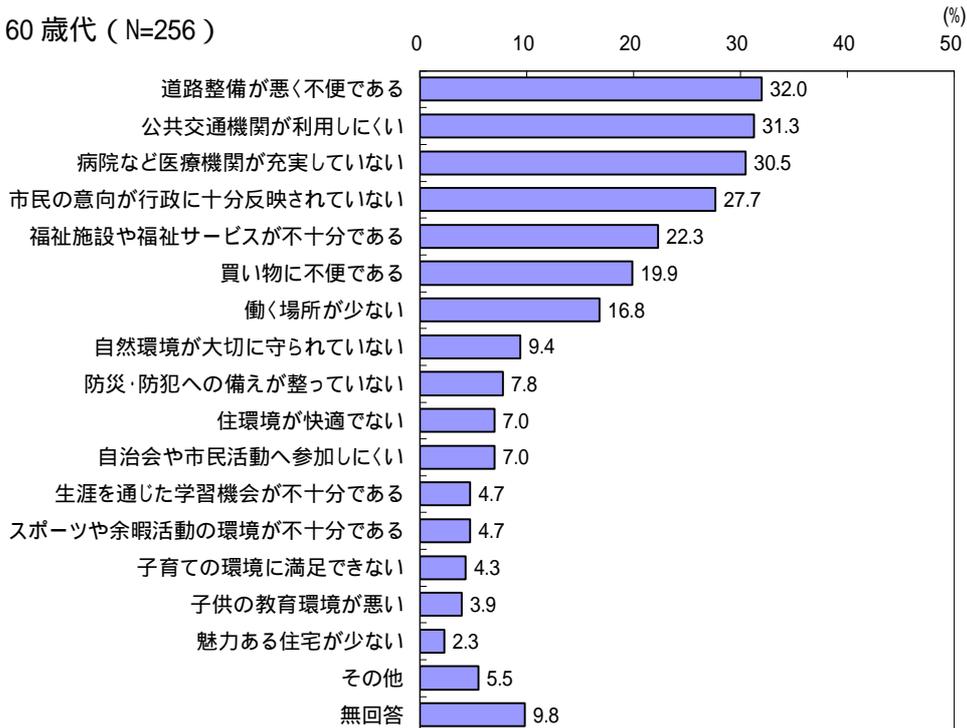
40 歳代 (N=179)



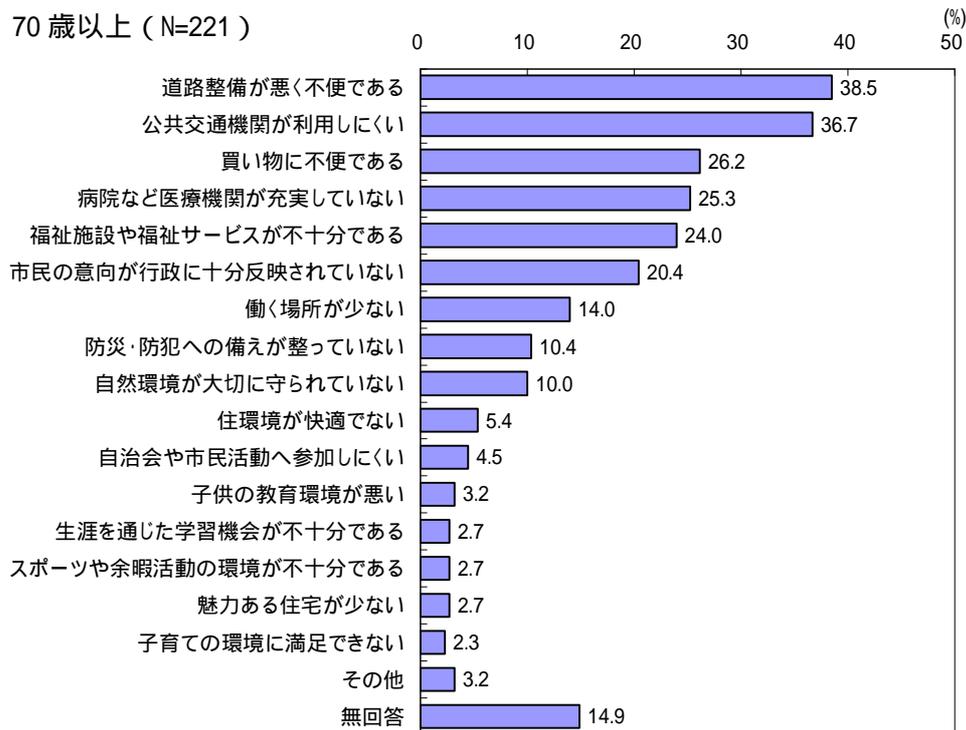
50 歳代 (N=206)



60 歳代 (N=256)

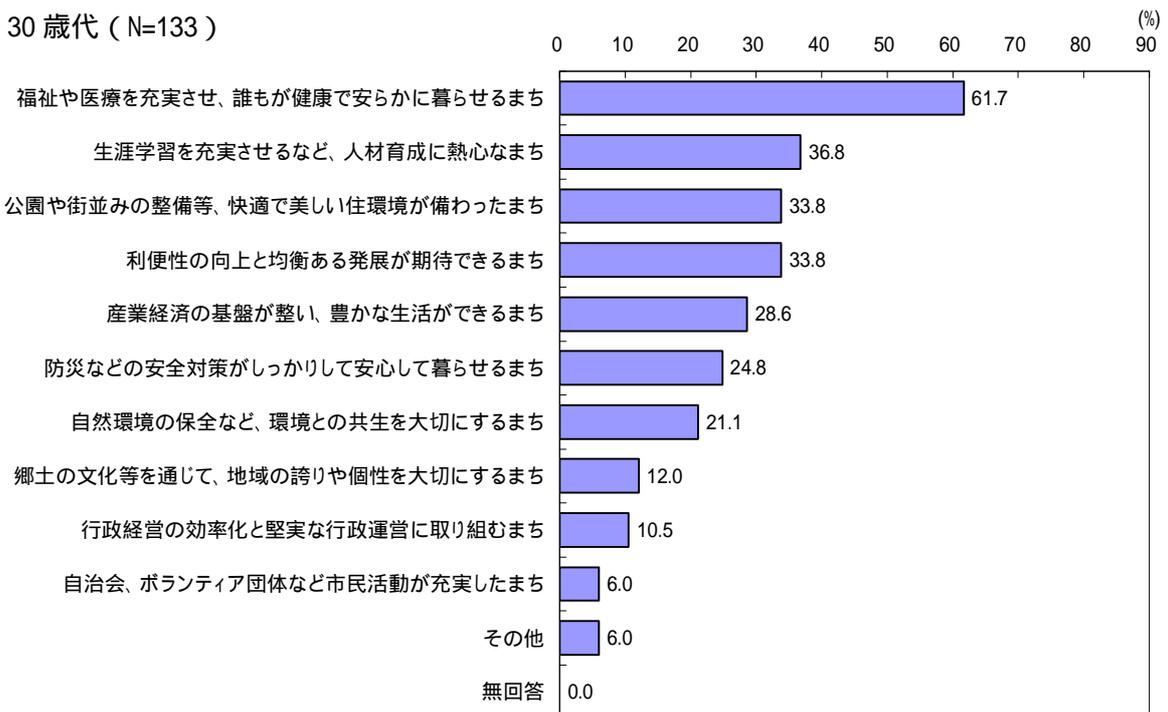
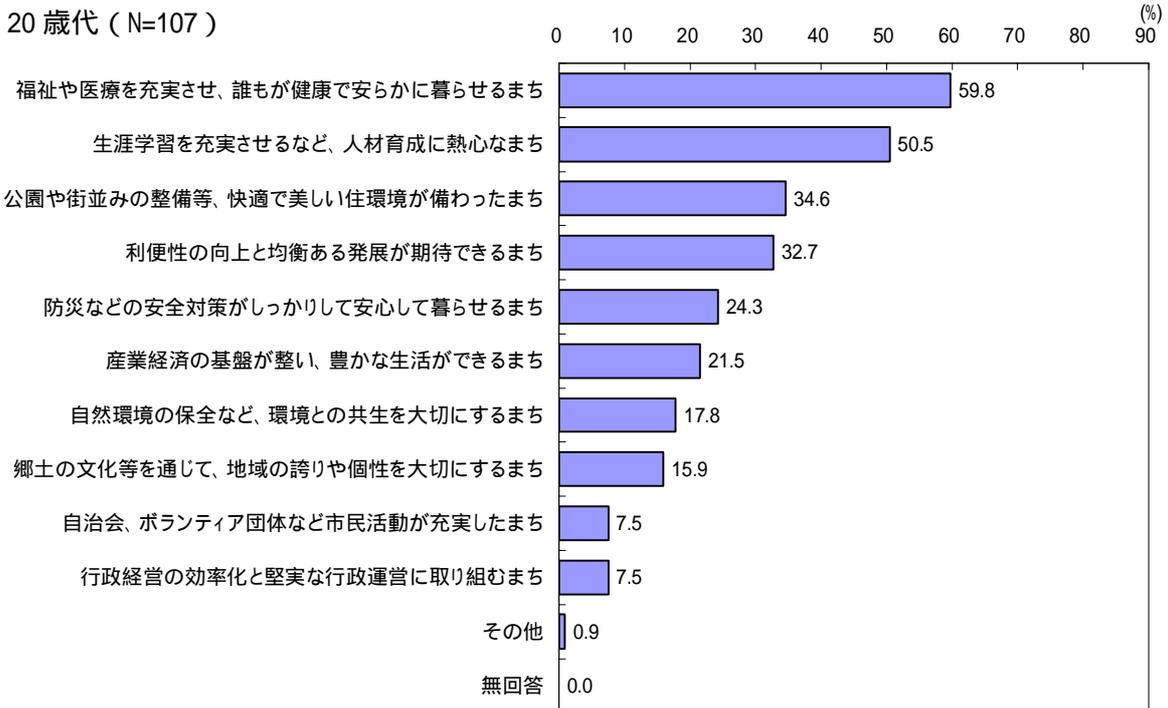


70 歳以上 (N=221)

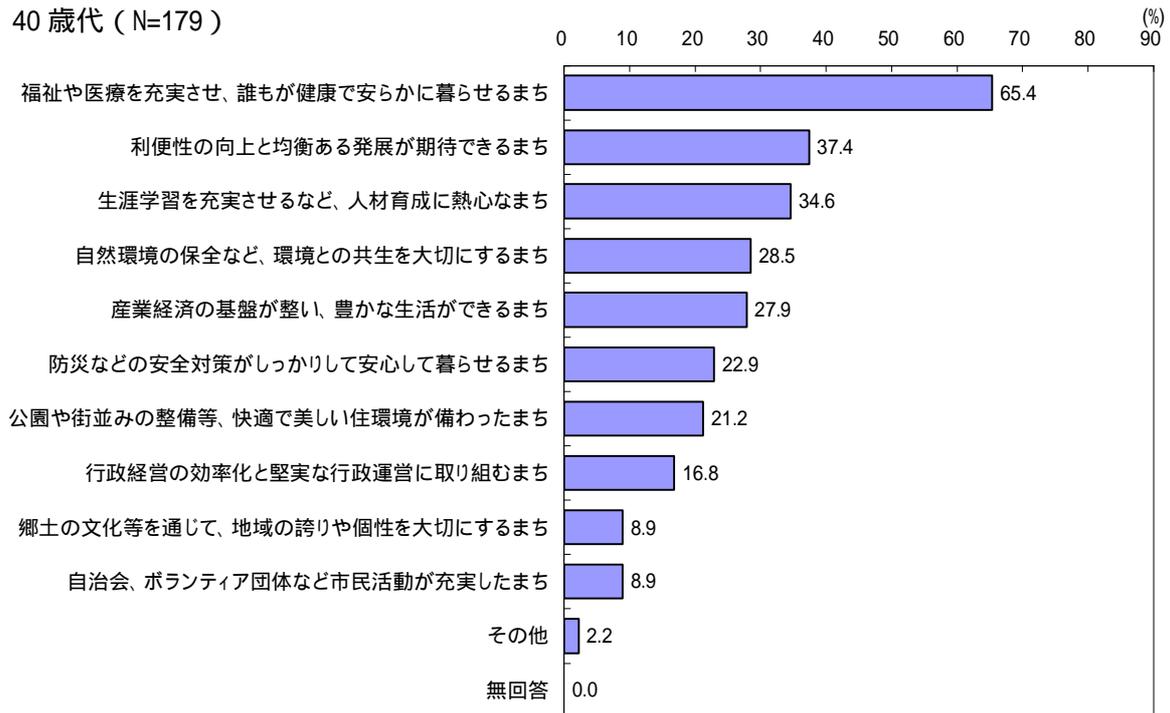


#### 4. これからのまちづくりで重視すべき点（問7）

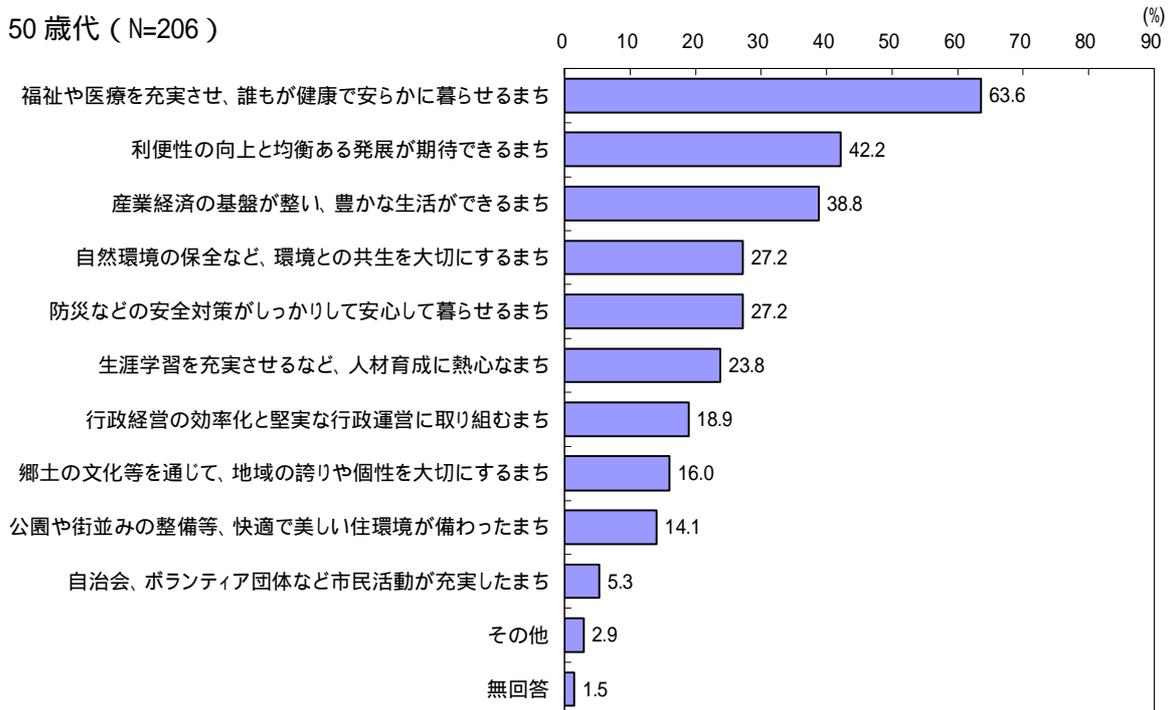
これからの掛川市のまちづくりは、どのような視点を重視すべきか尋ねたところ、全ての年齢層で「福祉や医療を充実させ、誰もが健康で安らかに暮らせるまち」の回答割合が最も高くなりました。続いて、「20歳代」「30歳代」では「生涯学習を充実させるなど、人材育成に熱心なまち」、「40歳代」以上の各年齢層では「利便性の向上と均衡ある発展が期待できるまち」の回答割合が高くなりました。



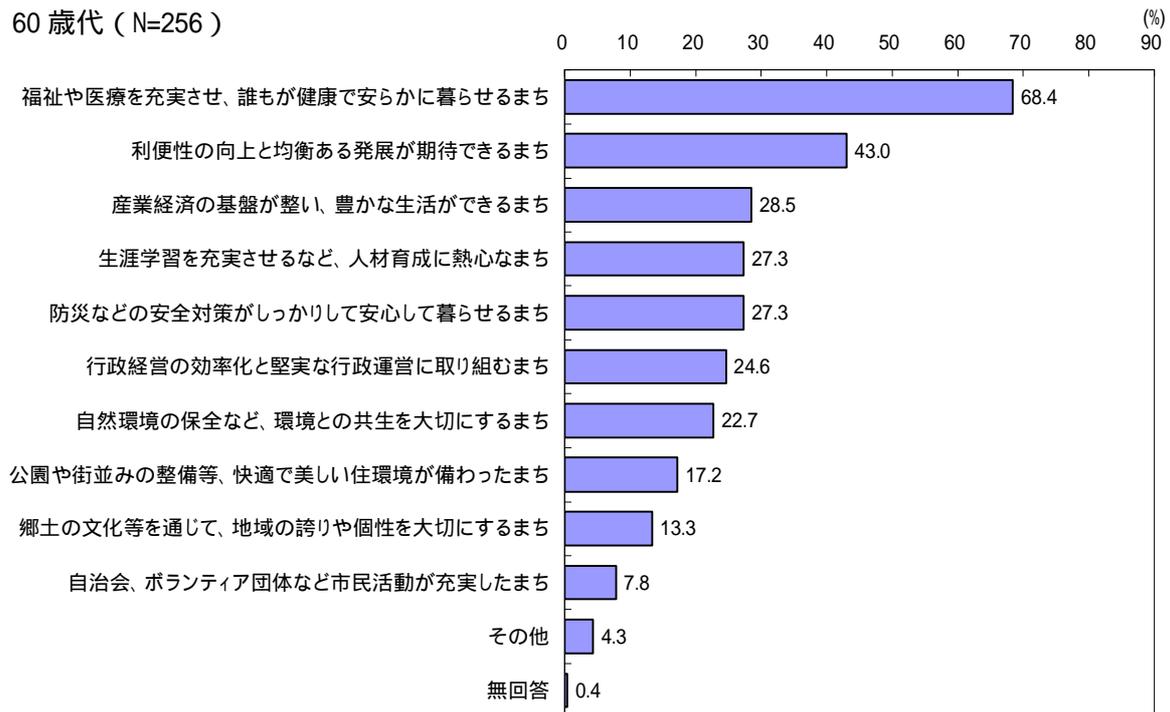
40 歳代 (N=179)



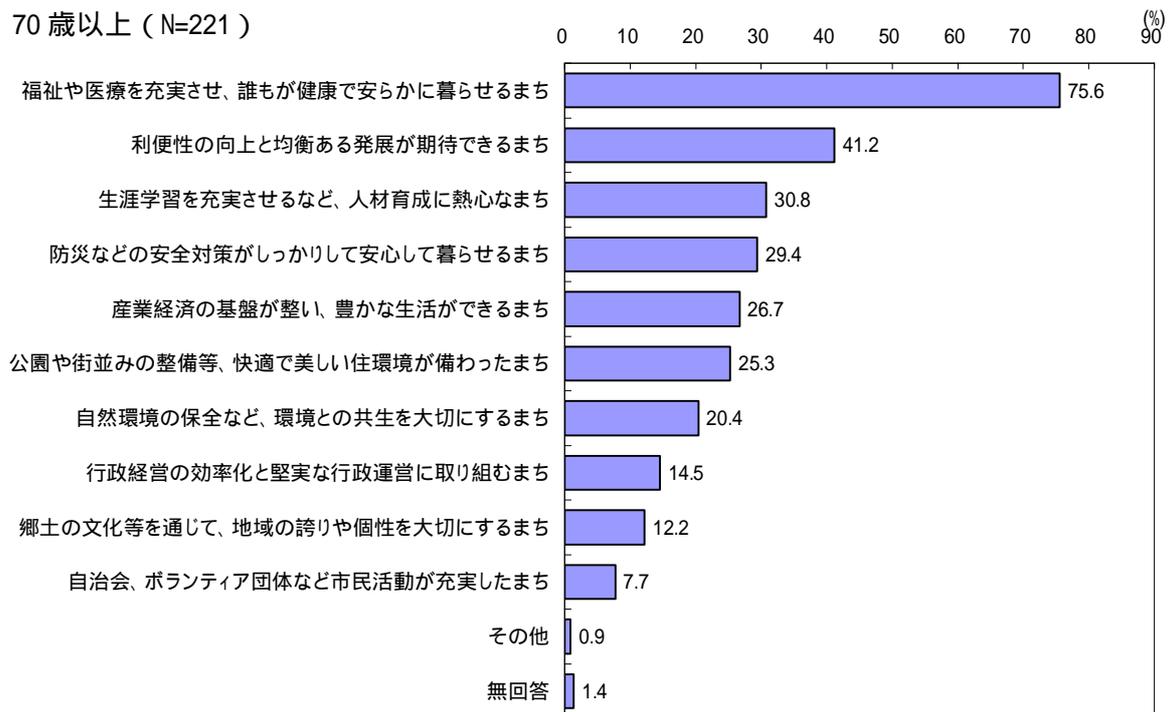
50 歳代 (N=206)



60 歳代 (N=256)



70 歳以上 (N=221)



5. 現在のまちづくりの満足度・施策の優先度（問8）

（1）満足度

「満足している」「多少満足している」を合計した「満足割合」から、「多少不満である」「不満である」を合計した「不満割合」を差し引いて満足度を把握しました。「満足度の高い施策」と「満足度の低い施策」は、次の通りになりました。

【満足度の高い施策（ベスト3位）】

20 歳代

- 「地域農業の活性化により安全で安定した食の提供」(34.6%)
- 「貴重で美しい自然環境・景観の保全」(28.0%)
- 「安全で安定した上水道の提供」(21.5%)

30 歳代

- 「ごみ処理対策などの廃棄物処理体制の充実」(26.3%)
- 「貴重で美しい自然環境・景観の保全」(22.6%)
- 「地域農業の活性化により安全で安定した食の提供」(17.2%)

40 歳代

- 「貴重で美しい自然環境・景観の保全」(16.7%)
- 「ごみ処理対策などの廃棄物処理体制の充実」(9.6%)
- 「地域農業の活性化により安全で安定した食の提供」(8.3%)

50 歳代

- 「貴重で美しい自然環境・景観の保全」(16.1%)
- 「ごみ処理対策などの廃棄物処理体制の充実」(12.7%)
- 「安心して暮らせる消防救急体制の充実」(11.7%)

60 歳代

- 「健康に暮らすための保健予防や健診の充実」(23.0%)
- 「地域農業の活性化により安全で安定した食の提供」(21.5%)
- 「ごみ処理対策などの廃棄物処理体制の充実」(21.2%)

70 歳以上

- 「安全で安定した上水道の提供」(37.5%)
- 「健康に暮らすための保健予防や健診の充実」(24.0%)
- 「ごみ処理対策などの廃棄物処理体制の充実」(19.4%)

【満足度の低い施策（ワースト3位）】

20 歳代

- 「中心市街地活性化によるまちの顔づくり」( マイナス 61.6% )
- 「治水、治山や耐震など災害に強いまちづくり」( マイナス 45.0% )
- 「安心して子供を生み、育てることができる環境の充実」( マイナス 40.2% )

30 歳代

- 「中心市街地活性化によるまちの顔づくり」( マイナス 51.9% )
- 「商業の活性化による地域の魅力づくり」( マイナス 46.0% )
- 「通勤・通学・通院のための交通機関の確保」( マイナス 45.9% )

40 歳代

- 「中心市街地活性化によるまちの顔づくり」( マイナス 53.1% )
- 「安心して医療が受けられる体制の充実」( マイナス 49.8% )
- 「商業の活性化による地域の魅力づくり」( マイナス 49.7% )

50 歳代

- 「商業の活性化による地域の魅力づくり」( マイナス 58.8% )
- 「中心市街地活性化によるまちの顔づくり」( マイナス 54.4% )
- 「通勤・通学・通院のための交通機関の確保」( マイナス 52.9% )

60 歳代

- 「中心市街地活性化によるまちの顔づくり」( マイナス 44.1% )
- 「商業の活性化による地域の魅力づくり」( マイナス 42.9% )
- 「効率的行政経営の推進による財政の健全化」( マイナス 42.2% )

70 歳以上

- 「商業の活性化による地域の魅力づくり」( マイナス 39.9% )
- 「中心市街地活性化によるまちの顔づくり」( マイナス 37.1% )
- 「道路整備による利便性の向上と地域の発展」( マイナス 21.2% )

(2) 重要度

「非常に重要である」「多少重要である」を合計した「重要性肯定割合」から、「あまり重要ではない」「重要ではない」を合計した「重要性否定割合」を差し引いて重要度を把握しました。「重要性の高い施策」と「重要性の低い施策」は、次の通りになりました。

【重要性の高い施策(ベスト3位)】

20 歳代

- 「安心して医療が受けられる体制の充実」(92.6%)
- 「安心して子供を生み、育てることができる環境の充実」(88.0%)
- 「犯罪の抑制や巻き込まれない社会の推進」(87.9%)

30 歳代

- 「安心して医療が受けられる体制の充実」(92.4%)
- 「安心して子供を生み、育てることができる環境の充実」(91.7%)
- 「犯罪の抑制や巻き込まれない社会の推進」(91.0%)

40 歳代

- 「安心して医療が受けられる体制の充実」(86.6%)
- 「高齢者や障害者など誰もが困らず安心して暮らせる福祉の充実」(86.1%)
- 「交通事故に遭わない安全な交通環境の充実」(84.9%)

50 歳代

- 「安心して医療が受けられる体制の充実」(88.3%)
- 「高齢者や障害者など誰もが困らず安心して暮らせる福祉の充実」(86.8%)
- 「健康に暮らすための保健予防や健診の充実」(85.9%)

60 歳代

- 「ごみ処理対策などの廃棄物処理体制の充実」(82.7%)
- 「健康に暮らすための保健予防や健診の充実」(82.0%)
- 「安心して医療が受けられる体制の充実」(82.0%)

70 歳以上

- 「高齢者や障害者など誰もが困らず安心して暮らせる福祉の充実」(76.4%)
- 「健康に暮らすための保健予防や健診の充実」(73.3%)
- 「安全で安定した上水道の提供」(71.0%)

【重要性の低い施策（ワースト3位）】

20 歳代

- 「地域間交流、国際交流の充実」( 10.3% )
- 「文化芸術に触れ、教養を高める機会の充実」( 12.1% )
- 「男女共同参画が理解・実践される社会構築」( 29.0% )

30 歳代

- 「地域間交流、国際交流の充実」( 11.3% )
- 「文化芸術に触れ、教養を高める機会の充実」( 29.4% )
- 「男女共同参画が理解・実践される社会構築」( 30.8% )

40 歳代

- 「地域間交流、国際交流の充実」( 14.5% )
- 「観光振興による地域の賑わいの創出と地域活性化への波及効果」( 26.2% )
- 「男女共同参画が理解・実践される社会構築」( 29.6% )

50 歳代

- 「地域間交流、国際交流の充実」( 18.4% )
- 「男女共同参画が理解・実践される社会構築」( 29.1% )
- 「良好な住宅や宅地の提供」( 33.0% )

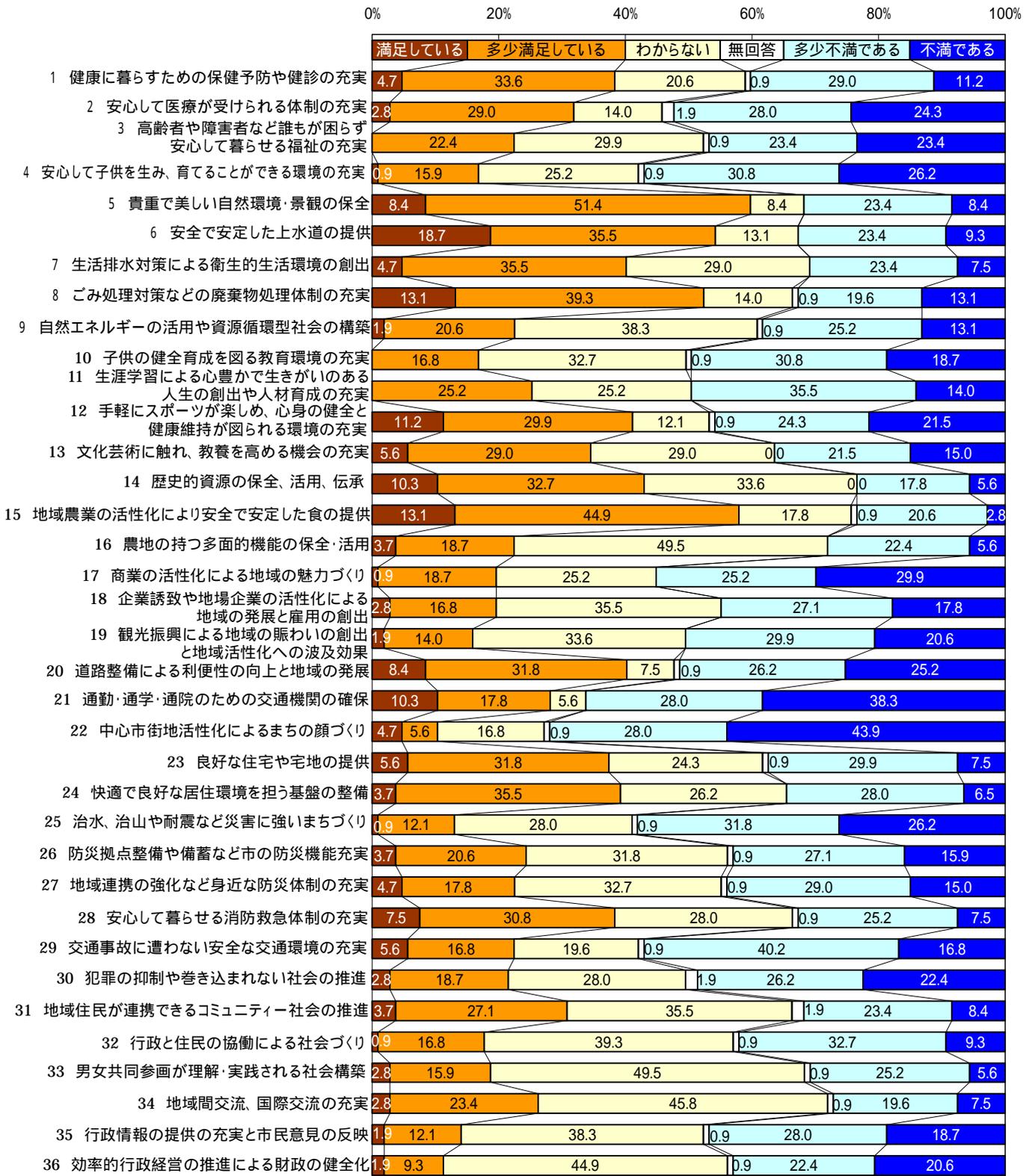
60 歳代

- 「地域間交流、国際交流の充実」( 20.3% )
- 「男女共同参画が理解・実践される社会構築」( 33.6% )
- 「良好な住宅や宅地の提供」( 36.8% )

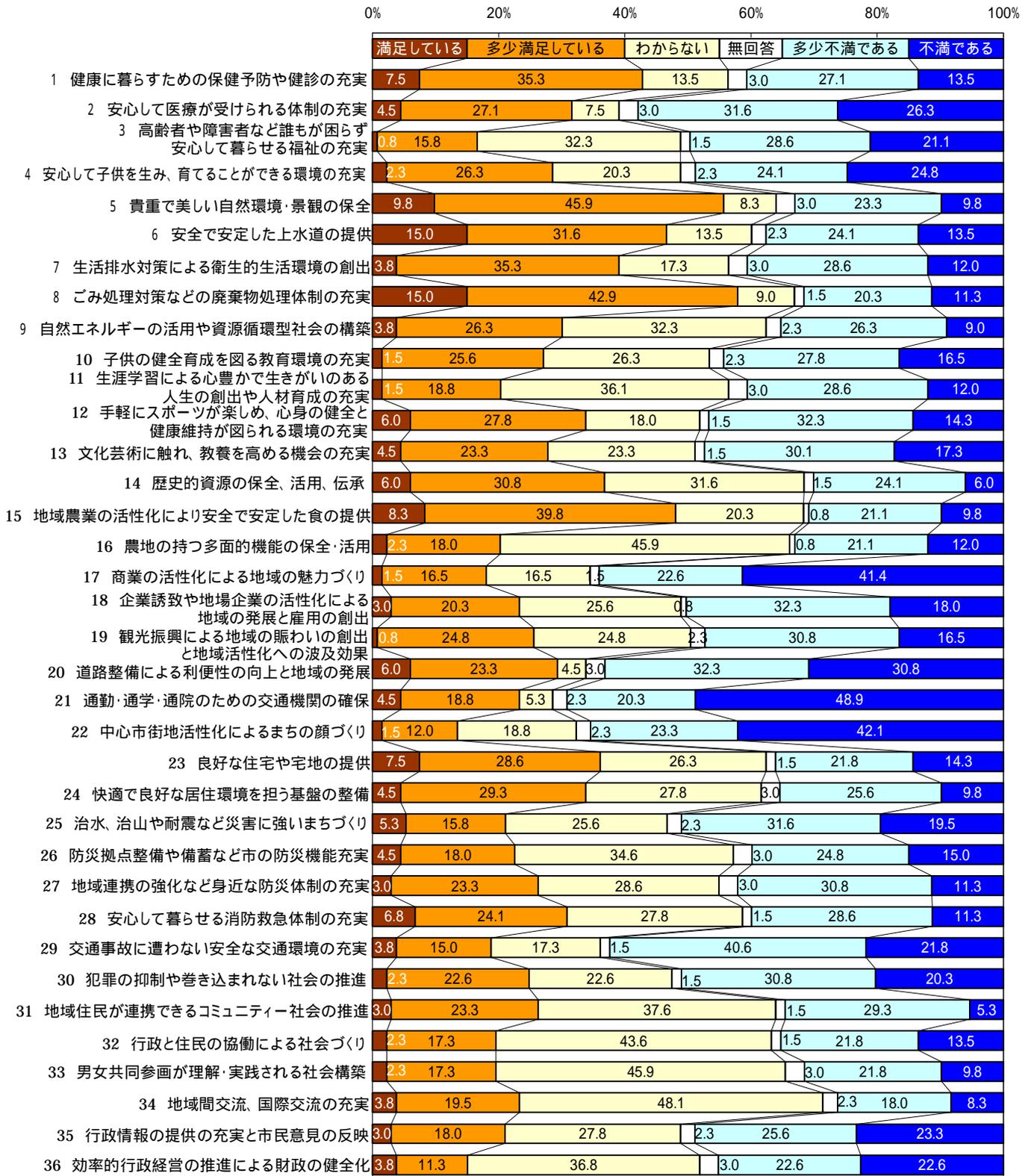
70 歳以上

- 「地域間交流、国際交流の充実」( 26.6% )
- 「良好な住宅や宅地の提供」( 33.5% )
- 「男女共同参画が理解・実践される社会構築」( 38.5% )

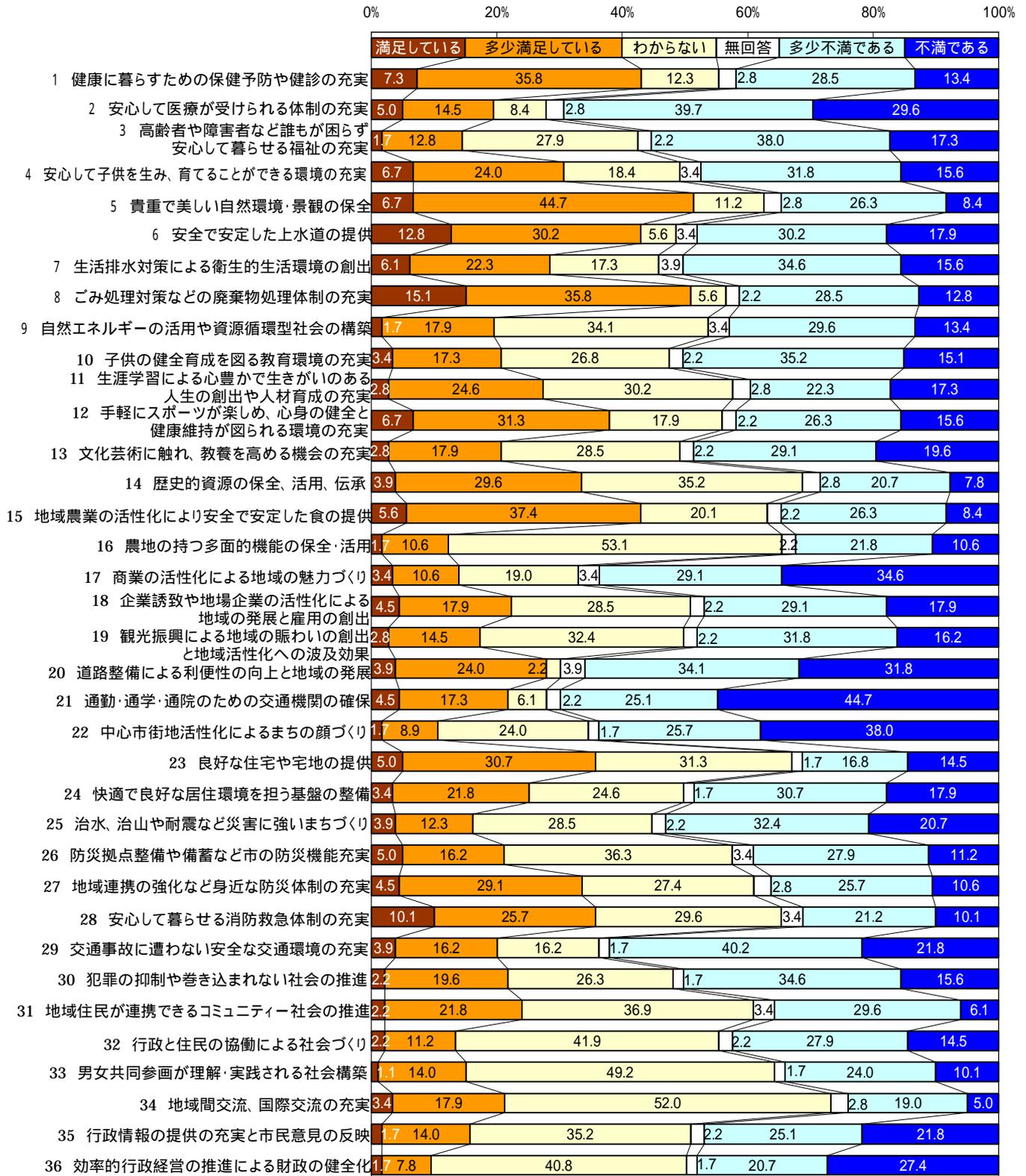
満足度：20歳代（N=107）



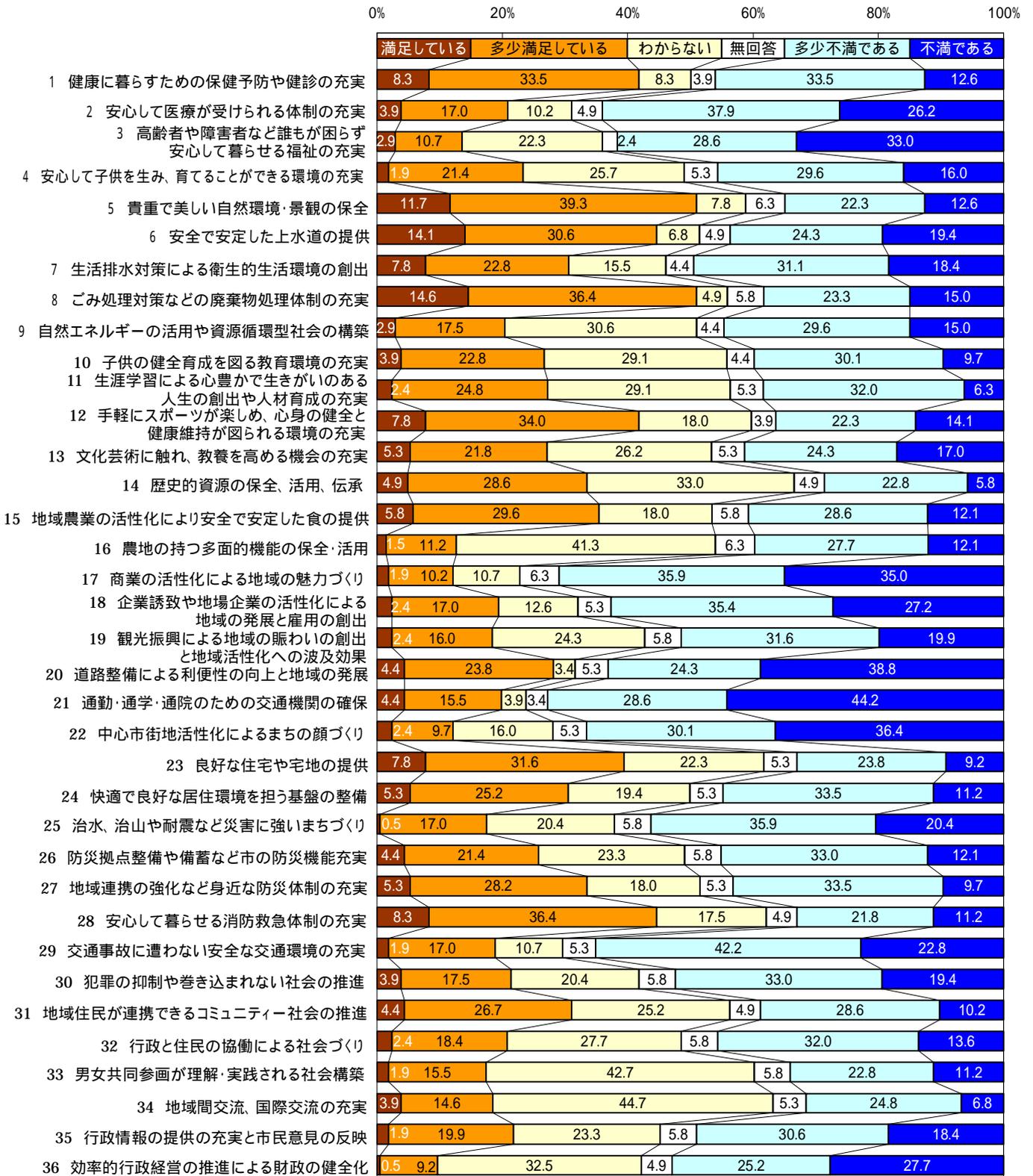
満足度：30歳代（N=133）



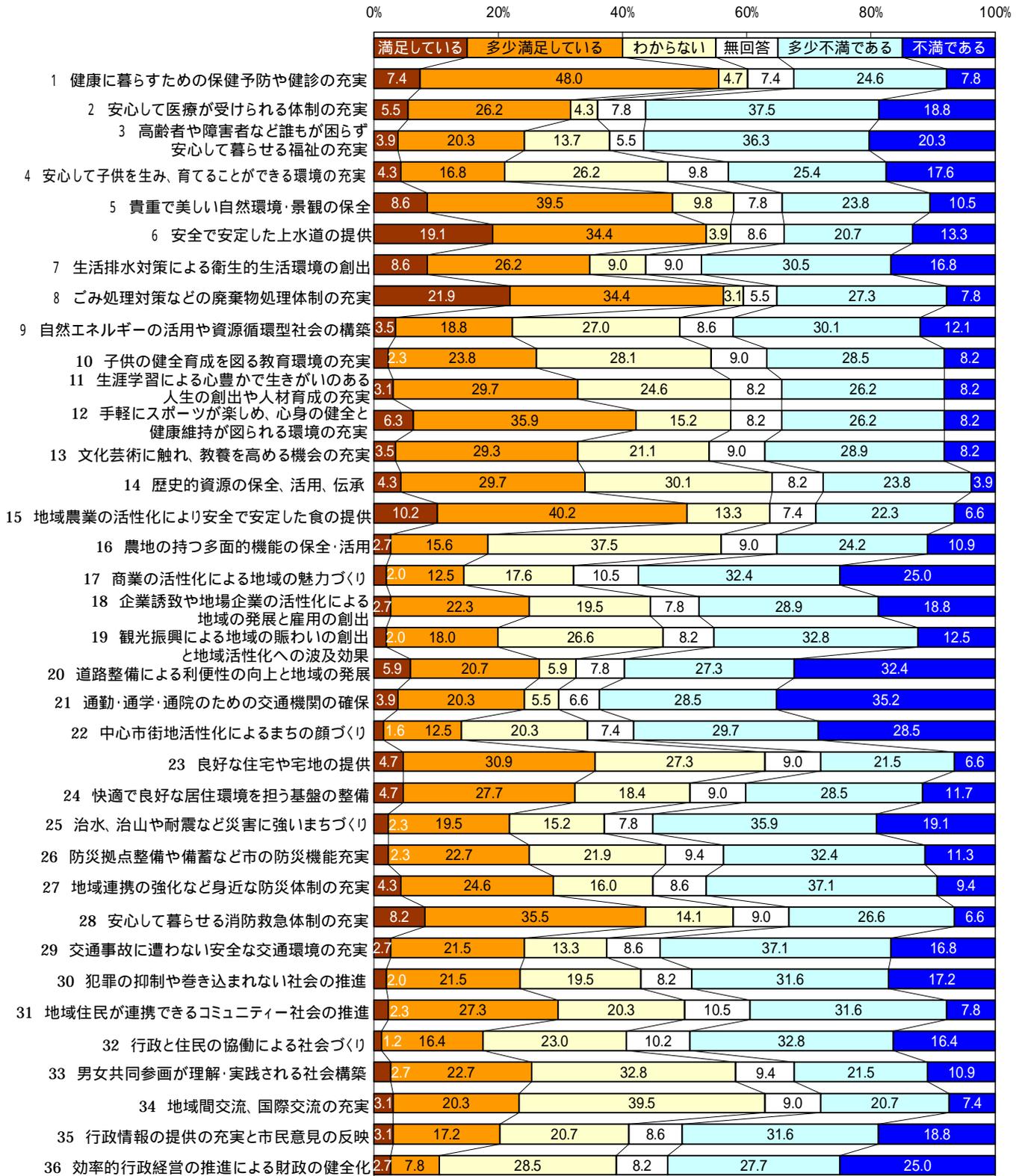
満足度：40歳代（N=179）



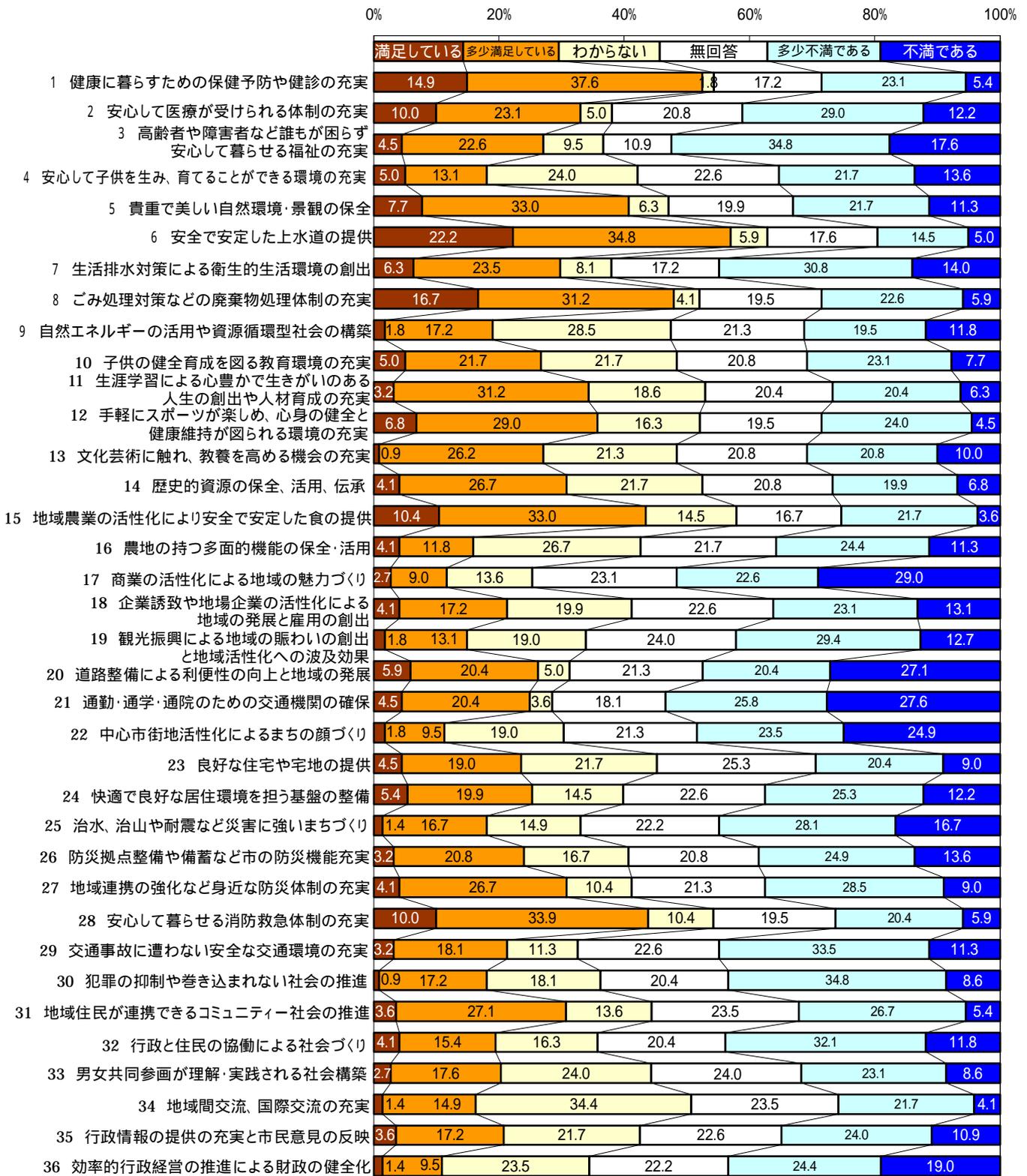
満足度：50歳代（N=206）



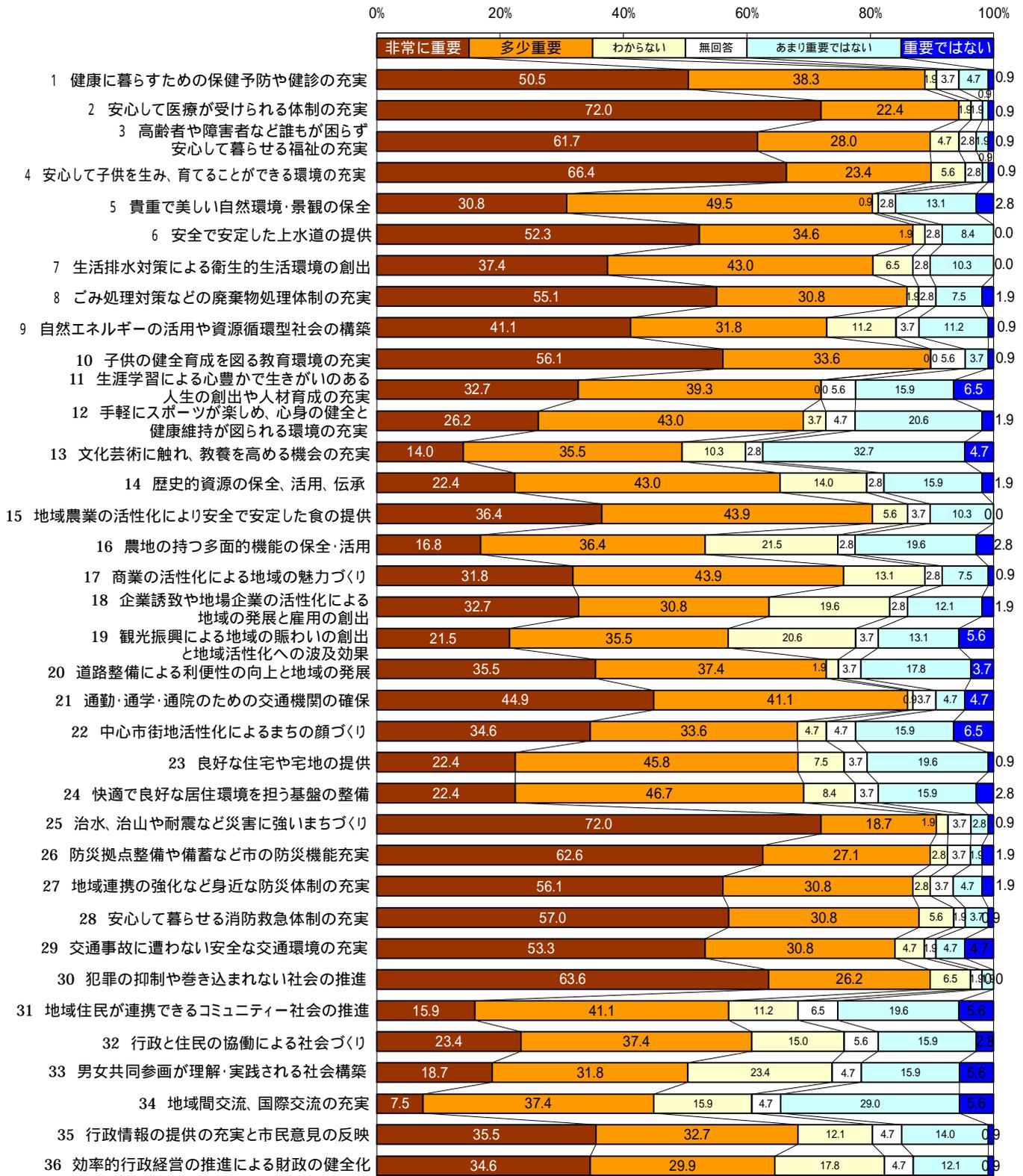
満足度：60歳代（N=256）



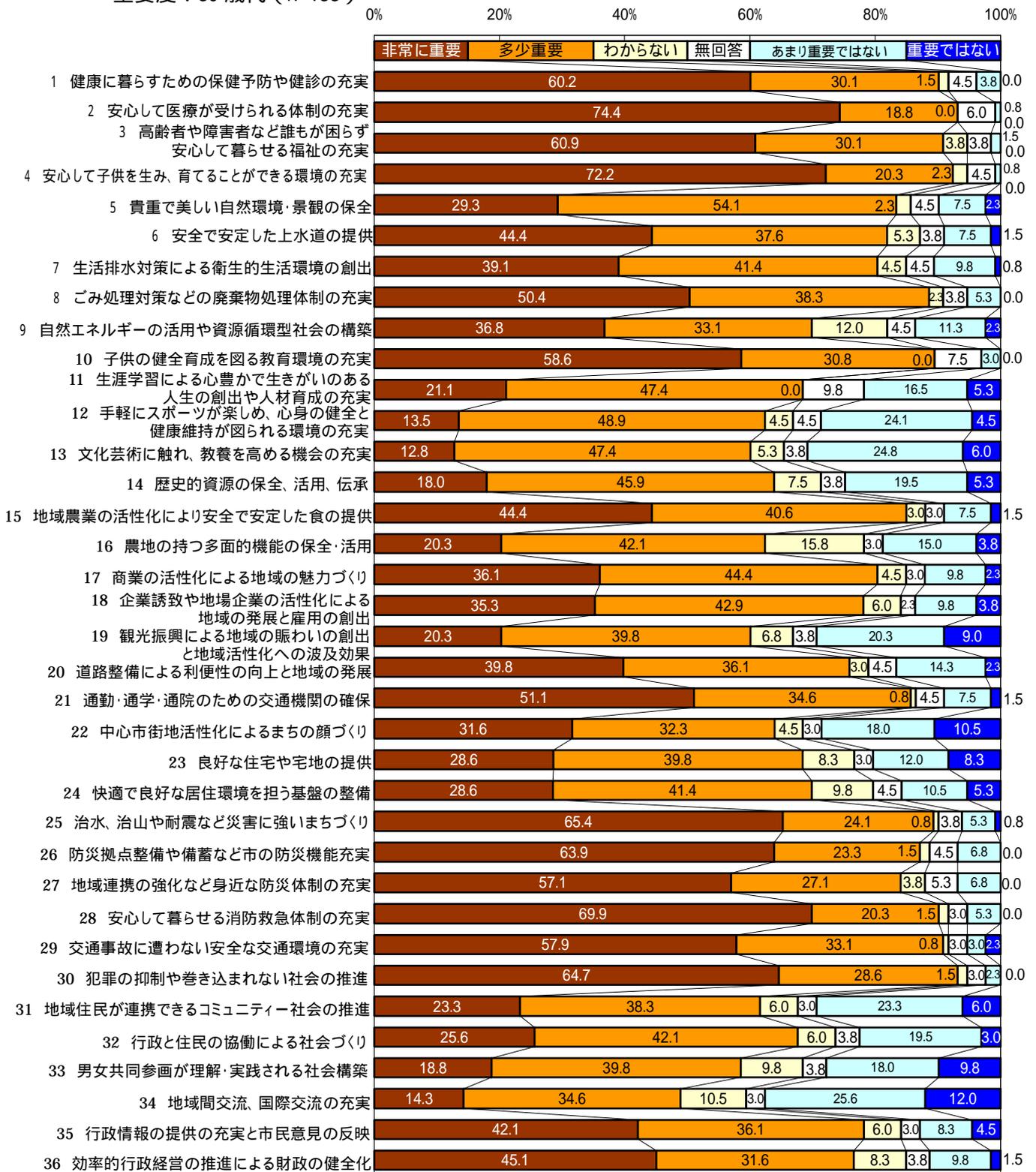
満足度：70歳以上（N=221）



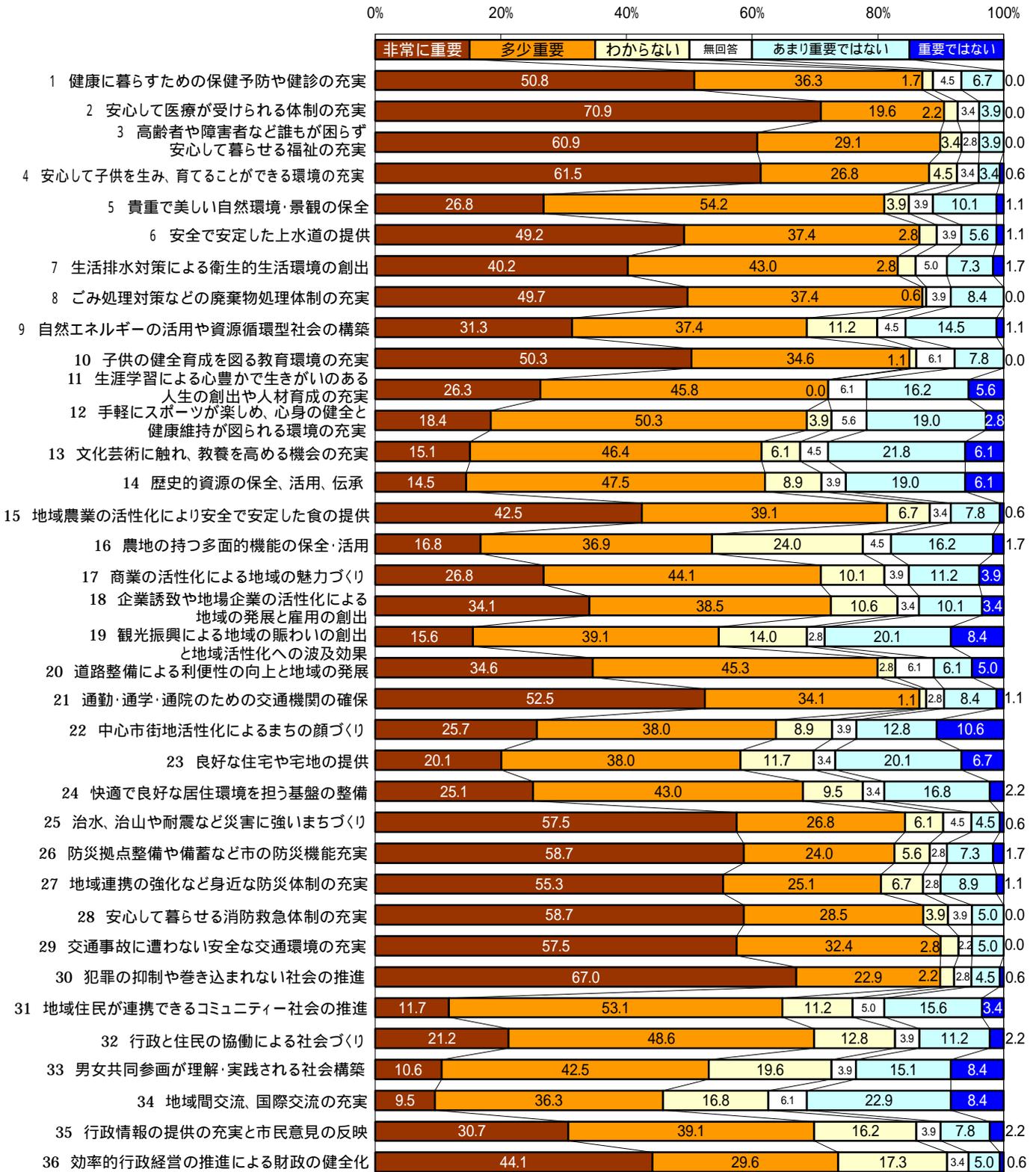
重要度：20歳代（N=107）



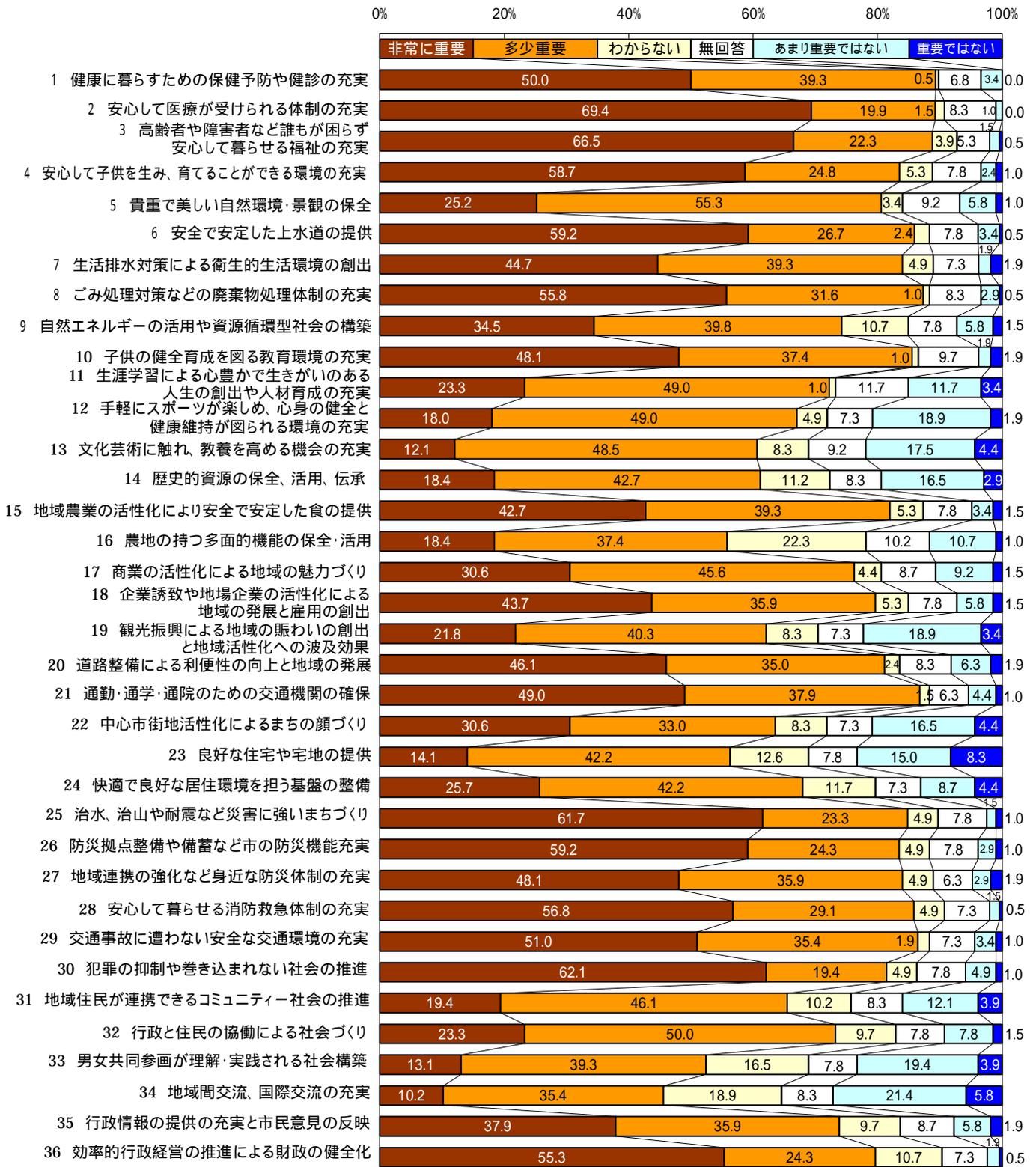
重要度：30歳代（N=133）



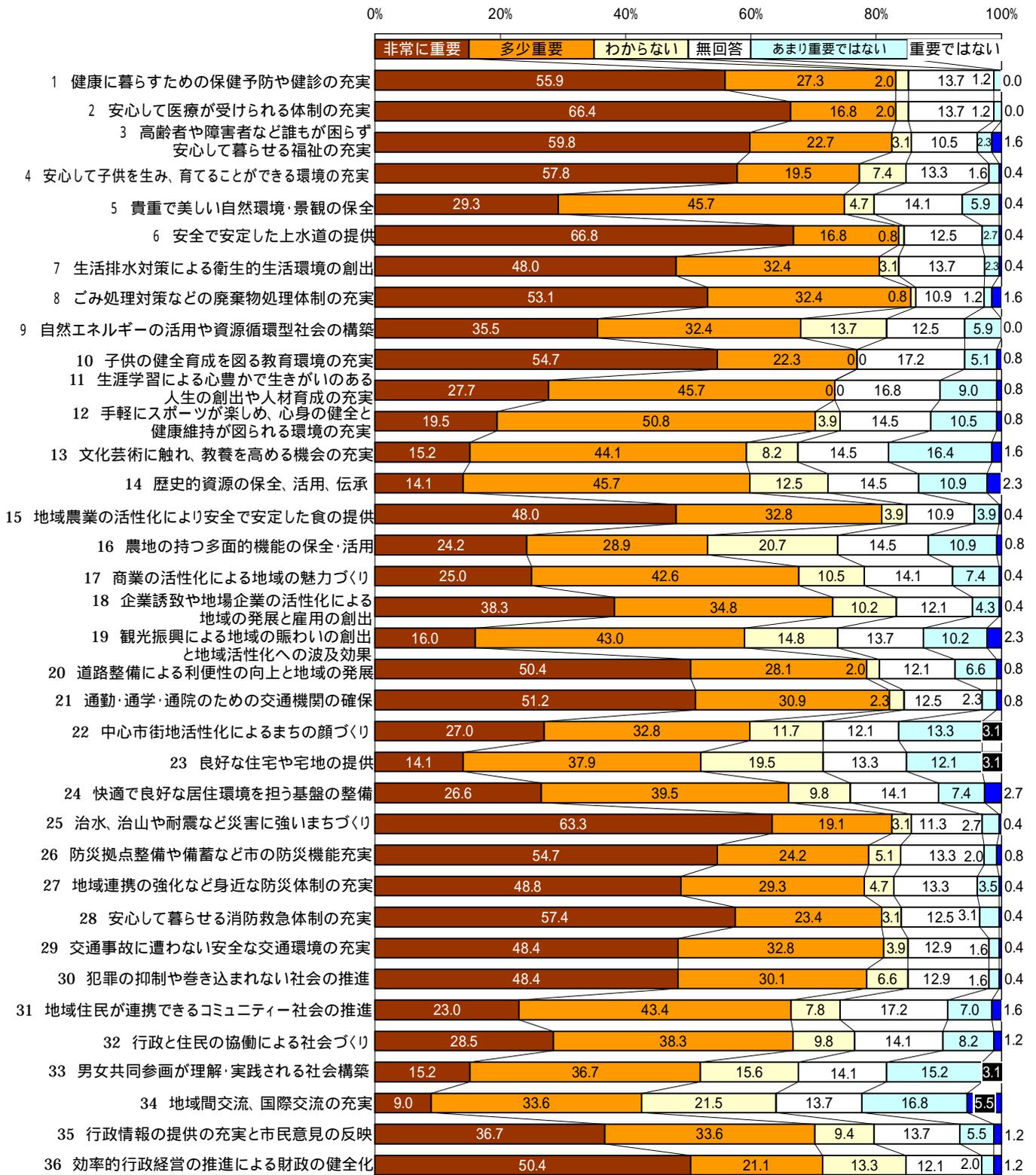
重要度：40歳代（N=179）



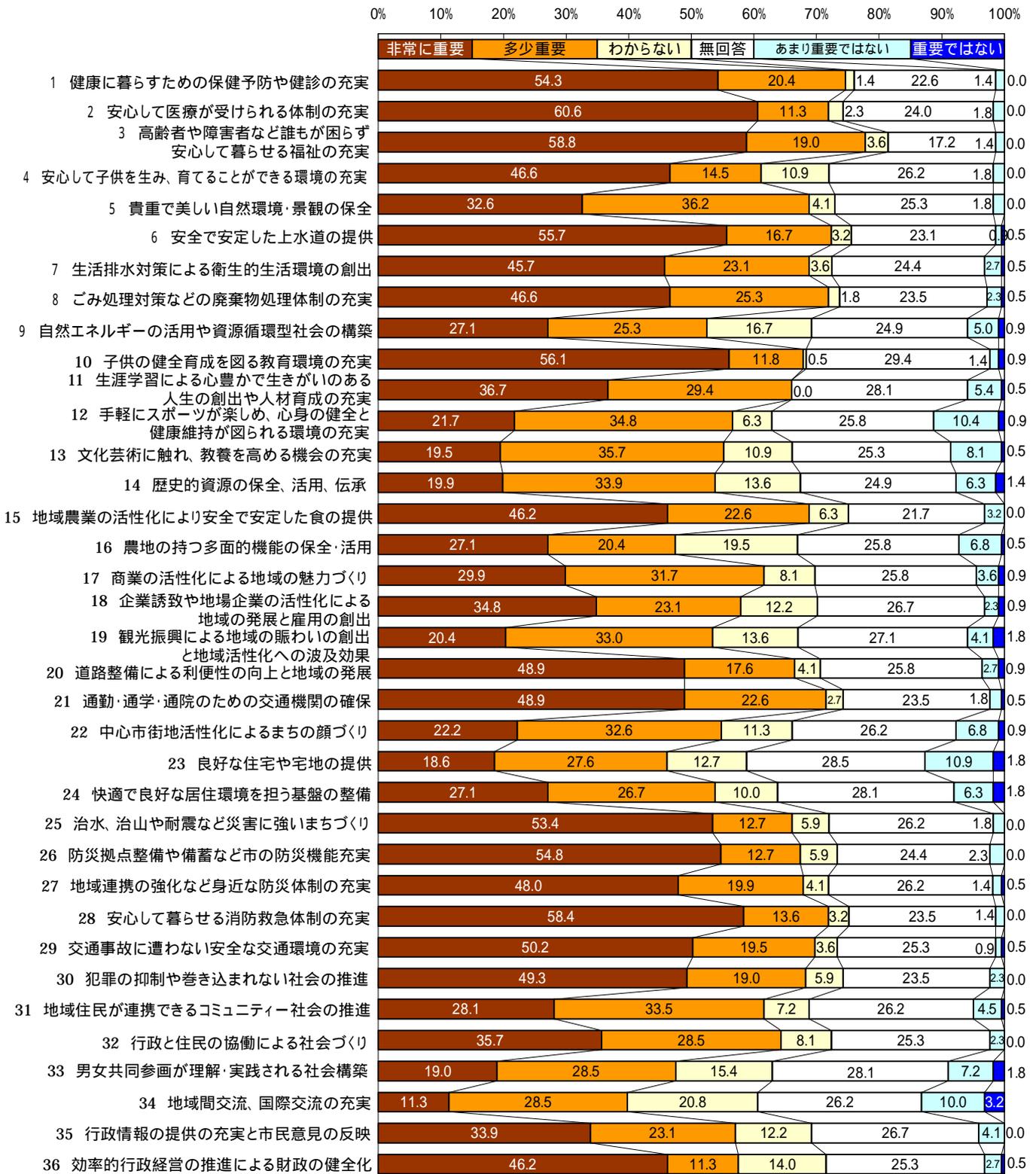
重要度：50歳代（N=206）



重要度：60歳代（N=256）



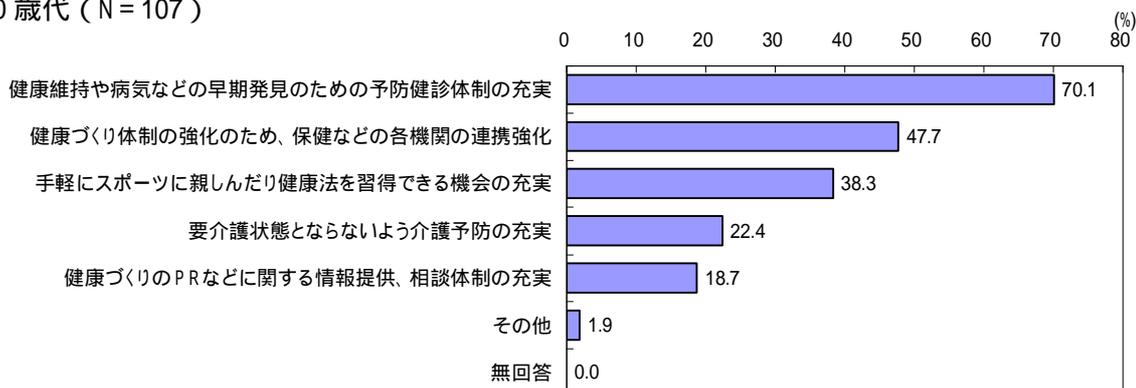
重要度：70歳以上 (N=221)



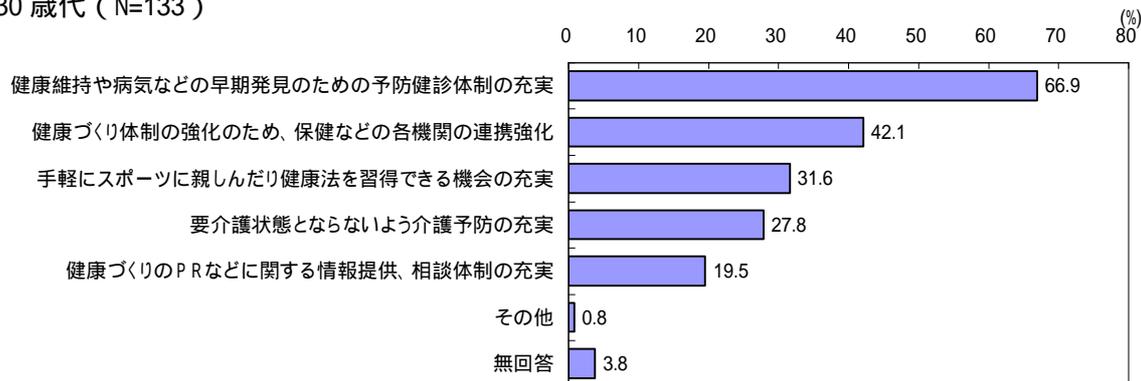
## 6. 健康づくりに関して力を入れるべき点（問9）

健康づくりに関して、どのような点に力を入れるべきか尋ねたところ、全ての年齢層で「健康維持や病気などの早期発見のための予防健診体制の充実」が、他の項目を大きく上回り最も高い回答割合となりました。なお、「70歳以上」では、「要介護状態とならないよう介護予防の充実」41.2%が2番目に高い回答割合となりました。

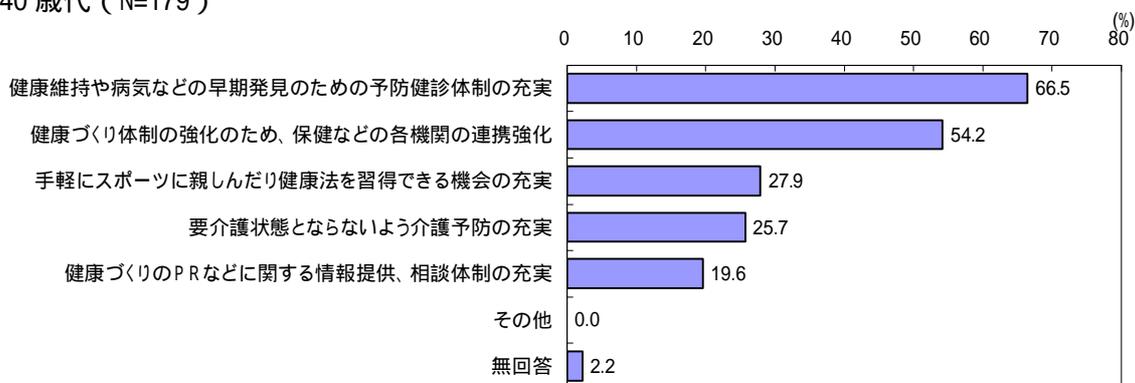
### 20歳代（N=107）



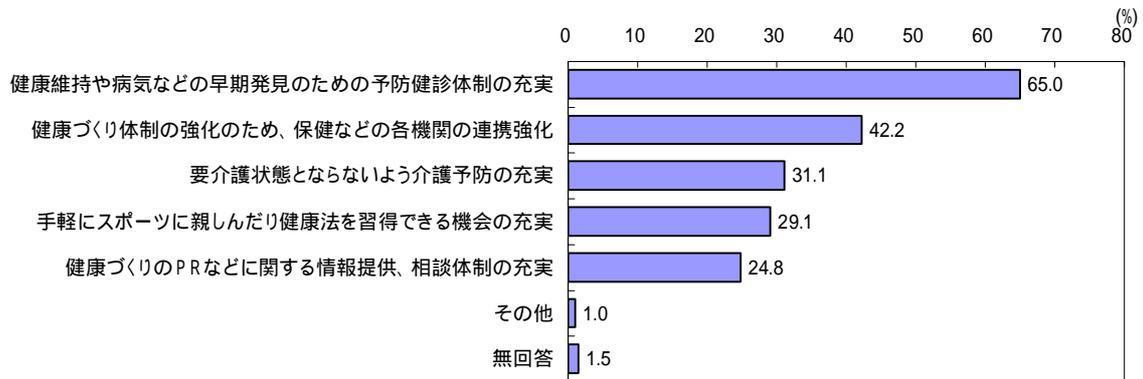
### 30歳代（N=133）



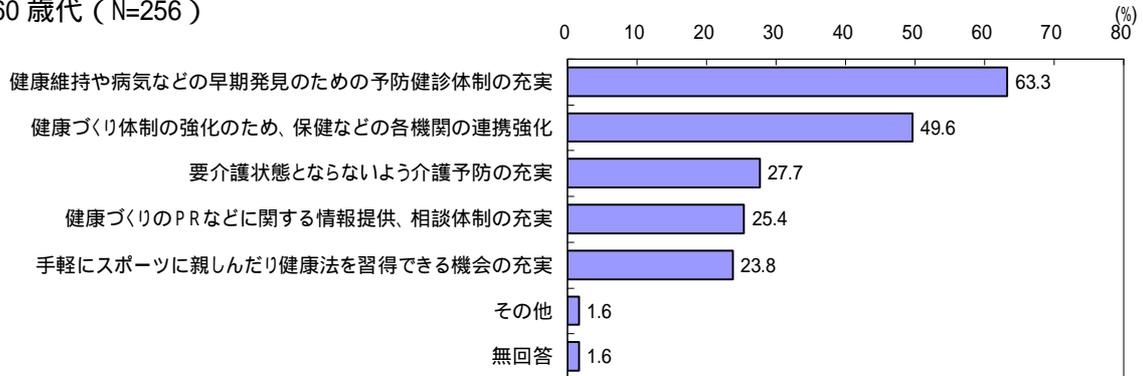
### 40歳代（N=179）



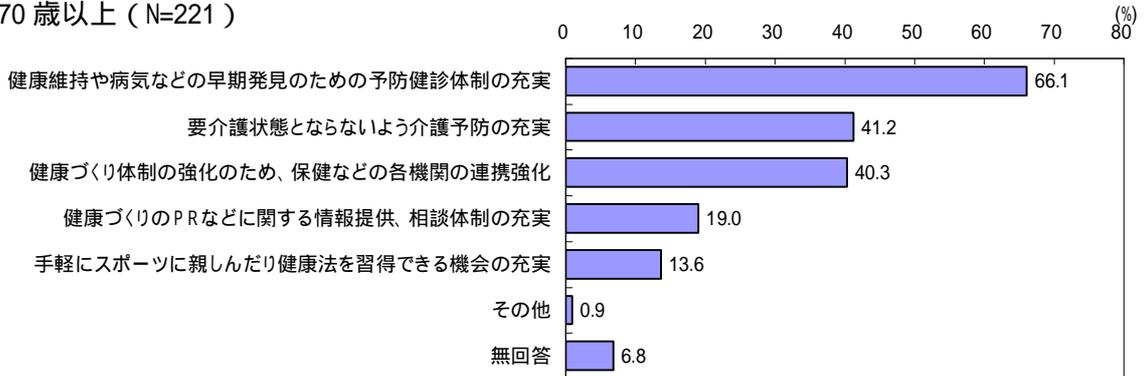
50 歳代 ( N=206 )



60 歳代 ( N=256 )

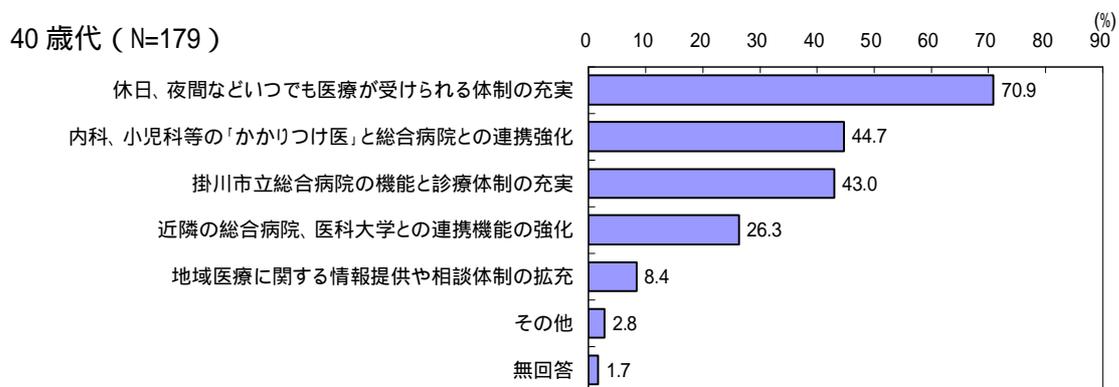
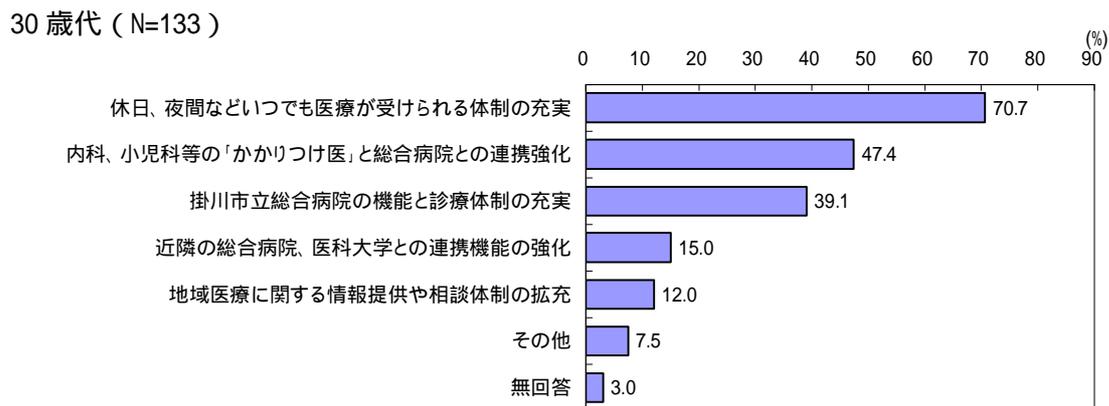
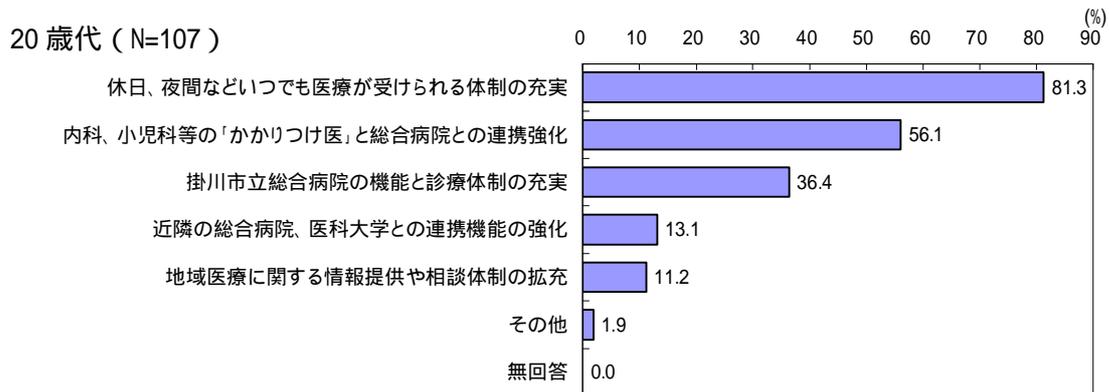


70 歳以上 ( N=221 )

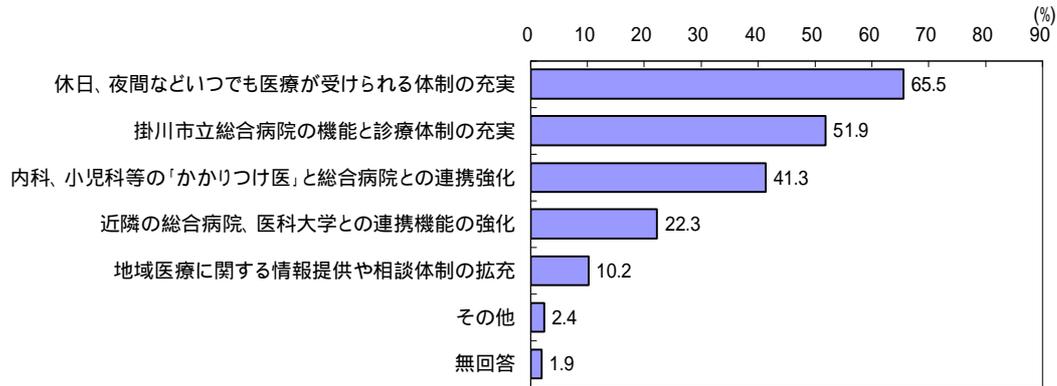


### 7. 地域医療に関して力を入れるべき点（問10）

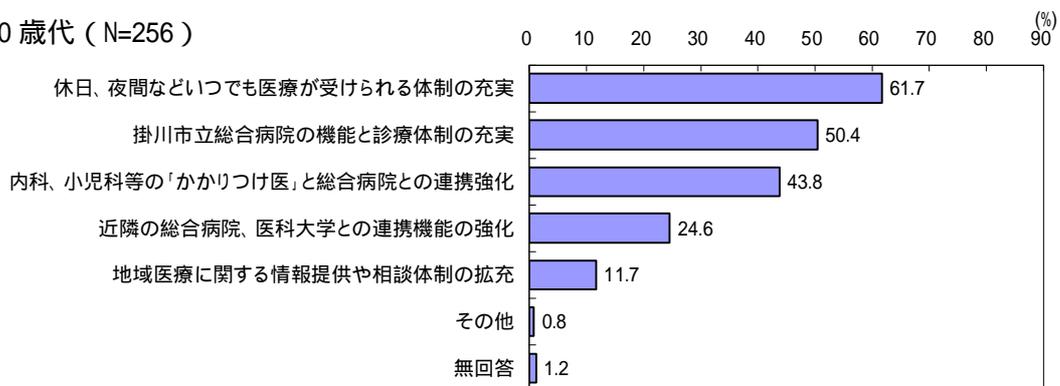
地域医療に関して、どのような点に力を入れるべきか尋ねたところ、全ての年齢層で「休日、夜間などいつでも医療が受けられる体制の充実」の回答割合が最も高く、特に「20歳代」81.3%で高くなりました。なお、2番目には、「20歳代」「30歳代」「40歳代」「70歳以上」で「内科、小児科等の『かかりつけ医』と総合病院との連携強化」、 「50歳代」「60歳代」で「掛川市立総合病院の機能と診療体制の充実」となりました。



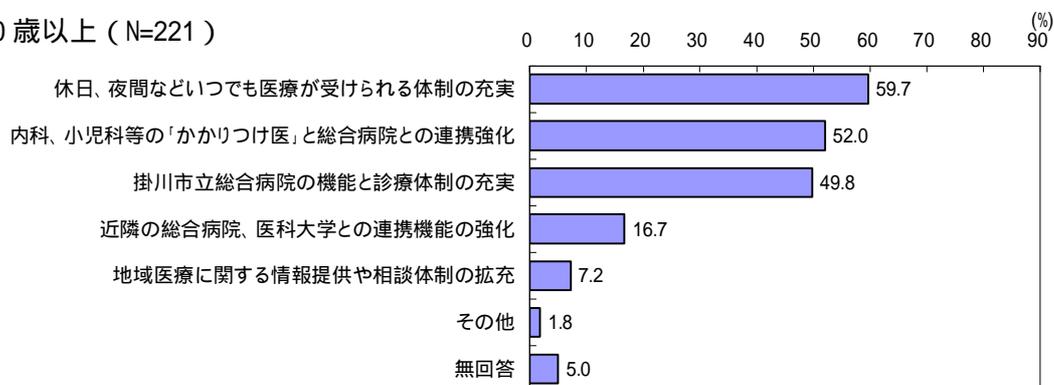
50 歳代 (N=206)



60 歳代 (N=256)



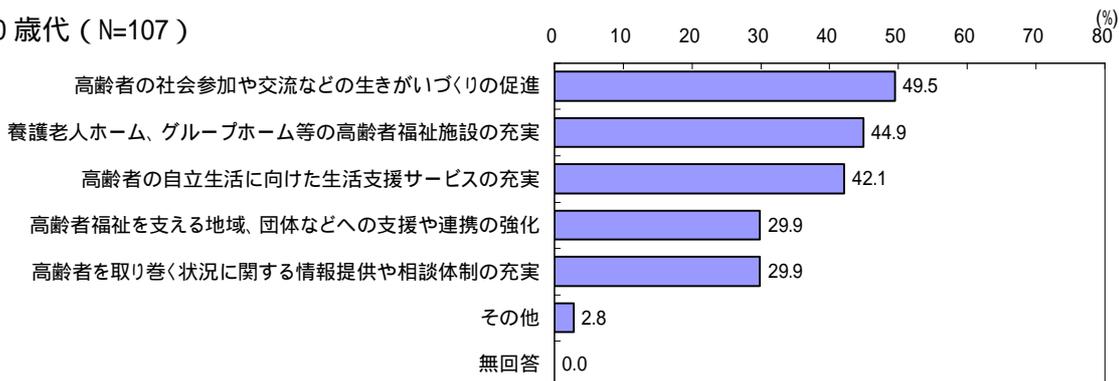
70 歳以上 (N=221)



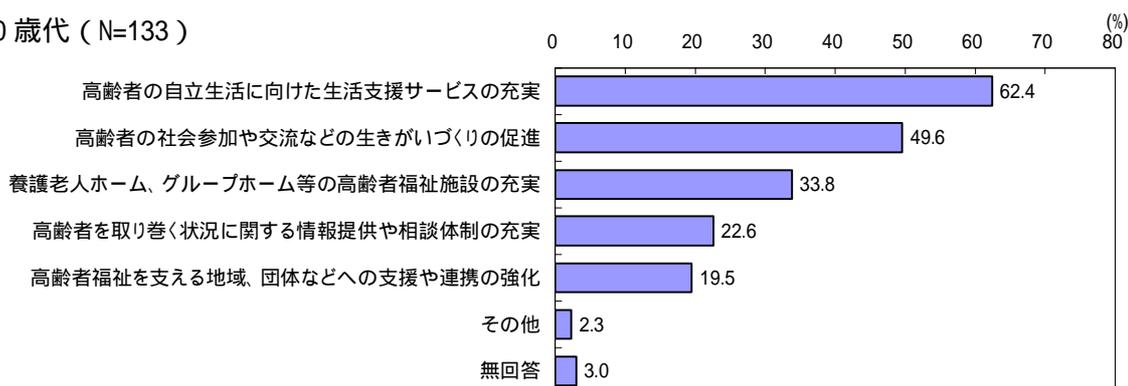
### 8. 高齢者福祉に関して力を入れるべき点（問11）

高齢者福祉に関して、どのような点に力を入れるべきか尋ねたところ、「30歳代」から「60歳代」にかけての各年齢層で「高齢者の自立生活に向けた生活支援サービスの充実」が最も高い回答割合となりました。一方、「70歳以上」では、「養護老人ホーム、グループホーム等の高齢者福祉施設の充実」55.2%が最も高く、介護面での要望が高いことがうかがえました。

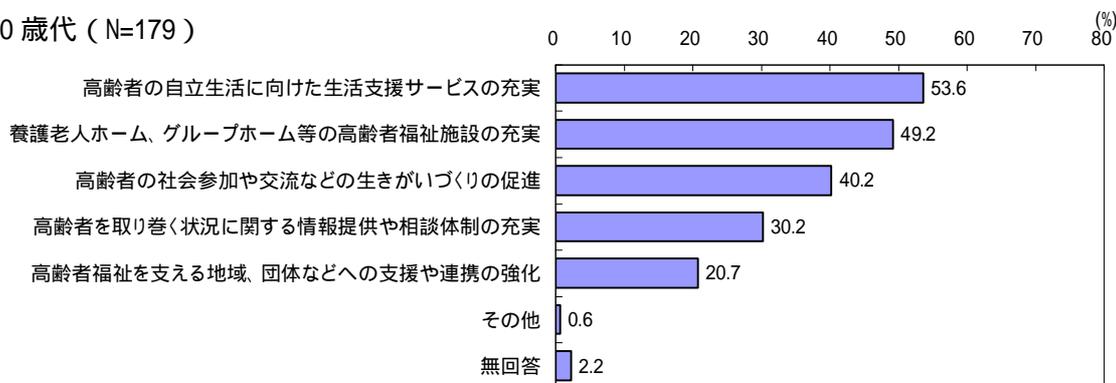
20歳代（N=107）



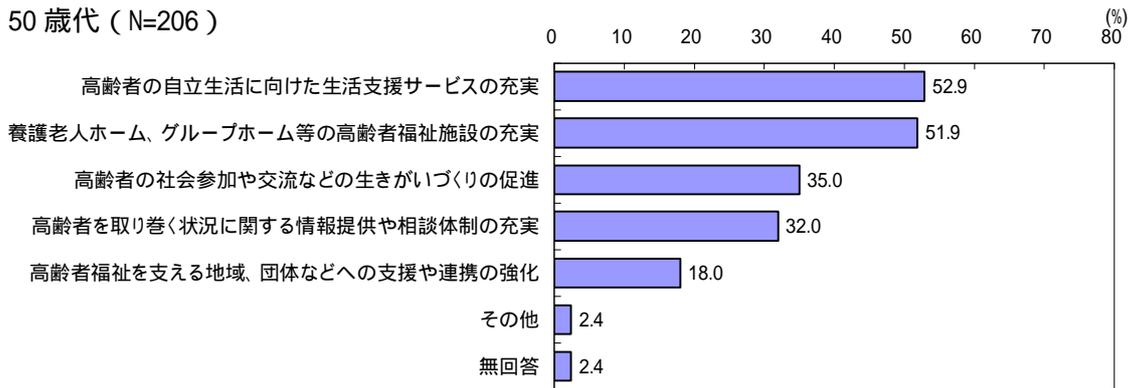
30歳代（N=133）



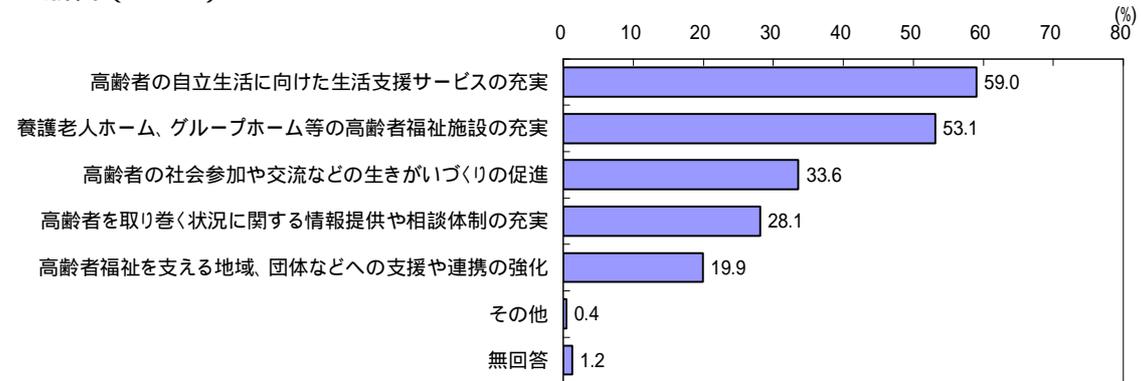
40歳代（N=179）



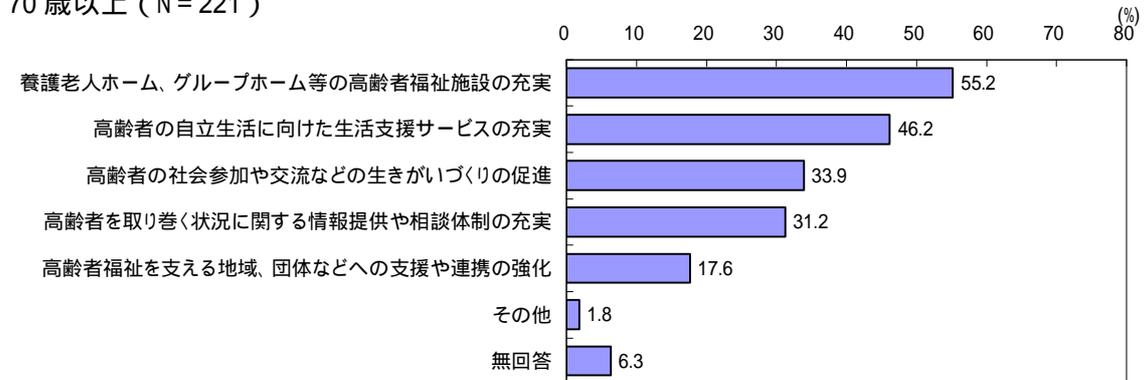
50 歳代 (N=206)



60 歳代 (N=256)



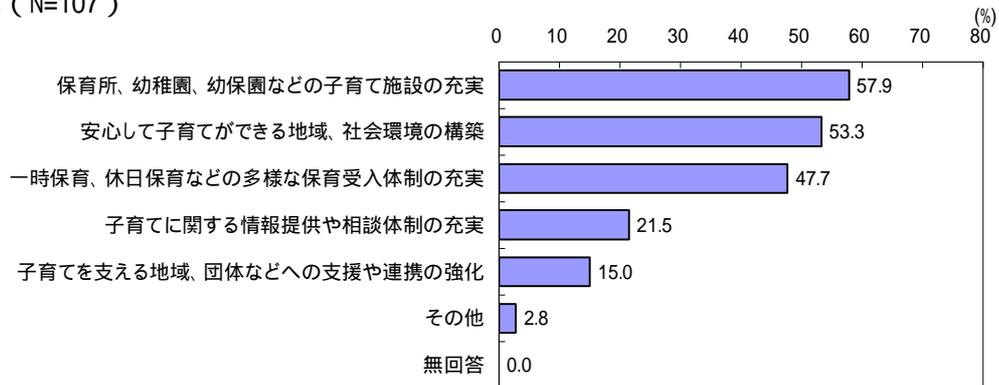
70 歳以上 (N=221)



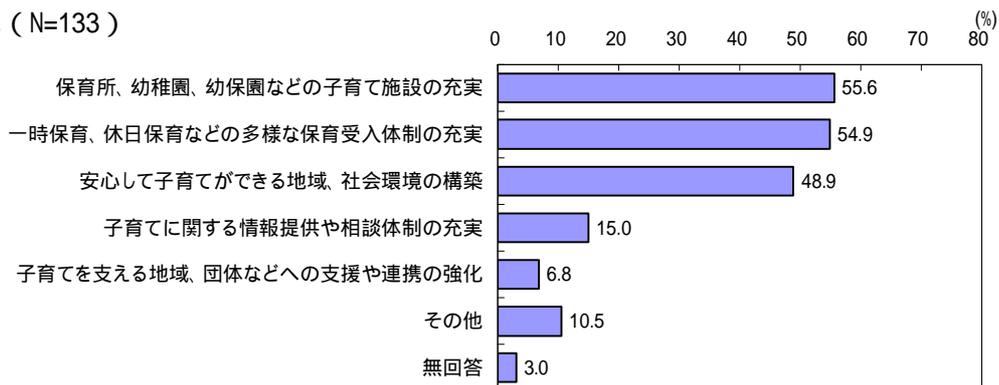
### 9. 子育て支援に関して力を入れるべき点（問12）

子育て支援に関して、どのような点に力を入れるべきか尋ねたところ、全ての年齢層で「保育所、幼稚園、幼保園などの子育て施設の充実」と「安心して子育てができる地域、社会環境の構築」が50%前後の高い回答割合となりました。

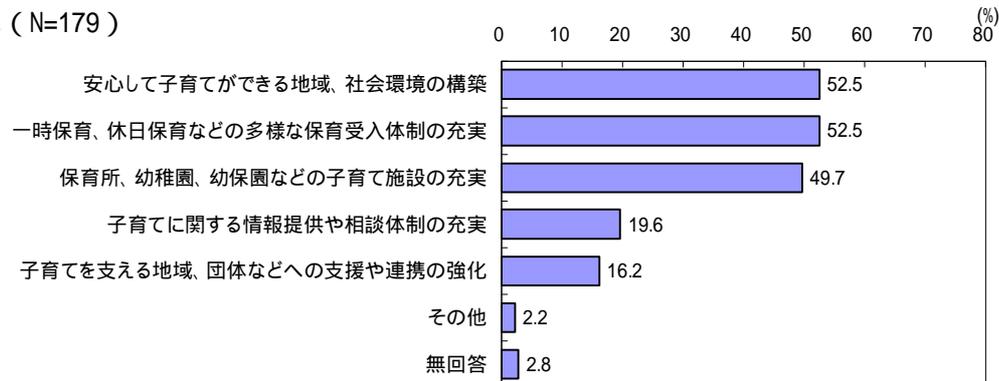
#### 20 歳代（N=107）



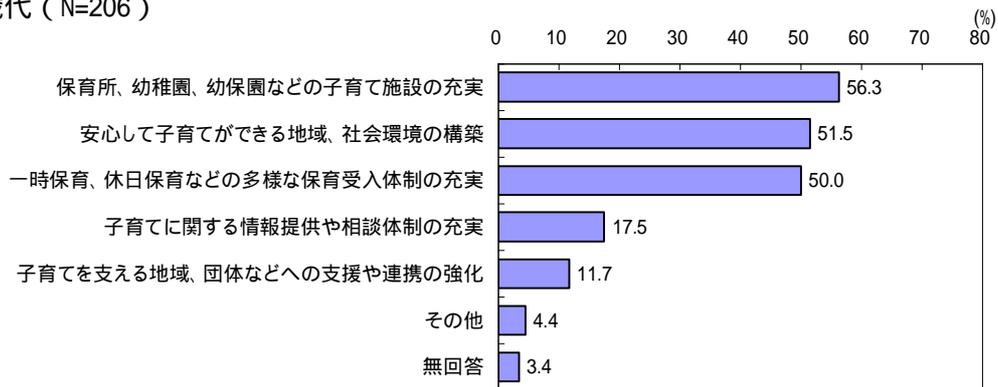
#### 30 歳代（N=133）



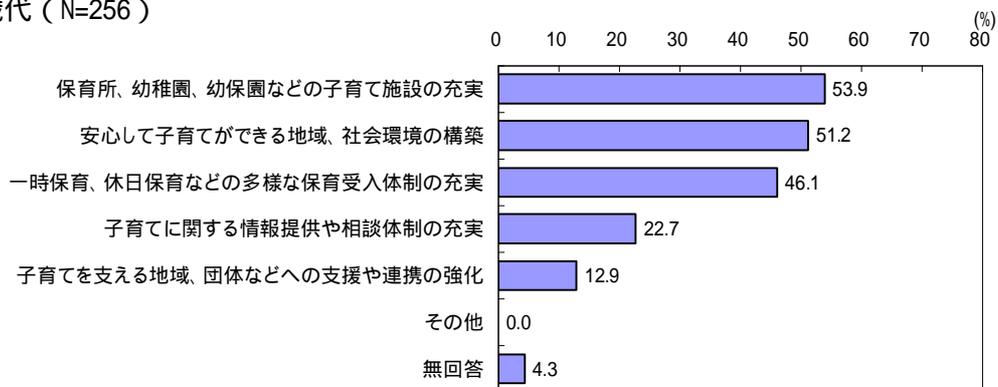
#### 40 歳代（N=179）



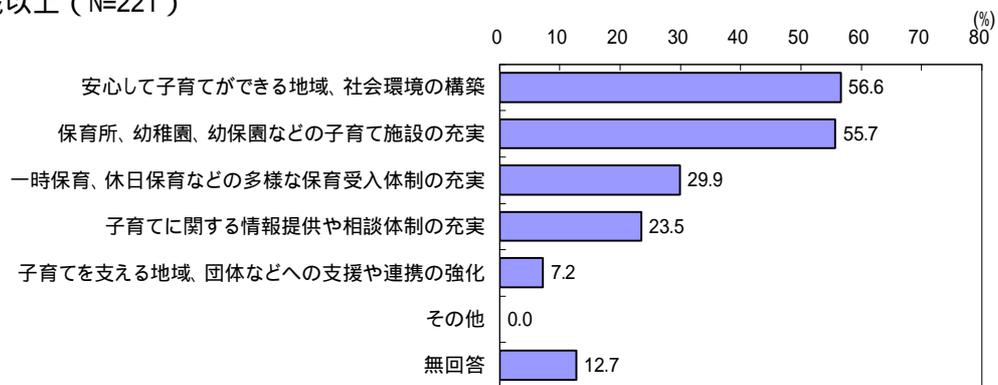
50 歳代 (N=206)



60 歳代 (N=256)



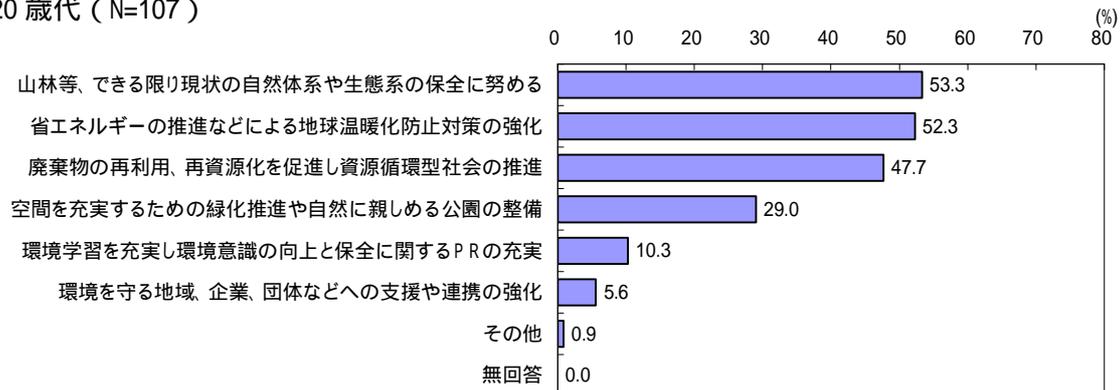
70 歳以上 (N=221)



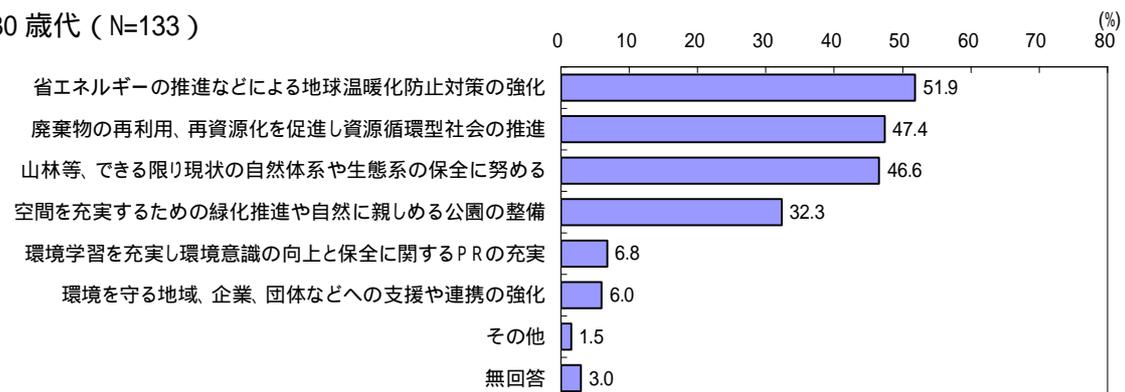
### 10．地球・自然環境の保全に関して力を入れるべき点（問13）

地球・自然環境の保全に関して、どのような点に力を入れるべきか尋ねたところ、各年齢層で「省エネルギーの推進などによる地球温暖化防止対策の強化」と「山林等、できる限り現状の自然体系や生態系の保全に努める」が50%前後の高い回答割合となっており、年代間に回答傾向の大きな差は見られませんでした。

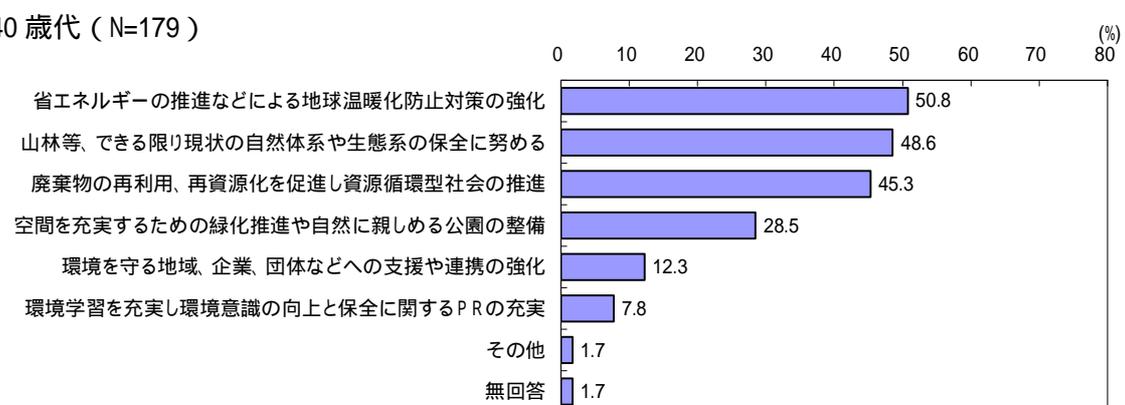
20 歳代 (N=107)



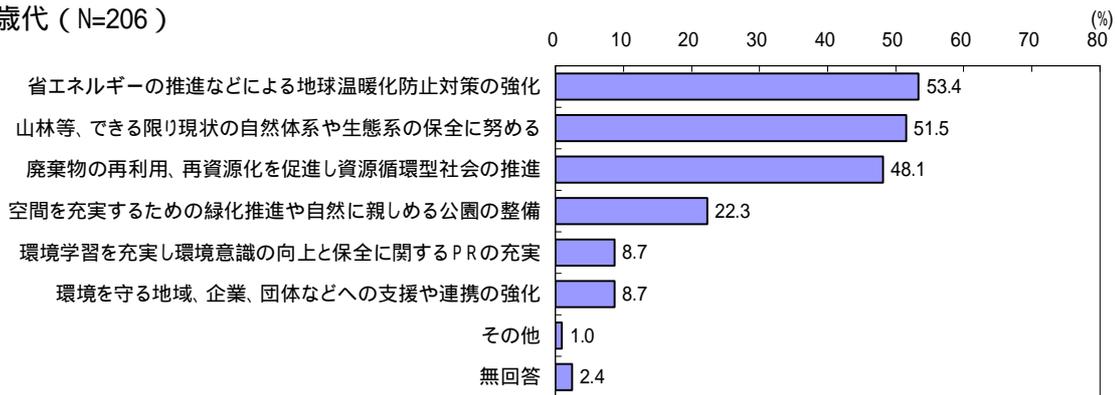
30 歳代 (N=133)



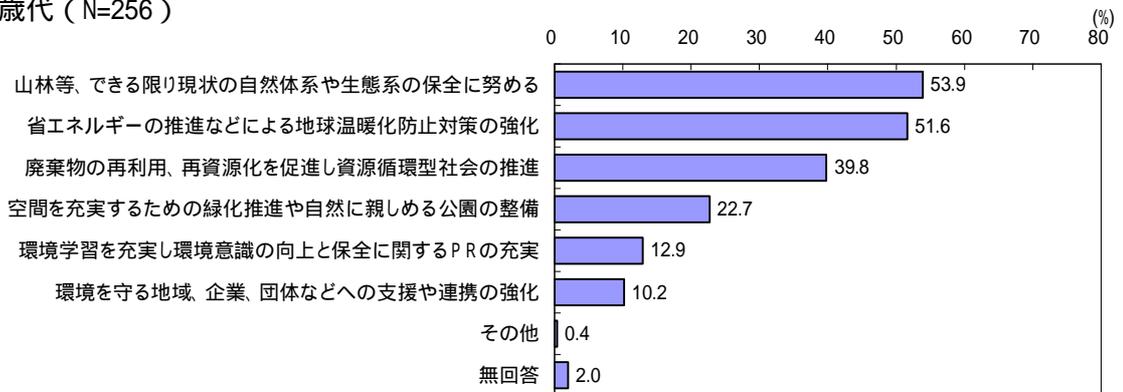
40 歳代 (N=179)



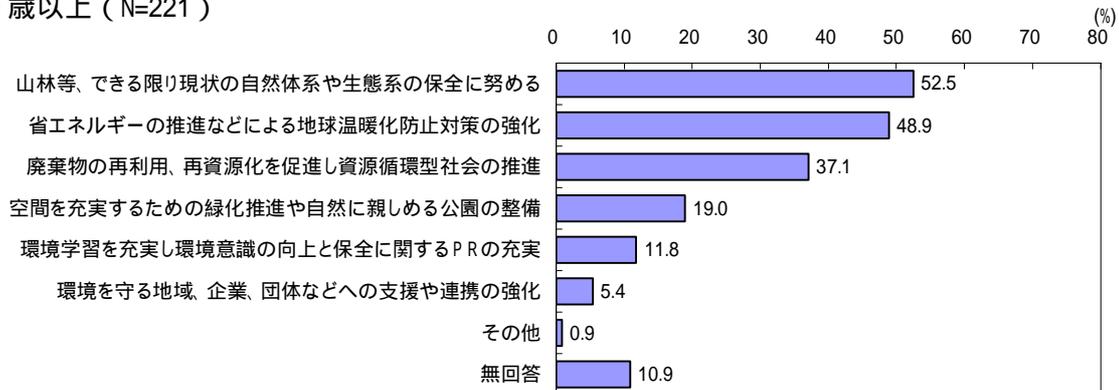
50 歳代 (N=206)



60 歳代 (N=256)



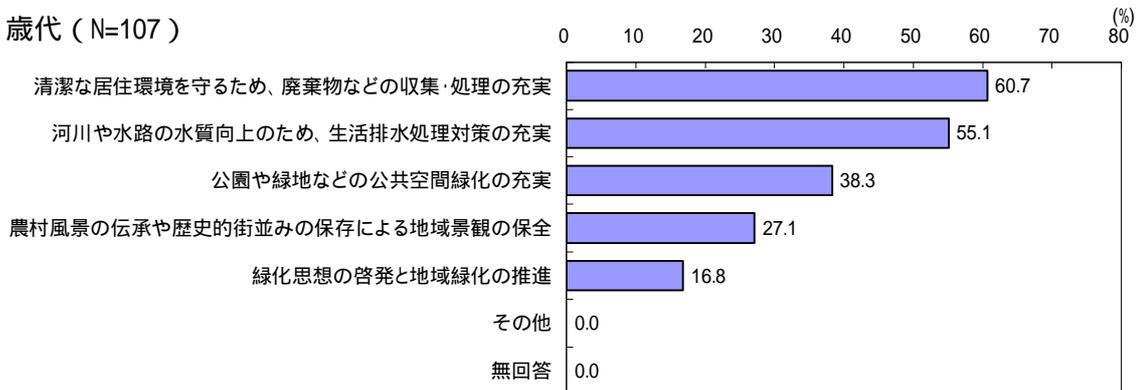
70 歳以上 (N=221)



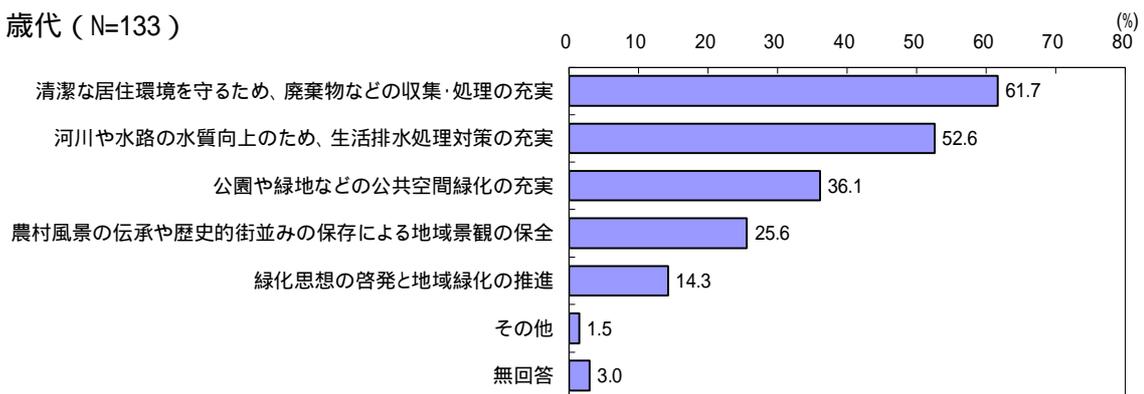
1.1. 快適な居住環境に関して力を入れるべき点（問14）

快適な居住環境に関して、どのような点に力を入れるべきか尋ねたところ、「20歳代」から「50歳代」までの各年齢層で、「清潔な居住環境を守るため、廃棄物などの収集・処理の充実」、「60歳代」「70歳以上」では、「河川や水路の水質向上のため、生活排水処理対策の充実」の回答割合が最も高くなりました。

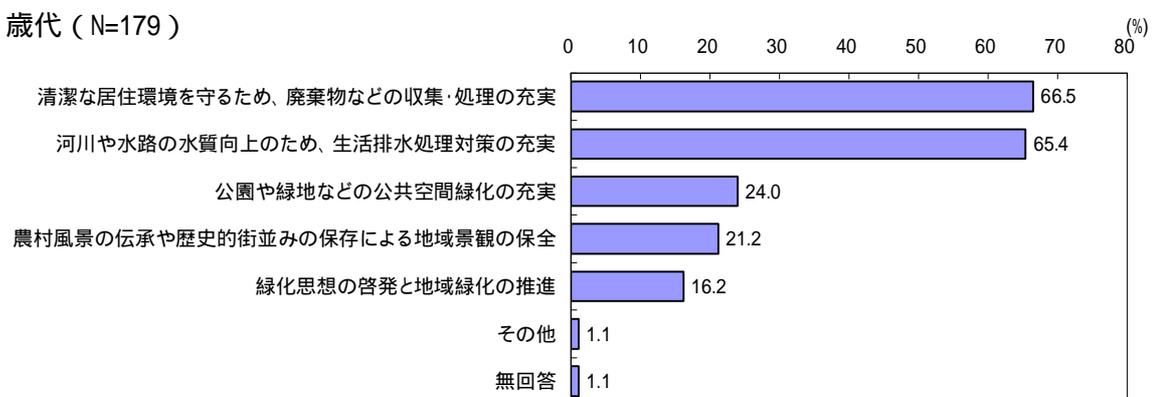
20歳代（N=107）



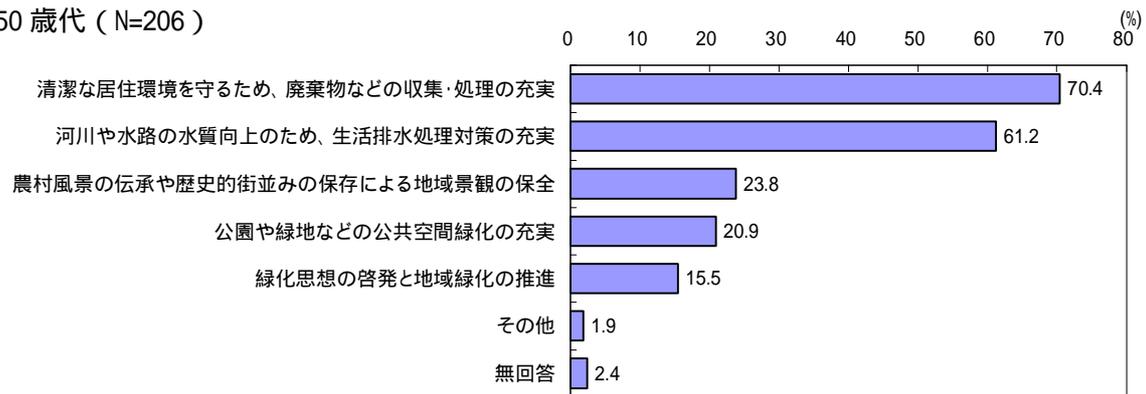
30歳代（N=133）



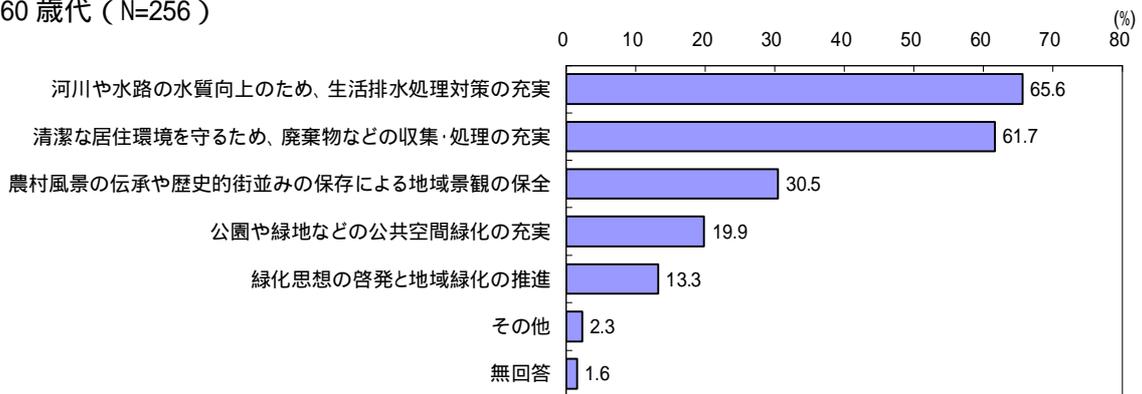
40歳代（N=179）



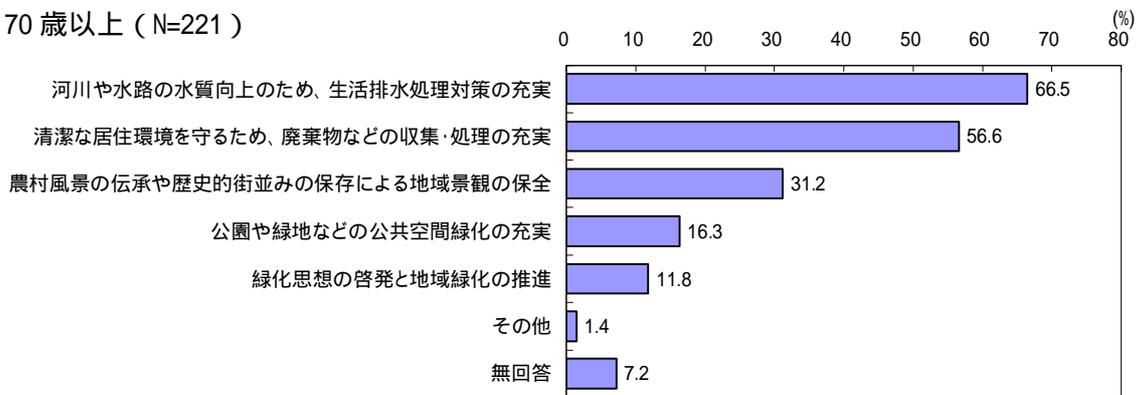
50 歳代 (N=206)



60 歳代 (N=256)

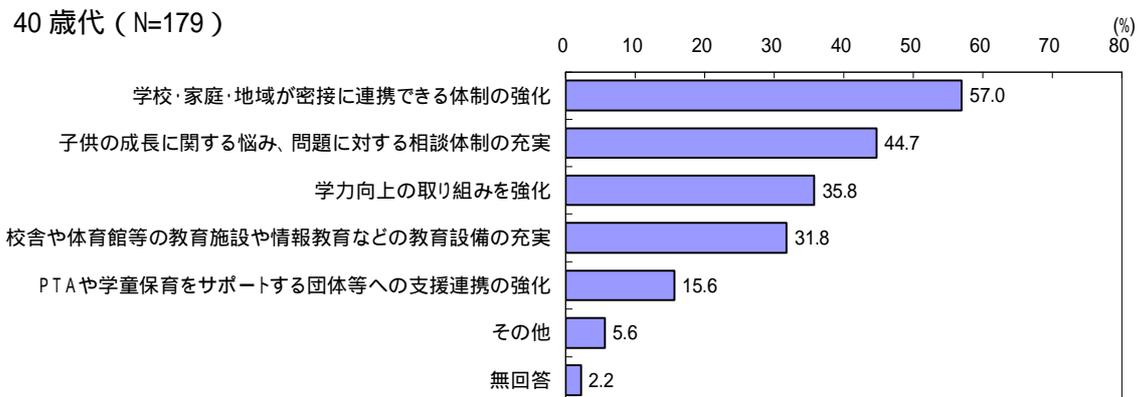
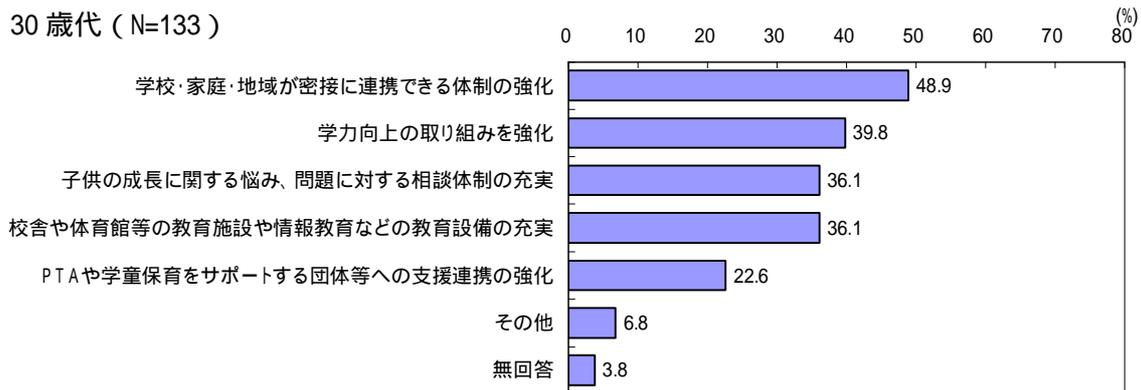
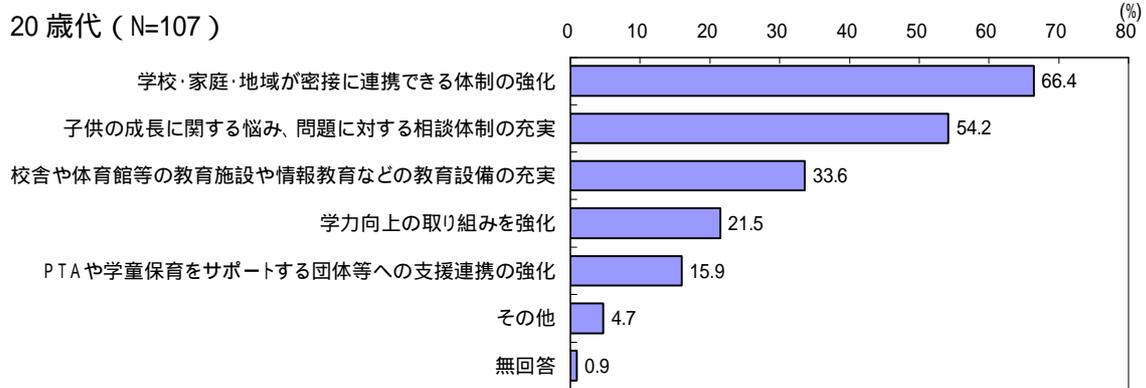


70 歳以上 (N=221)

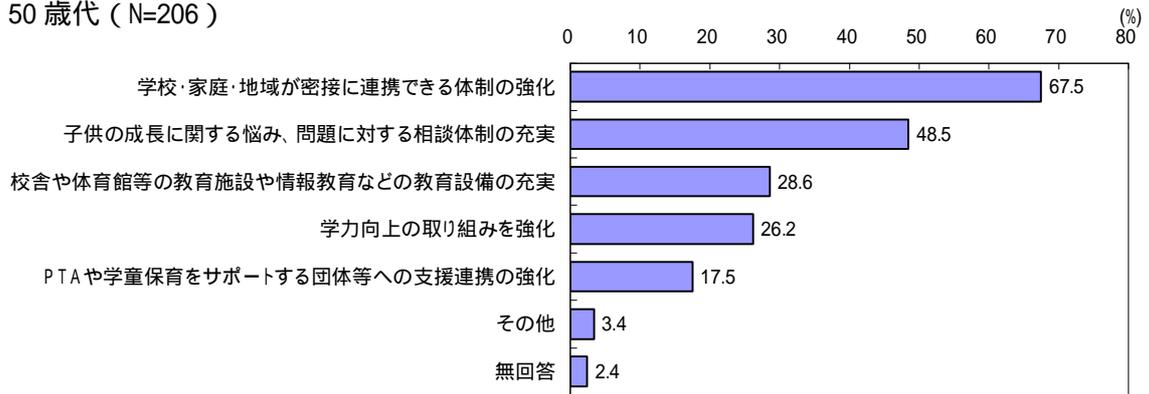


## 12. 子供の健全な成長に関して力を入れるべき点（問15）

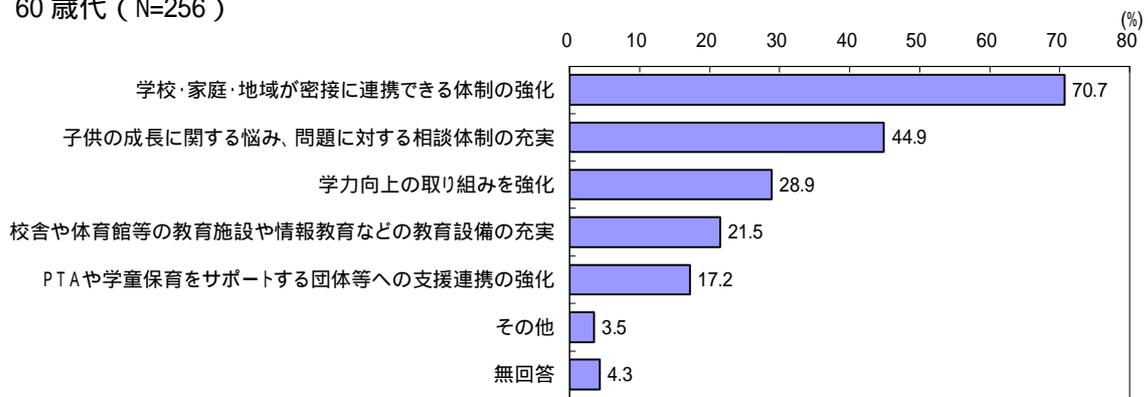
子供の健全な成長に関して、どのような点に力を入れるべきか尋ねたところ、各年齢層とも「学校・家庭・地域が密接に連携できる体制の強化」が最も高い回答割合となり、特に「60歳代」で70.7%と、期待が高いことがうかがえました。



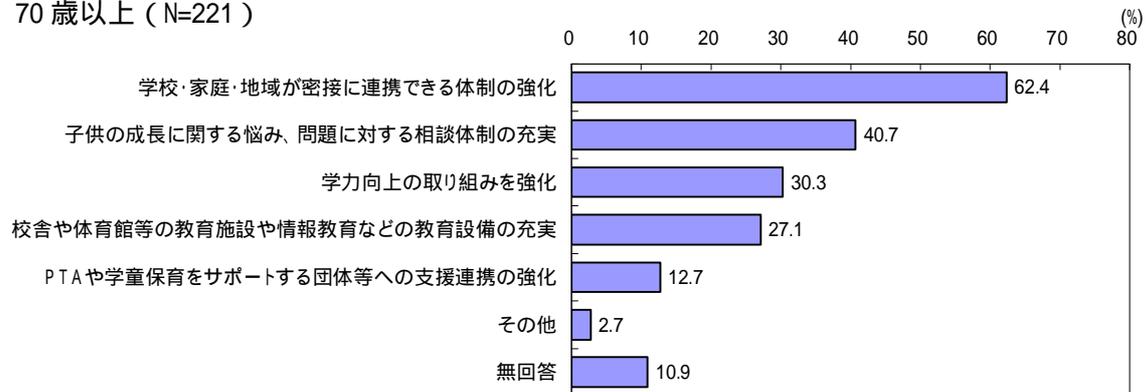
50 歳代 (N=206)



60 歳代 (N=256)



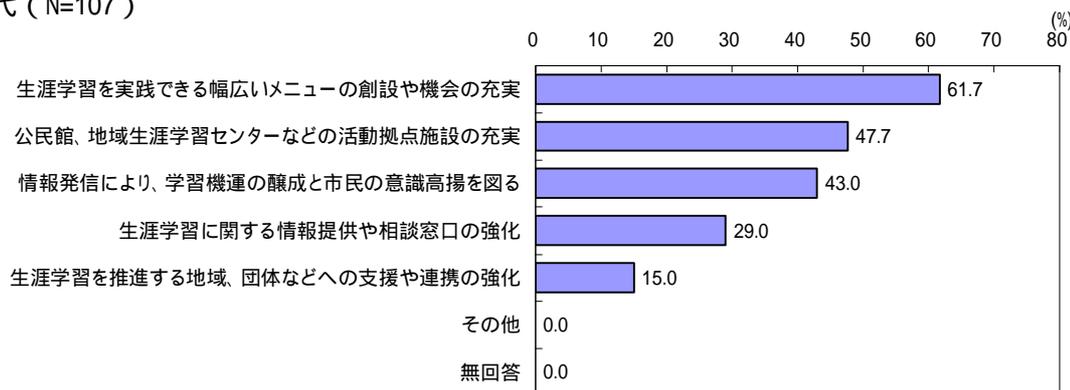
70 歳以上 (N=221)



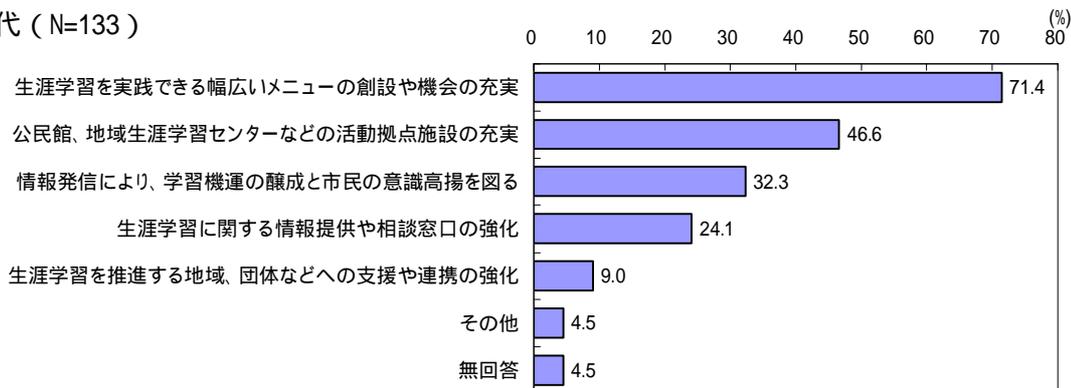
### 13. 生涯学習の推進に関して力を入れるべき点（問16）

生涯学習の推進に関して、どのような点に力を入れるべきか尋ねたところ、全ての年齢層で「生涯学習を实践できる幅広いメニューの創設や機会の充実」の回答割合が最も高く、特に「30歳代」71.4%と「50歳代」68.4%の期待が高いことがうかがえました。一方、「70歳以上」では、「公民館、地域生涯学習センターなどの活動拠点施設の充実」も49.3%で高い回答割合となりました。

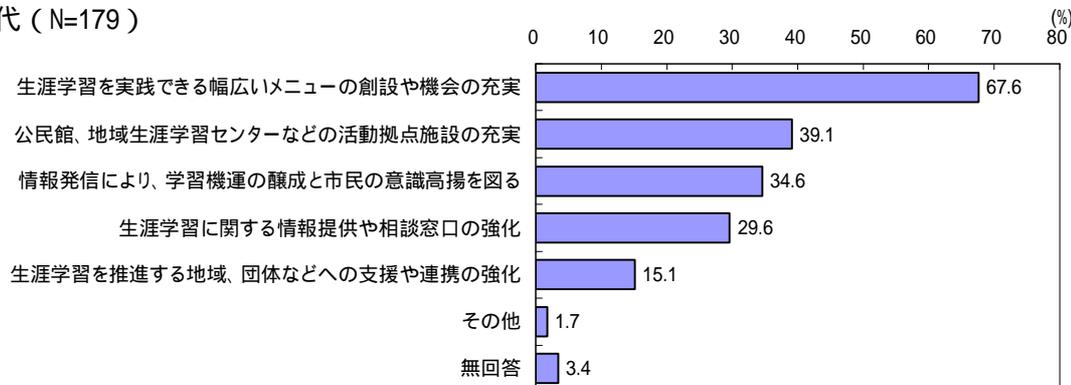
#### 20歳代（N=107）



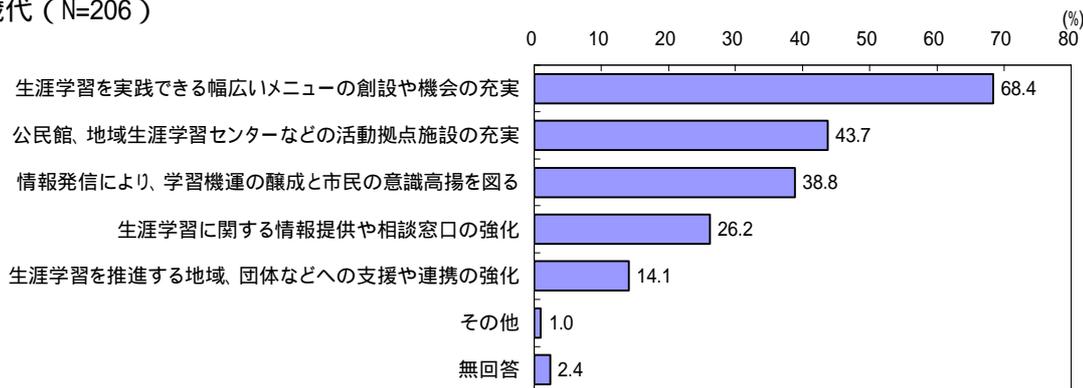
#### 30歳代（N=133）



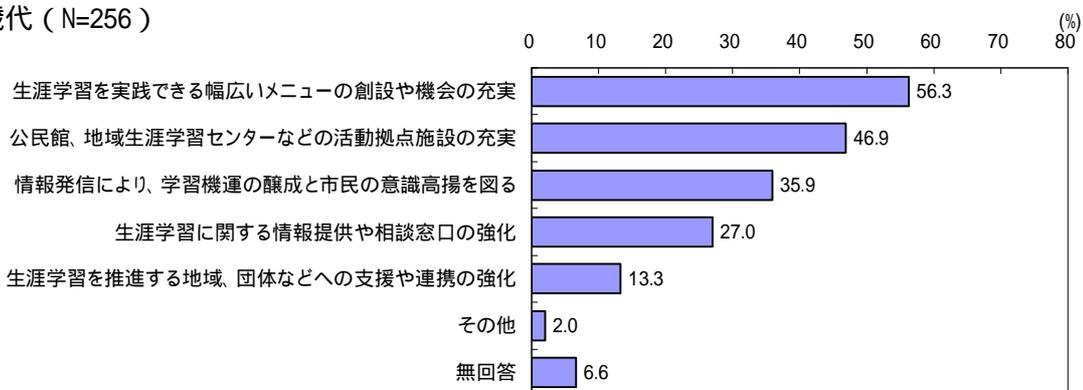
#### 40歳代（N=179）



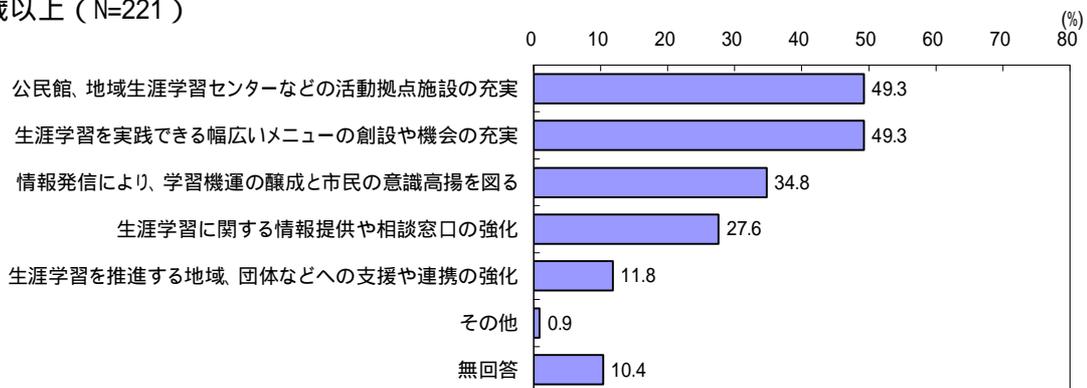
50 歳代 (N=206)



60 歳代 (N=256)



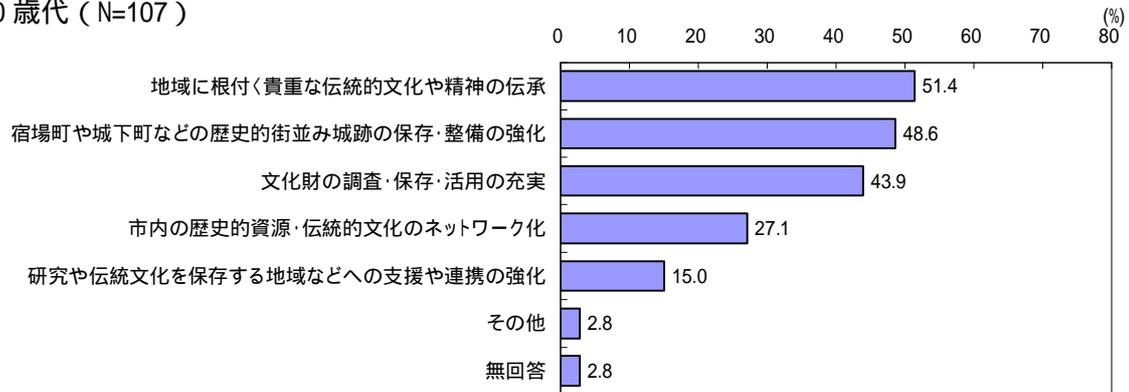
70 歳以上 (N=221)



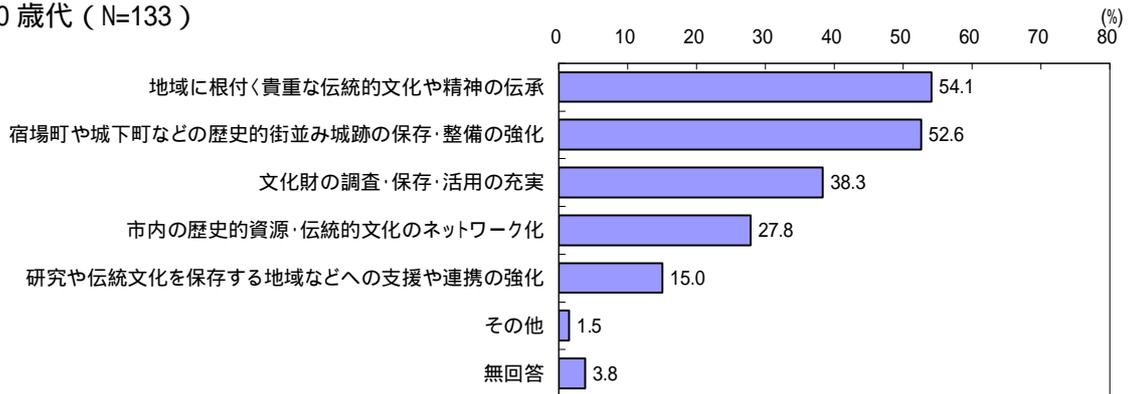
1 4 歴史的資源や伝統文化の保全再生活用に関して力を入れるべき点(問17)

歴史的資源や伝統文化の保全、再生、活用に関して、どのような点に力を入れるべきか尋ねたところ、各年齢層で「地域に根付く貴重な伝統文化や精神の伝承」と「宿場町や城下町などの歴史的街並み城跡の保存・整備の強化」が50%前後の高い回答割合となりました。

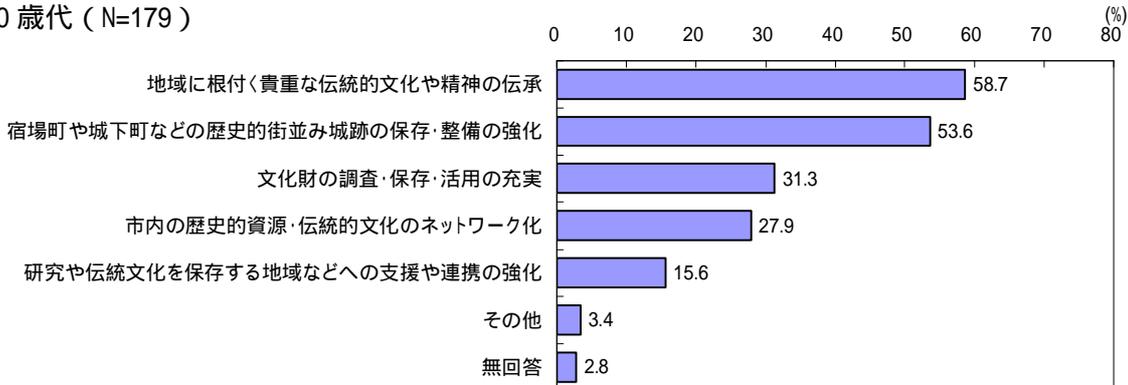
20 歳代 (N=107)



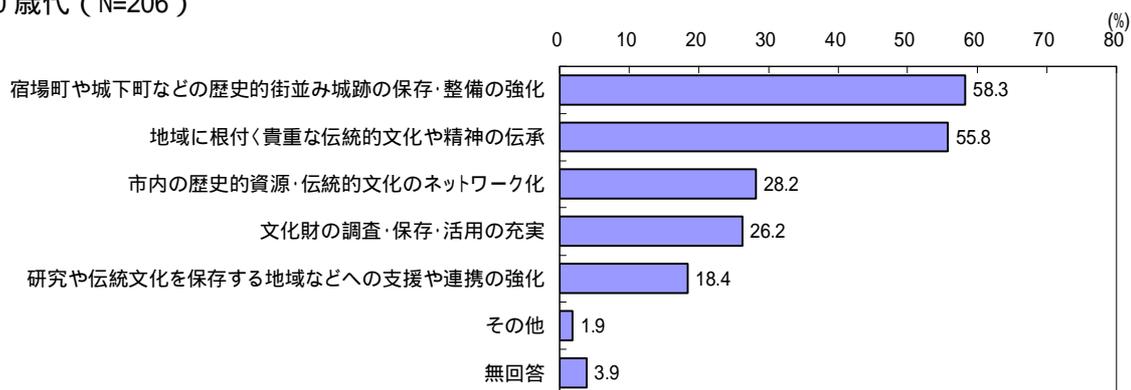
30 歳代 (N=133)



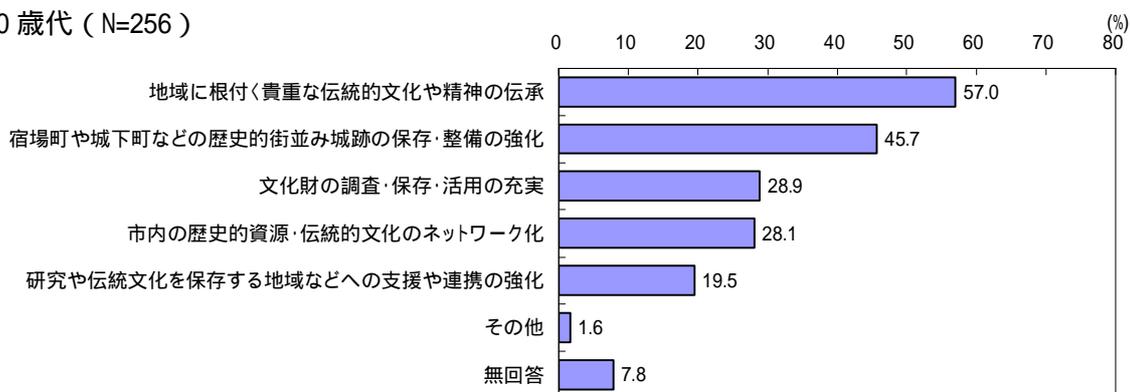
40 歳代 (N=179)



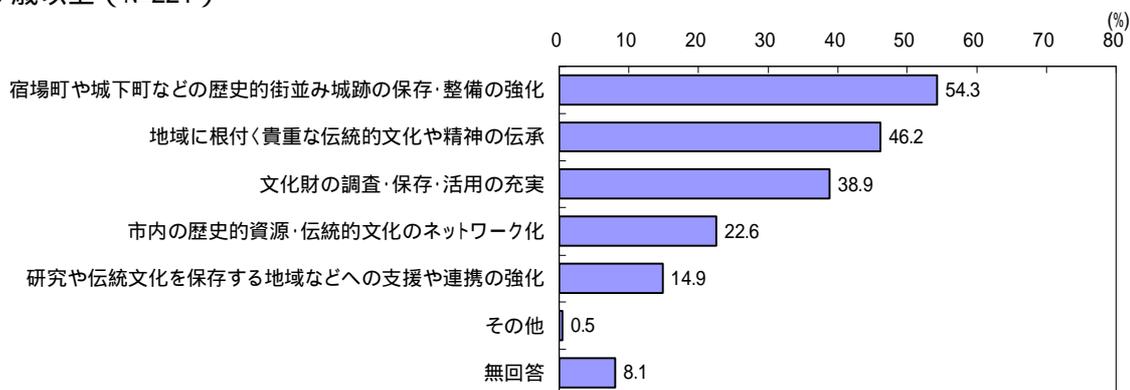
50 歳代 (N=206)



60 歳代 (N=256)



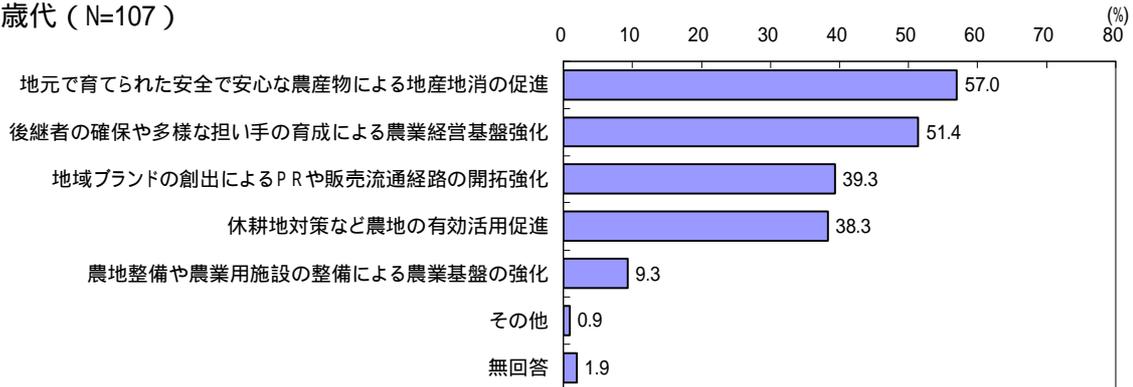
70 歳以上 (N=221)



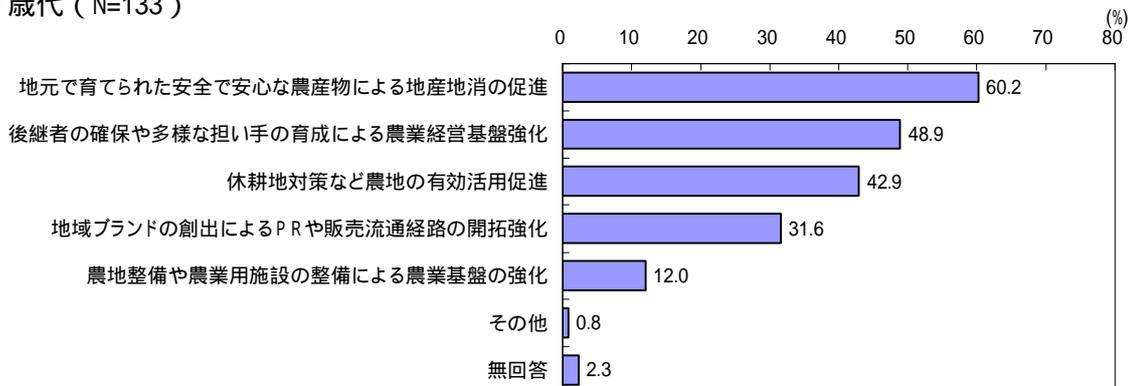
### 15. 農業に関して力を入れるべき点（問18）

農業に関して、どのような点に力を入れるべきか尋ねたところ、「20歳代」から「60歳代」の各年齢層で「地元で育てられた安全で安心な農作物による地産地消の促進」が最も高い回答割合となりました。このほか、「20歳代」「30歳代」「40歳代」では、「後継者の確保や多様な担い手の育成による農業経営基盤強化」、「50歳代」以上では、「休耕地対策など農地の有効活用促進」の回答割合も高い結果となりました。

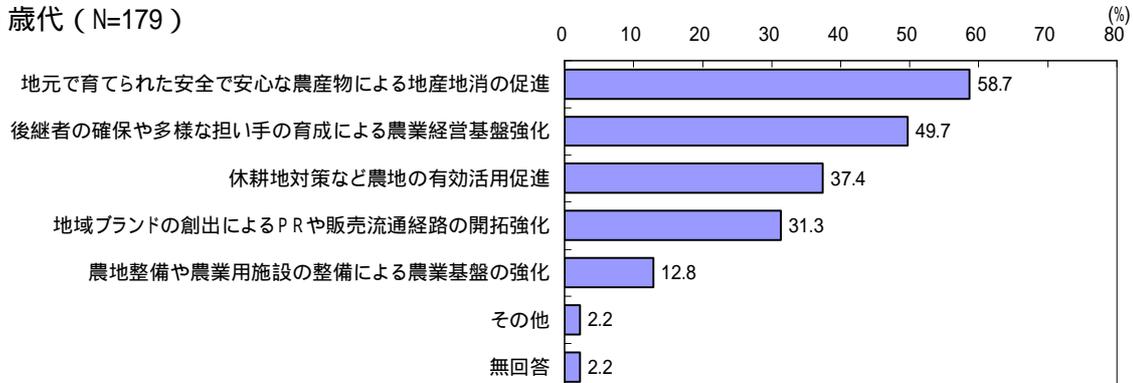
#### 20歳代（N=107）



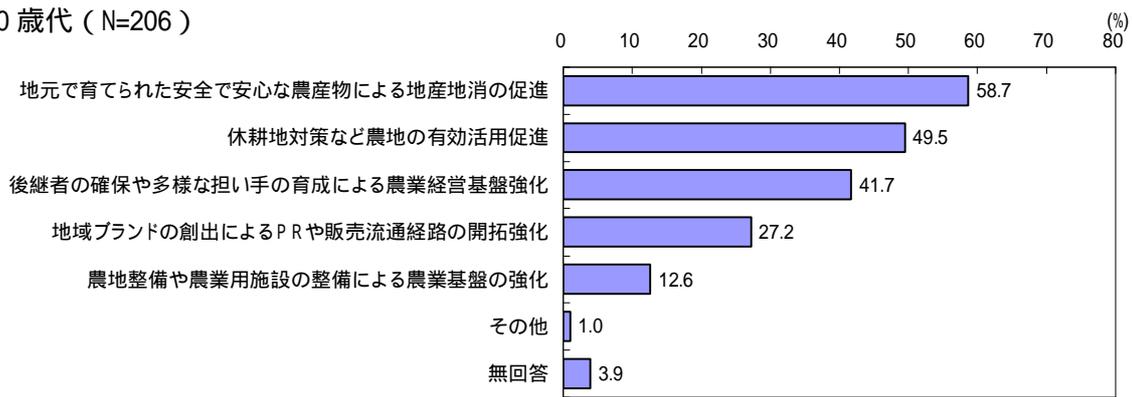
#### 30歳代（N=133）



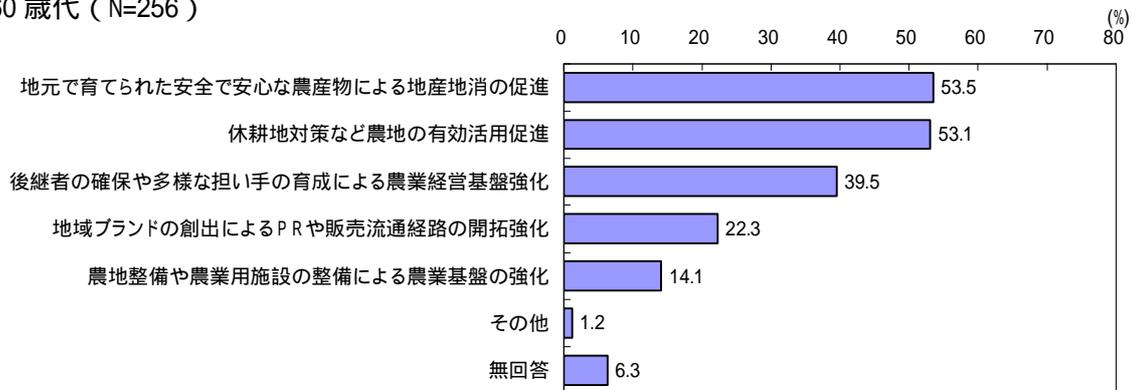
#### 40歳代（N=179）



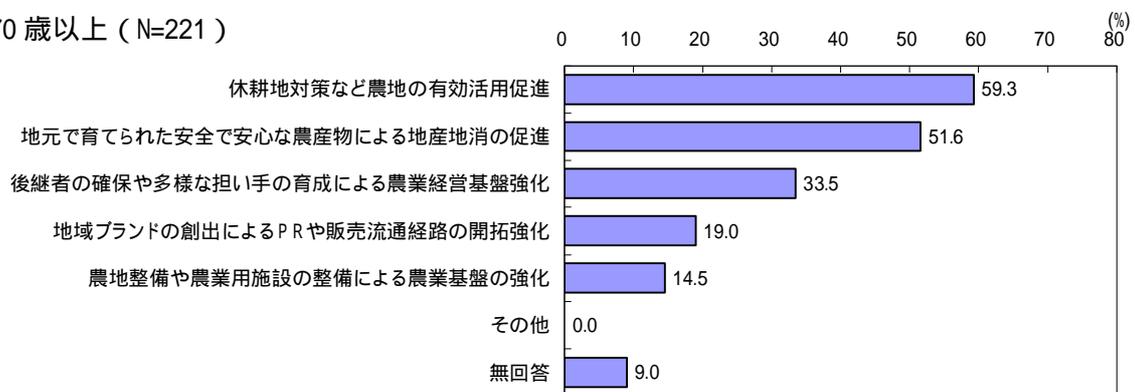
50 歳代 (N=206)



60 歳代 (N=256)



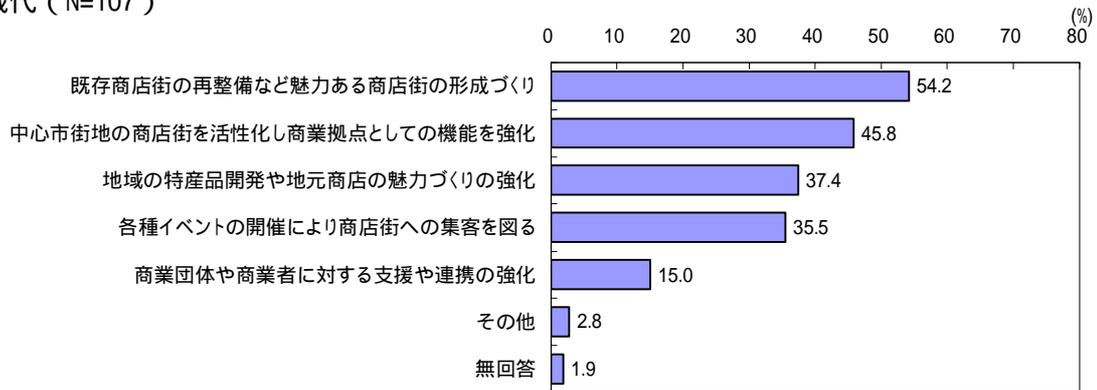
70 歳以上 (N=221)



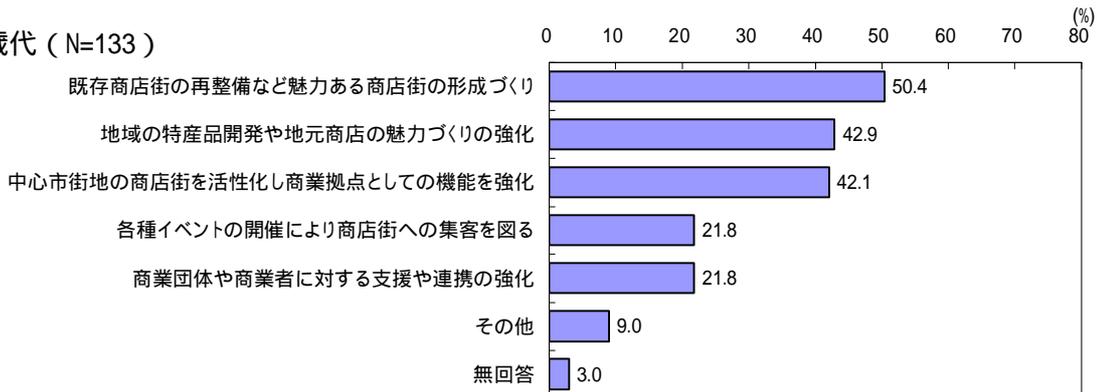
### 16. 商業に関して力を入れるべき点（問19）

商業に関して、どのような点に力を入れるべきか尋ねたところ、各年齢層で「既存商店街の再整備など魅力ある商店街の形成づくり」と「地域の特産品開発や地元商店の魅力づくりの強化」の回答割合が50%前後で高くなりました。

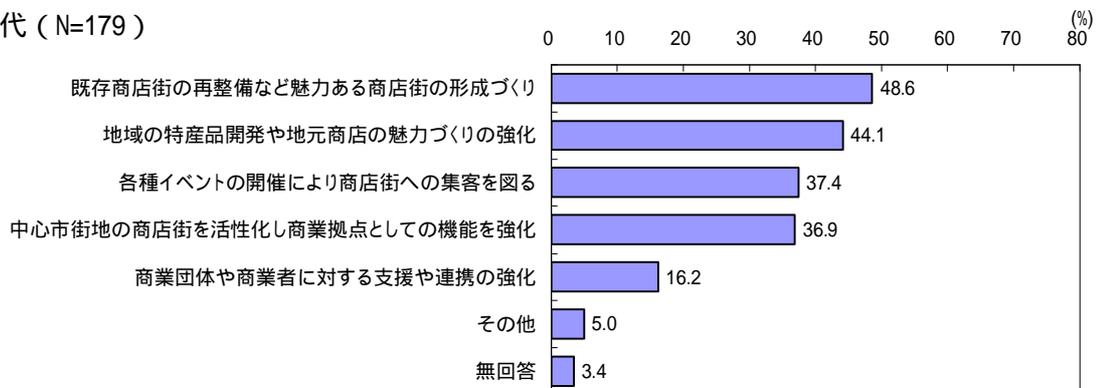
#### 20 歳代（N=107）



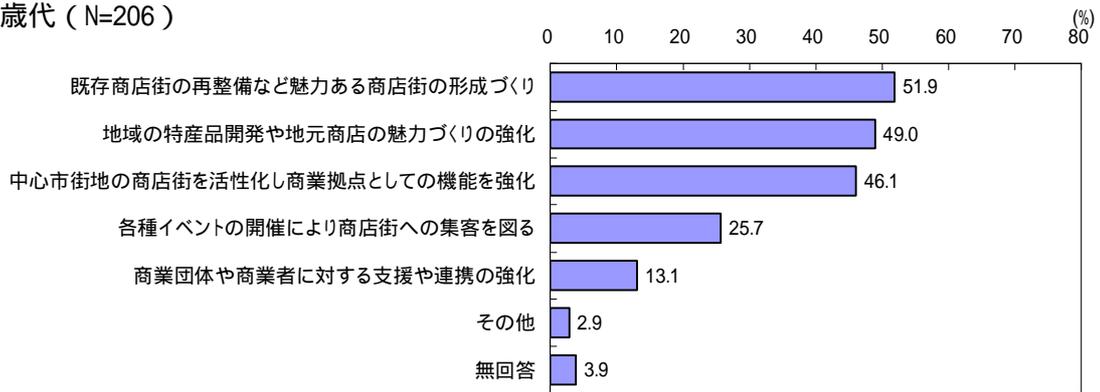
#### 30 歳代（N=133）



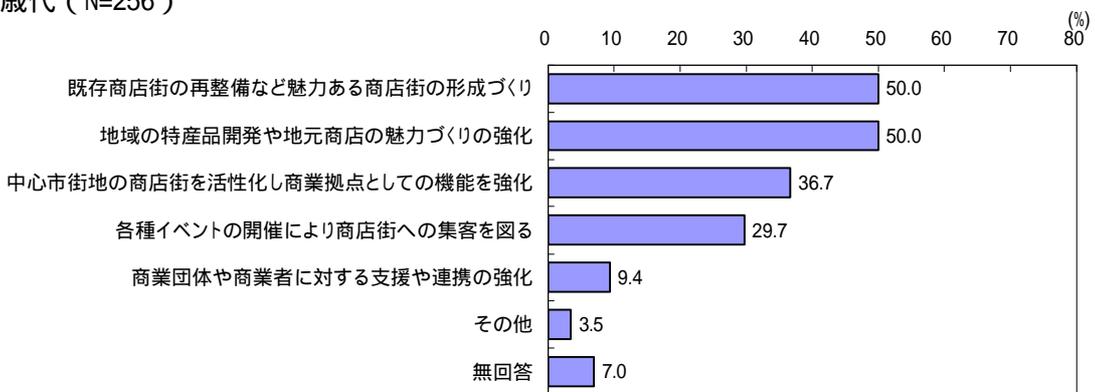
#### 40 歳代（N=179）



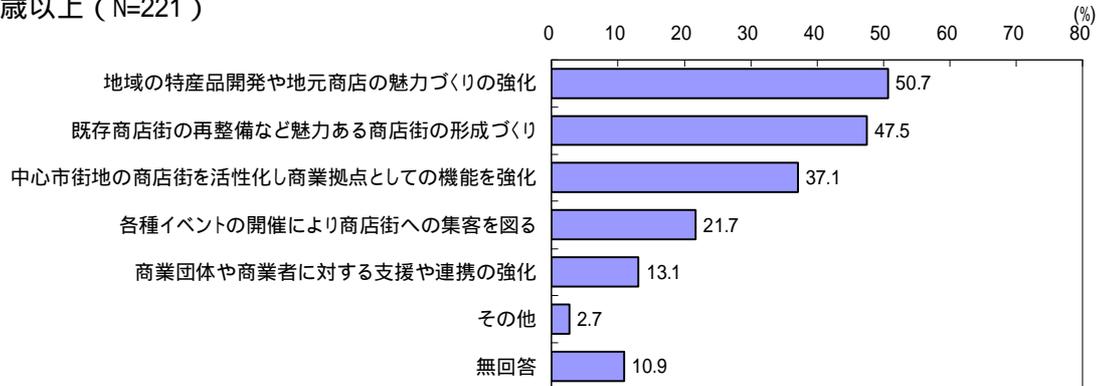
50 歳代 (N=206)



60 歳代 (N=256)



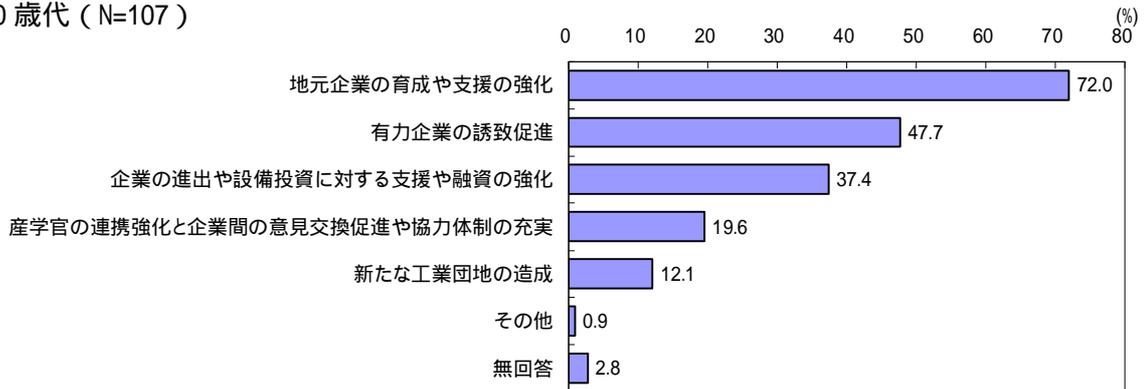
70 歳以上 (N=221)



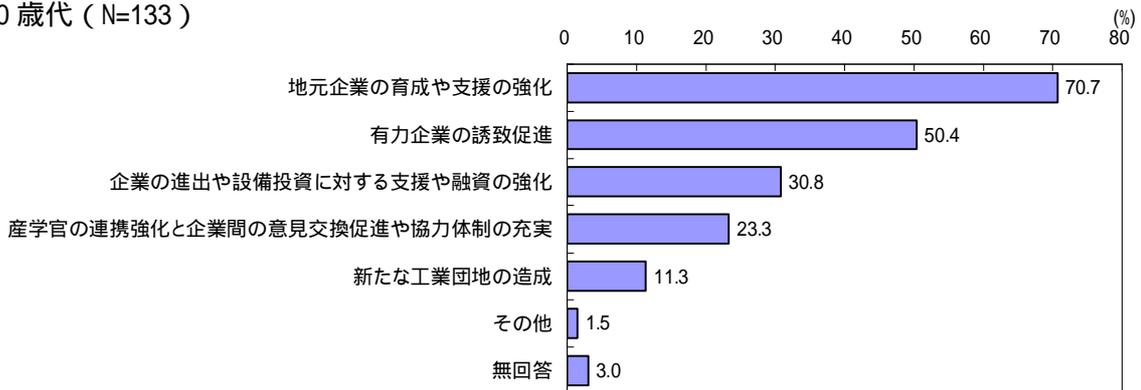
### 17. 工業に関して力を入れるべき点（問20）

工業に関して、どのような点に力を入れるべきか尋ねたところ、「20歳代」「30歳代」「40歳代」などでは、「地元企業の育成や支援の強化」が最も高い回答割合となった一方、「50歳代」「60歳代」を中心に「有力企業の誘致促進」の回答割合が高くなる傾向が見られました。

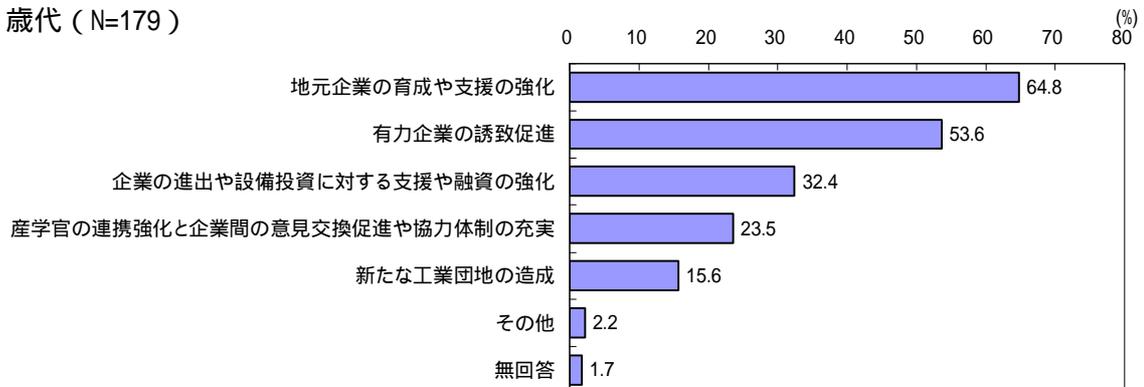
20歳代（N=107）



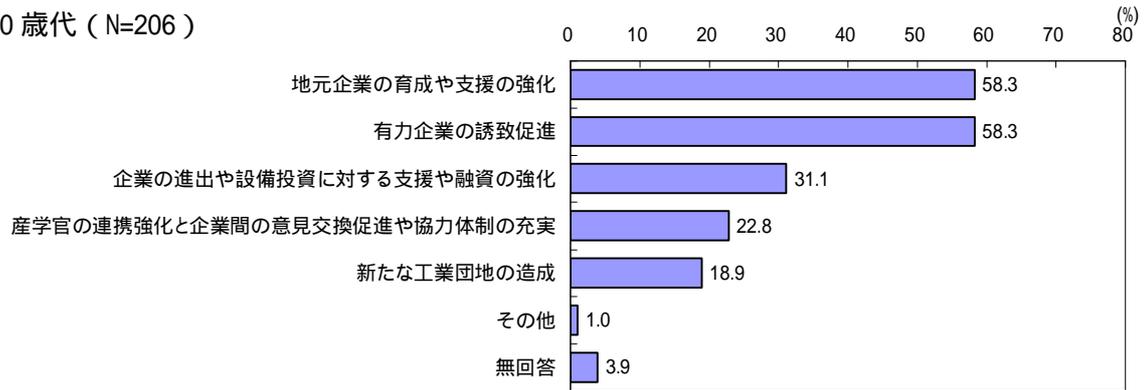
30歳代（N=133）



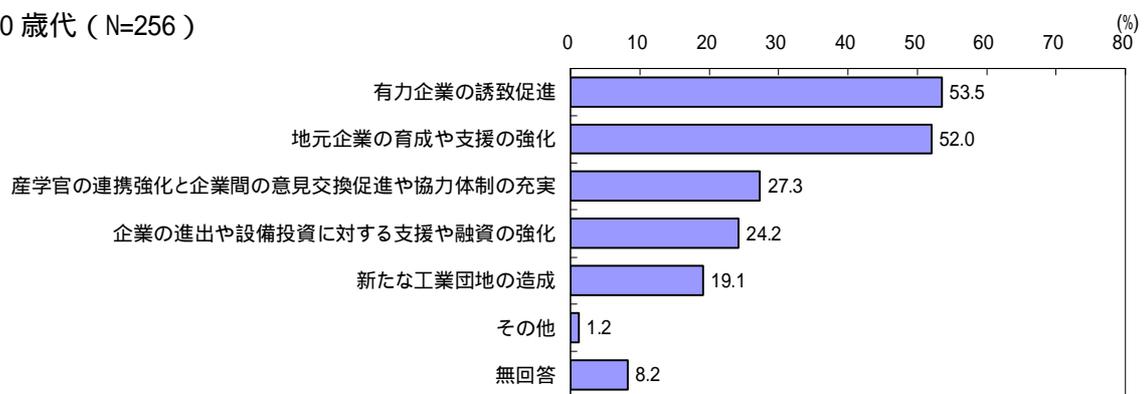
40歳代（N=179）



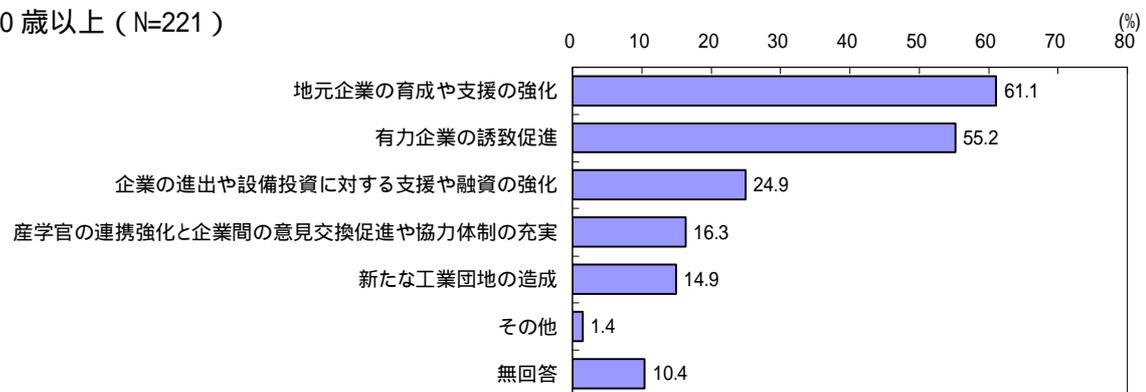
50 歳代 (N=206)



60 歳代 (N=256)



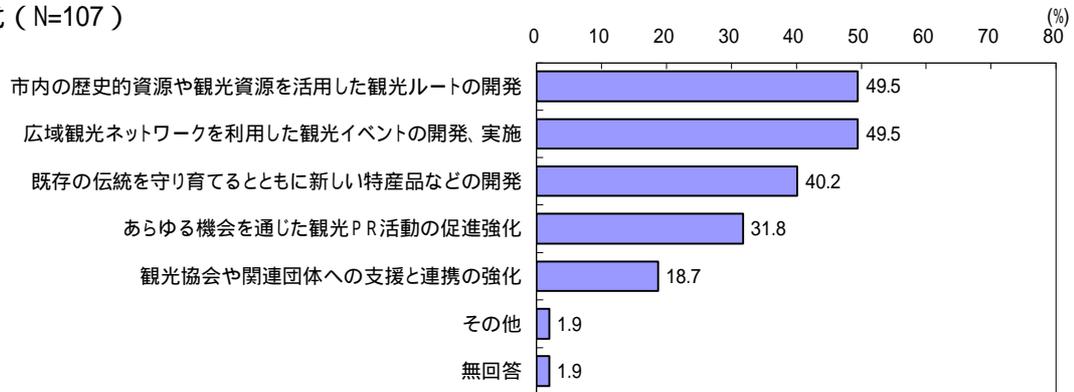
70 歳以上 (N=221)



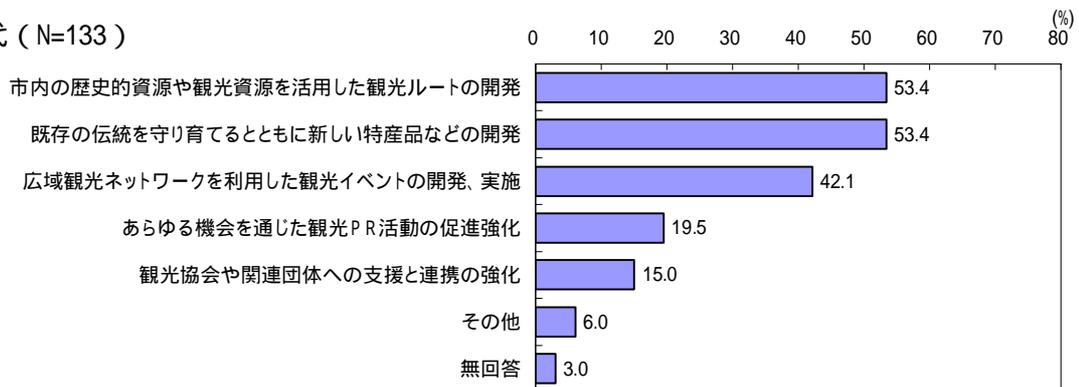
### 18. 観光に関して力を入れるべき点（問21）

観光に関して、どのような点に力を入れるべきか尋ねたところ、全ての年齢層で「市内の歴史的資源や観光資源を活用した観光ルートの開発」の回答割合が最も高くなりました。

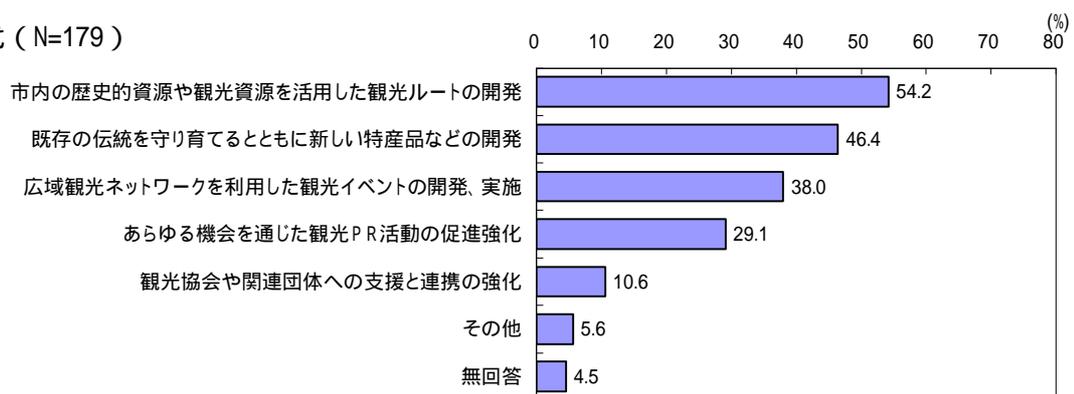
20 歳代（N=107）



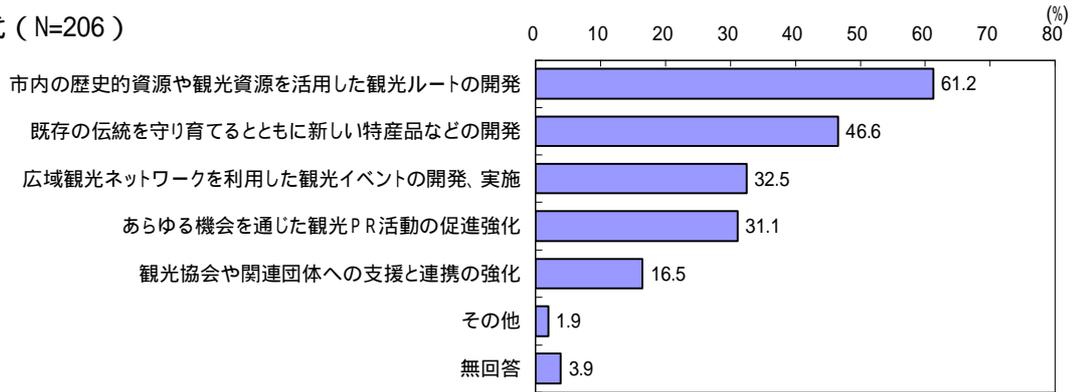
30 歳代（N=133）



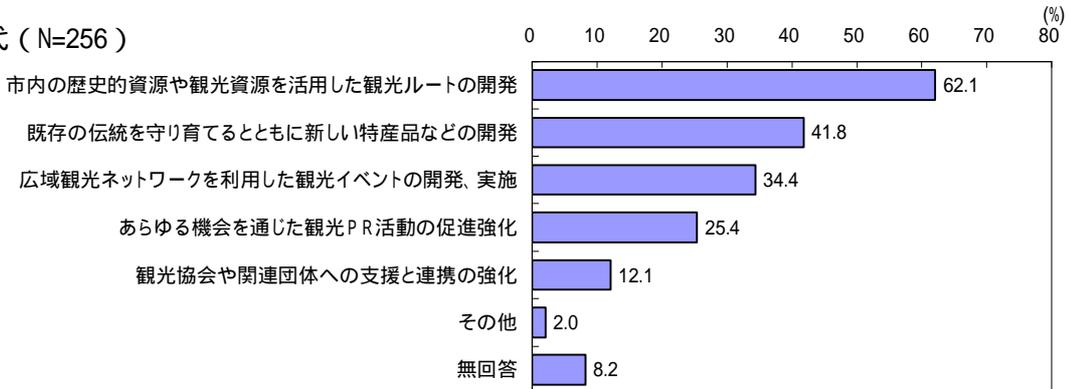
40 歳代（N=179）



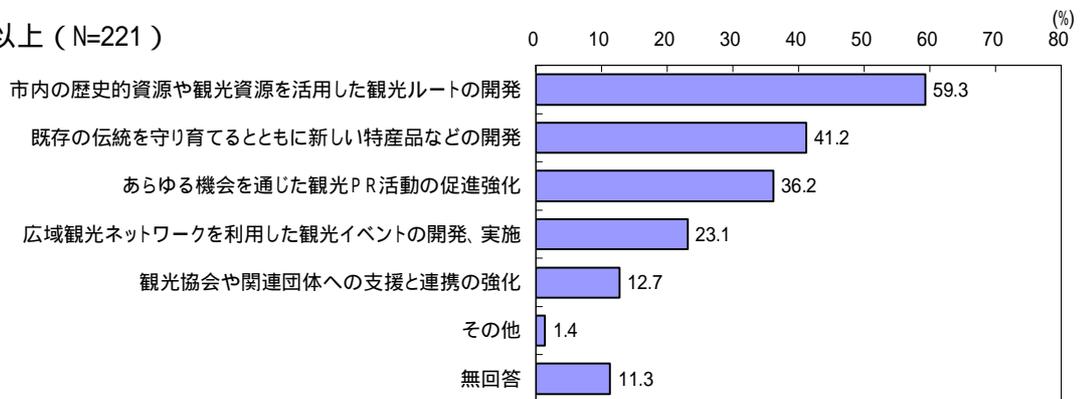
50 歳代 (N=206)



60 歳代 (N=256)



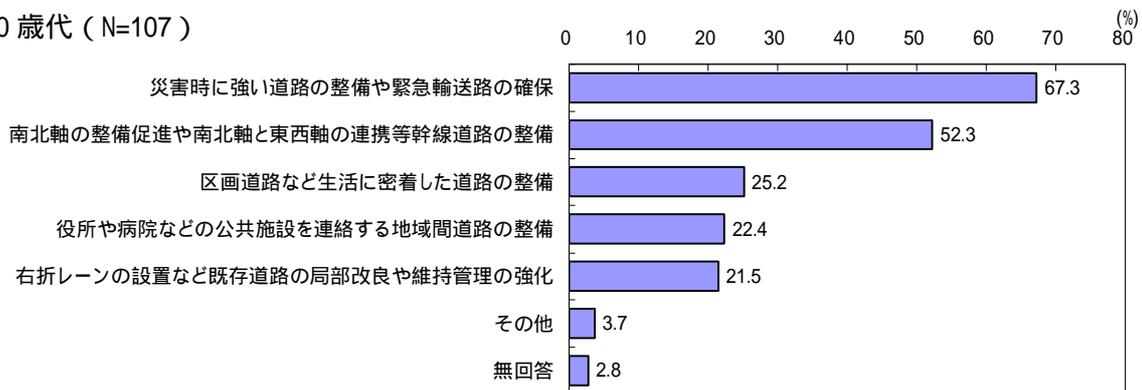
70 歳以上 (N=221)



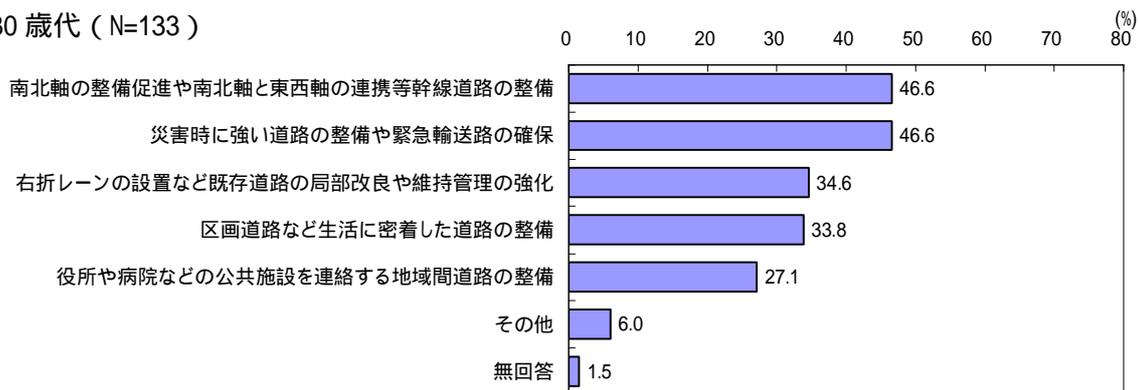
### 19. 道路に関して力を入れるべき点（問22）

道路に関して、どのような点に力を入れるべきか尋ねたところ、年齢層が低いほど「災害時に強い道路の整備や緊急輸送路の確保」の回答割合が高く、年齢層が上がるとともに「南北軸の整備促進や南北軸と東西軸の連携等幹線道路の整備」の回答割合が高くなる傾向がうかがえました。

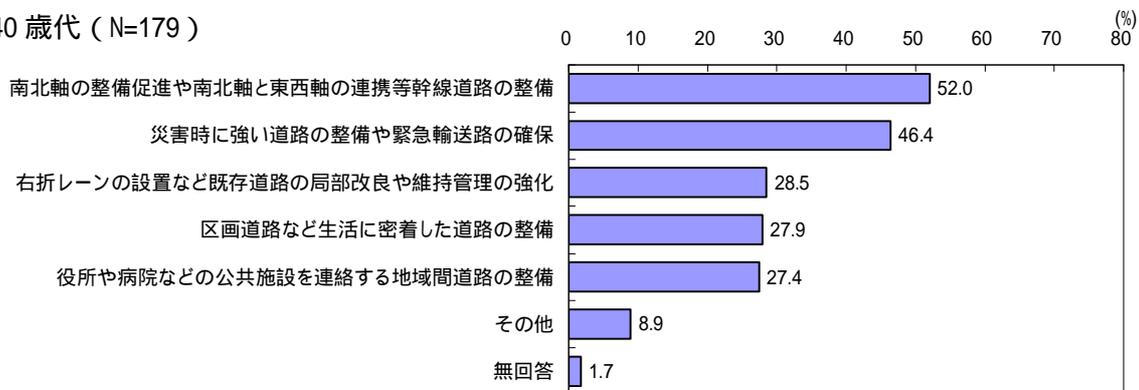
20 歳代（N=107）



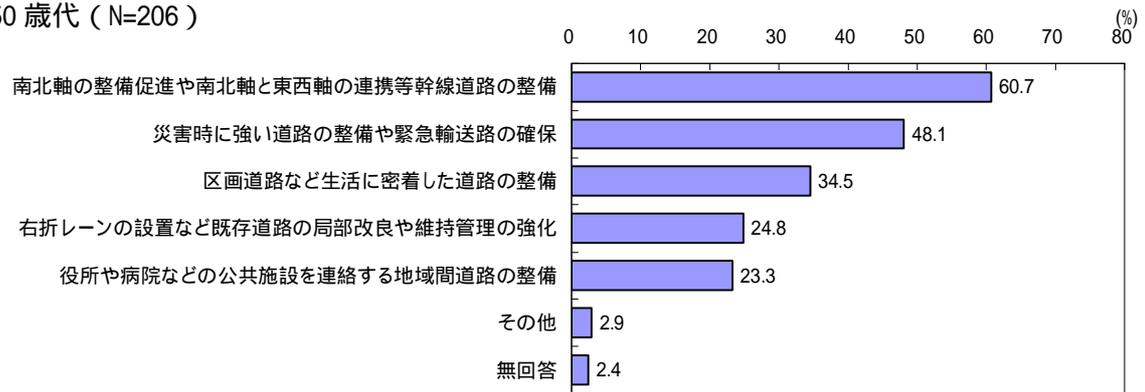
30 歳代（N=133）



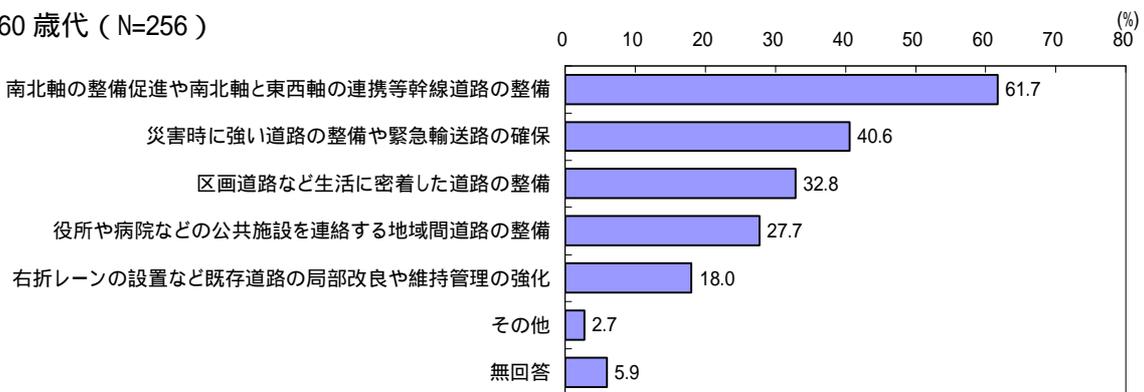
40 歳代（N=179）



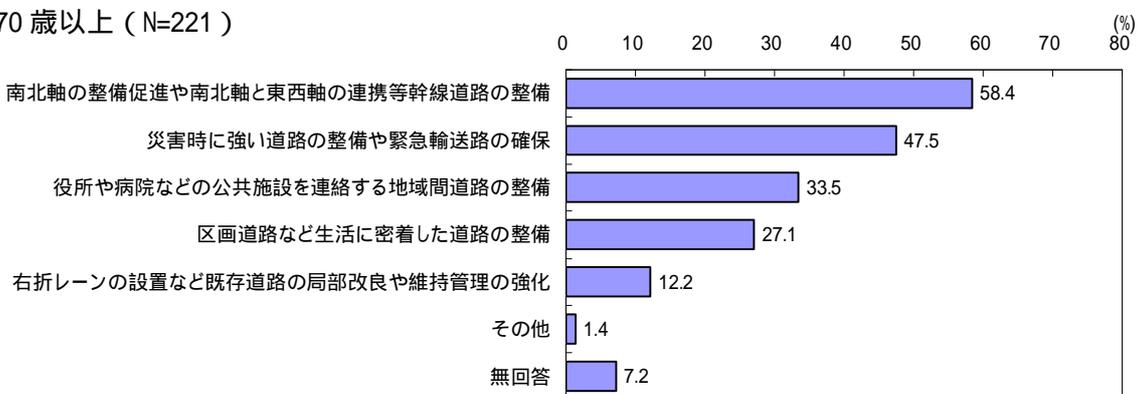
50 歳代 (N=206)



60 歳代 (N=256)



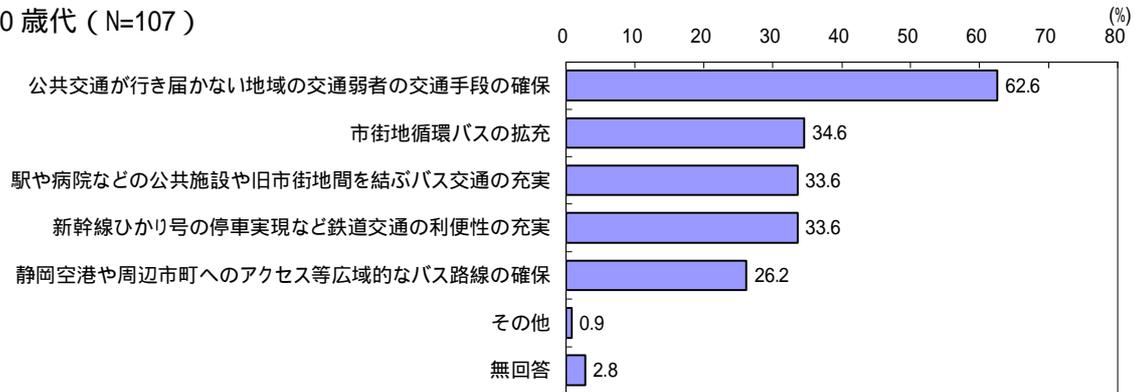
70 歳以上 (N=221)



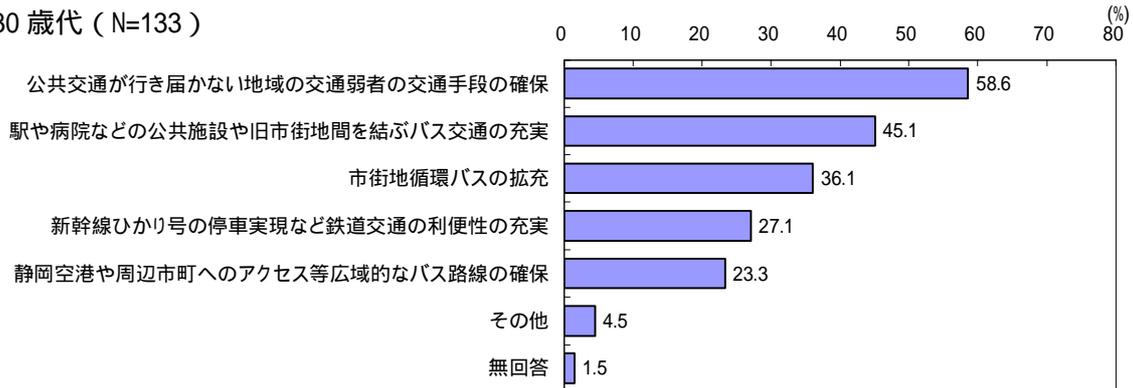
## 20 . 地域公共交通に関して力を入れるべき点 (問23)

地域公共交通に関して、どのような点に力を入れるべきか尋ねたところ、全ての年齢層で「公共交通が行き届かない地域の交通弱者の交通手段の確保」が最も高い回答割合となりました。

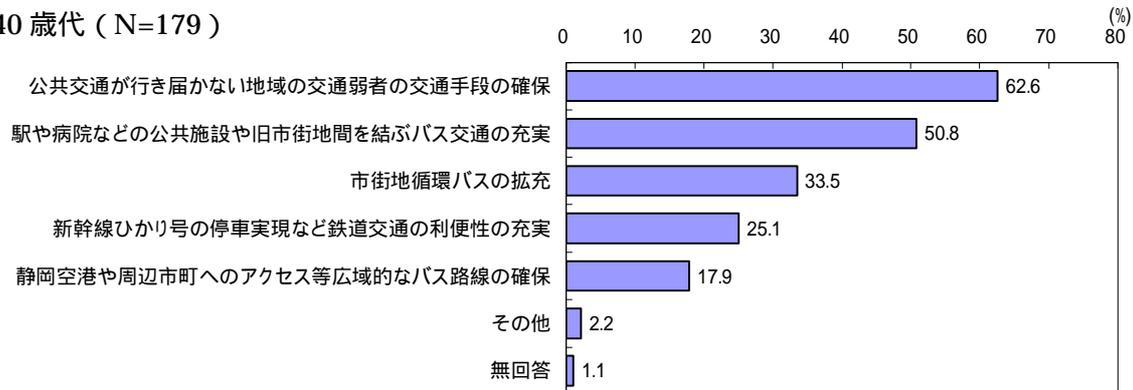
### 20 歳代 (N=107)



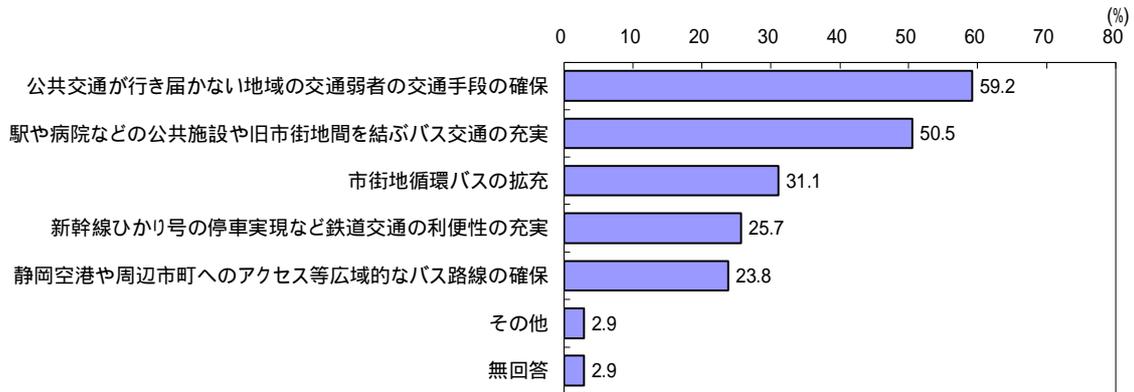
### 30 歳代 (N=133)



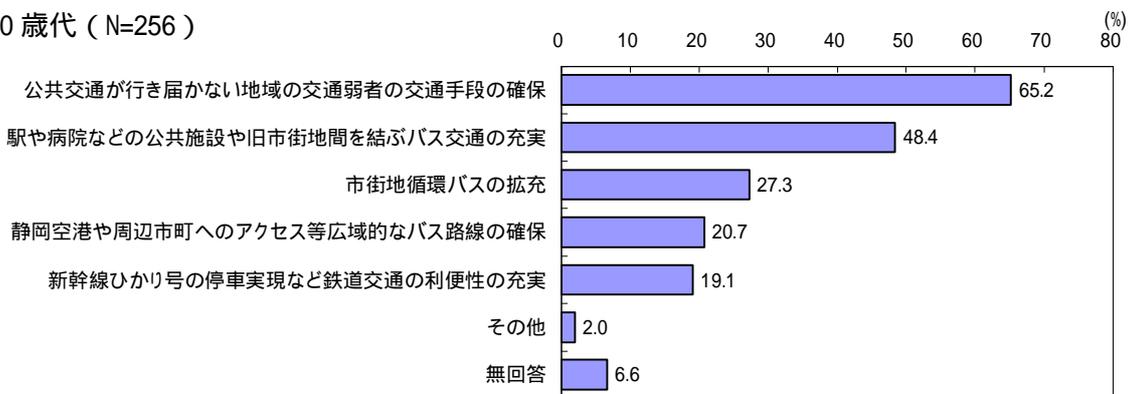
### 40 歳代 (N=179)



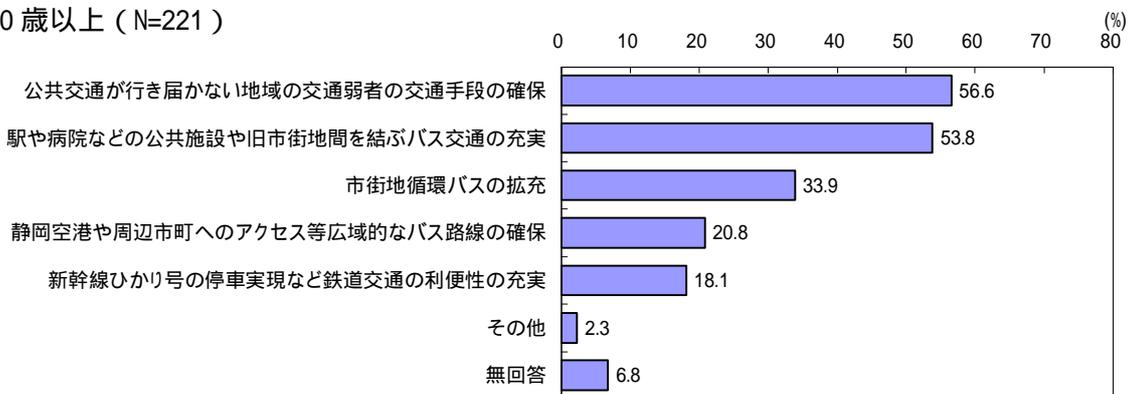
50 歳代 ( N=206 )



60 歳代 ( N=256 )



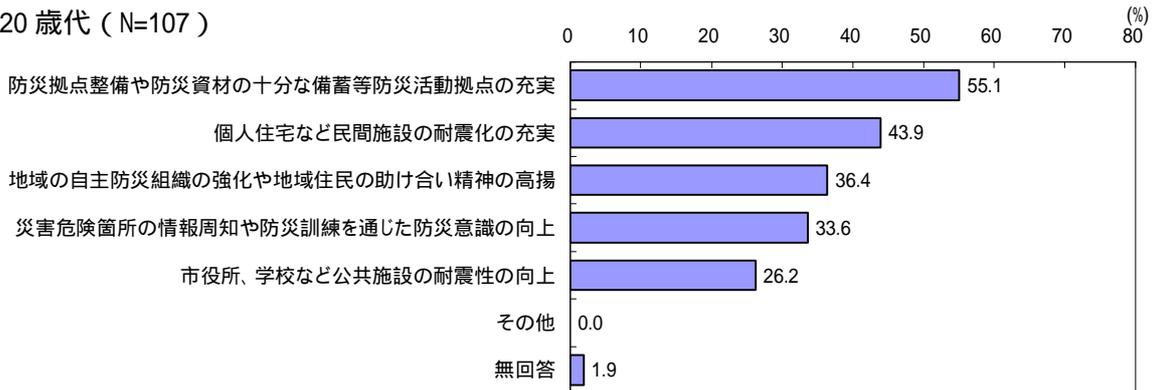
70 歳以上 ( N=221 )



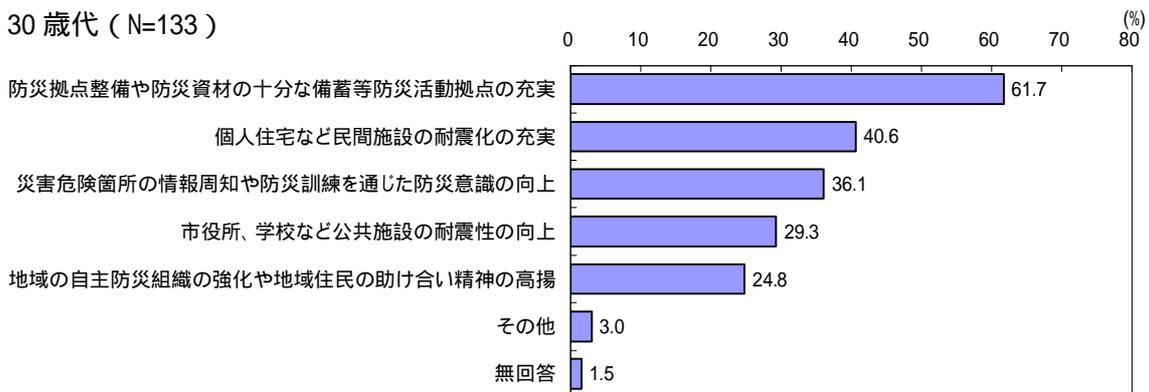
## 2.1. 防災体制に関して力を入れるべき点（問24）

防災体制に関して、どのような点に力を入れるべきか尋ねたところ、全ての年齢層で「防災拠点整備や防災資材の十分な備蓄等防災活動拠点の充実」の回答割合が最も高く、特に「30歳代」「40歳代」「50歳代」で、他の項目を大きく上回りました。一方、「60歳代」「70歳以上」では、「地域の自主防災組織の強化や地域住民の助け合い精神の高揚」を重視する傾向もうかがえました。

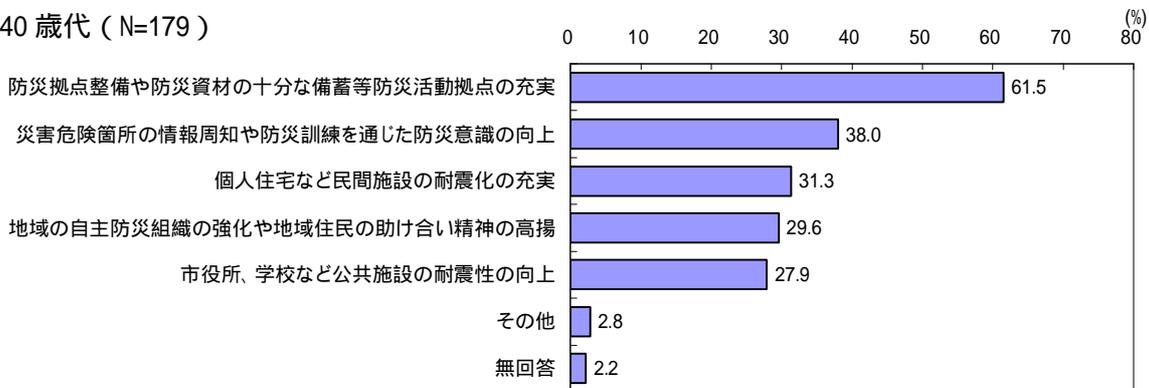
20歳代（N=107）



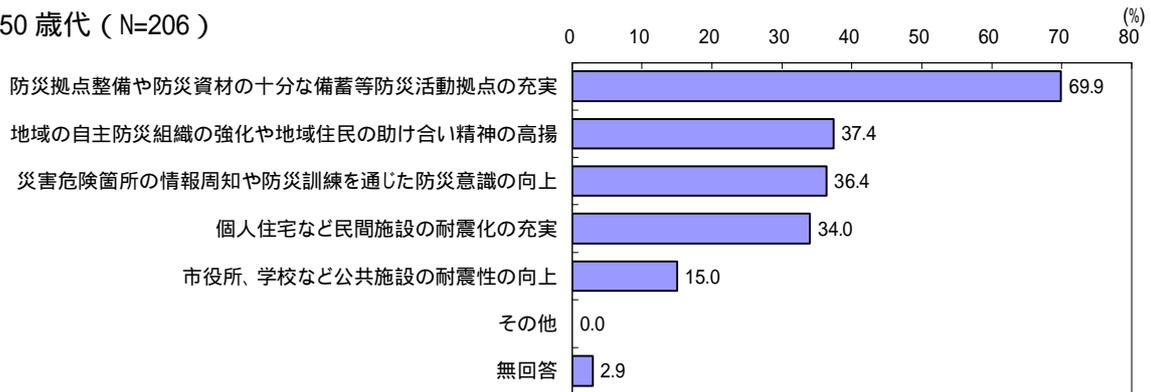
30歳代（N=133）



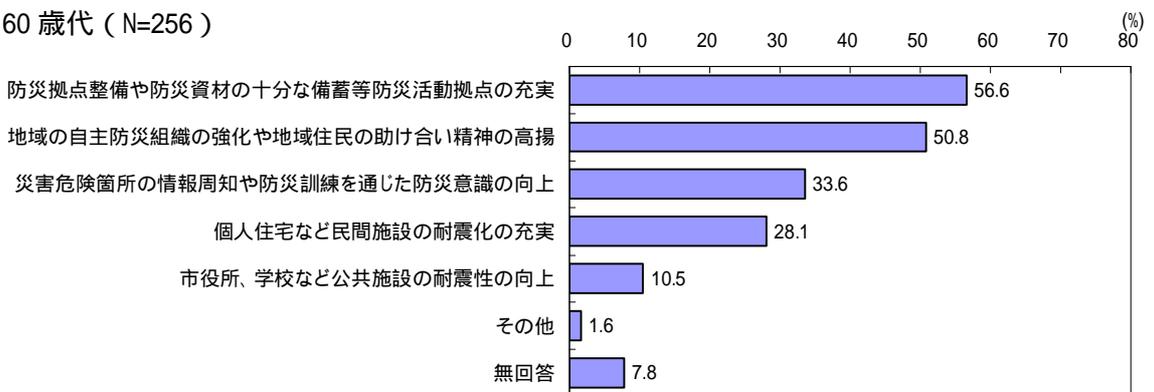
40歳代（N=179）



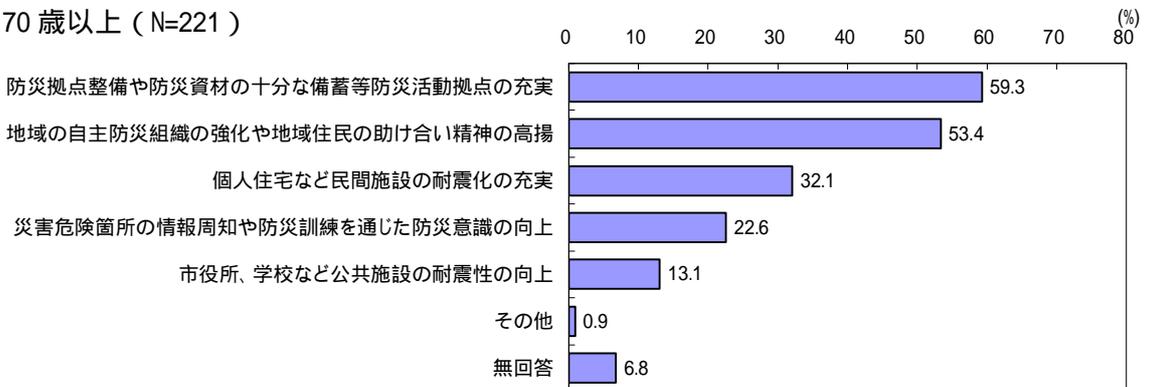
50 歳代 (N=206)



60 歳代 (N=256)

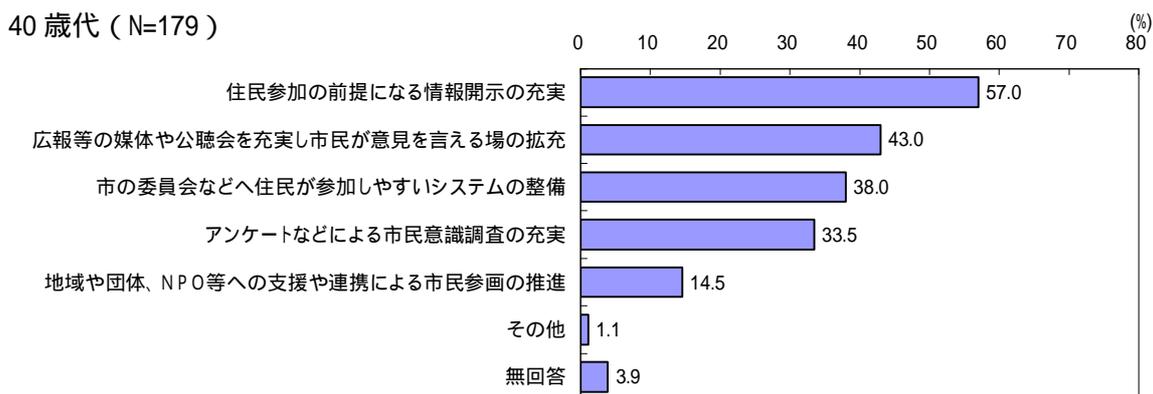
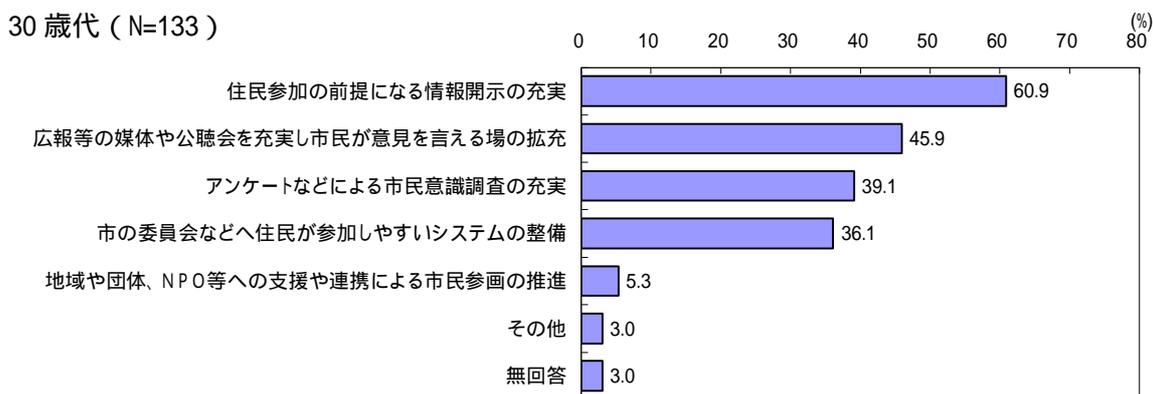
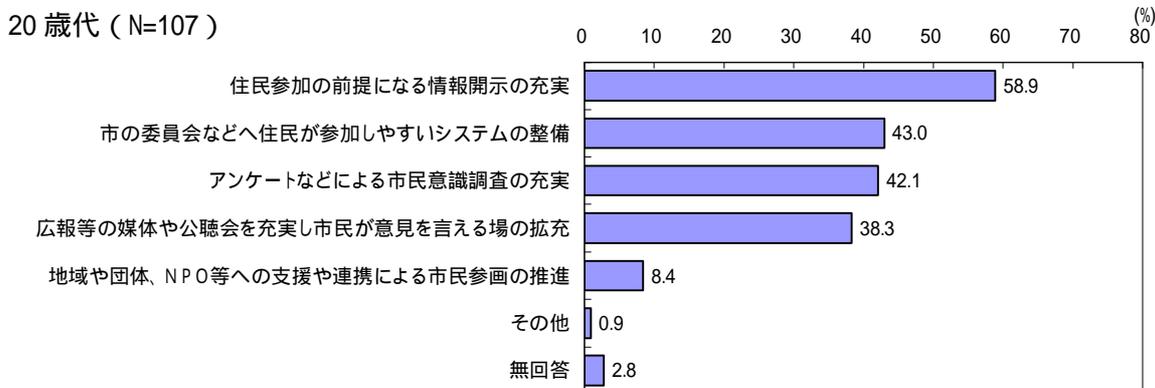


70 歳以上 (N=221)

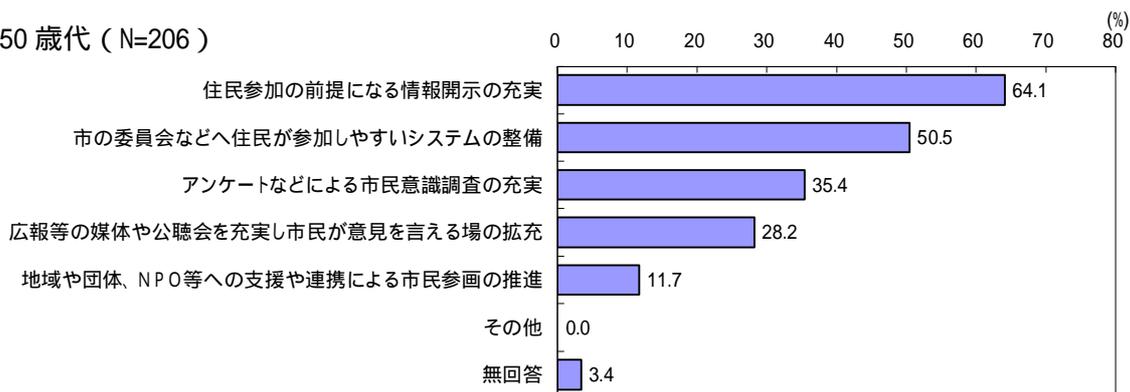


## 2.2. 住民参画に関して力を入れるべき点（問25）

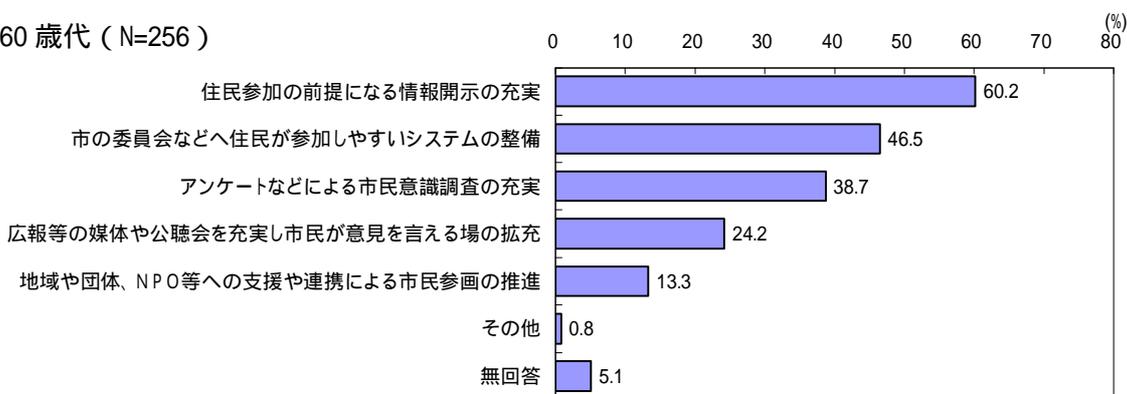
住民参画に関して、どのような点に力を入れるべきか尋ねたところ、全ての年齢層で「住民参画の前提になる情報開示に充実」が他の項目を上回る高い回答割合となりました。



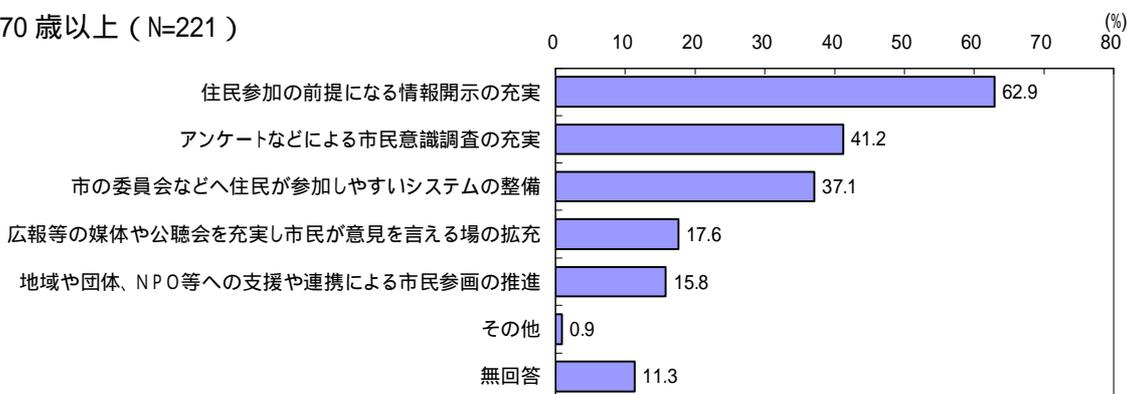
50 歳代 (N=206)



60 歳代 (N=256)



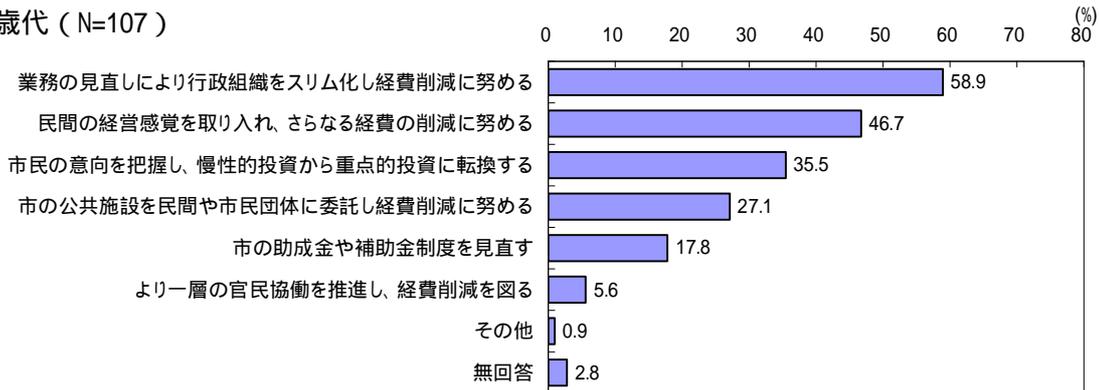
70 歳以上 (N=221)



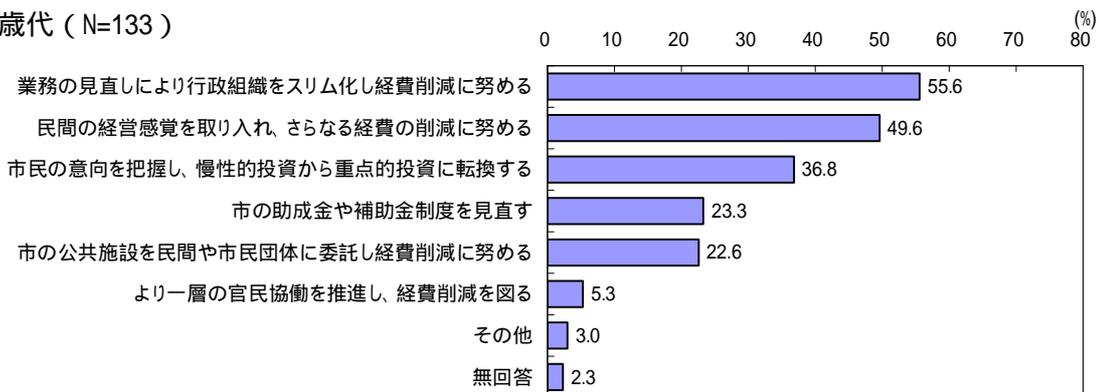
### 2.3. 行財政改革に関して力を入れるべき点（問26）

行財政改革に関して、どのような点に力を入れるべきか尋ねたところ、全ての年齢層で「業務の見直しにより行政組織をスリム化し経費削減に努める」の回答割合が最も高く、次いで、「20歳代」から「60歳代」の各年齢層では、「民間の経営感覚を取り入れ、さらなる経費の削減に努める」となりました。一方、「70歳以上」では、「市民の意向を把握し、慢性的投資から重点的投資に転換する」が2番目に高い回答割合となりました。

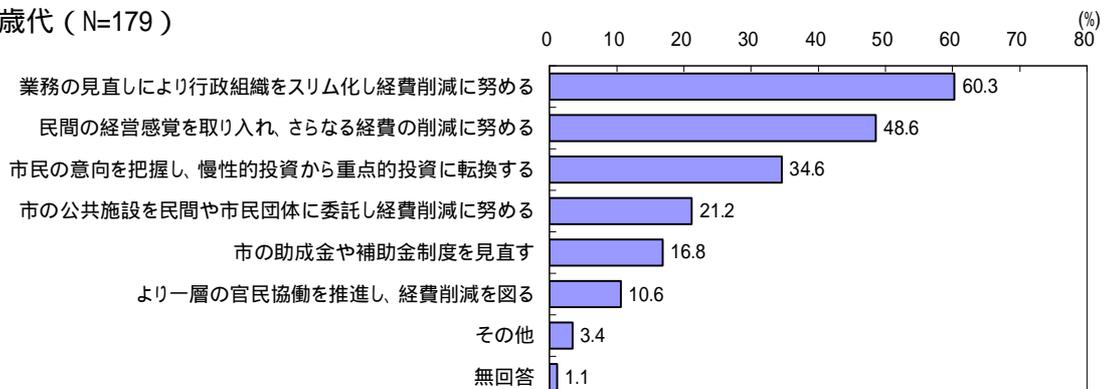
20歳代（N=107）



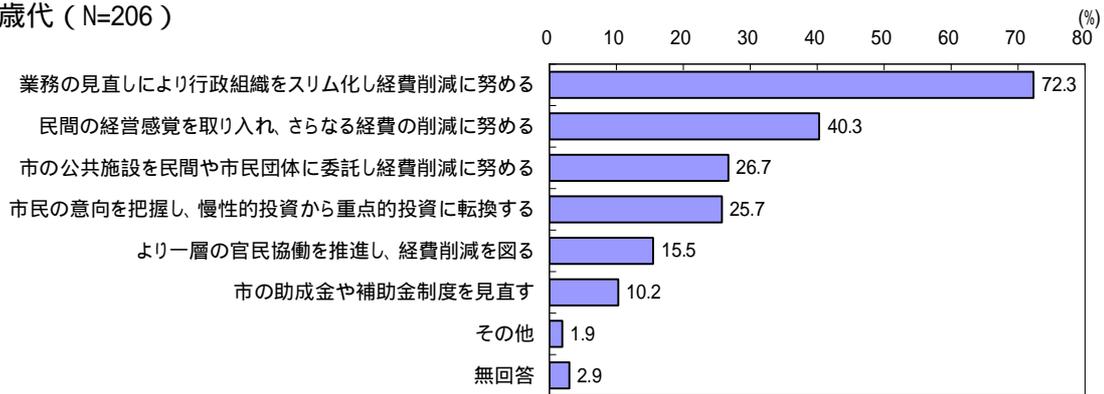
30歳代（N=133）



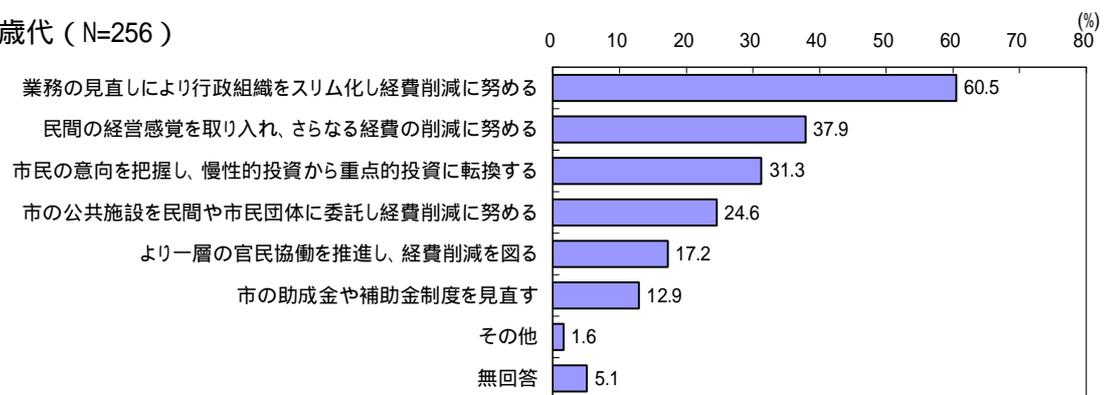
40歳代（N=179）



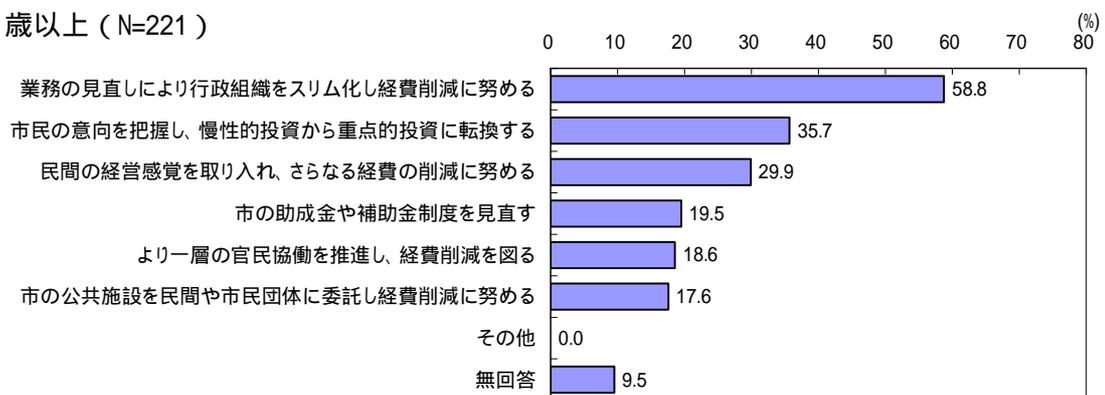
50 歳代 (N=206)



60 歳代 (N=256)

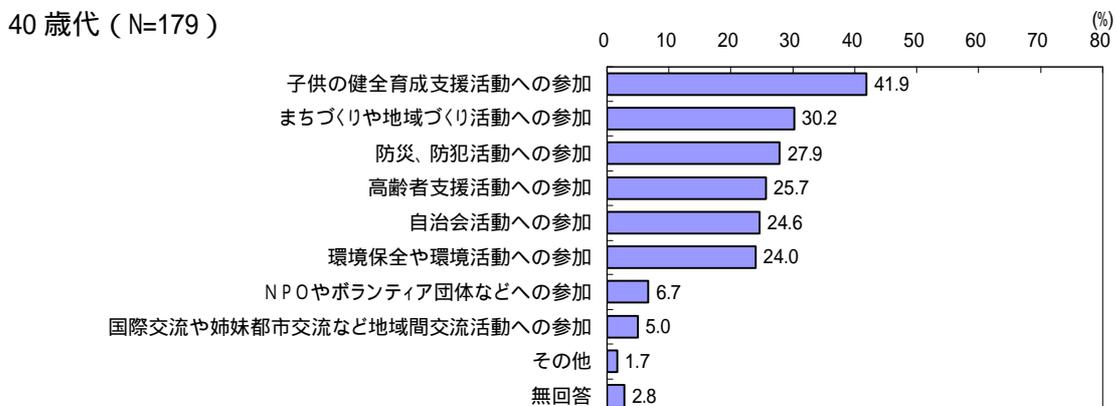
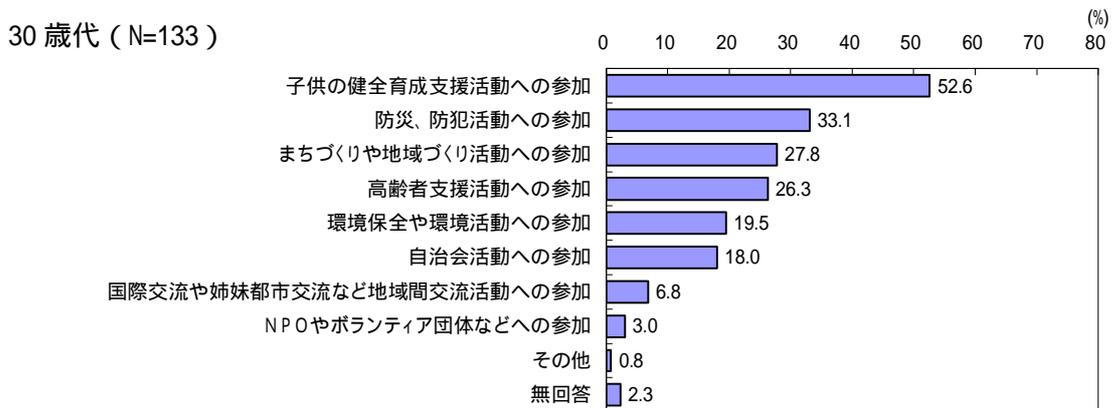
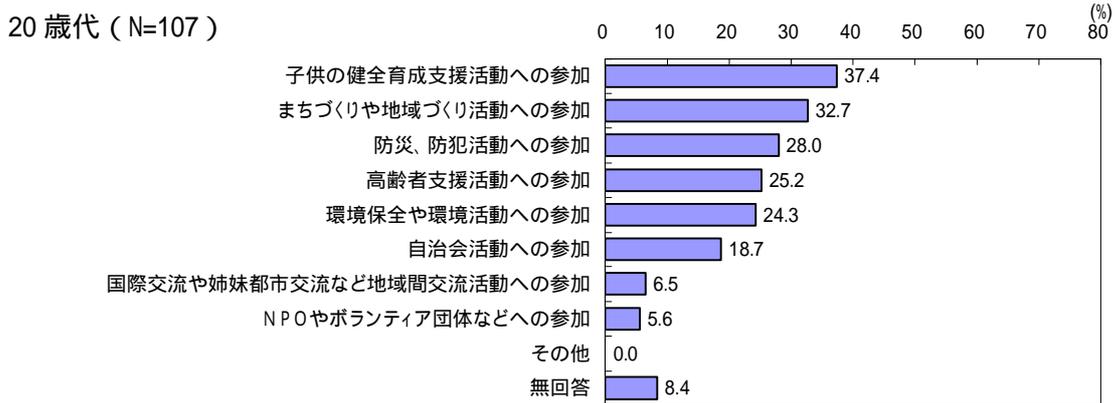


70 歳以上 (N=221)

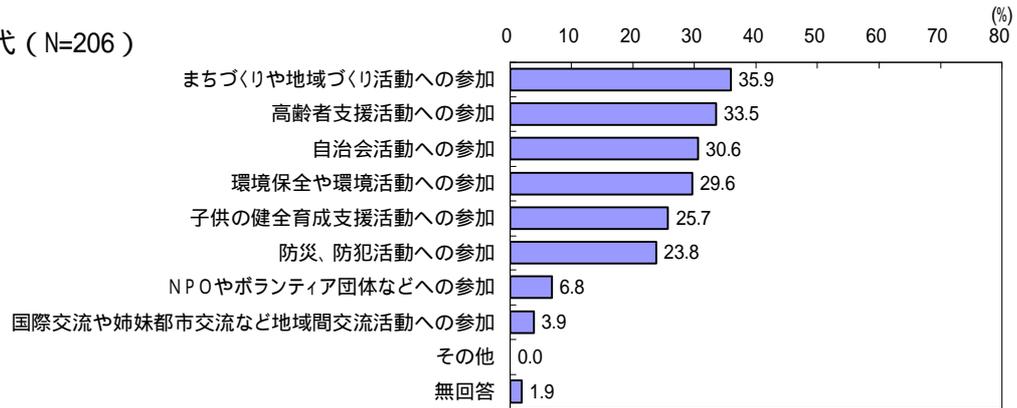


## 2.4. 地域の自治・自立に必要な官民協働に関する活動（問27）

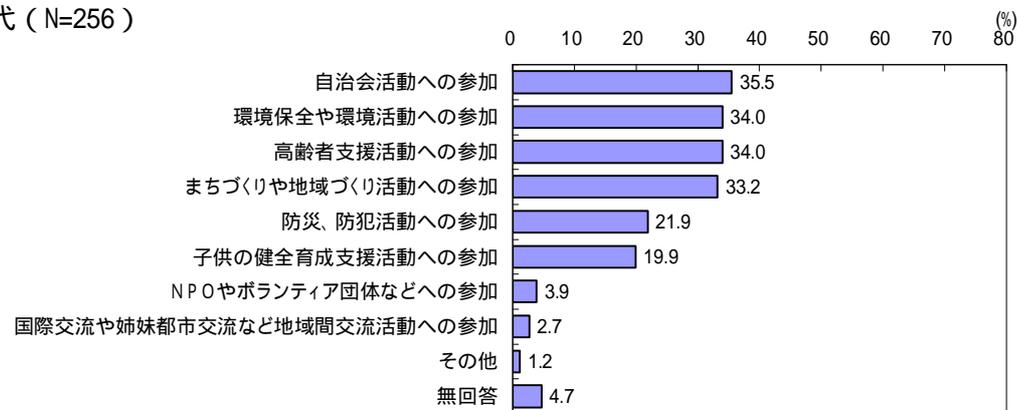
地域の自治・自立に必要な官民協働に関して、どのような活動への参加が重要であるか尋ねたところ、「20歳代」「30歳代」「40歳代」では「子供の健全育成支援活動への参加」、「50歳代」では「まちづくりや地域づくり活動への参加」、「60歳代」では「自治会活動への参加」、「70歳以上」では「高齢者支援活動への参加」の回答割合が最も高く、年齢層による明らかな回答傾向の差が見られました。



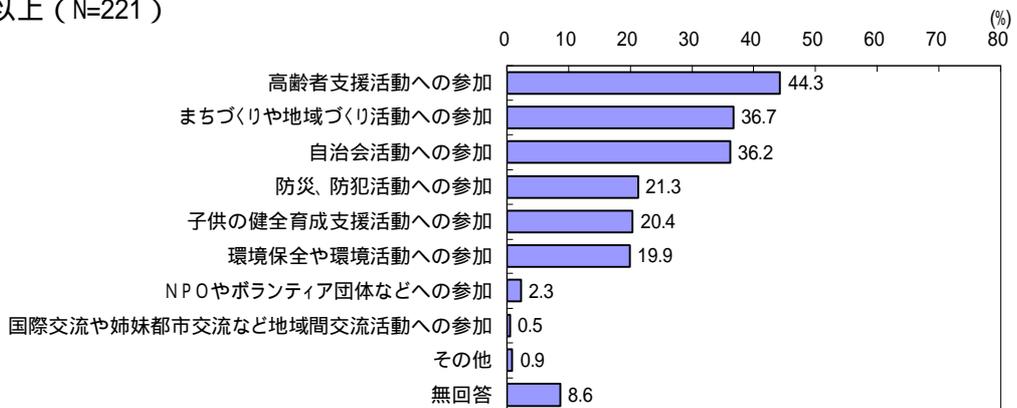
50 歳代 (N=206)



60 歳代 (N=256)



70 歳以上 (N=221)

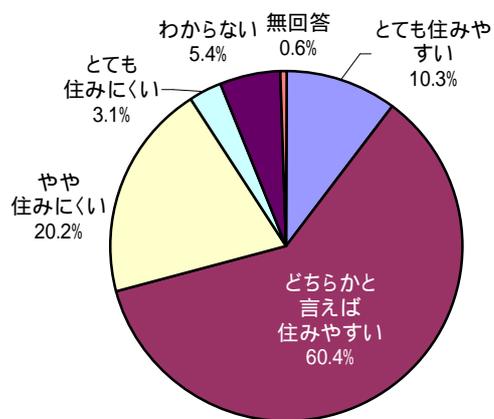


## 第6章 地域別クロス集計結果

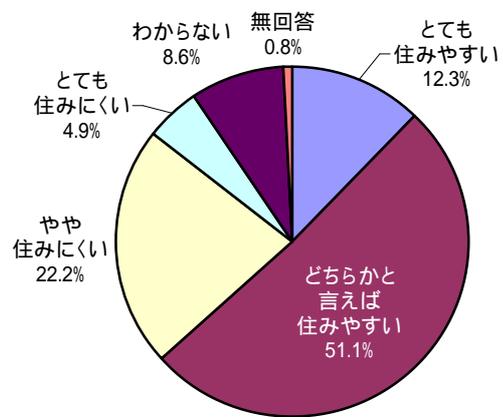
### 1. 住みやすさ（問4）

掛川市の住みやすさを尋ねたところ、「とても住みやすい」と「どちらかと言えば住みやすい」の合計値は「旧掛川市」で、70.7%で最も高く、逆に「旧大須賀町」では50.3%で低い割合となりました。

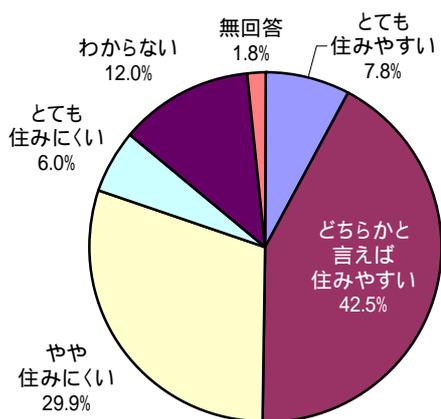
旧掛川市（N=653）



旧大東町（N=243）

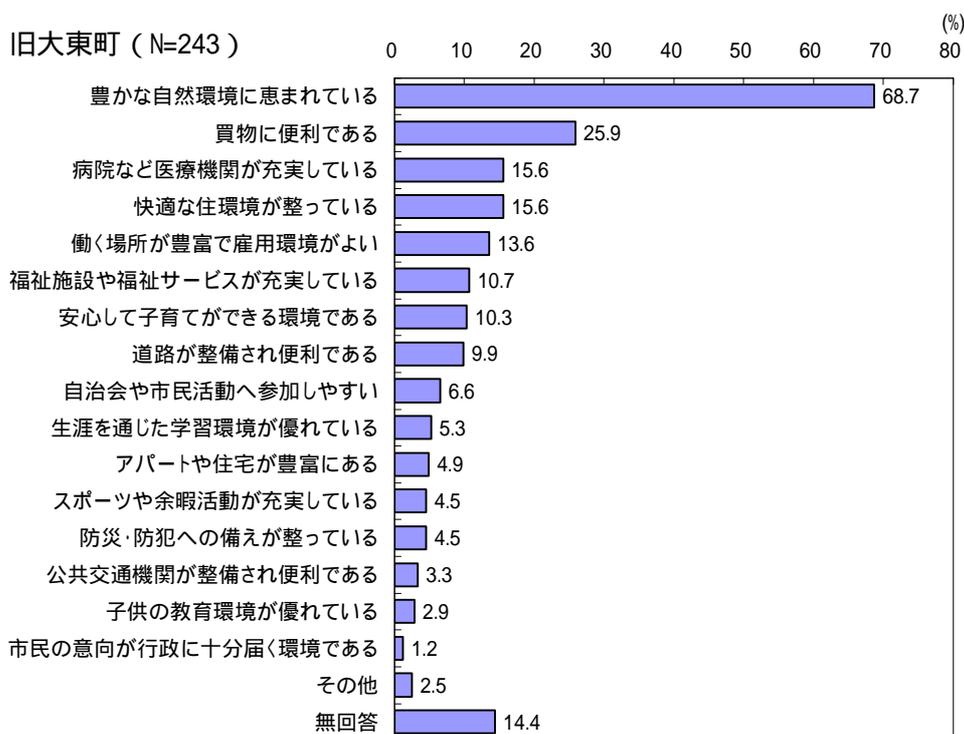
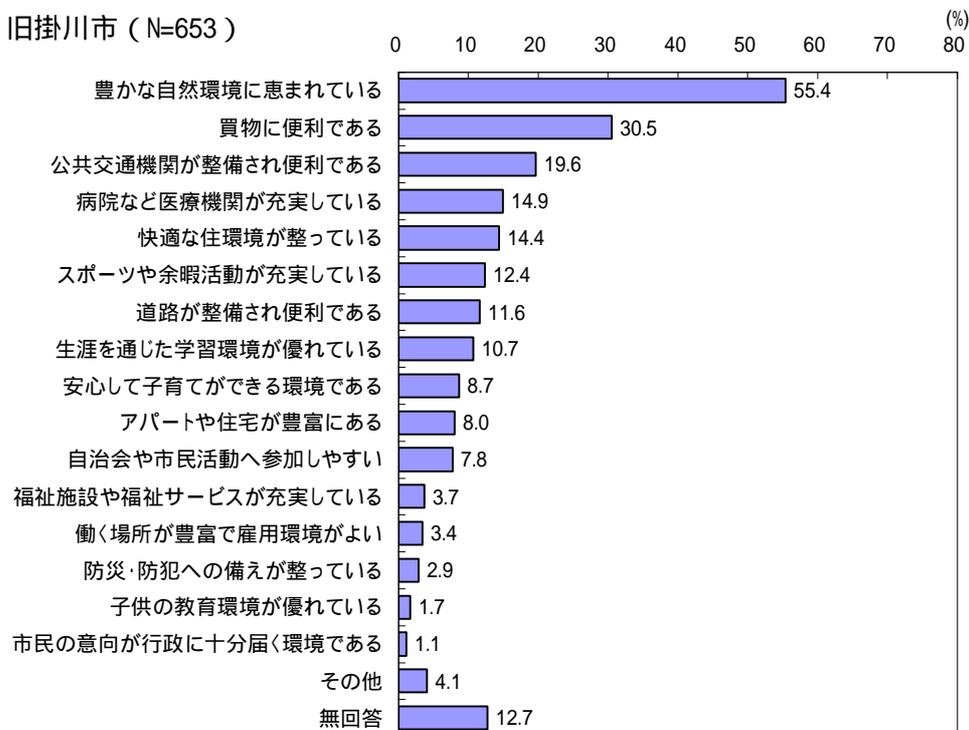


旧大須賀町（N=167）

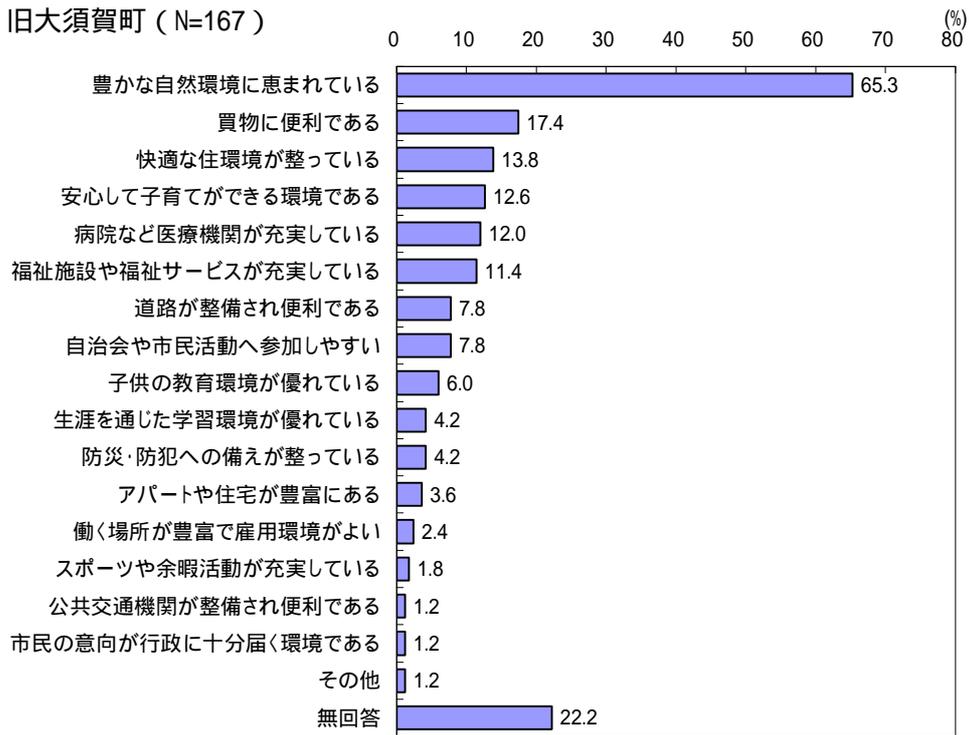


## 2. 住みやすいと感じる点（問5）

掛川市が住みやすいと感じる点を尋ねたところ、全ての地区で「豊かな自然環境に恵まれている」が他の項目を大きく上回る高い回答割合となりました。続いて、「旧掛川市」では「買い物に便利である」の回答割合が、他の地区と比較して高くなりました。

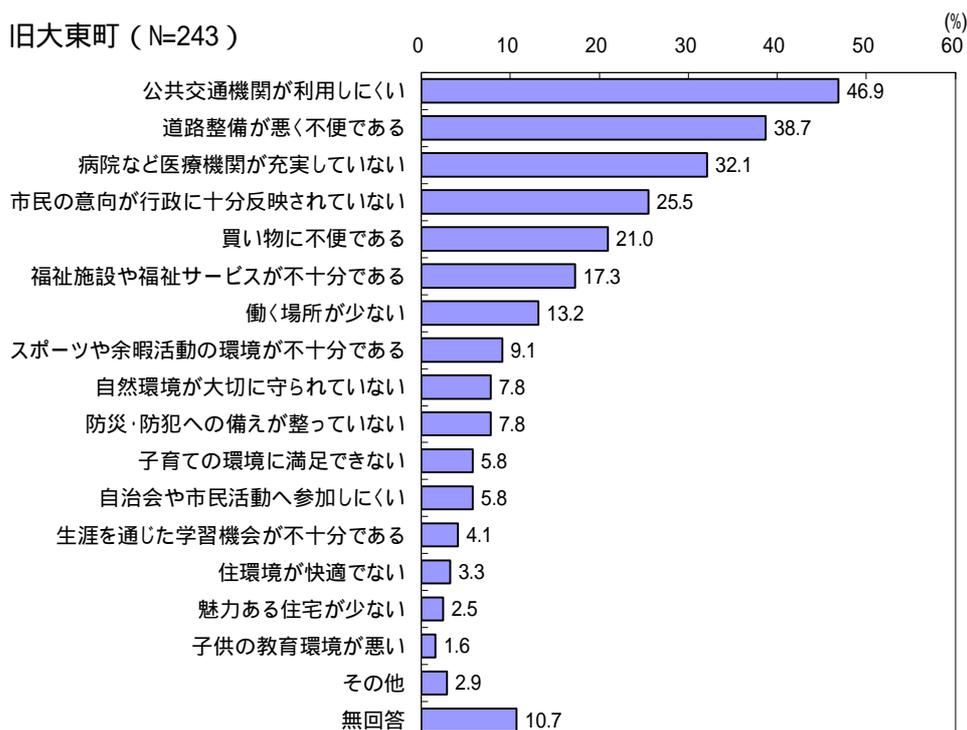
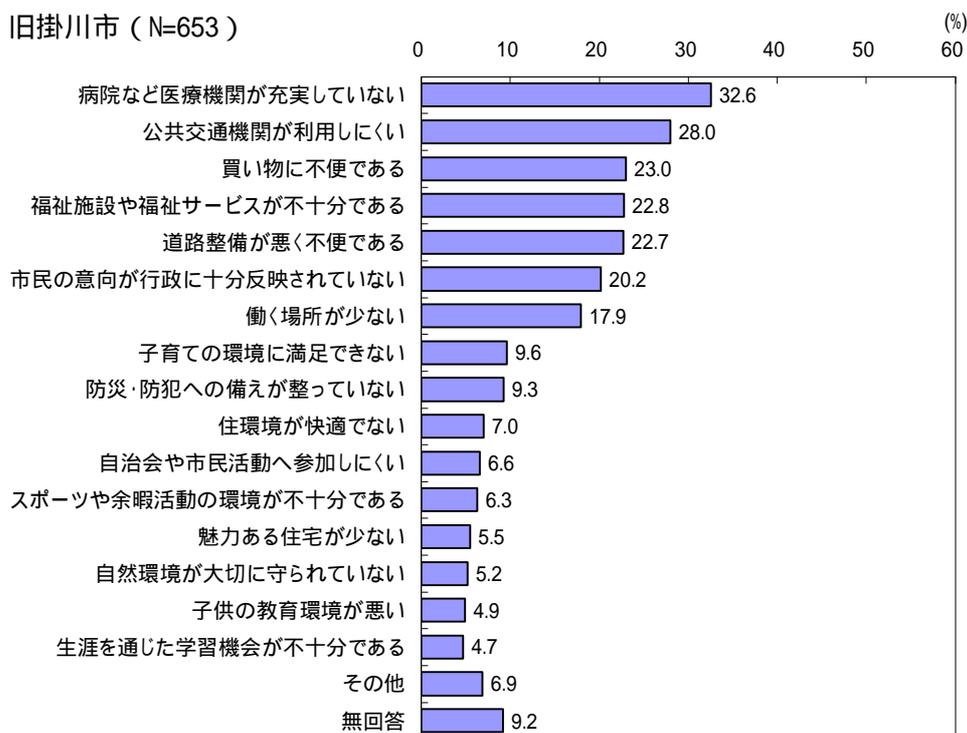


旧大須賀町 (N=167)

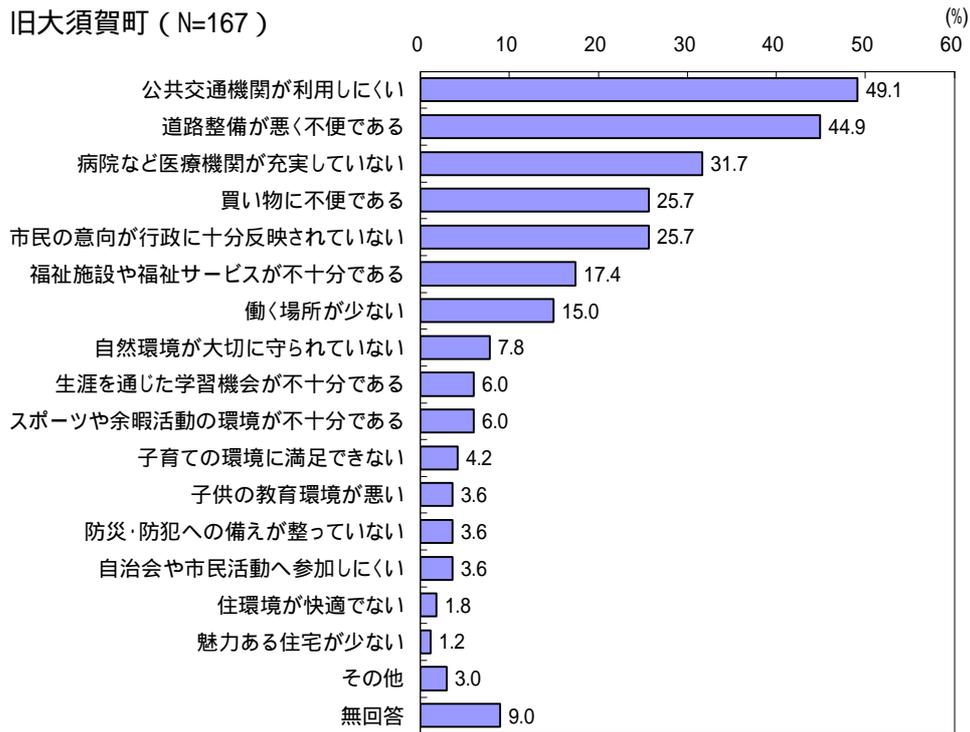


### 3. 住みにくいと感ずる点（問6）

掛川市が住みにくいと感ずる点を尋ねたところ、旧掛川市では「病院など医療機関が充実していない」32.6%、「旧大東町」「旧大須賀町」では「公共交通機関が利用しにくい」（旧大東町 46.9%、旧大須賀町 49.1%）の回答割合が最も高くなりました。「旧大東町」「旧大須賀町」では、道路・交通への不満が特に高いことがうかがえました。



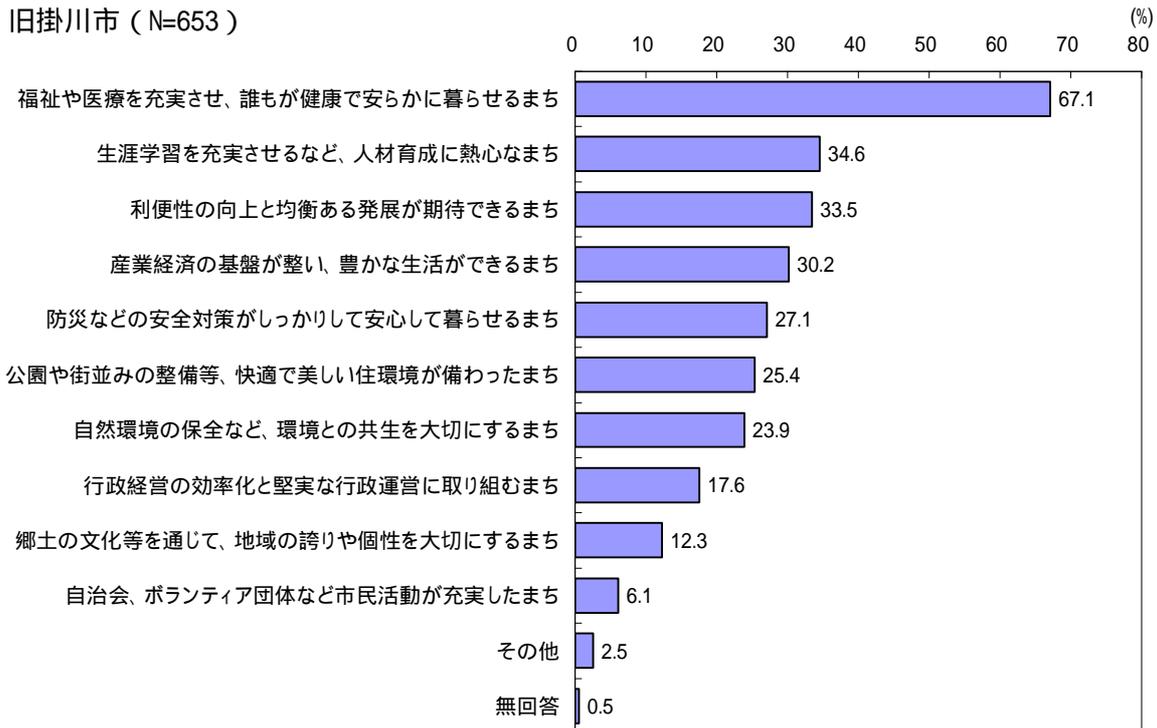
旧大須賀町 (N=167)



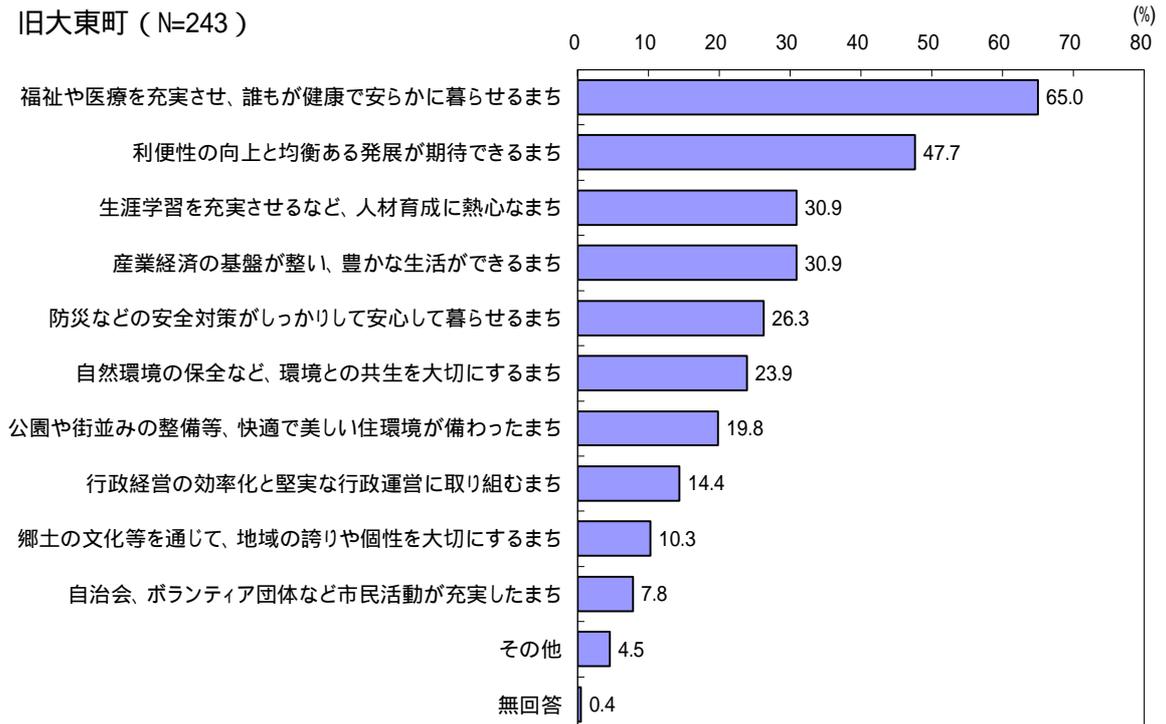
#### 4. これからのまちづくりで重視すべき点（問7）

これからの掛川市のまちづくりは、どのような視点を重視すべきか尋ねたところ、全ての地区で、「福祉や医療を充実させ、誰もが健康で安らかに暮らせるまち」が最も高い回答割合となりました。一方、2番目には、「旧掛川市」では「生涯学習を充実させるなど、人材育成に熱心なまち」、「旧大東町」「旧大須賀町」では、「利便性の向上と均衡ある発展が期待できるまち」が入るなど、地域間の回答傾向に差が見られました。

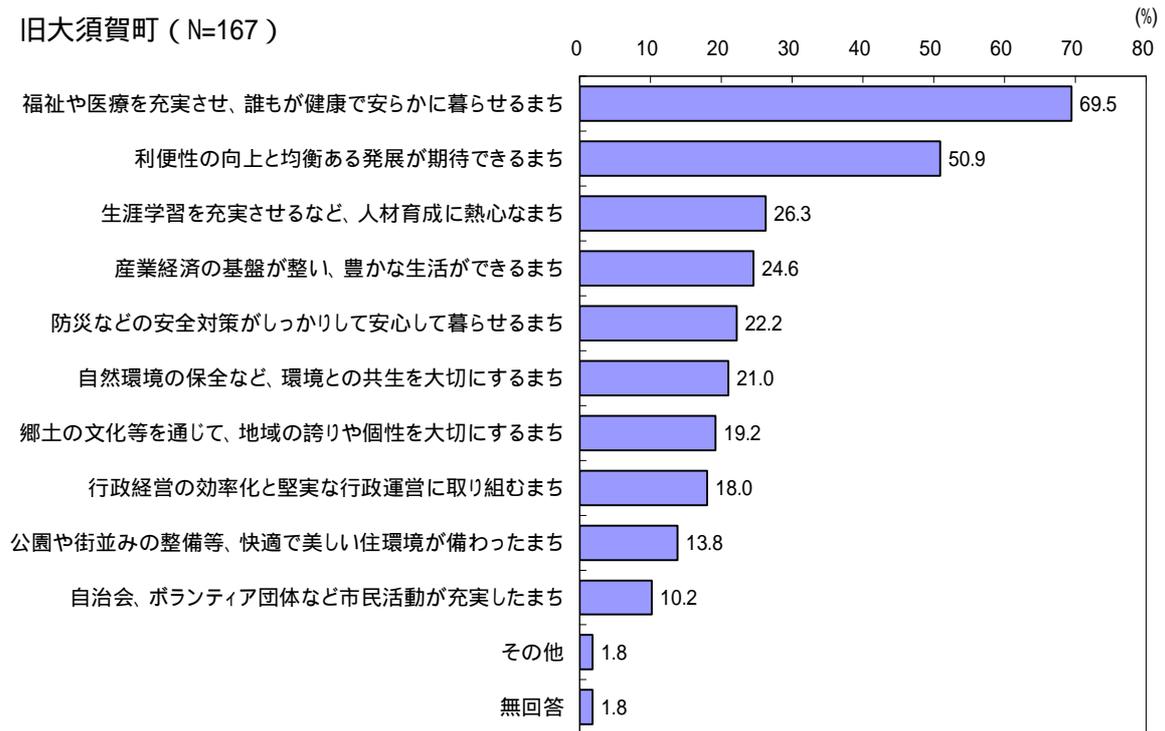
旧掛川市（N=653）



旧大東町（N=243）



旧大須賀町 (N=167)



## 5. 現在のまちづくりの満足度・施策の優先度（問8）

### （1）満足度

「満足している」「多少満足している」を合計した「満足割合」から、「多少不満である」「不満である」を合計した「不満割合」を差し引いて満足度を把握しました。「満足度の高い施策」と「満足度の低い施策」は、次の通りになりました。

#### 【満足度の高い施策（ベスト3位）】

##### 旧掛川市

- 「ごみ処理対策などの廃棄物処理体制の充実」(26.8%)
- 「貴重で美しい自然環境・景観の保全」(15.1%)
- 「健康に暮らすための保健予防や健診の充実」(14.8%)

##### 旧大東町

- 「安全で安定した上水道の提供」(33.3%)
- 「貴重で美しい自然環境・景観の保全」(25.5%)
- 「地域農業の活性化により安全で安定した食の提供」(23.5%)

##### 旧大須賀町

- 「地域農業の活性化により安全で安定した食の提供」(19.1%)
- 「歴史的資源の保全、活用、伝承」(16.1%)
- 「安全で安定した上水道の提供」(11.3%)

#### 【満足度の低い施策（ワースト3位）】

##### 旧掛川市

- 「中心市街地活性化によるまちの顔づくり」(マイナス62.3%)
- 「商業の活性化による地域の魅力づくり」(マイナス50.9%)
- 「高齢者や障害者など誰もが困らず安心して暮らせる福祉の充実」(マイナス39.8%)

##### 旧大東町

- 「通勤・通学・通院のための交通機関の確保」(マイナス54.4%)
- 「道路整備による利便性の向上と地域の発展」(マイナス47.7%)
- 「治水、治山や耐震など災害に強いまちづくり」(マイナス39.9%)

##### 旧大須賀町

- 「通勤・通学・通院のための交通機関の確保」(マイナス62.9%)
- 「道路整備による利便性の向上と地域の発展」(マイナス56.3%)
- 「企業誘致や地場企業の活性化による地域の発展と雇用の創出」(マイナス44.9%)

(2) 重要度

「非常に重要である」「多少重要である」を合計した「重要性肯定割合」から、「あまり重要ではない」「重要ではない」を合計した「重要性否定割合」を差し引いて重要度を把握しました。「重要性の高い施策」と「重要性の低い施策」は、次の通りになりました。

【重要性の高い施策（ベスト3位）】

旧掛川市

- 「安心して医療が受けられる体制の充実」(87.6%)
- 「高齢者や障害者など誰もが困らず安心して暮らせる福祉の充実」(85.7%)
- 「健康に暮らすための保健予防や健診の充実」(82.5%)

旧大東町

- 「安心して医療が受けられる体制の充実」(81.9%)
- 「健康に暮らすための保健予防や健診の充実」(81.8%)
- 「高齢者や障害者など誰もが困らず安心して暮らせる福祉の充実」(79.8%)

旧大須賀町

- 「通勤・通学・通院のための交通機関の確保」(83.3%)
- 「高齢者や障害者など誰もが困らず安心して暮らせる福祉の充実」(80.9%)
- 「ごみ処理対策などの廃棄物処理体制の充実」(80.8%)

【重要性の低い施策（ワースト3位）】

旧掛川市

- 「地域間交流、国際交流の充実」(18.5%)
- 「男女共同参画が理解・実践される社会構築」(31.8%)
- 「文化芸術に触れ、教養を高める機会の充実」(36.0%)

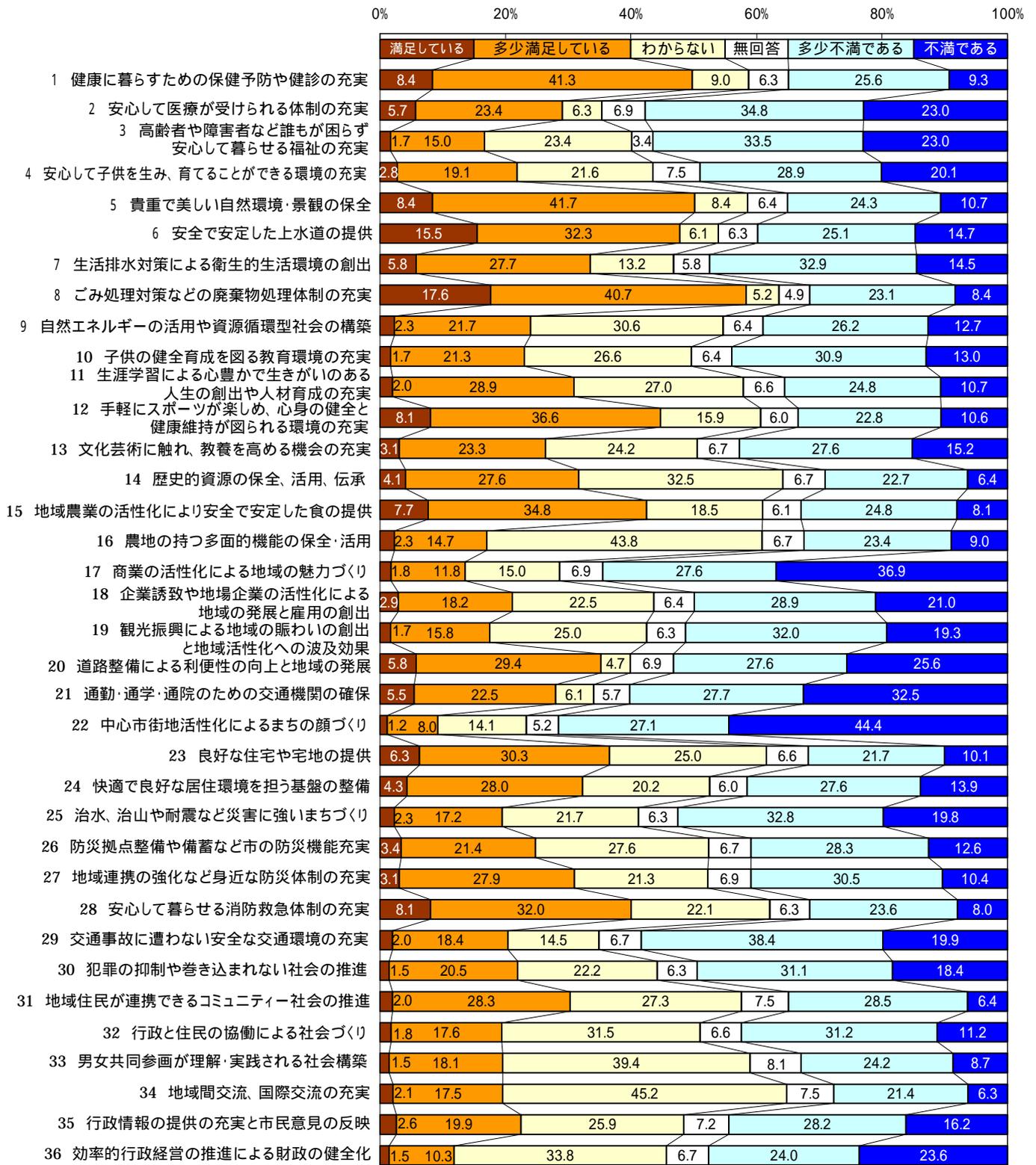
旧大東町

- 「地域間交流、国際交流の充実」(15.7%)
- 「中心市街地活性化によるまちの顔づくり」(20.7%)
- 「良好な住宅や宅地の提供」(27.2%)

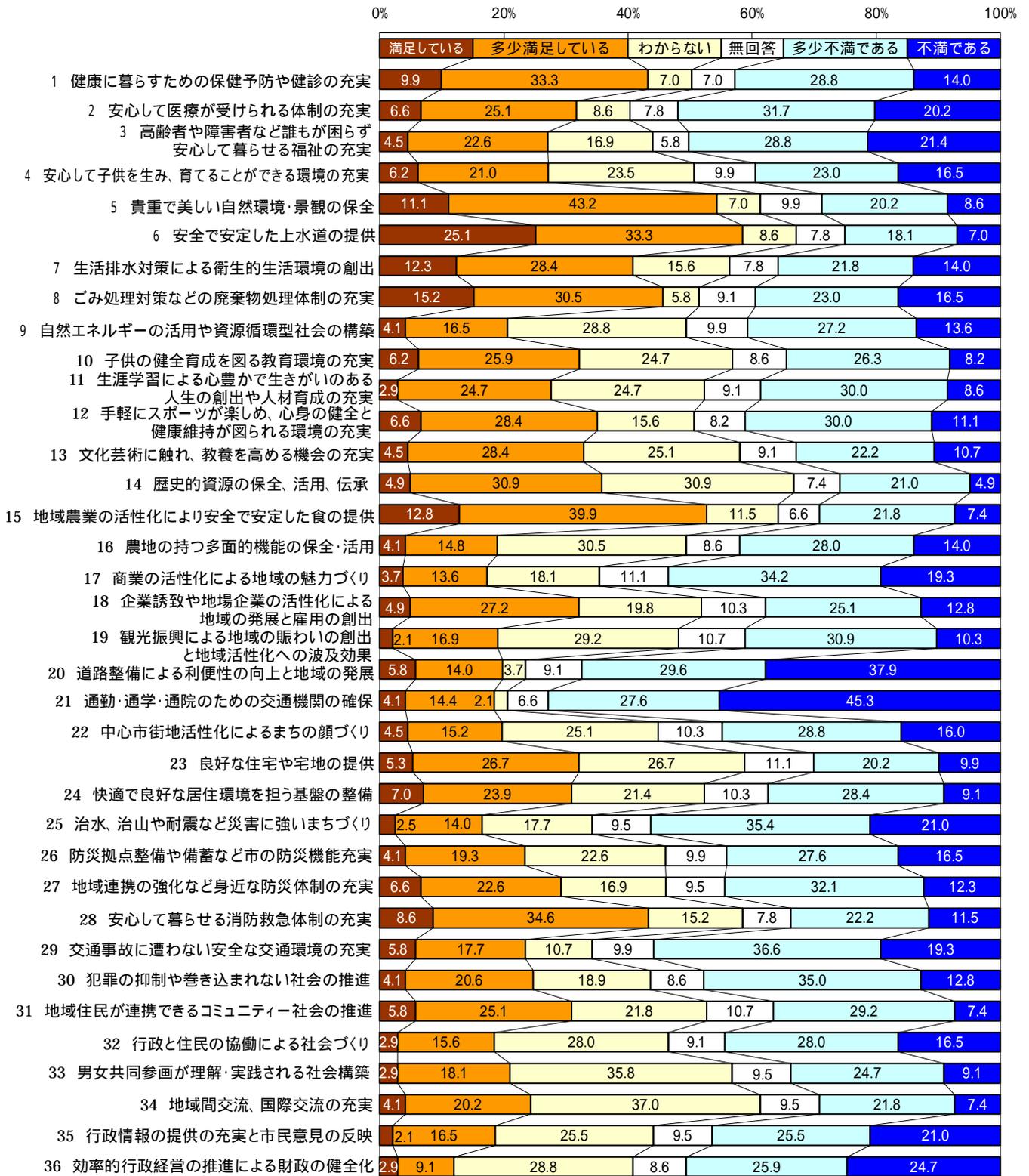
旧大須賀町

- 「地域間交流、国際交流の充実」(23.3%)
- 「男女共同参画が理解・実践される社会構築」(29.9%)
- 「中心市街地活性化によるまちの顔づくり」(32.3%)

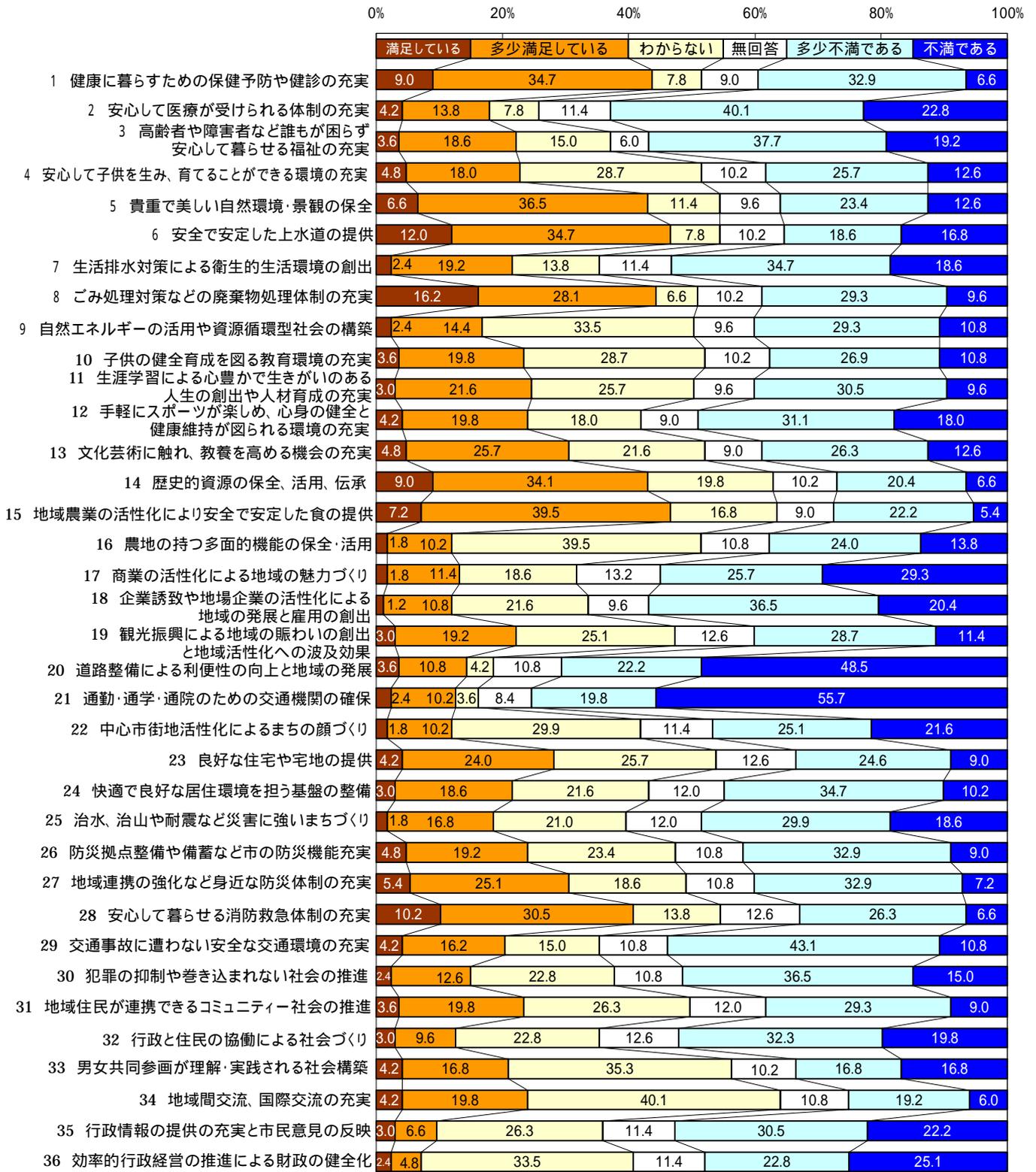
満足度：旧掛川市（N=653）



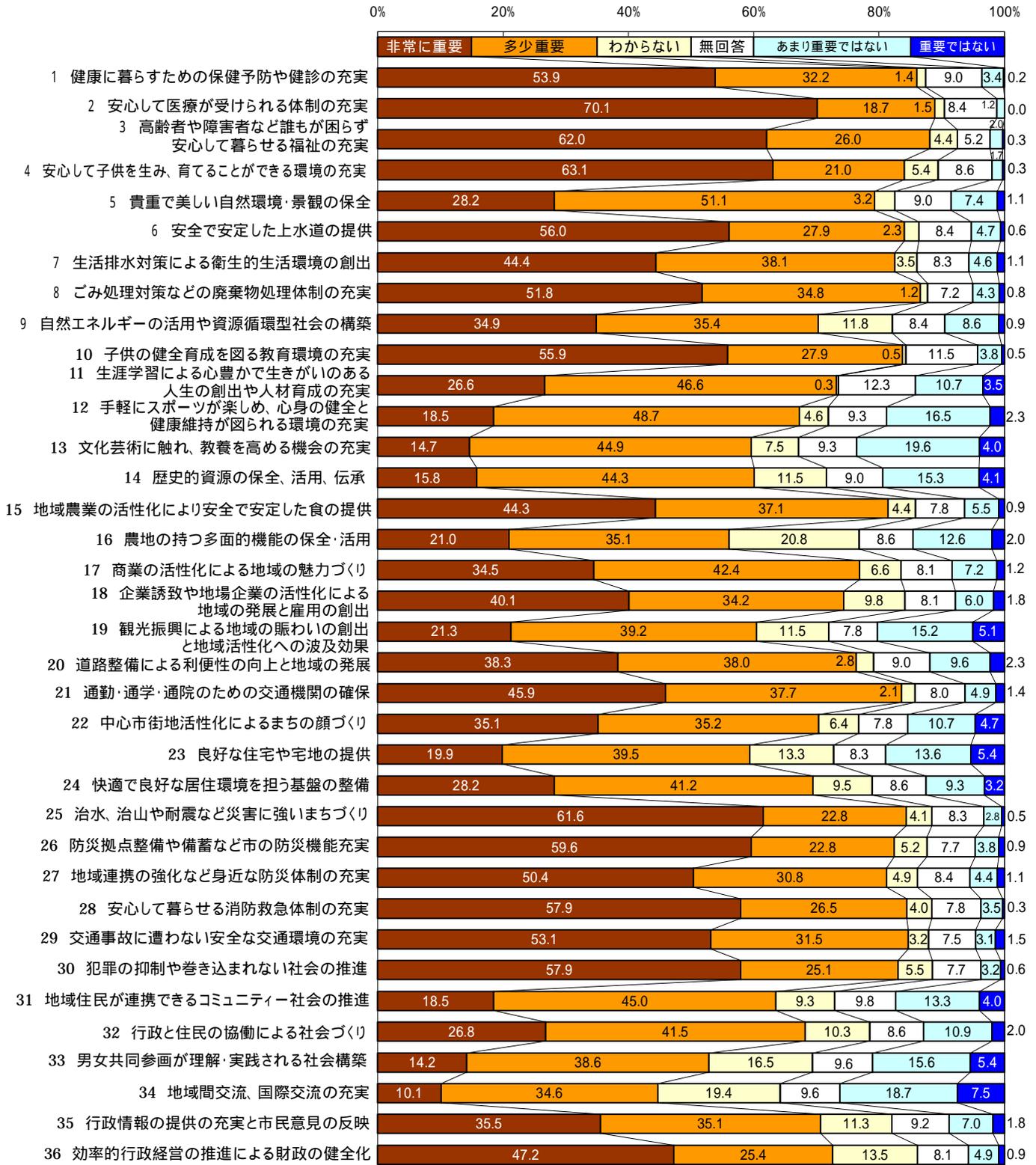
満足度：旧大東町（N=243）



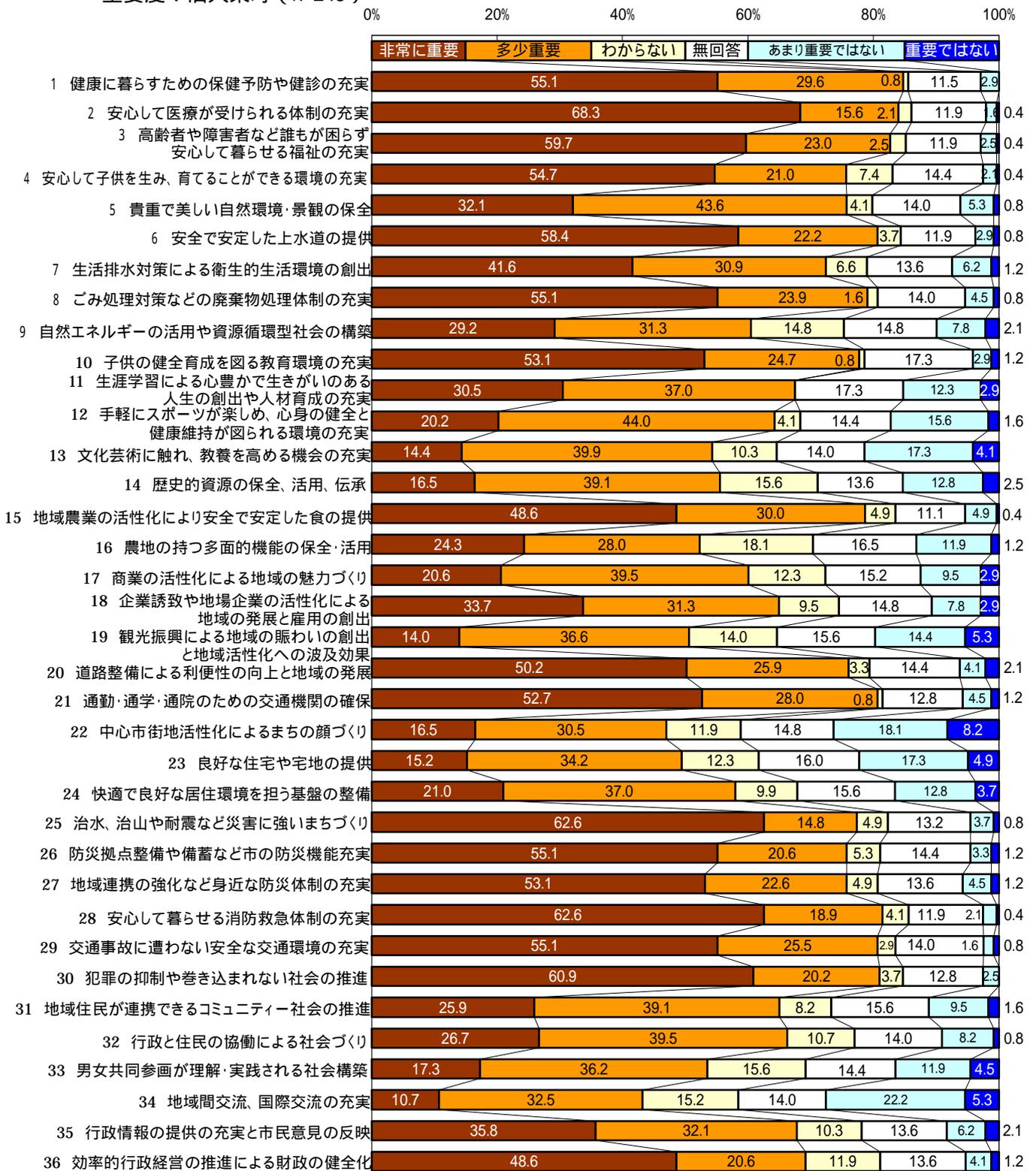
満足度：旧大須賀町（N 167）



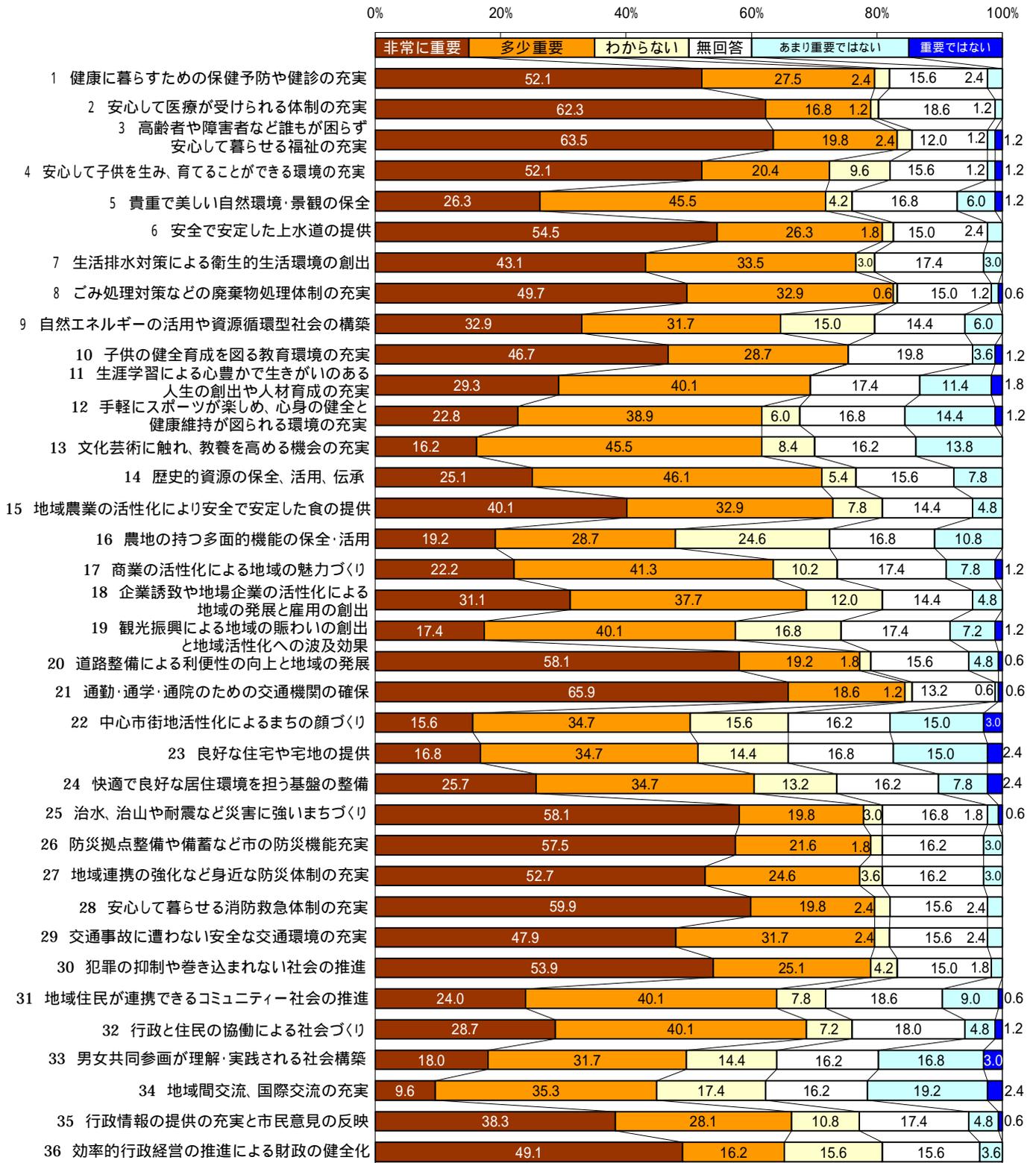
重要度：旧掛川市（N = 653）



重要度：旧大東町（N=243）



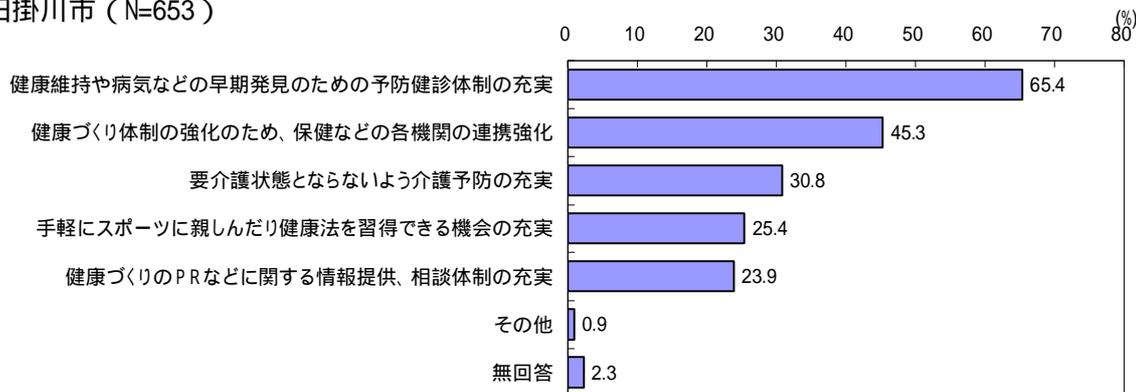
重要度：旧大須賀町（N=167）



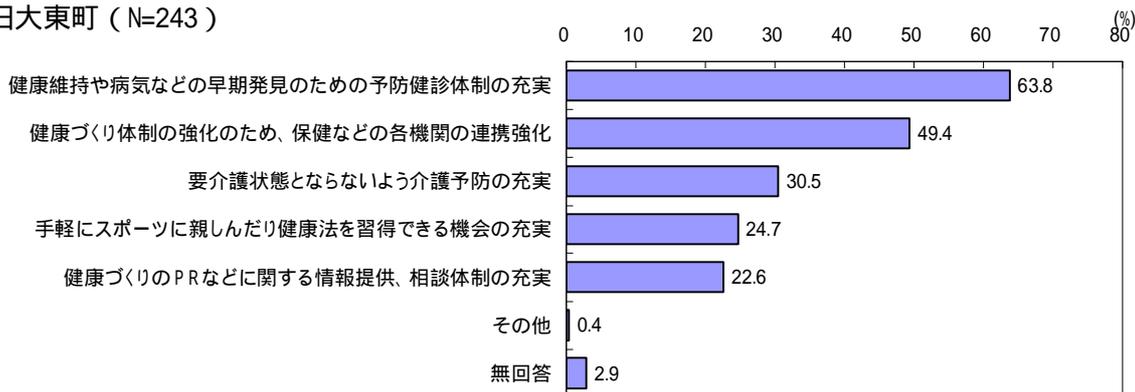
## 6. 健康づくりに関して力を入れるべき点（問9）

健康づくりに関して、どのような点に力を入れるべきか尋ねたところ、全地区で「健康維持や病気などの早期発見のための予防健診体制の充実」の回答割合が最も高くなるなど、地区別の回答傾向に大きな差は見られませんでした。

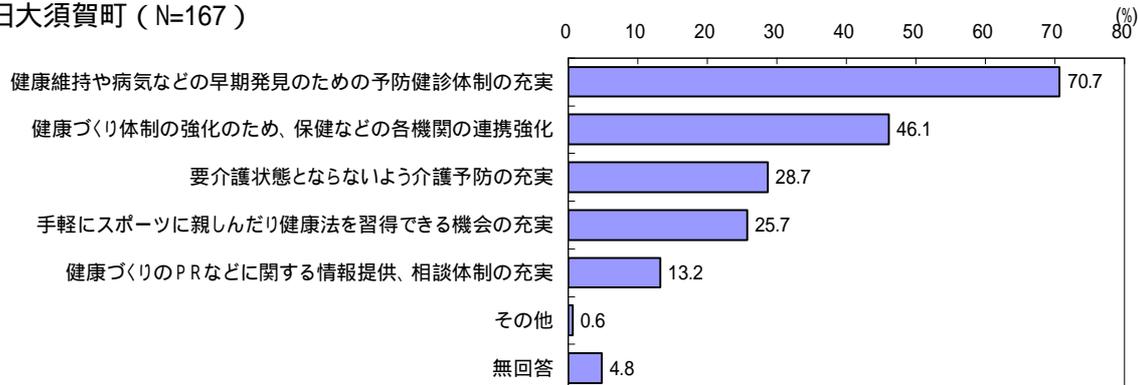
### 旧掛川市（N=653）



### 旧大東町（N=243）



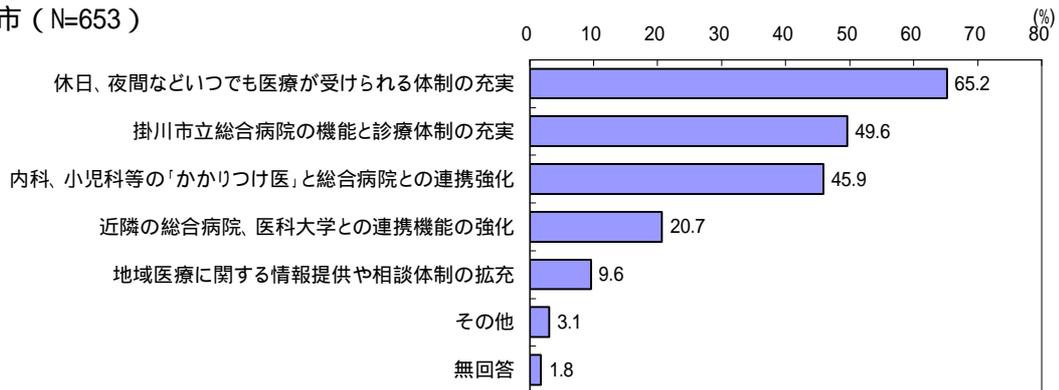
### 旧大須賀町（N=167）



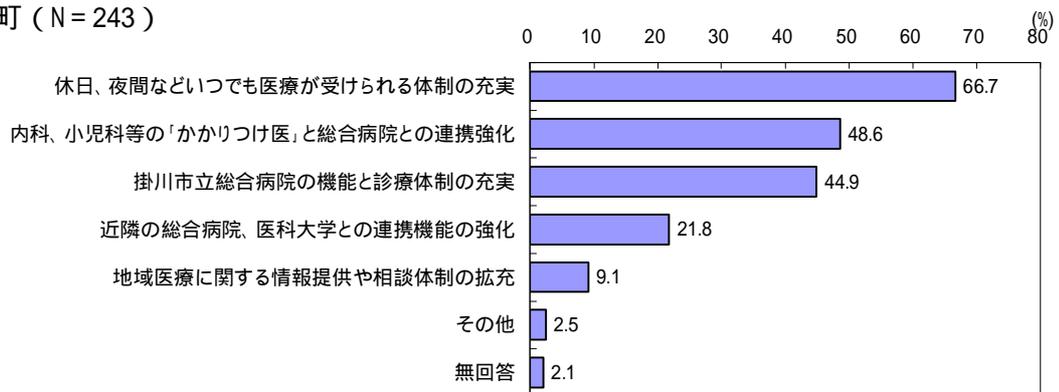
7. 地域医療に関して力を入れるべき点（問10）

地域医療に関して、どのような点に力を入れるべきか尋ねたところ、全地区で「休日、夜間などいつでも医療が受けられる体制の充実」の回答割合が最も高くなりました。続いて、「旧掛川市」では、「掛川市立総合病院の機能と診療体制の充実」49.6%、「旧大東町」と「旧大須賀町」では、「内科、小児科等の『かかりつけ医』と総合病院との連携強化」（旧大東町48.6%、旧大須賀町50.9%）の回答割合が高くなりました。

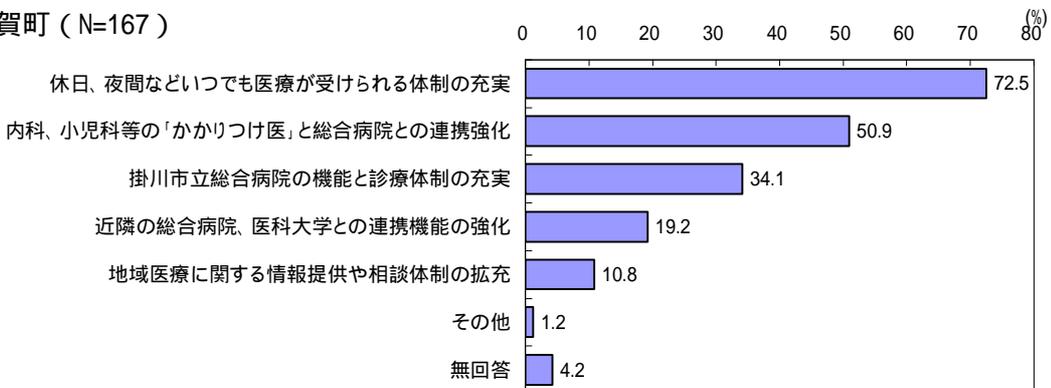
旧掛川市（N=653）



旧大東町（N = 243）



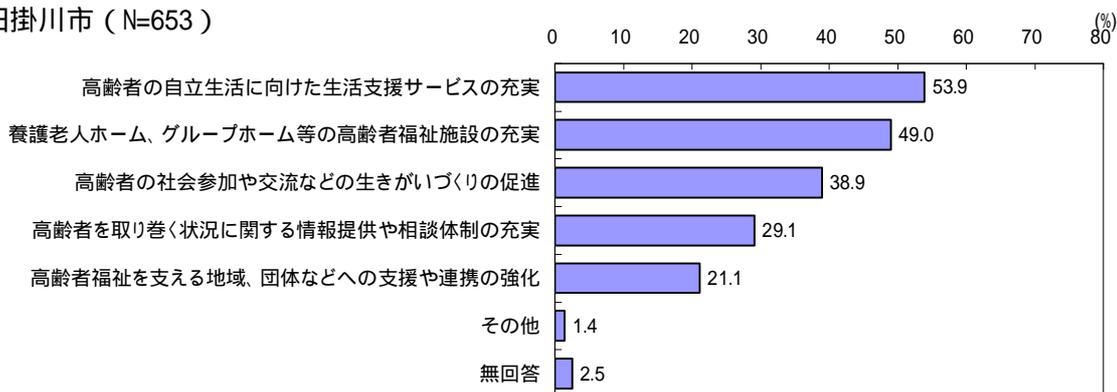
旧大須賀町（N=167）



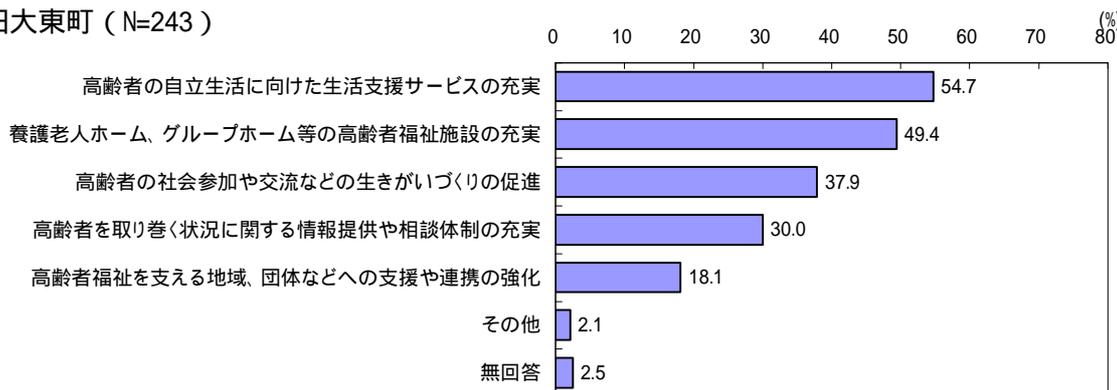
### 8. 高齢者福祉に関して力を入れるべき点（問11）

高齢者福祉に関して、どのような点に力を入れるべきか尋ねたところ、「旧掛川市」と「旧大東町」では「高齢者の自立生活に向けた生活支援サービスの充実」（旧掛川市 53.9%、旧大東町 54.7%）、「旧大須賀町」では、「養護老人ホーム、グループホーム等の高齢者福祉施設の充実」52.1%の回答割合が最も高くなりました。

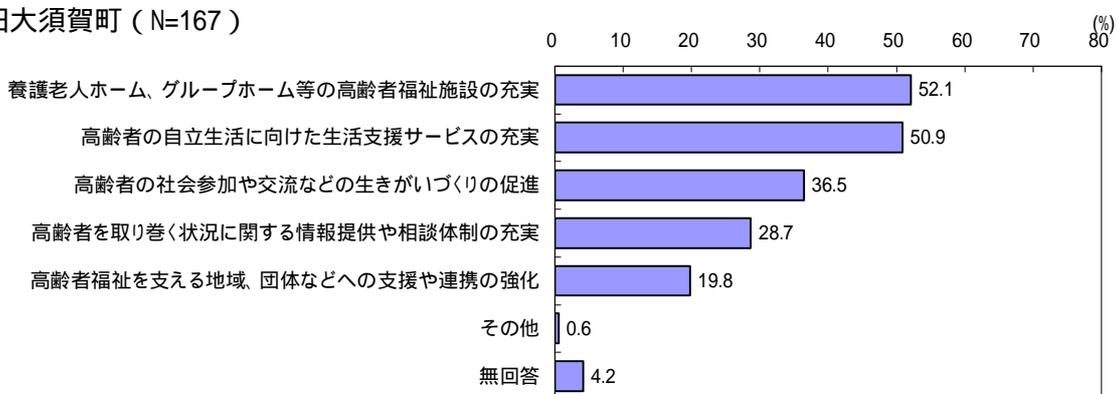
旧掛川市（N=653）



旧大東町（N=243）



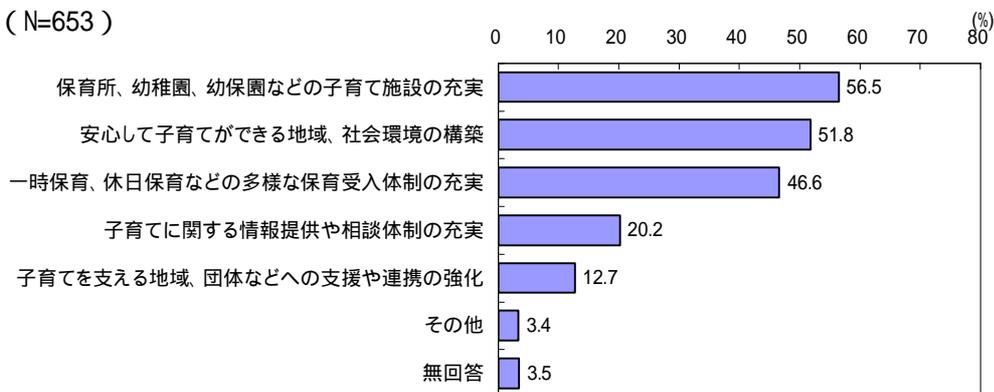
旧大須賀町（N=167）



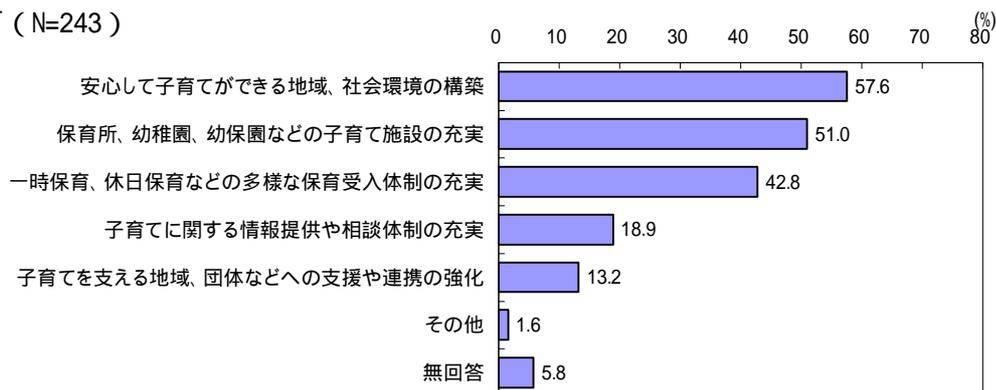
### 9. 子育て支援に関して力を入れるべき点（問12）

子育て支援に関して、どのような点に力を入れるべきか尋ねたところ、全地区で「保育所、幼稚園、幼保園などの子育て施設の充実」と「安心して子育てができる地域、社会環境の構築」の回答割合が50%を超えました。

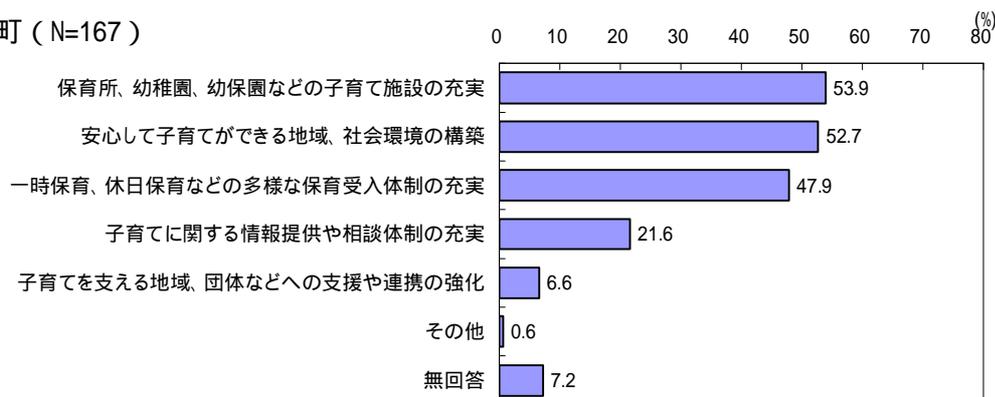
旧掛川市（N=653）



旧大東町（N=243）



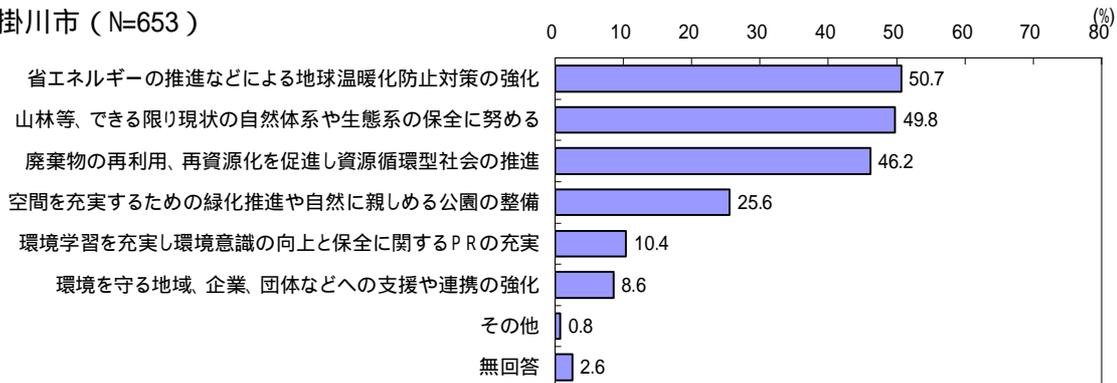
旧大須賀町（N=167）



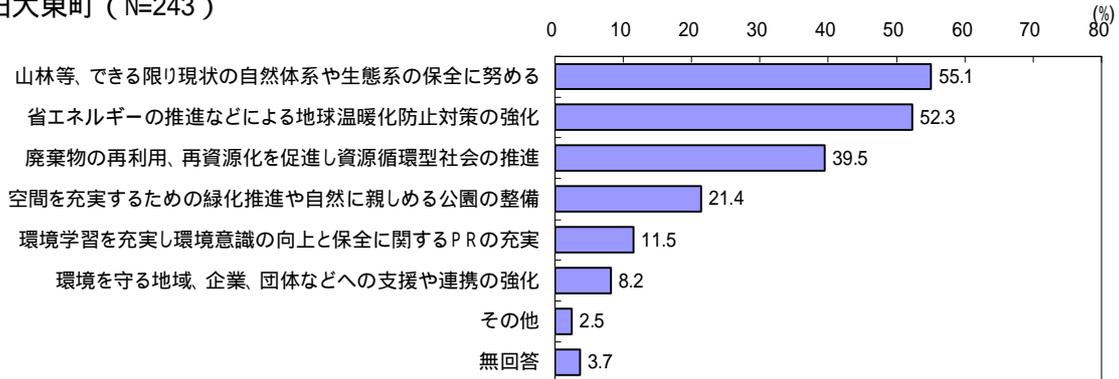
### 10. 地球・自然環境の保全に関して力を入れるべき点（問13）

地球・自然環境の保全に関して、どのような点に力を入れるべきか尋ねたところ、全地区で「省エネルギーの推進や新エネルギー利用の促進などによる地球温暖化防止対策の強化」と「山林等、できる限り現状の自然体系や生態系の保全に努める」が50%前後の回答割合を占める結果となりました。

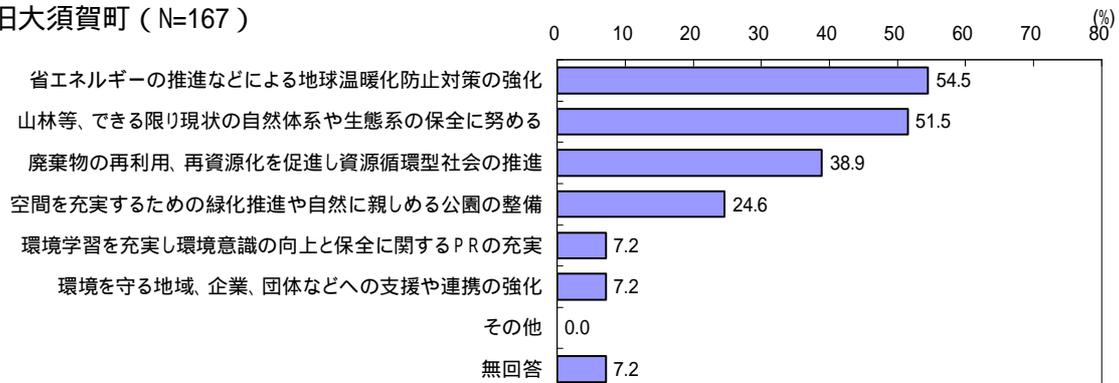
旧掛川市（N=653）



旧大東町（N=243）



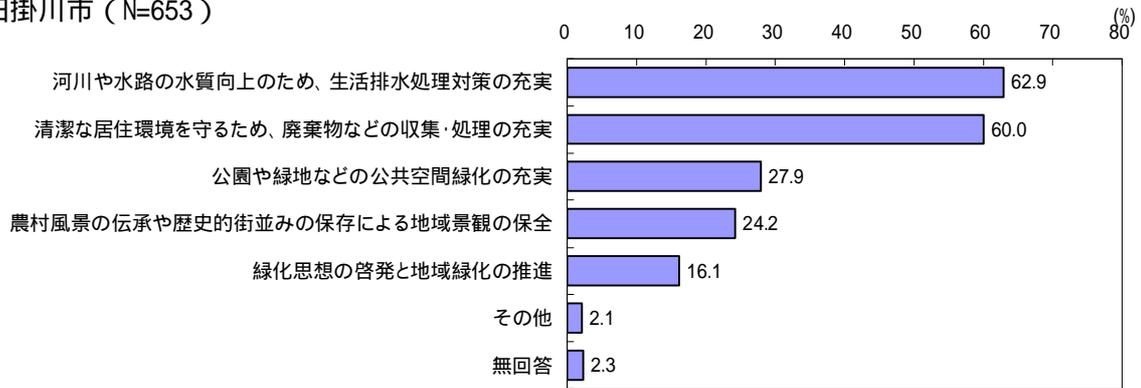
旧大須賀町（N=167）



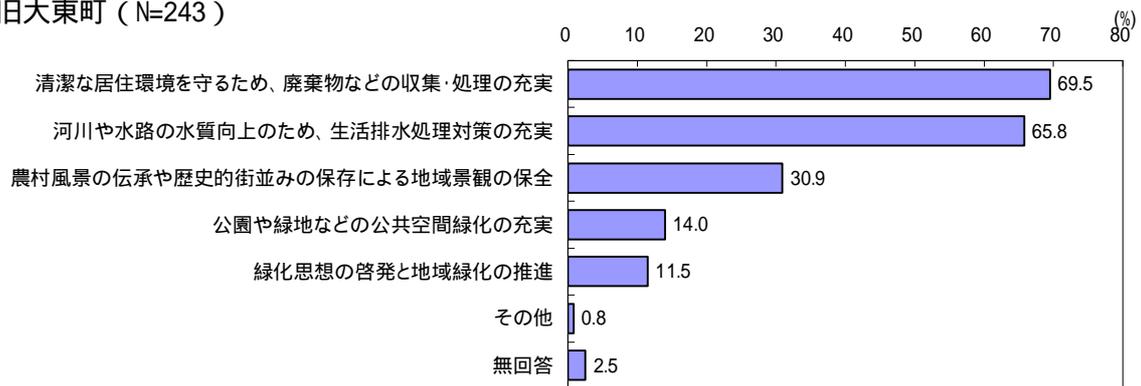
1.1. 快適な居住環境に関して力を入れるべき点（問14）

快適な居住環境に関して、どのような点に力を入れるべきか尋ねたところ、全地区で「清潔な居住環境を守るため、ごみ、廃棄物の収集・処理の充実」と「河川や水路の水質向上のため、生活排水処理対策の充実」の回答率が60%以上に達しました。

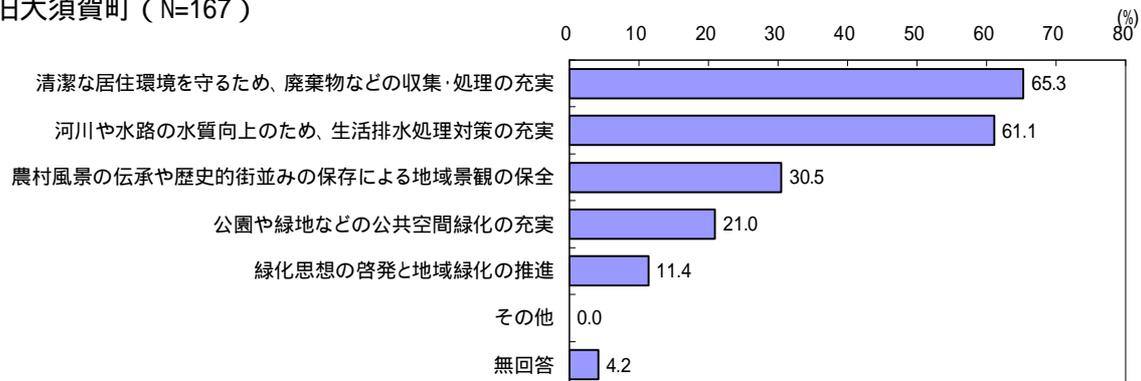
旧掛川市（N=653）



旧大東町（N=243）



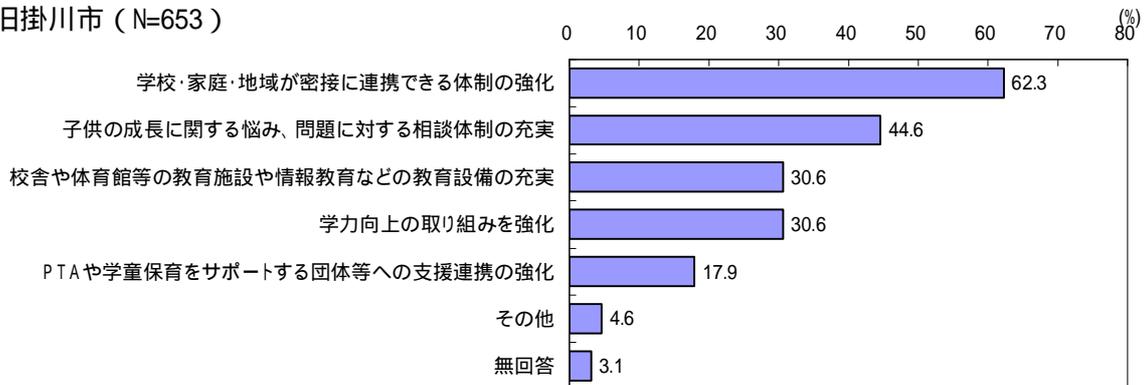
旧大須賀町（N=167）



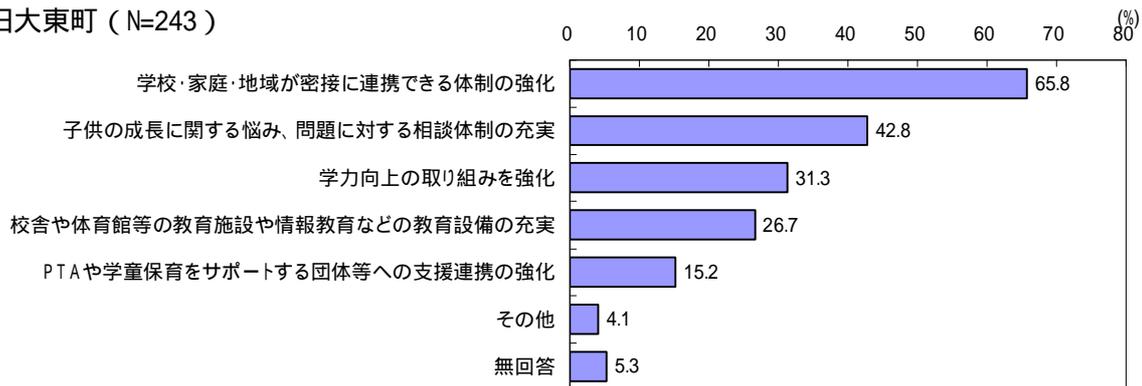
## 12. 子供の健全な成長に関して力を入れるべき点（問15）

子供の健全な成長に関して、どのような点に力を入れるべきか尋ねたところ、全地区で「学校・家庭・地域が密接に連携できる体制の強化」が他を大きく上回り、高い回答割合となりました。

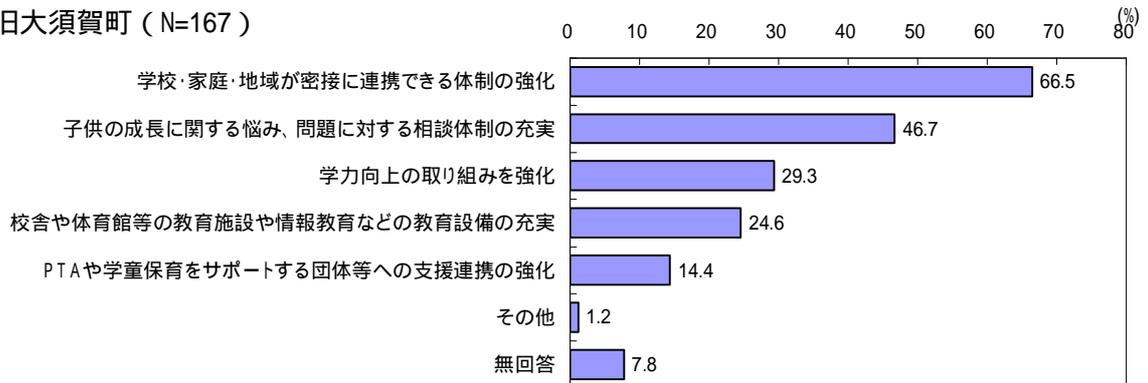
旧掛川市（N=653）



旧大東町（N=243）



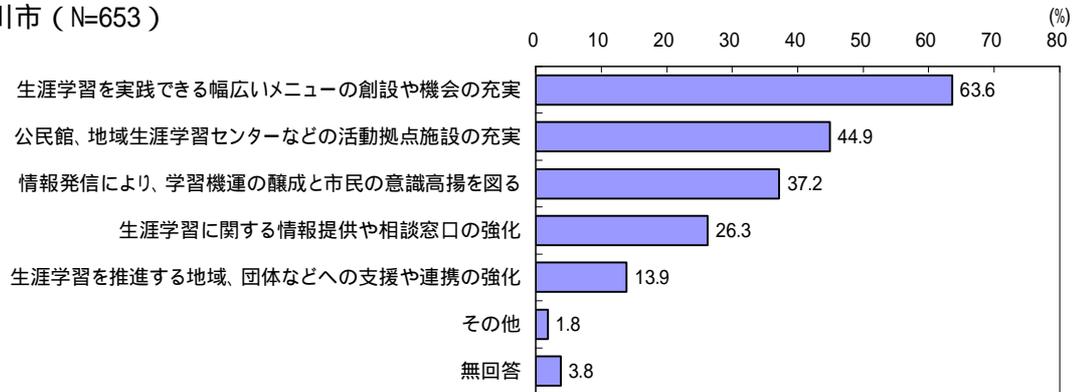
旧大須賀町（N=167）



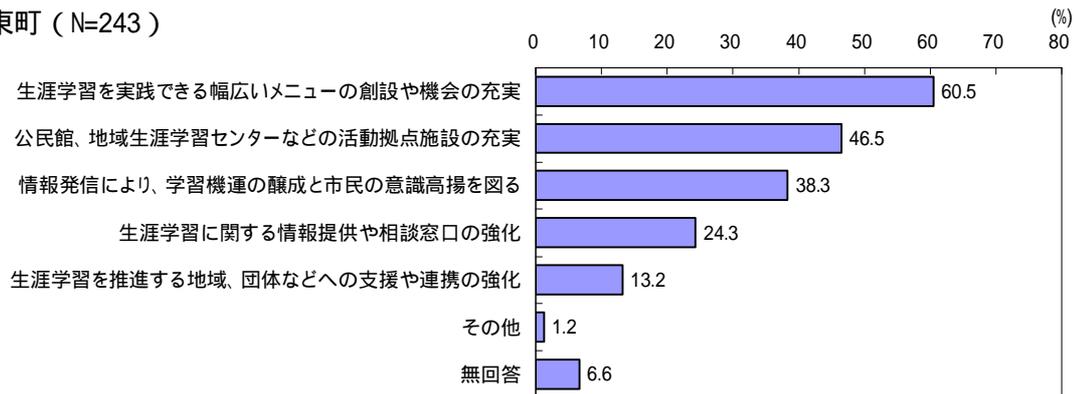
### 1 3 . 生涯学習の推進に関して力を入れるべき点 (問 1 6 )

生涯学習の推進に関して、どのような点に力を入れるべきか尋ねたところ、全地区で「生涯学習を实践できる幅広いメニューの創設や学習機会の充実」が他を大きく上回る高い回答割合となりました。

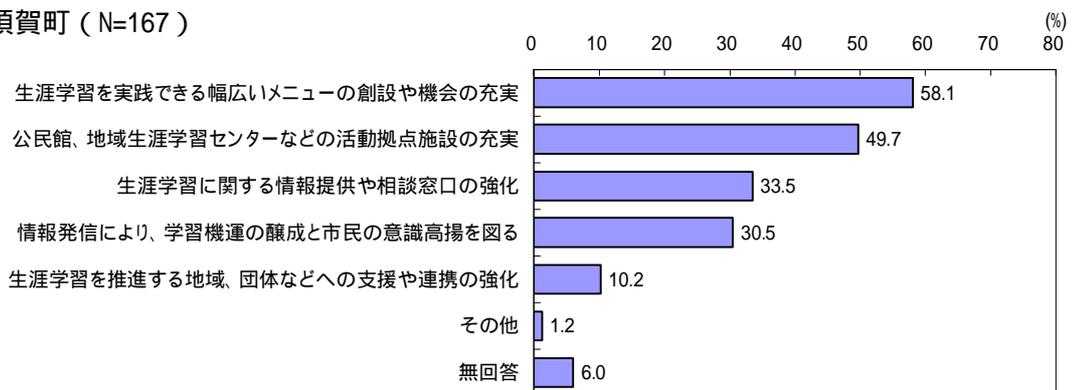
旧掛川市 ( N=653 )



旧大東町 ( N=243 )



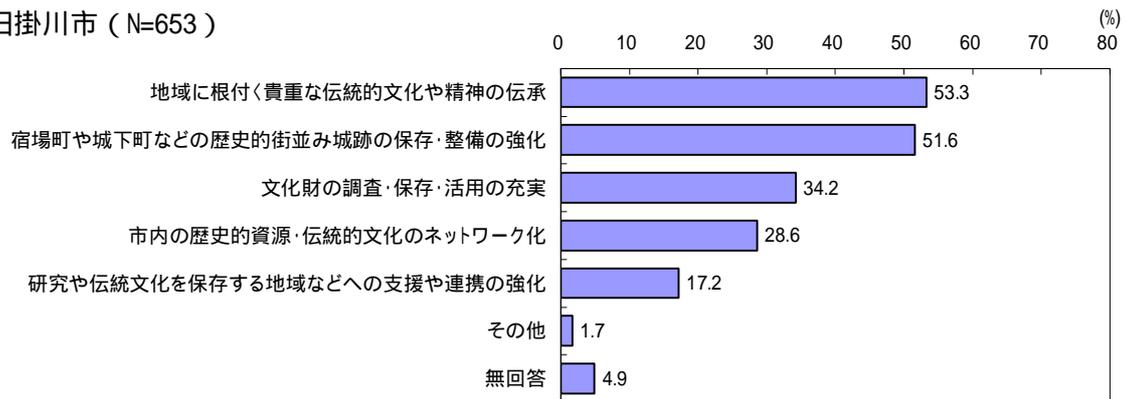
旧大須賀町 ( N=167 )



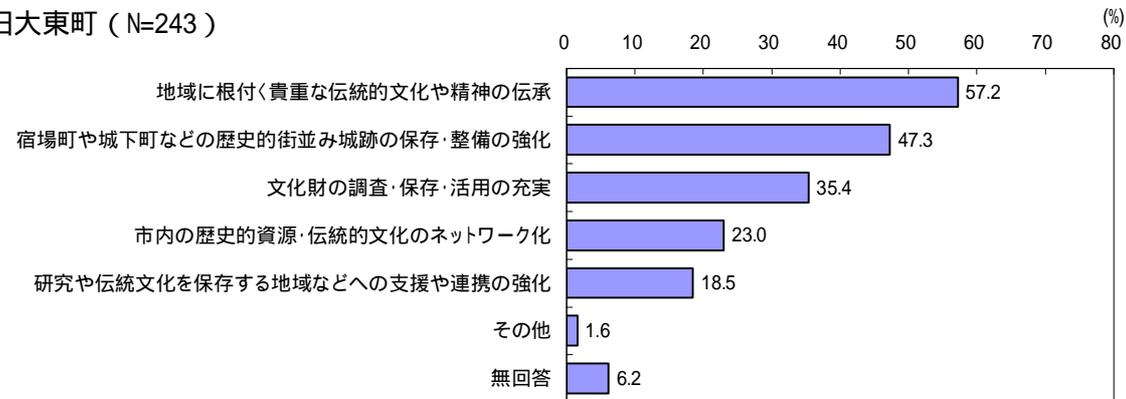
1.4 歴史的資源や伝統文化の保全再生活用に関して力を入れるべき点(問17)

歴史的資源や伝統文化の保全、再生、活用に関して、どのような点に力を入れるべきか尋ねたところ、「旧掛川市」と「旧大須賀町」では、「地域に根付く貴重な伝統的文化や精神の伝承」(旧掛川市 53.3%、旧大須賀町 58.7%)と「宿場町や城下町などの歴史的街並み城跡の保存・整備の強化」(旧掛川市 51.6%、旧大須賀町 58.1%)の回答割合がほぼ並びました。一方、「旧大東町」では「地域に根付く貴重な伝統的文化や精神の伝承」57.2%が最も高い回答割合となりました。

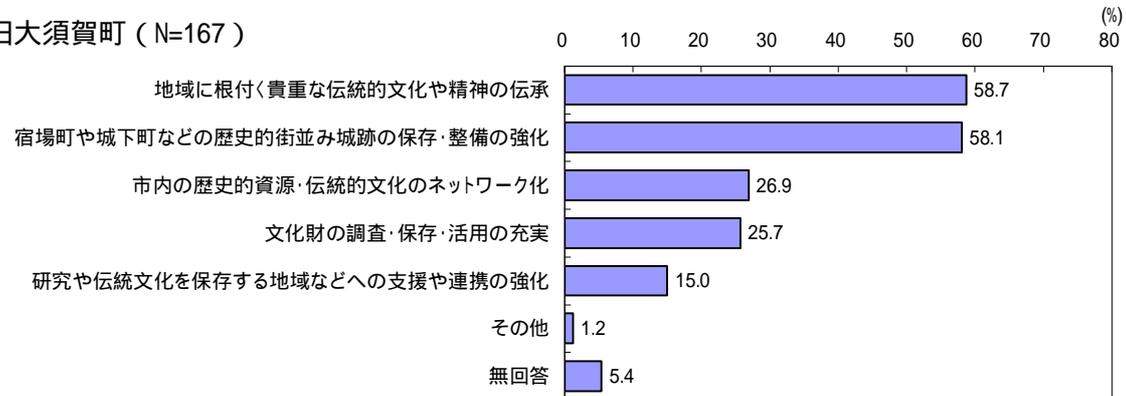
旧掛川市 (N=653)



旧大東町 (N=243)



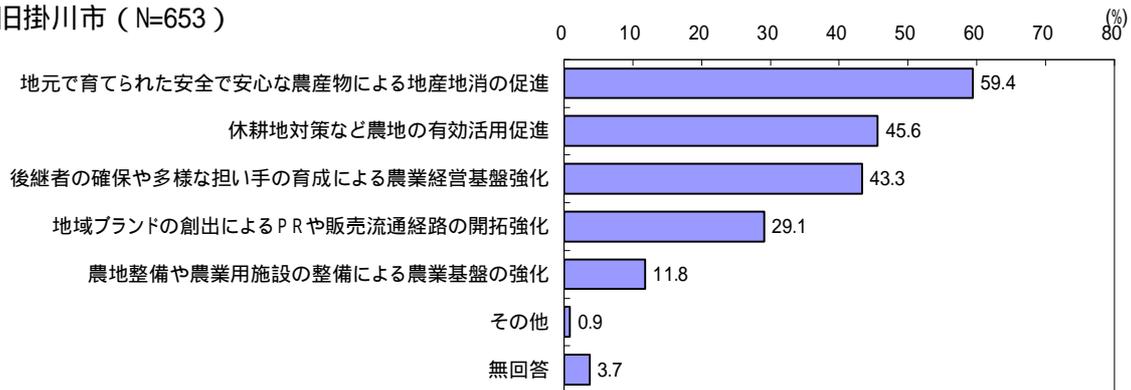
旧大須賀町 (N=167)



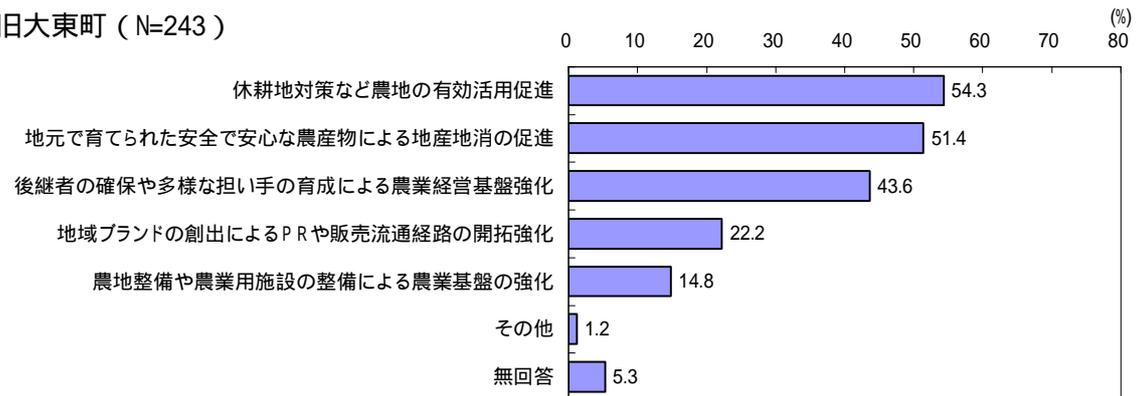
### 15. 農業に関して力を入れるべき点（問18）

農業に関して、どのような点に力を入れるべきか尋ねたところ、「旧掛川市」では「地元で育てられた安全で安心な農産物による地産地消の促進」59.4%、「旧大東町」と「旧大須賀町」では「休耕地対策など農地の有効活用促進」（旧大東町 54.3%、旧大須賀町 52.1%）が最も高い回答割合となりました。

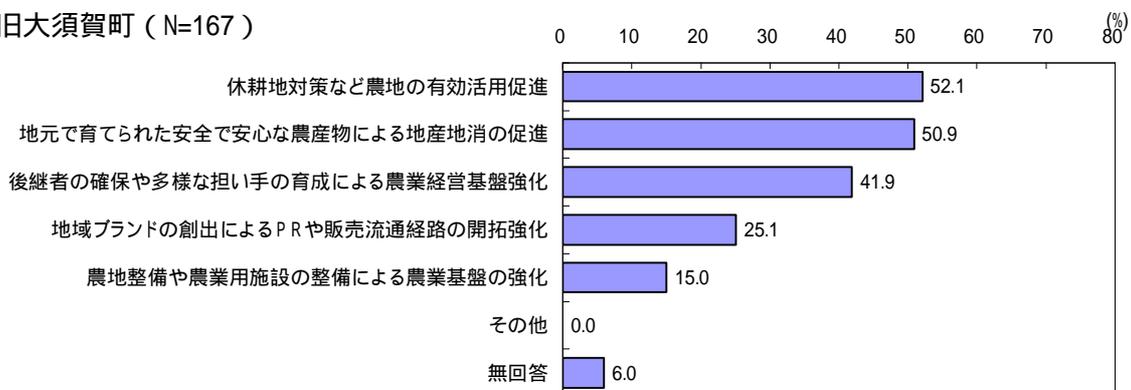
旧掛川市（N=653）



旧大東町（N=243）



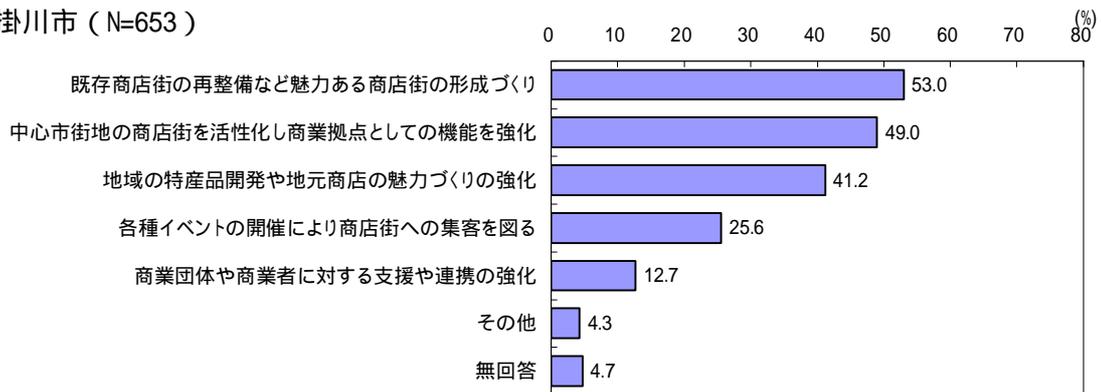
旧大須賀町（N=167）



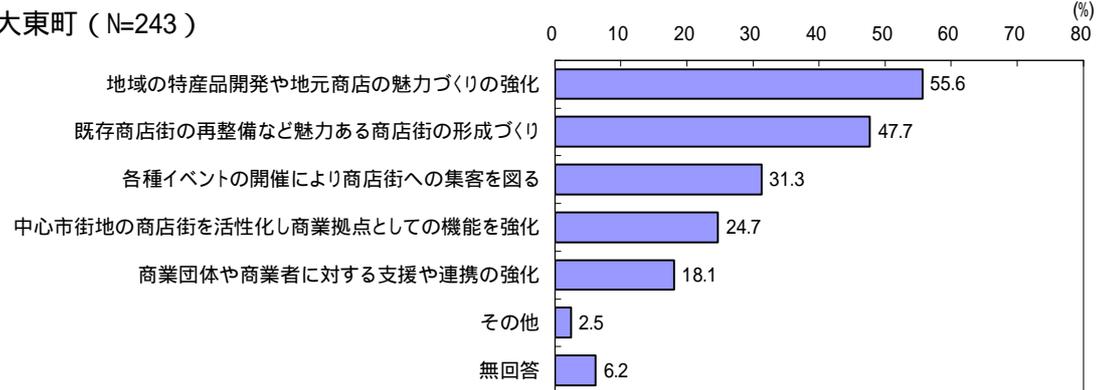
### 16. 商業に関して力を入れるべき点（問19）

商業に関して、どのような点に力を入れるべきか尋ねたところ、「旧掛川市」では「既存商店街の再整備など魅力ある商店街の形成づくり」53.0%、「旧大東町」と「旧大須賀町」では「地域の特産品開発や地元商店の魅力づくりの強化」（旧大東町 55.6%、旧大須賀町 56.9%）が最も高い回答割合となりました。

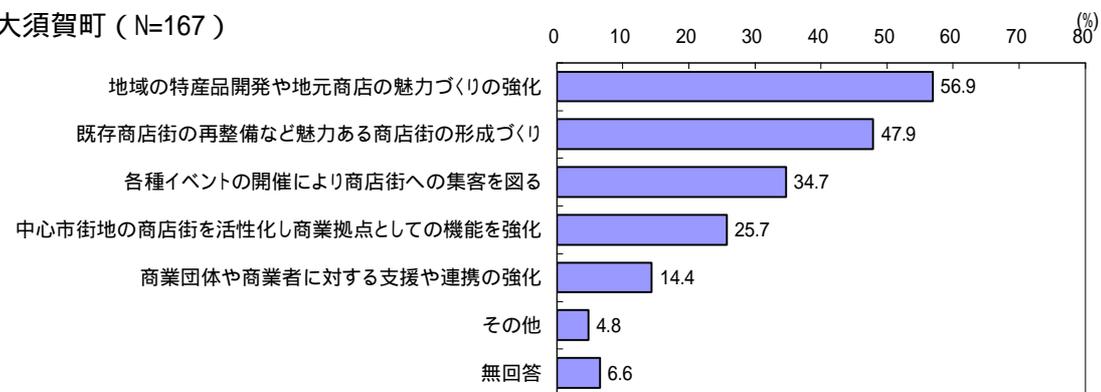
旧掛川市（N=653）



旧大東町（N=243）



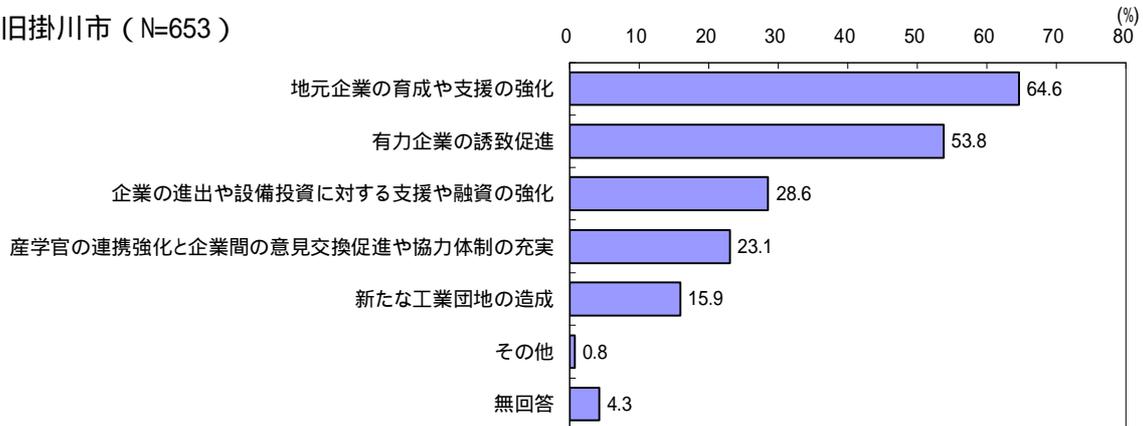
旧大須賀町（N=167）



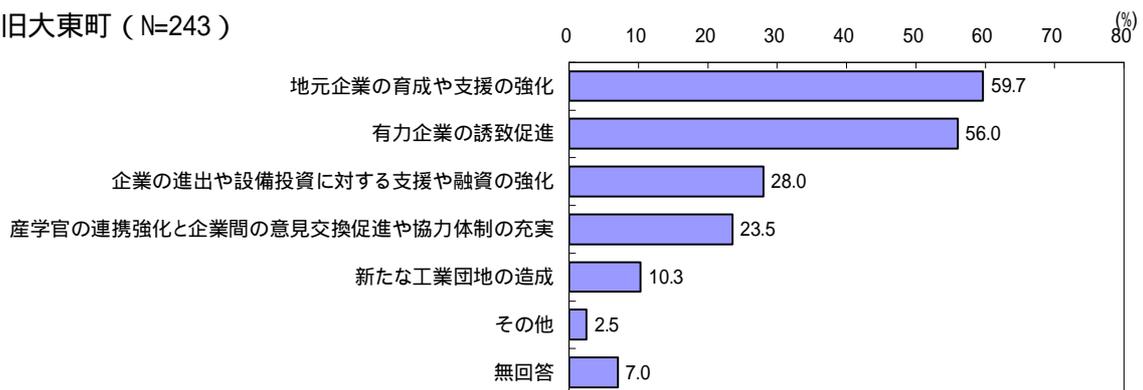
17. 工業に関して力を入れるべき点（問20）

工業に関して、どのような点に力を入れるべきか尋ねたところ、全地区で「地元企業の育成や支援の強化」と「有力企業の誘致促進」の回答割合が高くなりましたが、「旧掛川市」では「地元企業の育成や支援の強化」64.6%が特に高い結果となりました。

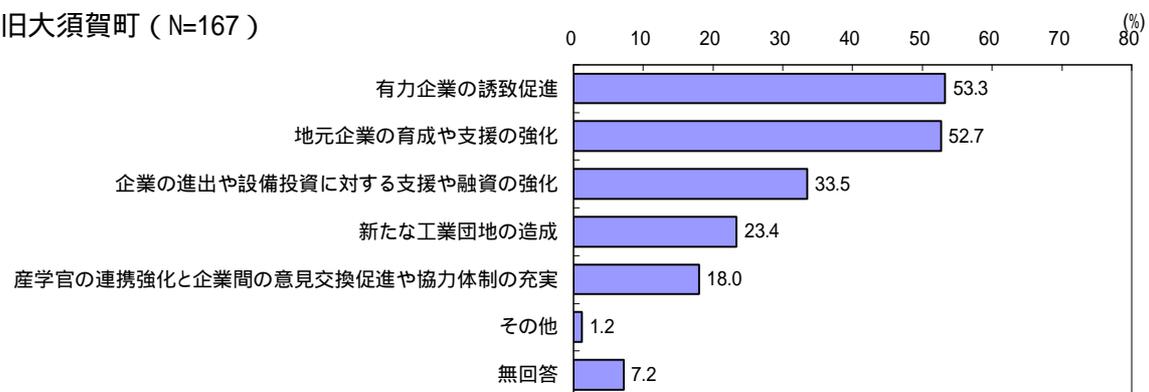
旧掛川市（N=653）



旧大東町（N=243）



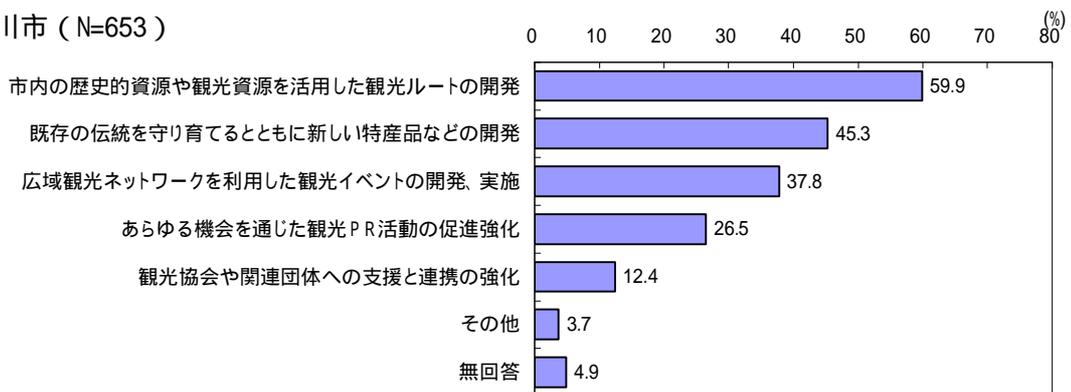
旧大須賀町（N=167）



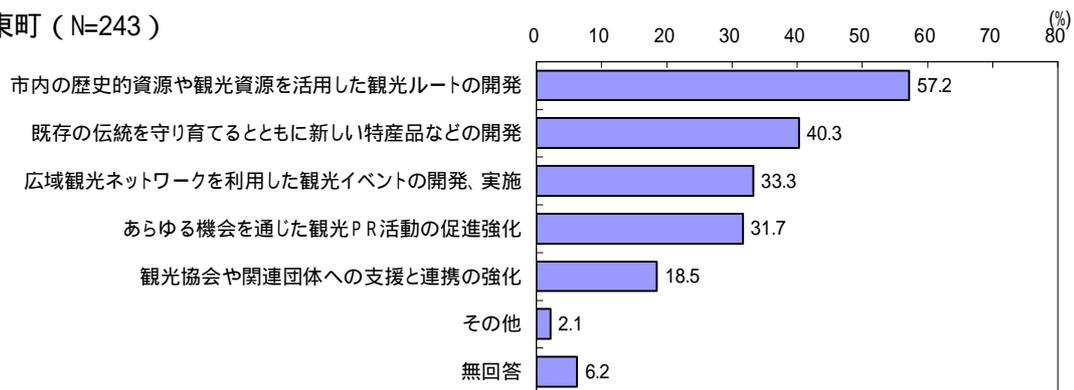
### 18. 観光に関して力を入れるべき点（問21）

観光に関して、どのような点に力を入れるべきか尋ねたところ、全地区で「市内の歴史的資源や観光資源を活用した観光ルートの開発」が最も高い割合となりましたが、「旧大須賀町」では「既存の伝統工芸品を守り育てるとともに新しい特産品などの開発」の高い回答割合となりました。

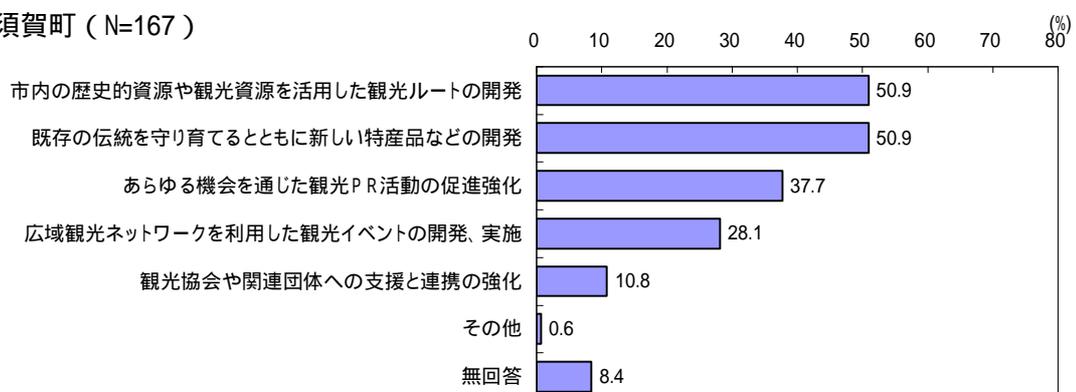
旧掛川市（N=653）



旧大東町（N=243）



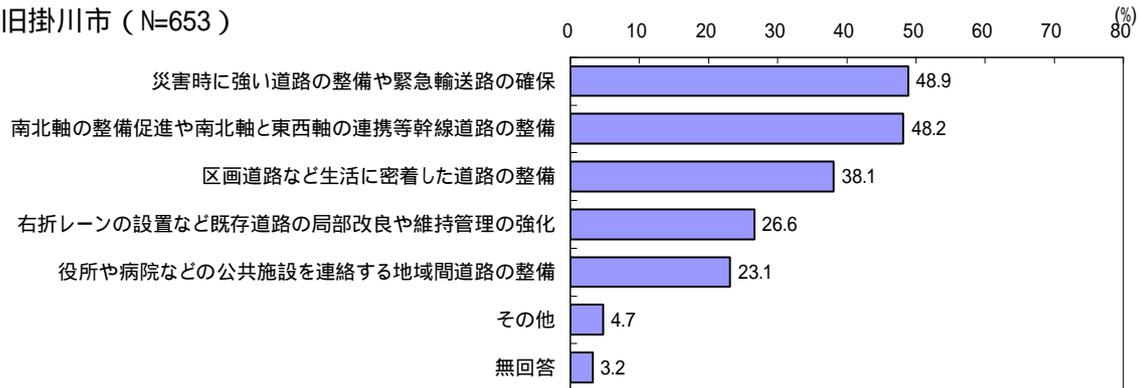
旧大須賀町（N=167）



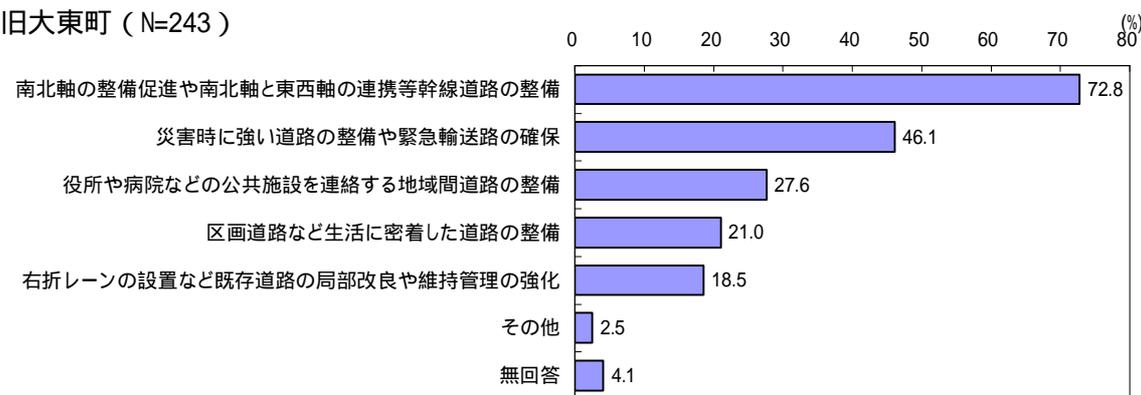
19. 道路に関して力を入れるべき点（問22）

道路に関して、どのような点に力を入れるべきか尋ねたところ、「旧掛川市」では「災害時に強い道路の整備や緊急輸送路の確保」と「南北軸の整備促進や南北軸と東西軸の連携など幹線道路の整備」がほぼ同じ回答割合となった一方、「旧大東町」と「旧大須賀町」では「南北軸の整備促進や南北軸と東西軸の連携など幹線道路の整備」（旧大東町 72.8%、旧大須賀町 70.7%）が他の項目を大きく上回る高い回答割合となりました。

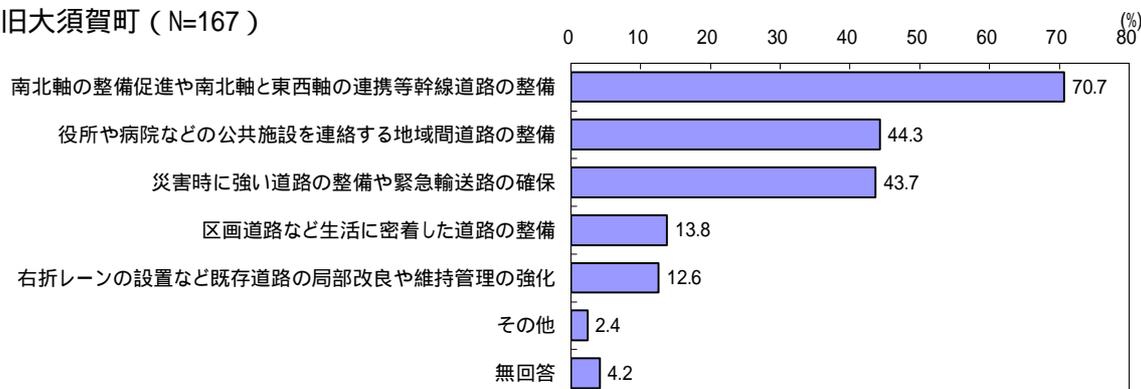
旧掛川市（N=653）



旧大東町（N=243）



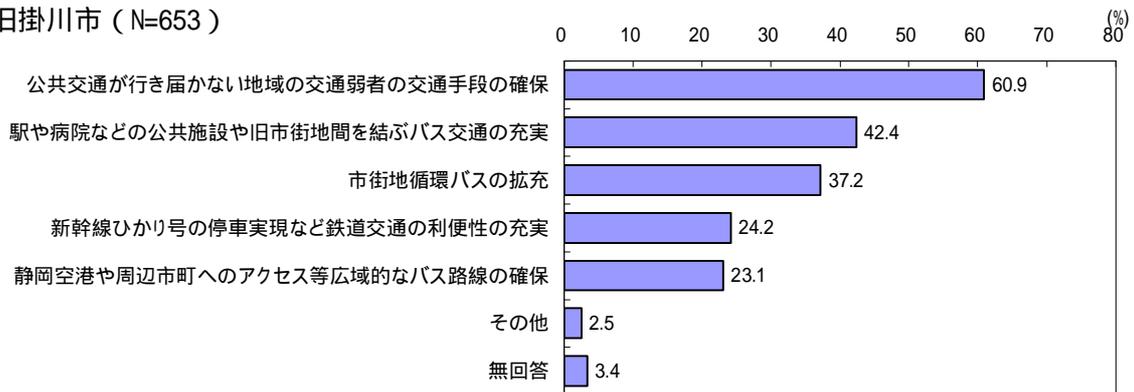
旧大須賀町（N=167）



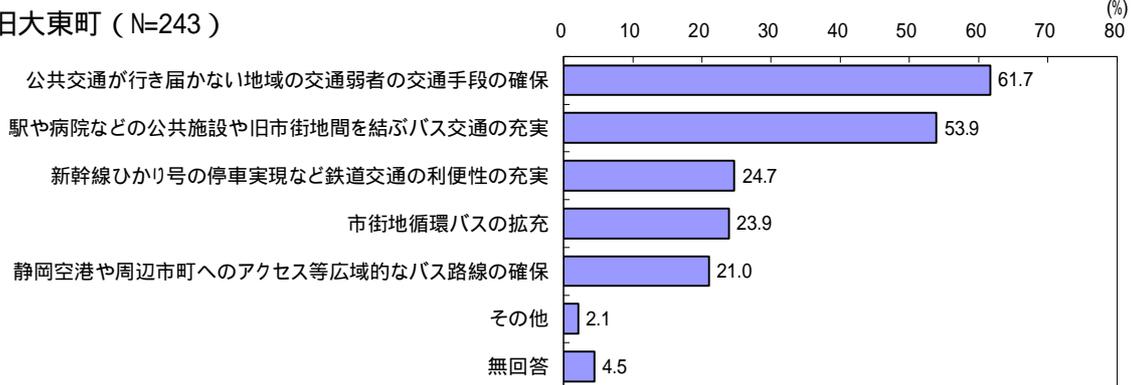
## 20. 地域公共交通に関して力を入れるべき点（問23）

地域公共交通に関して、どのような点に力を入れるべきか尋ねたところ、「旧掛川市」と「旧大東町」で「公共交通が行き届かない地域の交通弱者の交通手段の確保」（旧掛川市 60.9%、旧大東町 61.7%）、「旧大須賀町」では「駅や病院などの公共施設や旧市街地間を結ぶバス交通の充実」65.9%の回答割合が最も高くなりました。

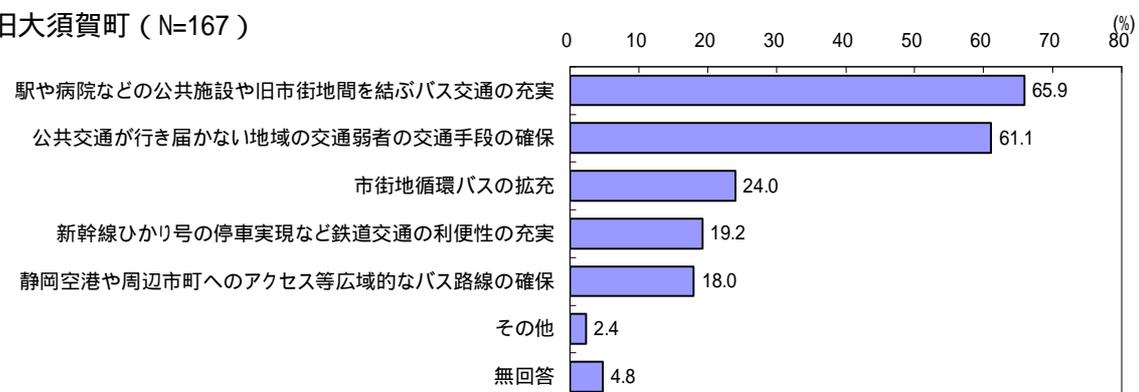
旧掛川市（N=653）



旧大東町（N=243）



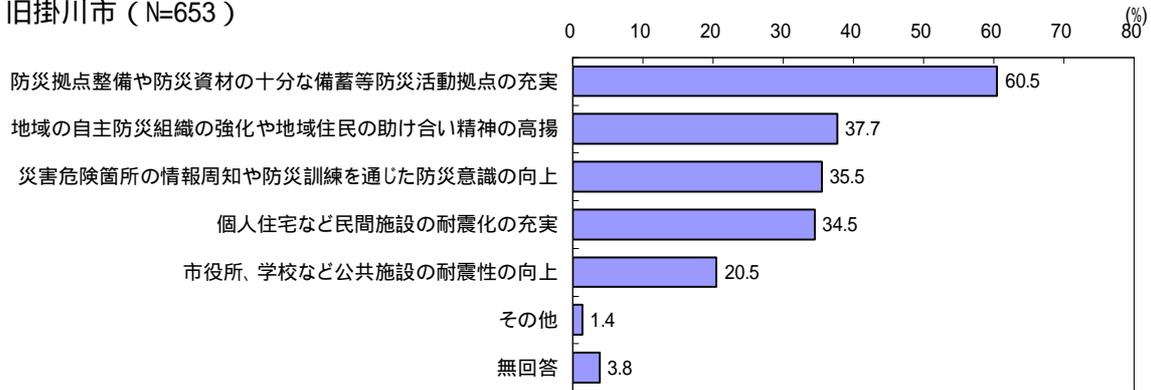
旧大須賀町（N=167）



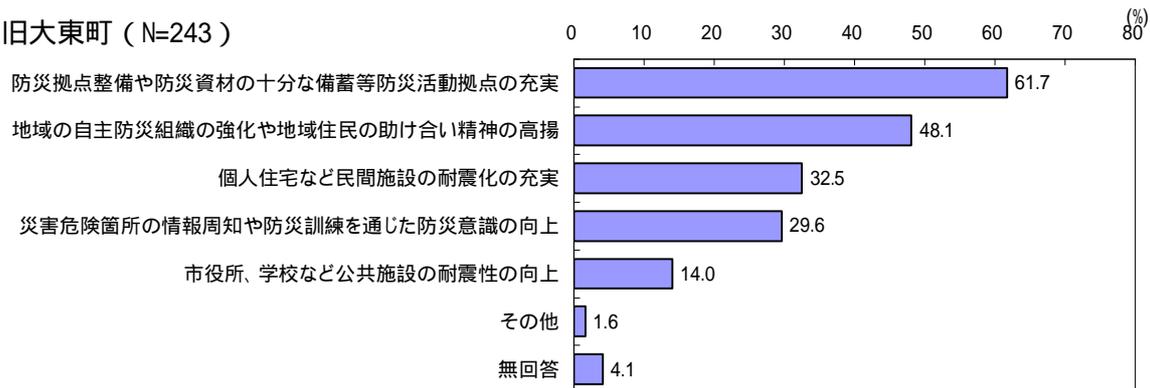
## 2.1. 防災体制に関して力を入れるべき点（問24）

防災体制に関して、どのような点に力を入れるべきか尋ねたところ、全地区で「防災拠点整備や防災資材の十分な備蓄など防災活動拠点の充実」が他の項目を大きく上回る高い回答割合となりました。

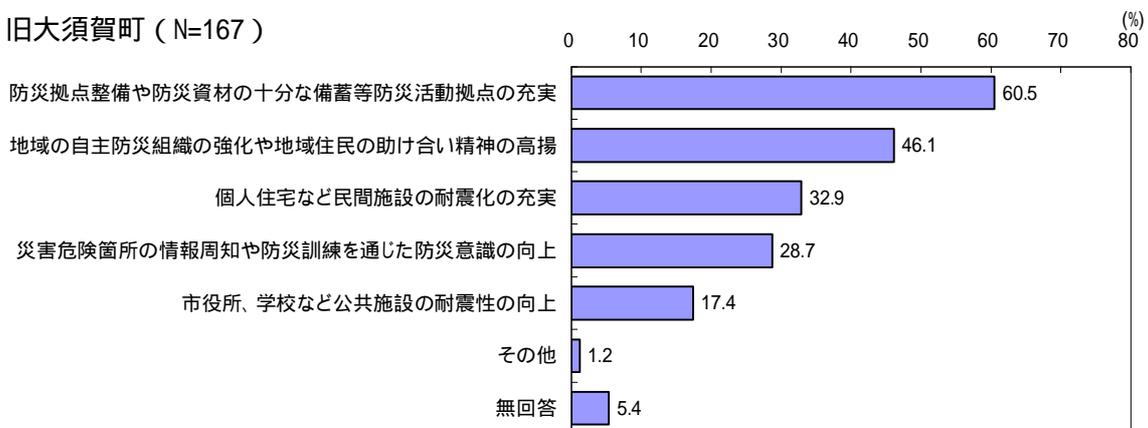
### 旧掛川市（N=653）



### 旧大東町（N=243）



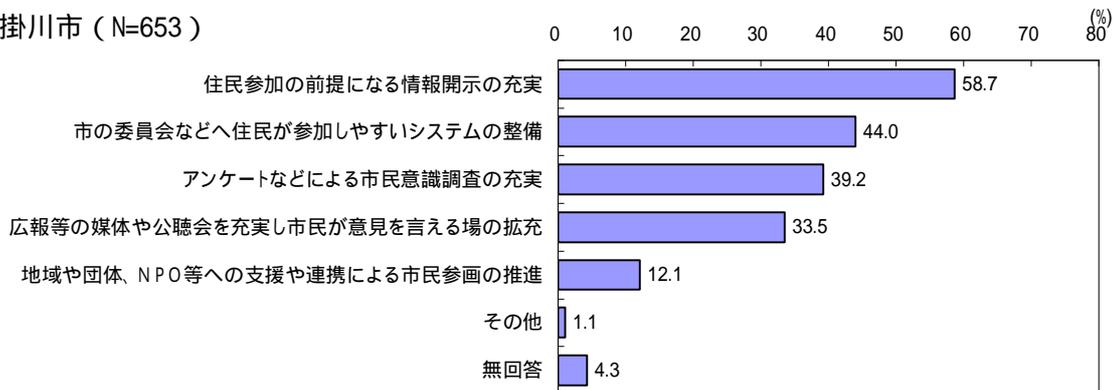
### 旧大須賀町（N=167）



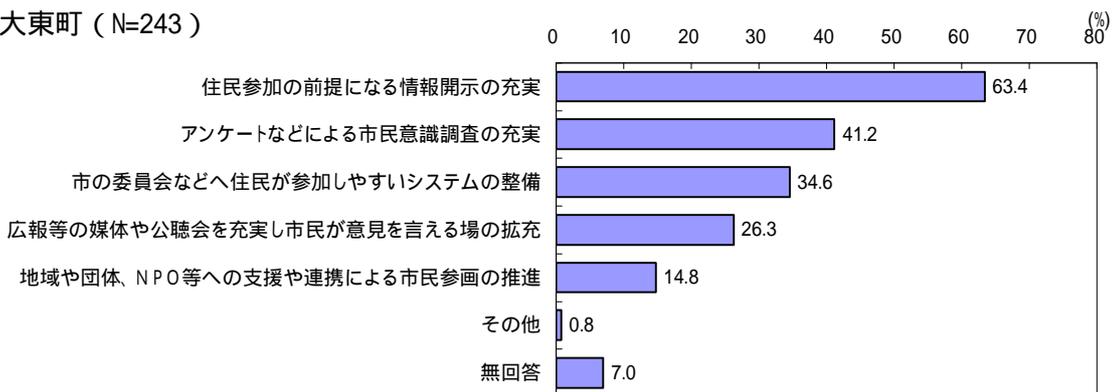
## 2.2. 住民参画に関して力を入れるべき点（問25）

住民参画に関して、どのような点に力を入れるべきか尋ねたところ、全地区で「住民参加の前提となる情報開示の充実」の回答割合が最も高い結果となりました。また、「旧大須賀町」では、「市の委員会など住民が参加しやすいシステムの整備」50.3%も高い回答割合となりました。

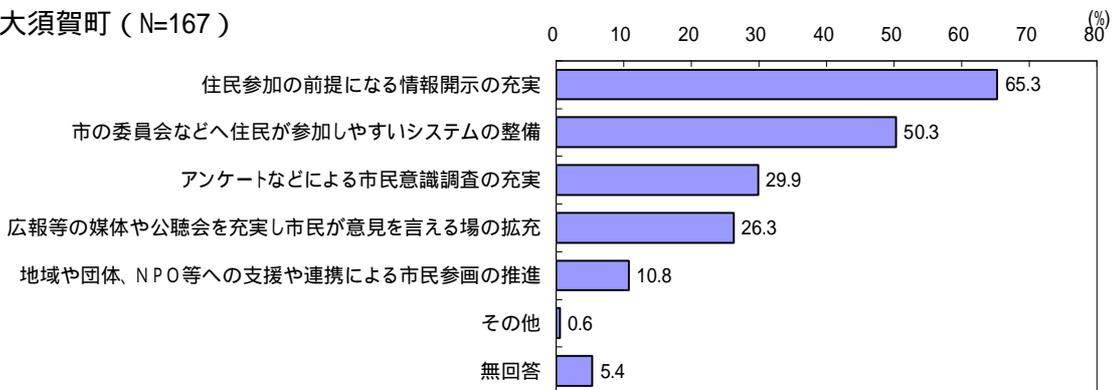
旧掛川市（N=653）



旧大東町（N=243）



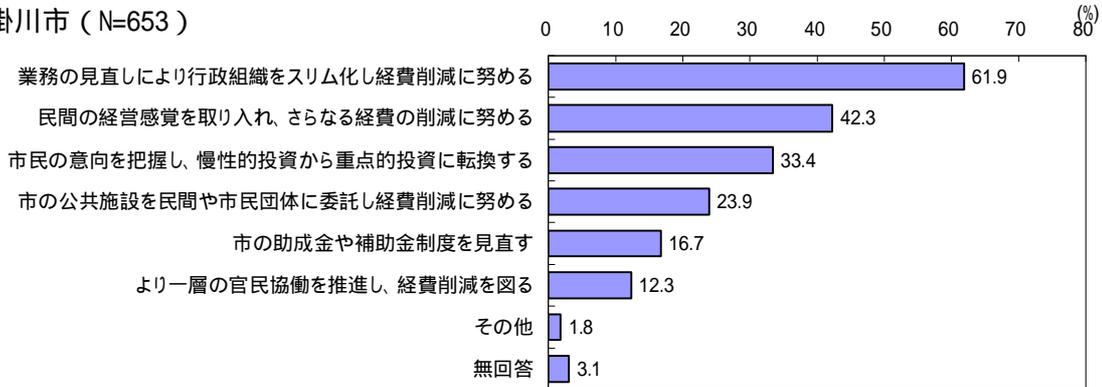
旧大須賀町（N=167）



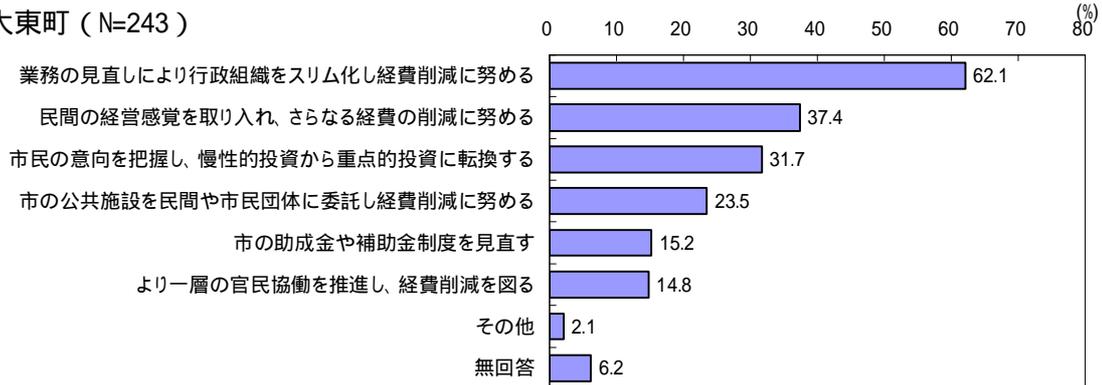
### 2.3. 行財政改革に関して力を入れるべき点（問26）

行財政改革に関して、どのような点に力を入れるべきか尋ねたところ、全地区で「業務の見直しにより行政組織をスリム化し、経費削減に努める」が他の項目を大きく上回る高い回答割合となりました。

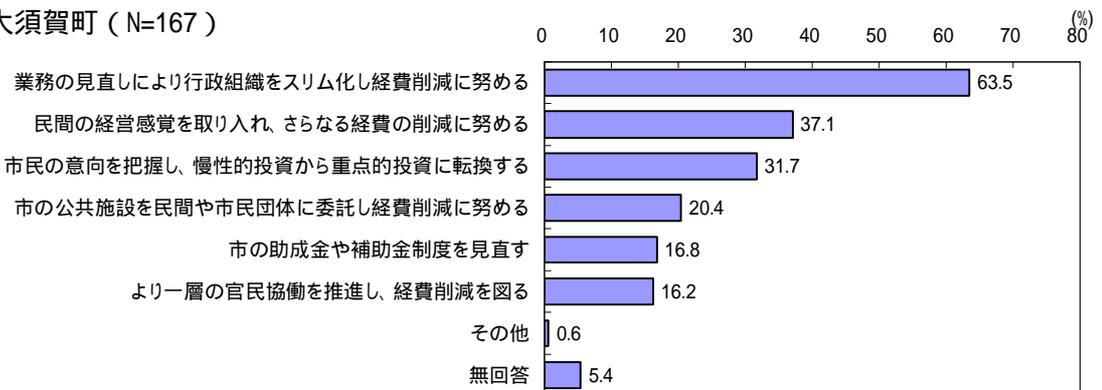
旧掛川市（N=653）



旧大東町（N=243）

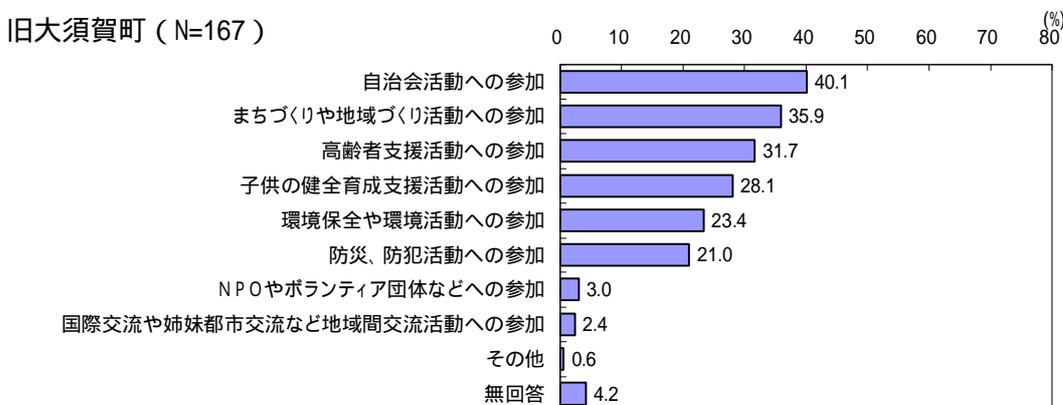
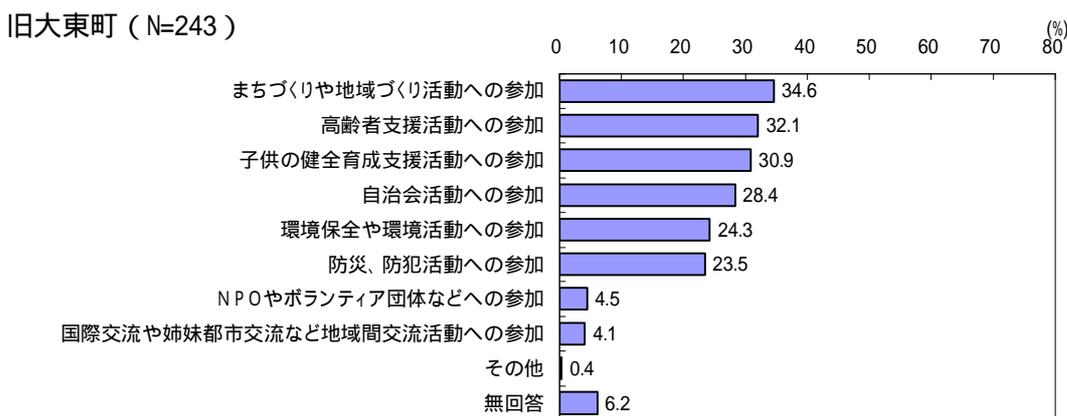
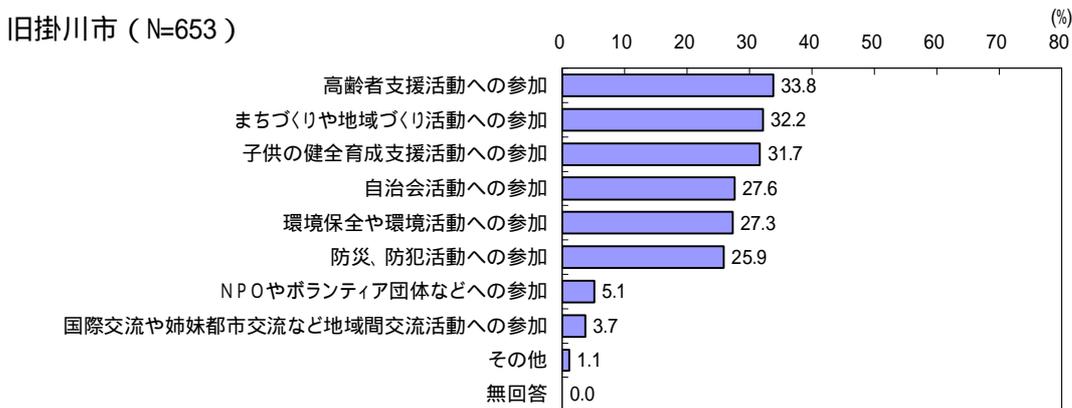


旧大須賀町（N=167）



## 2.4. 地域の自治・自立に必要な官民協働に関する活動（問27）

地域の自治・自立に必要な官民協働に関して、どのような活動への参加が重要であるか尋ねたところ、「旧掛川市」では「高齢者支援活動への参加」33.8%、「旧大東町」では「まちづくりや地域づくり活動への参加」34.6%、「旧大須賀町」では「自治会活動への参加」40.1%を特に重要視する傾向がうかがえました。



## 第7章 自由回答結果

### 1. 保健医療福祉分野の自由回答

保健医療福祉分野に関する自由回答は95通でした。その内容は、「子育て支援」39通、「医療」38通、「高齢者福祉」34通、「子育て施設」9通、「健診」9通、「障害者福祉」5通、「その他」16通でした。(複数の分野にわたる回答があるため、分野別自由回答数と合計は一致しない。)

#### 【自由回答欄のご意見】

子育て支援の環境が他の市や町に比べあまりにも悪すぎる。支援センターに定員があるなど聞いたことがありません。家は、転勤族ですが、こんなに整っていない所は今までありません。こんな市では発展していくとは思えません。少子化になっていくのも当たり前だと思います。午前中だけしか利用できなかつたり、使う方の立場になって考えてくれるとはどうも思えません。小さい子供がいるとなかなか時間で制限させられるのは厳しいです。是非自由に行ったりできる施設をもっと増やして下さい。子育て支援にもっと親身になって力を入れてください。

掛川市立総合病院で科によって医者が足りず診察の日を減らしている。医師の数を確保し、誰もが安心出来る医療体制にして欲しい。

弱者と言われる高齢者、子供、障害者達がどのようにしたら暮らしやすくなるだろうと考えていけば、そういう人達が暮らしやすい街はどんな人にとっても暮らしやすい街になると思います。

掛川市立総合病院の診療不安があり、浜松・静岡の病院に通院、入院する人が多くあります。体制の充実をお願いしたいと思います。

私は車イス生活者です。JR駅にエレベーターが欲しい。歩道と交差点の段差がありすぎる。

### 2. 自然・環境分野の自由回答

自然・環境分野に関する自由回答は44通でした。その内容は、「自然環境」23通、「ごみ関連」13通、「上水道」3通、「騒音振動」2通、「その他」8通でした。

#### 【自由回答欄のご意見】

小笠山などの自然を大切にしていきたい。不法なゴミの捨て方など目にあまるものがある。ゴミの落ちていない、クリーンな街。緑あふれる環境づくりなど、自然のあふれる掛川市であってほしいです。

自然を破壊する事だけは絶対にしないで下さい！！人間も自然の一部であり、生かされている事を忘れないでより良い行政を行い、無駄な開発等に税金を使わないで下さい！！

掛川地区で9月より採用の「燃えるゴミ用袋」が大変使いづらい。燃焼効率、コスト中身が見えやすい...、いろいろありましょが、この季節でさえ、出来るだけ水切りしても水分が蒸れて大変においます。今までの紙袋と二通りでいくことは不可能なことでしょうか。

水道代が他の市より高いと感じます。せめて同じくらいの料金になれば...と思っています。

野焼きが法律で禁止されているにもかかわらず、民家の近くで、焼やしている所が多々あります。安全、環境保全の為に徹底して、呼びかけ等、対制をたててほしいと思います。

### 3. 教育・文化分野の自由回答

教育・文化分野に関する自由回答は47通でした。その内容は、「小中学校」14通、「生涯学習・文化」13通、「幼保園等」11通、「歴史」5通、「青少年健全育成」3通、「その他」7通でした。

#### 【自由回答欄のご意見】

学校などの老朽化がすすみ、地震にも耐えられない体育館では心配です。しっかり、何にお金を使うかが大切か考えて下さい。桜が丘の体育館はかたむいているそうです。プールは水もれで防火用水にもならないのでは困ります。早急に対処して欲しい。

幼稚園、保育園を統合して、新たな幼保園を設立していますが、それでは定員に収まりきれず、あふれてしまうのでは？と不安になります。あと、私立は3年保育が充実していますが、公立は不足しています。既存の公立幼稚園に3年保育を充実させて欲しいです。

教育にもっと注力を！旧掛川駅の南に小・中学校が皆無。市内高校は2校のみ。大学は無し。従来の教育行政熱意の無さ一目瞭然。お願いしますよ！

生涯学習といいながら文化的なことが少ない。掛川に引越してきてびっくりしたことは公民館がなく公会堂があるだけでカルチャー教室等がないこと。こういう教室を各地区で行なえる公民館がほしい。

子供が健全に育つために地域の環境を良くし、その親への子育ての重要性を強くアピールする。最近多く報道される青少年の事件などが起らない、心豊かな人間が育つ地域社会を作っていくようにしてほしい。

### 4. 経済・産業・観光分野の自由回答

経済・産業・観光分野に関する自由回答は78通でした。その内容は、「駅前・街中」34通、「買物」33通、「雇用・企業誘致」18通、「観光・ブランド」16通、「食事・娯楽」7通、「その他」4通でした。

#### 【自由回答欄のご意見】

掛川市に来てまだ半年しかたっていないので、詳しいことはよくわからないのですが、とてもすてきな街だと思います。初めてこの地を訪れた時、駅の周辺にお店が少ないことにとても驚きました。新幹線が止まる駅なのに...（偏見ですかね。）駅を中心にもっと発展すれば、より良いまちになるのではないかと感じました。

|  |
|--|
| 掛川に住んで3年、思ったことは買物に不便である。(浜松出身ということもあるが)食料品はまだ間に合うが、服、雑貨、などちょっとおしゃれな物は浜松まで行かなければならない。大型スーパーや大型複合ショッピングセンターをつくってほしい。(妻の意見です)                   |
| 静岡と浜松の間の中間都市としてももう少し活発に商業、工業誘致を実現して欲しい。やはり人口を増やすことがカギとなる。  |
| 平成18年度NHK大河ドラマ「功名が辻」の山内一豊公に力を借りて、是非とも町の活性化(将来に継続できる)をはかるように、市民一丸となって燃焼しましょう。とりわけ、商店街の経営者の方々はがんばって下さい。今後の“掛川”の新らたな付加価値を見つけ全国の方にも知ってもらいたいものです。 |
| 既存商店街の中に沢山の寄ってみたい、又用事のある店があります。しかし、目的があつて行く為要する時間は10分前後ですがその倍以上の時間をかけて駐車場を利用しなければならない為、遠のく結果となります。業者の車は午前中、店利用車は午後とかで店の前に車を止められるといいのと思います。   |

## 5. 都市基盤分野の自由回答

都市基盤分野に関する自由回答は112通でした。その内容は、「道路」37通、「交通機関」37通、「街中・街並み」18通、「歩道等」16通、「公園」12通、「住宅」3通、「街灯」2通、「その他」15通でした。

### 【自由回答欄のご意見】

|  |
|--|
| 南北道の整備拡充による掛川、大東、大須賀の一体感が、市民レベルで実感できる「まちづくり」を最優先課題として取り組んでもらいたい。   |
| 市内どこまでも自由に行けるバスが欲しいです。袋井市等があります。掛川に行った事が、年に1度行くか、行かないかです。60年になりますけれど、大東大須賀は知っていますけれど掛川は知らないですから知っておきたいです。                                |
| 中心市街地を個性的で魅力的な店舗づくり、イベント、景観・快適性のある商店街づくりなど、街の活性化に取り組んでほしい。映画館含む。食堂街、商店街。(既存商店街加入)  |
| 道路の整備をする際、車を中心として行なわれているように思います。歩行者が安心して歩ける道路をもっと増やして下さい。また、自転車専用の舗道をもっと増やし、歩行者と自転車が別々に通行できるようにしていただければ自転車の数も増え、環境にもやさしく、省エネにもつながると思います。 |
| 山が住宅地にかわってしまい、昔は山へ虫とか取りに行ったが、今となっては、車に乗ってまでしないと、近くに山がないので、なかなか自然にふれ合う時がない。誰もが入れる大きな公園がほしい。大きな公園があれば、運動する人も来るだろうし、家族でも楽しめると思う。            |

## 6. 防災危機管理分野の自由回答

防災危機管理分野に関する自由回答は29通でした。その内容は、「防犯」17通、「災害対

策」10通、「交通・違法駐車」8通、「外国人」1通、「その他」1通でした。

【自由回答欄のご意見】

|  |
|--|
| 安心して暮らす為には、特に医療体制の充実と防犯体制の充実が一番重要だと考えます。   |
| 子供から大人の人達が安心して過せる様に警備の回数を多くして回ってほしいです。   |
| あまりに不公平なミニパトの駐車禁止の摘発を正して欲しい。買物をするつもりのお客様も寄り付かなくするような事では街中の発展は無い。   |
| 市が大きくなり隣の市は原子力発電所がありますが近い将来震度8以上の地震がくるといわれています。又プルサーマル計画も実地されようとしています。安全について「これからのまちづくり」の中にいつも入れてほしいと思います。(孫が小さいので安全について本当に心配です) |
| 災害、犯罪、交通事故などから住民を守り、安心して暮らせる街づくり。  |

7. 協働交流・行財政改革分野の自由回答

協働交流・行財政改革分野に関する自由回答は 146 通でした。その内容は「財政・住民負担等」59通、「市政」44通、「市民参加」28通、「合併関係」26通、「情報伝達」16通、「地域共存・個性尊重」14通、「その他」12通でした。

【自由回答欄のご意見】

|   |
|---|
| これから、増税になり、収入もなかなか増えない時代になると思います。定年になった人も、子育てで大変な人も、安心して暮らせるような掛川市にしてほしいです。市も税金収入がなかなかふえないと思うので、民間企業以上の経費削減を考えて下さい。夜市役所の付近を犬の散歩であるきますが、数人の方が残業しているようですがフロア全体の電気がついている。民間企業では考えられないムダです。 |
| 合併後、市民サービスの低下、税金の増加等、何一つ良い事が無いように思われるが、この様な気持ちにさせるような、行政では失格ではないか。市民に愛される行政であってほしい。   |
| 市民への立場を考え、いろいろな声を市政に反映すべきである。なお、各行政委員について、特定団体長以外に庶民的な市民を入れ、行政運営に取り組むべきである。   |
| 掛川市となり元大東・元大須賀の意見が小さくなりがちになると思う。掛川周辺を充実させることもいいことだが遠いし今でもあまり問題はない。大東・大須賀のことを忘れずに市民の為の住みよい町を心がけて行ってほしいです。目立つことはしなくてもいい。小さな意見を大切に積み重ねて行ってほしい。   |
| 税金の使い方をだれにでもわかるようにこまかく市民に情報を公開してほしい。自分の払った税金がいったいどのような事に使われているのかぜんぜんわからない。  |

8. その他分野の自由回答

上記の7分野に含まれないその他の自由回答は 68 通でした。その内容は、「掛川市に対して」13通、「アンケートに対して」12通、「市職員に対して」10通、「市長に対して」8

通、「その他」28通でした。

【自由回答欄のご意見】

「 の掛川」の にどんな言葉が入るのかちょっと思いつかない。住んでいて、これこそという冠の言葉が出てこないのだから、他に見られない地名、掛川でも存在を広く認識させるのは困難。市に当然、中、長期ビジョンはあると思うが、市民に伝わってこない。産業でも文化でもいい、冠として日本、世界に通用するものを地道に育て実現していく目標がほしい。

建物や道路ばかりつくって、税金が高くなるのは、まっぴらごめん！本当に必要なものは何なのか？制度や人や物等々、ムダをなくしてほしい。このアンケートの答えも、わかりにくい言葉や、漠然としすぎて選びにくい所が有ると思う。せっかくの調査なら、もう少し、わかりやすくしてください。

市職員の民間への出向、能力向上カリキュラムの取り入れ、能力にあった手当の支給による職員の競争力の向上。

私は78才の老人ですが今は幸せな毎日を送っております。市政は色々なことが山積していると思いますが、戸塚市長さんは老人福祉にも、力を入れてくれると聞きました。より良い掛川市になりますよう、祈っております

行動と内容がちがっている。住民の声を聞くのは非常に良い事だと思うが「掛川市ではアンケート迄とっています。」を表面に出すのではなく、多数意見、少数意見両方を考え進めてほしい。アンケートをとった事が重要ではなくいろいろな考え方がある事が重要です。

## 第8章 満足度と重要度の点数化の考え方

施策の満足度と重要度に関して、36 施策ごとに下表の通り各選択肢に点数を与えて各施策の得点を算出するとともに、その結果に関して、縦軸に満足度（グラフ上側がより満足度が高く、下側がより満足度が低い）を、横軸に重要度（グラフの右側がより重要度が高く、右側がより重要度が低い）をとってグラフ化しました。座標の原点は、満足度と重要度の両者とも 36 施策の平均値としています。

満足度と重要度の評価と点数

| 満足度          |       | 重要度           |       |
|--------------|-------|---------------|-------|
| 評価           | 点数    | 評価            | 点数    |
| 満足している - A   | 2 点   | 非常に重要である - E  | 2 点   |
| 多少満足している - B | 1 点   | 多少重要である - F   | 1 点   |
| 多少不満である - C  | - 1 点 | あまり重要ではない - G | - 1 点 |
| 不満である - D    | - 2 点 | 重要ではない - H    | - 2 点 |
| わからない        | 0 点   | わからない         | 0 点   |
| 無回答          | 0 点   | 無回答           | 0 点   |

満足度と重要度の得点算出方法

|        |   |
|--------|---|
| 満足度の算出 | $\frac{(A \text{ 票数} \times 2 + B \text{ 票数} \times 1 + C \text{ 票数} \times -1 + D \text{ 票数} \times -2)}{(A \text{ 票数} + B \text{ 票数} + C \text{ 票数} + D \text{ 票数})}$ |
| 重要度の算出 | $\frac{(E \text{ 票数} \times 2 + F \text{ 票数} \times 1 + G \text{ 票数} \times -1 + H \text{ 票数} \times -2)}{(E \text{ 票数} + F \text{ 票数} + G \text{ 票数} + H \text{ 票数})}$ |